

島だより 第5週

時

みなさま

船長室より、島日より最終便です。

別れの時が迫って、ちょっとさびしい島の終わり。

お題「時」は49作品のラッシュに湧きました。

瞠目すべきは、コメント陣の充実ぶり。

これこそ島で得た、いちばんの達成のように思います。

だから、今週はどーんとまとめて、

すべての作品とそれに寄せられたコメントをお届けします。

この夏の70名の冒険がどんな成果を挙げたのか、

どうぞ、ゆっくりごらんください。

今週のお題

開催中： 時

投稿受付中： 投稿受付期間外

Column Land

■最終セッション結果発表！ 作者コメントをお早めに。
■オフラインセッションは土曜日16:00西9の607。作品「風」の投稿は前日17:00までです。くわしくは掲示板370へ。ただいま風速3メートル。

コンテスト会

コラム掲載ペ

コラムアーカ

プロフィール

自己プロフィ

BBS

まじょコメン

テーマ：時

投票総数：159件

順位	ポイント	投票数	作品タイトル	作成者	作者コメント	コメント数
1位	33	14	7:02am	Begonian	無	26
2位	24	11	一生懸命「無駄な抵抗」をしている母を見て	鬼 おん	無	44
3位	21	8	コード Coda	RiZEL	無	29
	17	8	掌におさまるくらいの幸せ	茜	無	19
	16	6	My Grandfather's...	colt	無	14
	14	6	Ourglass	mendel	無	27
	13	6	Time is going round	ペピン	無	13
	13	5	時間旅行機	ふじさき	無	12
	12	7	リミット	にび	無	24
	11	6	胡蝶之夢	RincO	無	23
	11	6	そのままのあなたで	わがし	無	20
	10	6	ある朝のできごと	地紅晴酸	無	24
	9	5	迷宮のピエロタイム	zoo	無	16
	8	5	じっくりと	やまのかめさん	無	13
	7	3	聞きたいこと	ばっは	無	15
	7	4	Kissing!	Asagi	無	34
	6	3	小さな森のお化け達	カケラ	無	17
	6	3	逢魔が時	八剣	無	26
	6	4	夕暮れのひととき	あそびにん LV.2 1	無	14
	6	2	鏡を見ている少女のお話	弟子	無	12
	5	3	だが、時は流れる	一分間	無	10
	5	2	「うん、じゃああと10分くらいで着くから」	老若男女	無	18
	5	3	輝く炎	結政	無	13
	4	2	私は砂。	鞆鞭	無	16
	4	2	極限の一撃	神無月	無	13
	4	2	時にときたま、たまさか徒然に（さかしまな少女たち）	木星/dx	無	16

3	2	あと少し...	無味	無	19
3	2	勝負の一瞬	ラ	無	20
3	2	運命	ルンタッタ～	無	13
3	1	思い出の風景	He	無	16
3	1	変わるもの 変わらないもの	jabberwock	無	14
3	2	名無しのミューズ	さむらす	有	16
3	2	かなしいとき	忠犬ヤス公	有	29
3	2	第三の解	ゆーべる	無	15
3	2	七年間	melonsan	有	17
2	1	そして 世界で最後の二人になるまで	key	無	14
2	2	_____	きしと	無	20
2	1	平和なセカイの作り方	こっくん	無	20
2	1	message - from the universe from the earth -	Tohma	無	17
1	1	初めての家庭教師	オリボリ	無	17
1	1	キャンプファイア	vicky	無	14
1	1	時は永遠か	朱雀	無	8
1	1	魔女からの誘い	ねがいびと	無	11
1	1	アイデンティティ	Eisen	無	15
1	1	時の流れに身を委ねて	イッパイアッテナ	無	26
0	0	一年の重み	こえい	無	12
0	0	あの夏	blue-orange	無	14
0	0	裏話	otacom	無	13
0	0	あさどき	のろろ	無	15

7:02am

総合順位：1位
合計ポイント：33 Point
作者：Begonian
作者コメントは暫くお待ち下さい。

初めて彼を見かけたのは、気まぐれに早く出かけたとある朝。

駅の反対側のホームで、彼は気だるそうに電車を待っていた。

試しに次の日もその時間に行ってみると、やっぱり彼はそこに居た。

昨日と同じように、眠たげな目をこすりながら。

次の日も。

またその次の日も。

それ以来、私の朝は、少し早くなった。

眠気をごまかしながら、高鳴る鼓動も抑えずに、朝の仕度を整える。

その一瞬のためなら。

彼がホームに降りてから、その電車の発車まで二分もない。

でもそのひと時が、その日の私を決める。

どんな占いよりも、どんな天気よりも。

彼を見つけたら、その日はなんだか幸せ。

彼が居なかったら、その日は心に雨模様。

できれば私のこと、気づいて欲しい。

でもやっぱり、ちょっと恥ずかしい。

ある日、そんな風に思考がループして、ぼーっとしてしまった。

彼が、私のことを見てるのにも気づかずに。

ホームに近づく大きな音で我に返ると、彼と視線が、絡む。

間もなく、電車が、二人を別った。

＊ ＊ ＊

そんな、二十年以上も昔をことを思い出したのは、今、目の前にあの頃の私が居るような気がしたから。

高校二年生の一人娘は、なぜか先週から家を出るのが早くなった。

別に、早朝練習があるような部活というわけでもないのに。

寝坊しちゃったと、遅刻するわけのない時間にやたらと慌てる我が娘。

もしかしたら私の勘違いかもしれないけど、今日も心の中でエールを送りながら、娘を見送る。

私の母も、こんな気持ちだったのだろうか。

ふと見上げた時計は、あの思い出の時間。

そして、もうすぐあの人が起きてくる時間。

そんなことを思っていると、リビングのドアが開く。

視線を絡めて、朝の挨拶を交わす、午前七時二分。

うん。きっと今日も、幸せ。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
ペピン 9/18 12:44	ほのぼのしてますね。まあ、これはこれでいいんじゃないでしょうか。 私なら、もう少しドラマチックな展開にしたいなあ。 例えば、反対のホームに電車が来る同じ時間に自分の乗る電車が来てお互い電車に乗る。 彼は椅子に座らずに、彼女も椅子に座らずに窓際に立つ。そのとき、電車のドア二枚を隔 てて彼と彼女は1メートルないくらいに近くにいて、ふと顔を見上げると互いの目が合 い、そのまま電車は発車してしまう・・・ とか。
さむらす 9/18 12:58	ごちそうさま。 いつまでも若いお母さんですね。ばあちゃんも「うん。きっと今日も幸せ」っていつてる のかなあ。

あそびにん LV.2 1 9/18 14:40	いいなあ、ほのぼのまったり。こういう思い出があると、娘の行動にもまったりと和んでしまうものだろうなあ。 まあ、確かにちょっと盛り上がるころなんかがなかったかもね。スーッと読めて、あ、終わっちゃったみたいな印象。これはこれでなんだけど、小説としてはちょっと物足りないかなあ。視線が絡んだ翌日なんかはどうなっちゃったんだろう？
わがし 9/18 18:6	いい！ 読みやすい！ 高校二年生の子供を持つ父と母は、視線を「絡める」でしょうか・・・。 もうちょっと冷めている気がします（もう愛がない、という意味ではなく）。
きしと 9/18 20:48	良いですね、こういうの。 微笑ましくて、楽しい気持ちになれます。
茜 9/19 12:31	電車の乗る時間が合わせられるのはきっと田舎だからだ。とか言ってみます。 なにせ、1時間に1本とかそー言うレベルでしか電車が来ないから。しかも2両編成とかだから。乗る電車が毎日必ず一緒なので、出会いやすいったらありゃしないです。 ・・・そのために少しどころじゃなく時間ずらす必要が出たりもしますけどね。 ほのぼのした感じで、和めるなあって思いました。これはこれで。たくさん読んで来たなかで、ちょっとほっとしました。 でも、ヘピンさんの言う感じ、いいですね。ほんのちょっとだけドラマチック。 そういえば、うちの祖母の時代は、山越えて歩いて高校通ったそうです。その頃でもこんなこと・・・ないとはいえないですよ。あったらいいな。
ルンタッタ～ 9/19 18:57	何気ない日常。それが一番幸せな瞬間かもしれないですね。
Asagi 9/20 19:39	いいなあ。ほのぼの作品。青春ですね。 このままの雰囲気でもいいけど、ベピンさんのように視線の絡んだ瞬間を書き込んでみても面白そう。 その瞬間、彼の口が「おはよう」と動いたように見えた、とかどうでしょう。 > わがしさん 確かに、「絡む」ではないかも。もっと冷静で、穏やかな感じ？視線を交わす...だと言葉がかぶるので無理なのですが。 > 茜さん 気まぐれで1時間前の電車に乗るかなあ・・・？わたしはわりと、それなりの都会っぽい印象を受けました。 10分に1本とか、それくらい。
茜 9/20 20:43	田舎というか都会というか、東京みたいな都会じゃあありえないだろうなあ、と。5分刻みで電車が来る場所に来てから、毎朝乗る電車が変わるようになってしまったので。 朝のラッシュ時でも、10分15分に1本くらいだったら、まあ割りと田舎かなあ、とか。（うちの実家あたり？） あ、ちなみにうちの弟、気まぐれで1時間早く学校に行ってます。
key 9/22 11:44	微笑ましいです。読後感が良い 今回ちょうどこういう話が他にない（気がします）し、いいですね
オリボリ 9/22 12:37	ほのぼのとして読みやすくていいですね。 何気ない幸せが伝わってきました。
わがし 9/22 18:45	> Asagiさん > 絡む なんつーか、何十年も一緒にいるとたぶん真の家族になると思うので もっと「いて当然」的視線、とでも言うか。 視線が絡んじやうと、朝から何か始まっちゃいそうな・・・（失礼致しました）
RincO 9/22 22:0	キレイな作品ですね。雰囲気が好きです。 読みやすかったとおもいます。
Asagi 9/23 4:0	> わがしさん 笑いあってとか、ほほえみあってとか？ うーん。 でもまあそこで視線が絡んでいろいろ始まっちゃうのもそれはそれで（ほんと失礼しました）

木星/dx 9/23 6:43	> 絡む って表現だけでは、なんともかんともって感じ。 こうゆう手抜き表現は心を打たない。「絡む」と言わずに絡んでる雰囲気を出さないとく ほのぼのしててよかったけどすぐ忘れました> 作品に。 で、何か誰も疑問に思っていないみたいだけど・・・ わざわざ二度も絡めてるということは・・・ もしかしてそのときの彼が今の旦那だと暗示してるのかな？ ループって言葉も文中に出てるし（ヒント？） まあ、そうだとしても今ひとつの印象なのですが。
茜 9/23 12:24	> 絡む いっそのこと視線合わせないような。 「おはよー」「うん、おはよー」ってあさっての方向向きながら言ってるような気がします。 > 木星さん ああ、あたしもそう思いました。たぶん、「二人は結ばれました」って意味で同じ「絡 む」なのかと。誰も言わないので暗黙の了解かと思ってました。 ・・・・正直そのハッピーエンドっぷりにあたしはちょっとがっかりしてるんですけ どっ。
ヤンヤンマ 9/23 17:31	ああ、いいですね。 ループしてる感じもgoodです。
イッパイアッテナ 9/24 2:16	ほのぼのー いいな、いいな。ハッピーエンド。ハッピーエンドをきどるなら、ここまで露骨に作り込 んで欲しいなあ。というお手本みたいな作品。 いや、いいよねえ。和み和み
vicky 9/24 7:4	ほのぼのしていいと思いました。
結政 9/24 12:59	ほほえましくて、わかりやすいですね。 ってか、これってプチストーカーでは？と思ってしまう 私はもうそういう目でしかものが見られないというだめ人間です。 実はこの男には恋人がいて、狂ってしまった彼女は・・・ という展開を想像していた私は本気でだめ人間。 でもそっちのほうが好きです。
こっくん 9/25 2:38	すごいすっきりとしたハッピーエンド。お約束のパターンながらも、ほのぼのさで霞んで しまう・・・。いい作品です。
ふじさき 9/25 9:50	ずっと読めるので好感持てます。 和み系の作品はコメントが平和でいいなあ・・・。
Asagi 9/25 11:37	> 結政さん 「 ” うん。きっと今日も、幸せ。 ” 」 ・・・ちょっといいかもって思ってしまった自分にもものすごく後悔。
無味 9/25 14:20	ほんわかしている感じが好きです。 世代が変わっても...とかいいですね。
blue-orange 9/25 23:53	こういうの好きです。ほのぼのとしてていいですね！ 内容的にもいいし、読みやすいし。
忠犬ヤス公 9/26 9:49	いい。いいな～。うん。いい。 ほんわかさせていただきました。さすが1位作品、おめでとうございます。

一生懸命「無駄な抵抗」をしている母を見て

総合順位：2位
合計ポイント：24 Point
作者：鬼 おん

作者コメントは暫くお待ち下さい。

「お父さん、どうしてボール球に手を出したの？」

「...ン十年前はど真ん中のストライクだったんだよ」

時は残酷だねえ。
ストライクがいつの間にかボールになっちゃうんだもの。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
ペピン 9/18 12:47	コメントしづらいなあ。オチもよく分からないし。しかもなぜ「無駄な抵抗」をしている母なんだ？
さむらす 9/18 13:18	ひどい子供だなあ。 時とともに夫婦の愛は薄れていき、母の化粧はあつくなっていくというものなんだろう か。
茜 9/18 16:50	いや。なんていうか。あたしだったらぐれて実家帰ります。こんな子供と旦那。 >無駄な抵抗 多分フィットネスクラブとか高い化粧品とかそんなところかと。 でもそーいう無駄な抵抗ってまだまだ女だっていう証でもあって・・・ああもうなん かお母さんが可愛そうになってきた。
わがし 9/18 18:8	うーん、作者のお母さん像がわかるような、わからないような。 もうちょっと、愛、もとうか（笑
忠犬ヤス公 9/18 18:54	面白いです。このネタ大好きです。
RiZEL 9/18 20:2	吹きました。これは面白い。
mendel 9/19 0:25	こ、これはチョット酷い気がします……。 お父さんの発言が正に直球過ぎる……。

鬼 おん 9/19 10:8	女ってのはいつまでも美を追求する生き物ですからね。 実家に帰省するたびに老けていく両親を見ているとやるせなくて笑えない点もありますが。 「...ン十年前」ってのは何年前なんでしょうかね。
鞆 9/19 11:50	個人的には、どこかで見たような文章、の域を出ていない気がします。ありきたりな感じ。
ほろほろ 9/19 14:55	ははははははは、 時は残酷だねえ。
otacom 9/19 16:38	わかりづらいけどおもしろい。
あそびにん LV.2 1 9/19 17:10	一瞬、タイトルを忘れて読んでたから何のことだか首をひねったけど、タイトル見直して納得。 うん.....お母さん、見限っていいと思うよ。 というか、子供も、無駄ってばっさり切り捨ててしまうところが...き、きっと、身内だから甘えての発言だよね、ね？ ...でも、これやっぱりお母さんのいないところでなんだろうなあ.....陰口反対。 と、笑うよりも、お母さんがかわいそうに見えてしょうがなかったかな。こう思わせることも、作者にとっては成功.....なのかな？
kiku 9/20 7:51	子供の発言が何よりだな....。
木星/dx 9/20 8:25	ありがちなネタだねえ。 と思った。 どこかで見たような = 進取精神の乏しそうな、お手軽なウケ狙い
茜 9/20 12:21	ありがちな話ゆえに他人事と思えなくてコメント見ながらやさぐれかけてたところをあそさんのコメントで救われた人がココにいます。 ところでこれ、最後の2行なくても良かったのでは？そうすれば、上の台詞は一種の冗談みたいなものにもなると思うんですが。でもって聞いてたお母様にハンマァで地の果てまで飛ばされてればいい。
vicky 9/20 12:23	しみりしてしまいました。
さむらす 9/20 13:23	聞いてたかあちゃんがハンマァでガコンとやってくれるようなら、その夫婦はなががいいんですよねえ。そうすると、なんか、らんま1/2みたいですが。 それにしても、ン十年前ってこともないでしょうに。この子供10歳そこそこなんだから、10年くらいまえまでは愛し合ってたってことじゃん。
やまのかめさん 9/20 13:36	この親子は、ちょっと酷くありませんか？「無駄な抵抗」というからには父と母との相性とかそういう問題ではないですよ。文章自体が短いですし、作者さんがどういう意図でこの作品を提示したのかはわかりませんが、「無駄な抵抗」や「ストライクがいつの間にかボールになっちゃうんだもの」といった言い方からは、なんだか人間の衰えや至らなさを見下して笑っているような、語り手の悪意をすら想像してしまいます。とてもではありませんが、笑えません。
key 9/20 20:8	タイトルが頭に入っていないくて、野球のストライクゾーンが変わった話かと勘違いしていました。 よかった最初にコメントしなくて...セーフ
Asagi 9/20 20:32	タイトルに返ってくる構成勝ち。 個人的にはぜひお母さんのほうにも質問を。
オリボリ 9/22 13:18	なるほど。 おもしろいです。 子どもの発言がひどいなあ。

あそびにん LV.2 1 9/22 16:50	> 茜さん よし、なんだか良くわからないままに茜ポイントゲット！10ポイントくらい溜まったら何かあるといいなあ。どの道、もう溜まる気しないけど。 > keyさん あ、それあそびにんも。最初そう考えてて、ど真ん中ってのにさすがにど真ん中はいつの時代もストライクだろとかちょっと引かかって、ふと視線が上に言ったら気づいた。 > Asagiさん やめて！ もう、これ以上お母さんをいじめないで！
さむらす 9/22 17:50	なんかネタとしてかかれたみたいと言ってる人いますが、ちがいますよね。時は残酷なんじゃなくて、男って残酷ねえといったところなんじゃないでしょうか。この作品がどうなるかはお母さんの性格しだいなきがする。
茜 9/22 20:12	ふむ。確かに。この会話を聞いたときのお母さんの反応次第で、この家族の仲の良さというか、信頼関係の有無というか、そんな感じのものが見て取れるかも。よし、じゃやっぱりお母さんにもインタビューを。
zoo 9/22 22:30	お父さんひどい。 そこはせめて「俺には今でもストライクだよ」とか言おうよ。 ネタとするにはこの方がいいのだろうな。 でもすこし笑いにくい。
さむらす 9/22 22:39	俺にはいまでもストライクなんて言ったら、子供にお父さんキモーイって言われますよ。 母ちゃんにインタビューも母ちゃん次第ですなあ。だれがボールよおなどと怒ってくれる人ならいいけど、無言になられたら困りますよ。
zoo 9/22 22:49	いいじゃないですか。 いつまでたっても深く愛せるって素敵だと思うんですよ。 お母さんへのインタビューはやめましょう。 無駄に波風をたててはいけません
さむらす 9/22 23:3	子供にどうしてボール球に～と聞かれたら、何も答えずに頭をぼんぼんとたたいてあげるのがいいと思うんですよ。 ストライクって答えたにしる、ボールって答えたにしる、答えてしまうと、お母ちゃんに対しての陰口が完成してしまう気がするのですね。だから答えちゃいけないんですよ。
イッパイアッテナ 9/22 23:13	えっと、美貌とは違う気がする。たぶん、体型じゃないかな？ でも、太っているだけで、ストライクとボールというのは違う気が... (ちなみに、自分のストライクは、自分より太くない人です。...ちょっとトラウマがあって) とりあえず、お前の母さんがボールなのは、お前を産んだせいだよ、と。 * 作品としては、評価は下。たぶん、受けを狙っているつもりだろうけど面白くない。 まあ、下手に親父がフォローいれてもおもしろくないんだけど。この内容で書くんだったら、もう少し背景の描写を細かくして、母親の無駄な抵抗っぷりを面白く描いてからのほうがよかったかな。 どうでもいいけど、アメリカではリアルに人がボールみたいだったよ。ほん tuwa yamero nanis.....
茜 9/22 23:17	「俺にはいまでもストライク」はちょっとくさすぎかなあ。 考えてみれば、なかなか扱いに困る子供の言葉ですよ。さて、お父さんなんと答えるのが正解か。
ヤンヤンマ 9/23 16:42	お母さんがいないところでありがちな会話ですね。 それにしても育ててもらった親に対して『ボール球』はひどいわ。
Eisen 9/25 1:34	人事じゃない.....！？ こないだ、殆ど同じ会話があった我が家です。
こっくん 9/25 13:37	ん？父子は野球をやっていて、ボール球に手を出した父親を責めた息子に対して、そういう事を言ったと考えるのはどうでしょう？ あー、それだと、下が父のモノローグになるのか。・・・これ、父が言ったような感じではないよなあ。

わがし 9/25 15:11	>アッテナさん、 >トラウマ どんなトラウマなんだろう、なんてそんなことが気になってしまい……。ごめんなさい。
茜 9/25 16:47	>アッテナさん それよりも「自分より太くない人」って何気にハードル高いような気がして気になるあたし。
のろろ 9/25 16:59	タイトルをもう少しシンプルにしたらよかったと思います。
イッパイアッテナ 9/25 18:47	>わがしさん まぁ、愉快っちゃぁ愉快的思い出です。 子供って残酷だよな、という話。 >茜さん まぁ、日本人だとそんなに少なくはないよ。 (幸い背は低いほうではないので。)
わがし 9/25 20:54	そっか、アッテナさんって、背が高くてひょろっとしてて、残酷な子供にいじめられたことがあるんだ！（本当かい！？）
老若男女 9/25 21:3	ボール球になってもしっかりキャッチし続けてるお父さんに愛を感じる
colt 9/25 22:30	最初の二人の会話はピリリと辛く（けれど微笑ましく）、テンポも良いと思います。 けれど、最後がイマイチ。何故最初の二行で描いたことを繰り返したのでしょうか。 会話だけならば、僕は評価していたと思います。
橘 9/26 1:1	綾小路きみまろみたいww う～んでも、「一生懸命」やってるのなら、それはスゴイことだと思う(^ ^*) 中には運動もせずに、お母さんが主婦だったら家事もテキトーに、そんなカンジの方もいますからww 父親も子供も言いたい放題だけこういう親子に限って、母親が居なくなると何にもできなかつたりするのでは？笑
blue-orange 9/26 1:1	最初、野球の話かと思って何のこと言ってるんだろうって思ったけど、コメントを見て納得。 面白い！
ねがいびと 9/26 1:2	面白かったです。でも折角シンプルな作品ですし、題名ももう少し簡単なものにすれば尚良かったです。
イッパイアッテナ 9/26 7:24	>わがしさん えー、ストライクは細めの人だから、太い人がだめって話なのに(汗 つか、残酷な子供にいじめられるって、なんだー。お医者さんごっこ称してフォークとナイフで突かれることかー。 安心してください、そういう暗いトラウマじゃないです。(明るいトラウマって意味がわからんけど)

[TOPへ](#)

コード Coda

総合順位：3位
合計ポイント：21 Point
作者：RiZEL

作者コメントは暫くお待ち下さい。

世界の終わりまであと3日。
僕は独り、静かにその時を待っている。

コード Coda

「世界の終末まで、残り50日」

僕達がその事を知ったのは、今から47日前の事だ。

その日、広場に居たのは僕と、カイと、ナギの3人だけ。
広場の中央には、大きなコンピュータ『ノア』。
それが、その時残っていた全て。

ノアの試算によると、30日後にナギが、47日後にカイが、
そして50日後に僕が死んで、この世界は終結するらしい。
それを告げてまもなく、ノアは動くのを止めた。

僕達が生まれるずっと前から、この世界を管理してきた『箱舟』の停止。

世界の終わりが迫っている。
でも僕達には、どうする事もできなくて。

あの日からちょうど30日後にナギが死んだ。
いつも優しかったナギ。
最期の瞬間も、笑顔で、眠るように、安らかに。

僕とカイは、ナギを広場のそばに埋めてあげた。
いつかの約束。
もし誰かが先に死んでしまっても、

世界が終わるその瞬間まで
ずっと一緒に居られるように、と。

僕達3人の、最後の約束。

1人減って、残りは2人。
それでも、世界は続いてゆく。
その終末の瞬間まで。

無情に移ろいゆく世界。

崩壊への緩やかなコーダ。

4 2 日目、世界は変化する事を止めた。

風も水も、その流れを静止した。
太陽は常に同じ位置で、僕らを照らし続けている。
皮肉なまでに透き通った空。
止む事無く降り注ぐ、淡い光の雨。

世界が終わろうとしている。

そして、僕達も。

世界が停まったため、僕達は時の流れを知る事が出来なくなった。
昼も夜も存在しない世界。
時間は意味を失った。

だから僕達は、互いに交わす挨拶を数える事にした。
目が覚めたときの『おはよう』と、眠るまえの『おやすみ』を。
その事にどんな意味があるのかなんて分からなかったけれど、
突然、全てが終わってしまうのは嫌だったから。

そう、約束したんだ。

「もしかしたら、世界はずっとこのままなのかもしれないね」カイが言った。
「どうして？」僕は訊ねる。
「時間が停まっちゃったんだ。だからこれ以上、何も変わらないんだ、きっと」
「うん。そうかもしれない」
「きっとそうだよ。僕達もずっとこのままなんじゃないかな」
「うん...、そうだね」僕は頷いた。

それが単なる幻想でしかなかったとしても、
僕達はそれに縋っていたかった。
別に、終わりが怖い訳ではなかったけれど、
ただどうしようもなく不安だったんだ。

「じゃあ、おやすみ。また明日」カイが笑った。
「うん、おやすみ」僕は答える。

数えはじめてから、ちょうど5回目の『おやすみ』だった。

そして、それが最後だった。

僕はまだ、ここに居る。

失われゆく世界で、ただ独り座っている。
ぼんやりと、終わりの瞬間を待っている。

ふと、思い出す。
いつか耳にした言葉。

『時間とは本来、人間同士の相対的な概念でしかない』

一度完全に停止した世界で、僕達は新たな『時間』の概念を作り出した。
そう、作り出してしまったんだ。

そして、世界から『時間』が失われ、後には僕だけが残される。
独りの僕にとって、それはもう、意味がないものだから。

僕は、今でも待ち続けている。
...一体何を？

世界の終わりまであと3日。

その日はきっと、

永遠に、来ない。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
ペピン 9/18 12:26	なんか凄い。分かりにくいっていうのもあるけど、こういう哲学半分な作品は嫌いじゃないよ。「一体何を」のそこはちゃんと意味のある台詞になってると思います。こういうのを書くはずのいとか言われがちだけど、これはちゃんと役割があって、文章の中に組み込まれる価値のある言葉であると思います。
茜 9/18 14:34	・・・うう。状況設定がとっぴ過ぎて、ハテナがいっぱい浮かんでしまいました。いえ、なんとなく、言いたいことは分かるんですけど。当たってるかどうかはよく分からないんですが。 「おやすみ」を数えなかったら、カイは居なくならなかったのかしら。世界にひとり取り残された気分ってどんな気分だろう。あ、でも、時間が流れないから、取り残されたその時間も、長い気も短い気もしないのかな。
鞆鞆 9/19 11:26	初めて読んだ時、最後の一文で背中がぞわとなりました。流れからしてほぼ予想通りの一文ではあったものの。 そんなに分かりにくいでしょうか、私はそこまで分かりにくさを感じませんでしたけれど。 時に、永遠っていったいなんでしょうね。
あそびにん LV.2 1 9/19 13:51	箱舟も、二人しかいなくなって面倒くさいと思ったからって世界の運行止めんな？ と思ってしまった自分。 箱舟って客観的な存在が世界の終わりの中心になってるから、僕の時間が止まったような思いも主観的なもので時の感覚がなくなったってことだろうけど、茜さんみたいな別の読み方が出来てしまうのが面白い。 というか、昼も夜も分からないのに、僕とカイはよく24時間周期で活動できたなとか思ってしまうのはあそびにんだけ？ そもそも、昼二人で何やってたんだろうとかも。まあ、この手の話だと、そういうこと考えるだけ野暮なんだけど。 あそびにん的には、箱舟の存在消してしまった方が良かったかなあとか。鞆鞆さんと同じように、ぞわとしたものを感じたんだけど、箱舟のことを思い出すとちょっとさめちゃうんだよね。客観的なものを崩壊の中心にすえてしまったことは失敗だと思う。なんで崩壊するかはこの際あいまいなままにしておいて、抽象世界的な話にしてしまった方が良かったかな。というより、多分、新たな『時間』の概念を作り出したのあたりはそれ意識してると思うから。

鬼 おん 9/19 16:36	また小難しい噺ですねえ。 時間の概念は人間とは無関係とはいいがたいでしょう。 楽しい時間はあっという間、辛い時間はうんと長く感じる、みたいな。 まあでも自分本位な考え方をすれば自分が死ねば時の流れなんて関係ないわけだし...、とコメントしてて何が言いたいのかよくわかんなくなってきました。すみません。
茜 9/21 13:33	> あそさん > 24時間周期 これも怪しいものじゃないかな、と。確かに箱舟の存在があるから、ぴったりちゃんと24時間じゃないといけないような気もするんですけど。 時間を完全に主観的なものってことにしちゃうと、たとえ1時間周期でも、48時間周期でも、「おやすみ」って言うごとに1日が過ぎて行ってるんじゃないかしら？ 箱舟って言う客観的な存在がネックになってしまいうんですけどね。この解釈だと。
さむらす 9/21 15:55	おもしろいですね。文章もきれいで世界観もすきです。 ただ、なんでノアが停止したんでしょうね。3人だけじゃ動かせないのかな。
key 9/21 17:32	いいと思う。 いつか僕に終わりが来るとしても、僕の終わりを伝える人は居ないわけで、そういう意味で僕にとって世界の終わりは永遠に来ないのかな... 30日、47日、50日ってノアの方舟の話となんか関係あった気がしたので調べてみました。 とりあえず、 47日→ノアが放した鳩がオリーブの枝を持って帰ってきた日 みたいです。150日後に水が引いたんだって。
あそびにん LV.2 1 9/22 14:46	> 茜さん えっと、あそびにんのコメントの真ん中ら辺で言いたかった主観的っていうのは、あくまでも僕の中だけでの話。僕の認識がそう感じさせてるだけで、実際の世界はついていって止まっているわけではなく、やっぱり冷酷に時を刻んで言ってる感じ。結局、永遠なんかじゃない。僕が永遠だって思い込んでいるだけだね。 やっぱり、箱舟の存在が邪魔になって来るんだよなあ。そういう、客観的な認識をするものが登場しないんだったら、主観に合わせて世界が本当に止まって永遠なんて解釈もしやすいんだけど。 > keyさん 眠っている間でも起きるまで眠っているって認識は出来ないわけで、終わりが来て死んでしまってももうそんな認識どころじゃないって意味で、眠ることと変わらない。だから、世界の終わりを認識するときも永遠に来ない.....うん、あそびにんにりにアレンジしてみたけど、確かにそうだ。ナイスフォロー！ 果たして、この箱舟に150日目を訪れることはあるのだろうか.....。
茜 9/22 15:35	> あそさん うん。だからこの「24時間は怪しい」というのは、箱舟の存在を無視した場合。で、そういえば箱舟って停止してるんですよ。てことは、ノアが時間を刻んでるわけではないから、時間を刻んでるのは主観的な「僕」自身であってもよいのではないかしら？
あそびにん LV.2 1 9/22 18:6	> 茜さん あれ、箱舟が完全停止したら世界の終わりなんじゃないの？ というか、ノアが止まったのを箱舟が止まったのと勘違いしてない？ 多分、箱舟は段階的に停止して行ってて、伝達役であろうノアとか、風や水なんかも止まって.....最終的に、完全停止と相成るんだと思う。風や水なんかまで操るようなものだし、箱舟って名前からしても、完全停止したら人間生きていけないんじゃない？ 太陽なんかも止まっているから、時間も止まっているんじゃないかってのもあるかもしれないけど、でも、わざわざノアが日数告げるくらいだから、内部時間はやっぱり刻まれてる気がするかなあ。 今、一番気になっているのは、ノアはどうしてそこまで正確に死ぬ日を予言できたんだろうってことだったり。まあ、コンピューターの分析力すごいねかもしれないけど。

茜 9/22 20:6	> あそさん 箱舟 = ノアだと思ってたんですが、ちがったのかしら？ 世界の終わり = 箱舟の停止じゃなくて、箱舟の停止→世界の終わりなのかな、と思っていたのですが。ほら。生命維持装置って、止まったから即死亡ってわけでもないでしょ？
さむらす 9/22 22:21	ばくもノアと箱舟は同じで、それは世界の終わりを告げてから停止したんでしょ、たぶん。それは星を管理しているけど、時を管理しているわけじゃないはず。A R I Aみたいに星を生命がすめる状態にしているのではないのでしょうか。 なぜ、ノアと箱舟という二つの言葉をつかったのかがわからないですがね。
やまのかめさん 9/23 6:38	これは読みというより想像ですが.....この世界は閉じた世界。星の環境管理システムとかそんな話じゃなくて、密閉型の人工世界。過去のなにかの事情によって、人々はこの世界を作り、閉じこもった。それから数世代を経て、不具合が生じて管理システム停止。人工太陽も動かなくなる。もはや最後の生き残りである「僕」やカイは世界の外を知らない。 冒頭からS Fとして読み始めてしまったので、こんな感じに脳内変換されました(苦笑) 『ノア』 = 『箱舟』と読んでまして、「コンピュータ『ノア』」は単にコンピュータの名前を示しただけ。「この世界を管理してきた『箱舟』の停止」は、つまり人々を救済してきた存在が停止してしまうんだという意味を込めたんじゃないかと。 後半に出てくる『時間』の話は、最初はということなのかよくわからなかったのですが、皆さんのコメントを読みながら、これはやっぱり人間の感覚としての時間の話じゃないだろうかと思いました。で、「僕」はもはや時間を認識しなくなってしまったから、「僕」にとっての世界の終わりは永遠に来ない。ただし物理的な意味での実時間は止まったわけではないし、「僕」もいずれ死ぬだろうけど、それは「僕」が世界の終末を認識することは意味しない.....こんなお話ということになるかなあ。keyさんとあそびにんさんのコメントがなかったら苦しかったです(苦笑) でもコメントを見てますと、いろいろな読み方があるものですね。もうちょっと他の皆さんの読み方も聞いてみたいです。 死の予言が的確すぎることに、「僕」から見てのナギやカイの死の予兆が皆無であることから、この三人も人格を持った人造人間だったりアンドロイドだったりして、その機能が停止しているだけだったり、なんて想像もしてしまいました。
イッパイアッテナ 9/23 16:46	Codaって終わりという意味なのか。メモメモ 自分も星の管理というよりも人造的な生活居住空間というやまかめ説に一票。 時を作り出したという概念は面白いな。と思う。 それまでは、世界の変化という形で強制的に与えられていた時間というものが、世界の停止によって、二人の人間の関係でしか時が刻まれなくなり、そのルールに従って相方が死んで、のこされた最後の一人はそのルールすらも適用できなくなり、時間という概念を失ってしまう。といった感じでしょうか。 肉体ではなく精神世界に生きている生き物なのかな？主人公たちは。 (と考えると、もしやすると、これはコンピューターの中の仮想世界であり、その中で生まれた意思たちが、意思という存在で語り合っている物語？などと変な深読みをしてしまった。)
あそびにん LV. 2 1 9/24 14:40	あそびにんも、箱舟って名前とかからいっても、星の管理システムじゃなくて、人口世界だと思ってたかな。 普通は箱舟 = ノアだと思うのか.....うん、ノアは大きなコンピュータって書いてあるし、それが普通か。 あそびにんは、ノアを箱舟とアクセスする情報端末というか、箱舟の代弁者というか、そういうものだったんだよね。ノアが止まっても4 2日間は世界が変化してたことからいっても、中枢のコンピュータがどこかにあってそれは動いてたんだと思う。で、何らかの理由で維持が出来なくなったから、段階的に停止するんだなと。 > 茜さん なんか、断定的な言い方をしてしまっでごめん。 酸素生成装置とかなら、確かに生成止まってもなくなるまでは生存できる。でも、上に述べた、世界の変化については止まっている状態での惰性で出来ることじゃないと思うんだよね。それが、ノアが停止 = 箱舟の停止じゃないと思ったわけ。 確かにノアが停止の直後に箱舟の停止って書いてはあるんだよね。でも、さむらすさんの言うように、わざわざ言い直すなら、別の名前つけなくていいと思わない？ あそびにんは、これを箱舟が停止してしまうのか...って僕が受けた衝撃みたいなものだった。

	スペースもあいてたしね。 > やまのかめさん アンドロイドは、あそびにんも考えたなあ。でも、ナギを埋めてあげるシーンがすごく人間くさくって、人間であってほしいって願望が勝ってしまった。あと、アンドロイドなら、時計が内蔵されてたりしないのかなあとか。そんなわけで、あそびにんは人間だと思うかな.....確かに、予兆がなさ過ぎるのは気になるけど。 > アッテナさん 精神世界だとすると、やっぱり箱舟の存在が客観的過ぎる気がするんだけど、箱舟を象徴的な存在だと受け取るって事？ 上位精神というか、神様の存在というか...そんな感じ。 うひゃ、長くてすいません。
さむらす 9/24 17:50	アンドロイドとかにしちゃうと完全にSFになっちゃうじゃん。 この作品は純文学だと思うのですね。 人工世界(人口ではない)とするとノアの死が時の終わりになってしまうんじゃないでしょうか。たぶんこの世界が終わるのは時を観測する人がいなくなるからで、客観的な存在のなにかがなくなるからじゃないと思うのですよ。
イッパイアッテナ 9/24 17:57	あー。あそさんナイス。 ノアが止まって、42日間か。 ↑ 42日は、洪水で雨が降り続けていた期間
イッパイアッテナ 9/24 17:59	むっ、洪水の期間は40日間か。勘違いだった(汗
pencha 9/24 23:50	時間について考えさせられる文章。 訴えかけられるような不思議な気分になりました、面白かったです。
茜 9/24 23:55	> あそさん あたしも読み直してからごちゃごちゃしてきた..... いや、結局のところこの物語って、主観的な時間が止まってしまったってことだと思うんです。 ごちゃごちゃした設定にどこまで意味があったのかよく分からないのですが。もうちょっと寓話的にノアや箱舟を使って理由付けしないほうが、すんなり読めたんじゃないかしら？
弟子 9/25 4:43	終わりが来ないことなど当然 このお話には始まりがないから 始まりがないものを『迷路』と呼ぶことは出来ない
ふじさき 9/25 9:39	雰囲気は好きです。 1500字の制限がなければもう少し詳しい設定が書かれたのかなあ、と思うと少し残念でした。
blue-orange 9/25 23:9	難しいというか、深い作品だと思います。 でも、その深さが不思議な雰囲気を醸し出していて、個人的には好きです。
カケラ 9/26 0:11	時間の捉え方が面白くて好きです。 アイデアを活かして上手に仕上げてると思います。
mendel 9/26 1:32	「Coda」が使われているせいか、演奏の風景が思い浮かびました。指揮者が棒を振るわないと楽譜は進まない。 この物語も、最後は指揮者が棒を振るのをやめたようなイメージでした。そうすると永遠に「(Fineという意味での)Coda」には辿り着かない。 そんな印象を受けました。
Eisen 9/26 1:35	レイアウトが秀逸です。.....なんて、褒めるところが違うのでしょうか。でも、素直にそう思いました。 タイトルが太字なところとか、行間でリズムをうまく操作しているところとか。読んでいて心地よかったぐらいです。 内容について。 飾りつけのない、平易で素朴な文章が、一層冷ややかな恐怖を演出しています。ゾクッときました。今回の一押し、かな。

えむえむ 9/26 2:8	やっぱりレイアウトがよくて、引き込まれていく感じでした。 最後は、なるほどーでしたね。火の鳥にありそうな話。
木星/dx 9/26 2:9	うーん・・・・・・・・ 今ひとつ心に響かないのは何でだろ～ 意図的哲学封じ込めというか、ペピンさんの言葉を借りれば「哲学半分」作品って、自分的に、今イチ。ああ、こういう哲学が込められてるんだ、って思えるような作品に込められた哲学なんて、所詮その程度の初心者向け哲学のような気がします。

[TOPへ](#)

掌におさまるくらいの幸せ

合計ポイント：17 Point

作者：茜

作者コメントは暫くお待ち下さい。

懐中時計を見る、あなたの横顔が好きです。
きりっとした眉と、澄んだ瞳。銀縁の眼鏡。
大きな掌にすっぽりおさまる金色の懐中時計。
時計の文字盤を少し目を細めて見つめる横顔が、とってもステキなのです。
あなたの掌のなかで、あなたの時間を刻み続ける時計。

いつだったか、あたしも真似して、眼鏡をかけて懐中時計を持ってみたのですが、
あたしの手には大きくて、やっぱり、似合いませんでした。
あなたの時間を刻む時計は、あたしの時間は刻んでくれないみたいです。
仲間はずれにされたみたいで、ひとりでふくれていたあたしを、あなたは不思議そうに見ていました。

あたしとあなたは、別々の時間を生きています。

でも、あたし、あたしの手、好きなんです。
あなたの大きな掌にすっぽりおさまるサイズ。
あたしの細い腕は、あなたの大きな背中を抱きしめるのには小さすぎるけれど、
あなたの太くてたくましい腕は、あたしの小さな肩を抱きしめるのに、とってもちょうどいいのです。

ある日、あなたは懐中時計を買ってきました。
でもそれは、あなたの手には小さすぎます。
あたしの手にすっぽりおさまるサイズです。
あたしはさっそく、眼鏡をかけて、懐中時計を持ってみました。
小さなあたしの手の中で、あたしの時間を刻む時計。
あなたとおそろいです。

ね、にあう？

声はずませて聞きます。
でも、あなたったら、くつくつと笑いをかみ殺したりするもんですから、
あたし、すっかり不機嫌になってしまって、
ありがとうを言うのも、忘れてしまいました。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
わがし 9/18 11:11	かわいい！　かわいい！ > あなたの太くてたくましい腕 このあなたはいかつい人なのですかね？？
さむらす 9/18 11:20	メガネも必須なの？ イギリス貴族みたいな人を想像してみたのだけど、それだと、太くてたくましい腕が似合わない。 でも、たしかにこの女の子はかわいいですね。子供だって恋をするのよといつかぼそりと言いつつ。
茜 9/18 17:5	おなじなのとおそろいなのは違うんですよね。そういえば。 所詮はべつべつの人間。 だからこの幸せは、「掌におさまるくらい」なのかな。 > 太くてたくましい腕 ちょっと筋肉質ってくらいの人だといいなあ。適度にたくましく？（注文が細かい） 女の子との対比の中だから、大抵太くてたくましくなるんじゃないかしら。
わがし 9/18 23:58	> 茜さん ええ、私は「太くてたくましい」腕はあんまり好きではありません。細すぎるのもどうかと思うけど・・・。 どのくらい、太くてたくましい腕なんだろう（話題はそれかいっ
鞆 9/19 0:15	線の細い感じの人の方が懐中時計は似合うと思うのです。 懐中時計というか、なんというか、むしろ、銀縁眼鏡が。 だから、余りに太くてたくましい腕だと大減点です。 大、大、大減点です。 適度に太くてたくましい腕が良いと思うのです。
茜 9/19 0:40	> 適度に太くてたくましい腕 「ああ、この人ってやっぱり男なんだな」って感じられるくらいのたくましさでしょうか。 女の子と張り合えるような太さじゃあ流石にだめかな。 （て言うか話題はそれなのか）
さむらす 9/19 1:3	みんな太くてたくましい腕に反応している。 これって、もしかしたら彼女からみたらそう見えただけで実際にはそうでもないのかもしれないよ。少女のか細い腕に比べたらさすがにそうでしょう。
ほろほろ 9/19 13:58	幸せそうな二人でなによりです。 僕ね、これは 「僕にはこういう文章、需要がないけれど、 おとめにはいいのかもしれないな」 って思ったんです。 僕にはもう少し哀しい話がいいんですけど、 まあ、需要はありそうだと。 ところがそのターゲットの皆様からすると、 腕にもっと気をつける！　ってことなんだね。 作者さんは参考にされると良いと思います。
わがし 9/19 18:2	腕の話で盛り上がる・・・。 そうですね、懐中時計を持つ人のキャラと太くてたくましい腕というのがアンバランスでひっかかったのかも知れません。 線の細い人が持ちそうですもんね。 おそらく作者さんは「おい、ひっかかるの、そこかよ」とおもっていらっしゃるか も・・・。はい、重要なポイントです（笑

あそびにん LV.2 1 9/19 20:35	ああ、確かに可愛い。あたし素直に可愛い。ね、にあう？って声をはずませるところとか、もう、ね？ 一時期、あそびにんも懐中時計に憧れたことあったなあ。鎖がついて、なんだかかっこいいじゃない。今は何気に懐中時計使ってます…携帯電話だけど！かっこよさ激減。 確かに、懐中時計って繊細な人が使ってるイメージがあるかなあ。少なくとも、体育会系のマッちょには似合わない。多分、そのギリギリを銀縁眼鏡でカバーしようとしたに違いない。
エスィフィア 9/20 10:13	ああ、幸せですね、かわいいですね、いいですね。 私も懐中時計へのあこがれ、あります。 「今何時だろう？」じゃら、かちっ、ちっちちちち…んーかっこいい。
RincO 9/22 22:1	どの部分もかわいらしく「時」に繋げているのがいいかんじです。
結政 9/24 12:55	幸せな感じが伝わってきます。 ・・・なのに、コメントで話題になっているのがそっちって・・・。そうですね、ここは東工d・・・
やまのかめさん 9/25 23:10	な、なぜこうも腕が注目されているのだ。懐中時計にはそんなイメージがありますか…… わたくしの周りにはすばらしく恰幅のよい懐中時計使いが二人もいます。腕は太いです。お腹も太いです…… で！んなことはどうでもよくて！ 可愛い二人ですね。身体の大小を利用しての演出がなかなか良いです。ちと可愛すぎるくらい(苦笑) もうちょっとひねりがあった方が文章としては面白くなるんじゃないかと思いましたが、でもそうすると魅力であるところの二人の雰囲気損なわれてしまうかなあ。
Asagi 9/26 1:7	懐中時計にメガネ、やっぱりスーツ？ そういう言葉から受ける印象はどこまでも、すらっとスマートなひとのイメージなんです が、 大きな手のひらにすっぽり、っていうからやっぱりいかつい人なのではー、なんて。 とするとこの彼は、身体はごついのには実は繊細、と。・・・あ、それはでいいかも。 でももしそうだったら描写はちゃんとほしかったな。ラグビーやってるひとだったりとか。 それと、「あたしとあなたは、別々の時間を生きています」のところ、もう少しふくらませて、 六つのまとまりで書いてあったほうが、テンポは良かった気がします。 そういえば二つほど助詞の「は」が抜けているのは意図的？ ここだけひっかかって読みにくかったです。 ともあれ、最後のただのハッピーエンドに終わらせない落とし方はかわいくて好きでした。
橘 9/26 2:31	「あたしとあなたは、別々の時間を生きています。」 この一文が最初読んだ時は少し悲しく感じられました。 一緒にいても、同じ時間を歩むことは、やっぱりできないんだなあって。 でも、掌の大きさが、腕の太さが違うから、ピッタリ納まる。 完全に同じになることはできないけど、違いがあるからこそ噛み合うことがある。 そんな風に感じました。
Tohma 9/26 4:5	なんか頭をなでたくなる女の子ですね（笑） 最後の一文が個人的に好きです。 男の視点からすれば「ありがとう」と言われてないんだけど、おそらくこの女の子は懐中時計を大事にこの先も持っているから、その様子を見てまたくつつくつと笑いをかみ殺すのでしょう。 幸せだなあ……

赤ずきん 9/26 6:56	これはいいなあ。このほんわりとした空気が好きです。 いや、直前まで暗い話が続いてたせいもあるんですが。 終わらせ方も上手くていい感じです。
イッパイアッテナ 9/26 7:5	> Tohmaさんる？ いえいえ、U12さんかと思いました。 んー、この主人公って、そんな幼い少女なのかなあ。むしろ、中学生二年生くらいのマセパワー全開なくらいか、24歳くらいでいい年した大人かどっちかな気がする。 いづれにせよ、頭をなぜたら噛まれそう。 やっぱ、いいツンデレだよなあ。(っと、作者さんにはぜひツンデレについて解説してほしいという願いを込めて書いてみました。)

[TOPへ](#)

今週のお題

開催中： 時

投稿受付中： 投稿受付期間外

Column Land

- 最終セッション結果発表！ 作者コメントをお早めに。
- オフラインセッションは土曜日16:00西9の607。作品「風」の投稿は前日17:00までです。くわしくは掲示板370へ。ただいま風速3メートル。

コンテスト会

コラム掲載ペ

コラムアーカ

プロフィール

自己プロフィ

BBS

まじょコメン

My Grandfather's...

合計ポイント：16 Point
作者：colt
作者コメントは暫くお待ち下さい。

夕焼けに太陽が溶け、濃紫の夜空がうっすらと空を覆っていく頃。
大分弱まった蝉時雨の中に、ツクツクボウシの声が目立ち始めた。
斜陽は未だ残暑を引きずっている。僕は、スーツのポケットからハンカチを取り出し、そっと汗を拭った。
前に視線を向けると、先ほどまで溢れていた人々も、最早数えるほどしか残っていなかった。
もういいだろう。残りの対応をしている両親・親戚の並びから抜け、縁側へ。腰を下ろすと、ふう、と息が漏れた。

振り返る。祭壇の中央、黒の額縁の中に、白黒の笑顔。もう直接見ることは出来ない、祖父の笑顔だ。
顔を戻し、薄暗さに包まれながら、右手でポケットを探ると、指先が固いものに当たった。
ううむ、と唸る。
これは、あそこの小さな壺に、入れるべきなのだろうか。

一昨日の朝、母からの電話を受け、僕は慌てて帰省した。
昼過ぎには病院に着いたものの、そこで出迎えたのは、涙目の両親・親戚と、既に物言わなくなった祖父だった。

しばらく呆然としていると、母が涙を拭いながら小さな箱を差し出してきた。
「アンタの自由にしなさい、だって。昨日の朝、おじいちゃんに渡された」
それは何の変哲も無い白い箱で——すぐに中を覗いて、あ、と声が漏れた。
中身は、一本の腕時計だった。

祖父は、とにかく物持ちが悪かった。
映らないテレビは、叩くもの。
回らない洗濯機も、叩くもの。
ラジカセは、とにかく叩くもの。
冷えない冷蔵庫は——、いや、さすがに諦めていたけれど。
とにかく、そういう『修理』の概念が無かったせいか、機械との相性は抜群に悪かった。
そんな祖父が、唯一10年以上使った『機械』。いや、お馴染みの自慢話によれば、10年なんてもんじゃないらしくて。
僕はそれを、憧れと共に、ずっと昔から欲しがっていた。

ゆっくりとポケットから取り出して、全体を眺める。
古ぼけた黒革ベルトに、白の文字盤。SEIKOの文字が金色に光っている。
「——ん？」
そこで気付いた。見た目こそそれなりだけど、肝心なところ。さっきから、金色の秒針が、ピクリとも動いていない。12のところで静止している。
この間、8月に帰省したとき、祖父は「見ろ、まだ動いとる」と自慢していた。それは良く覚えている。

ということは——もしかして。
もしかしたら、もしかするかもしれない。
いや、でも、まさか。
「お母さん、お母さん！」
親戚のおばちゃんと話していた母を、小声で呼びつける。
「なによー。今、成子と」
「あのさ、おじいちゃん亡くなったのって何時何分？」
遮って尋ねる。
心臓が高鳴っていた。
「いきなりどうしたの。ええと、確か」
「……12時23分」
「そう。なんだ、知ってるんじゃない——って、どうしたの？」
瞬間。僕は、叫んでいた。親戚の何人かが振り返ったけれど、今の僕にそんなことを気にしている余裕は無く。
「すげ、嘘、マジで。本当に？」
手の中の腕時計。その針が示す時刻は——、

0時23分ちょうど。

あった。ここにもあった。
大きくもないし、のっぽでもないけれども、それでも確かに。
おじいさんの、時計が。
100年には届かない。生まれたときから、と言うわけでもない。
けれど、僕は知っている。この時計を。この時計に籠められた思いを。

祖父お得意の自慢話は、『まだ動く』——ただそれだけではなかった。
大事な大事な要素が、もうひとつ。

僕は立ち上がり、写真の前へ。
小さな壺の蓋を取り、その中に時計を滑り込ませた。
これでいい。
きっと、これが祖父の思い。恥ずかしがり屋な祖父の、口にしなかった本当の願い。

いつかの、顔を赤く染めた祖父の台詞が頭を過ぎって、僕は小さく微笑んだ。

——『この時計はな、ばあさんからのプレゼント、なんじゃ』

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
わがし 9/18 11:39	おばあさんからのプレゼントなんだ、そうかあ。 それも含めて、持っていてもいいのかも知れませんがね。 意外と、亡くなった直後というのは、身内は涙目にはならないかも知れません。ご両親とかは。やることいっぱいあるので・・・。
さむらす 9/18 11:57	「すげ、嘘、マジで。本当に？」というセリフがシリアスな雰囲気にあわれないような気がする。

茜 9/18 21:13	あー、そっかあ。おばあさんかあ。 いいなあ。なんかいいなあ。おばあさんのプレゼント大事に持ってるおじいさん。 流石になくなった時刻ぴったりに止まっているのはちょっとご都合主義かなと思ったんですが、おばあさんからのプレゼントならそういうこともあるかもって、なぜかいきなり納得しちゃった私がいいます。 さむらすさんの言う台詞は、「嘘、マジで」くらいにとどめておいた方が良かったかも。ちょっと言いすぎな感じがしました。
あそびにん LV.2 1 9/19 16:14	そっかあ、おばあちゃんからのプレゼントだったのかあ……おい、僕、それ知ってるなら欲しがっちゃ駄目じゃん！ なんか、そういう意味で、「すげ、嘘、マジで。本当に？」が言ってもおかしくないなとか納得できてしまった気がするあそびにん…これ、正直どうなんだ？ それにしても、どうして止まったんだろうね？ おじいさんが死んだから、他の人が使うんじゃないみたいな嫉妬とか（あえて、誰（何）のとは言わない）でも、おじいさん自分から渡そうとしてるんだよなあ。もらってあげればいい気がするけど。おじいさんも一体どうして欲しかったんだろ？ なんとも、いろんな人の心情がどうも上に書いたようなもののせいで何度読み直しても伝わってこなかった気がする。そこを除けばいい話だと思うんだけどなあ。
エスフィア 9/20 10:31	おばあさんのプレゼントを大事に持ってるおじいさん。いいですねえ。ここにも幸せな夫婦が… ちょっと個人的なことになりますが、おばあさん、SEIKOの時計を選んでくださり、ありがとうございます。親がSEIKOに勤めていたことがありまして。
やまのかめさん 9/23 13:35	このお話、いいなあ。老いの果て、最早きらめかずとも、しかし静かに仄かに光り続ける愛情。いいなあ、これ。時計が止まったのはファンタジーですよ。ファンタジーでいいじゃないですかあ(泣) このおじいさんの自慢話のついでの「この時計はな、ばあさんからのプレゼント、なんじゃ」も、顔を赤らめながらも冗談めかして言っていたんじゃないかなあ。だから主人公は、その言葉の重さもおじいさんにとってのこの時計の価値も、この瞬間まで気付いていなかったのですよ。 おじいさんはこの時計をあの世にまでも持っていきたかった、けどそんなこと言うのは照れくさい、主人公の「僕」にはその気持ちを察してくれることを期待して時計を託した。孫の前で赤くなってしまう程に照れ屋のおじいさんなら、こういう心情があり得たと思います。 たぶん主人公の「僕」は親族の中で一番時計のことを良く知っていた、時計の話が一番良く聞いていた、この先は想像になるのですけれど、同時に、おじいさんの昔話に飽きもせず一番つきあっていたのもこの「僕」だったんじゃないかなあ。だからおじいさんは、気持ちを察してくれることを期待して時計を託したけど、これまた同時に、もし主人公がこの時計を保存したり自分で使ったりすることを選んで、おじいさんとしては、こいつならいっか、という気分だったんじゃないかなあ。 実はこの文章、初めからあまりシリアス一辺倒には見えなかったのですよ。冒頭のお葬式の描写でも少なくともこの語り手の「僕」に関しては沈んだ調子はないし、おじいさんのエピソードも微笑ましいし。ですので「すげ、嘘、マジで。本当に？」の台詞も、そんなに気にならなかったです。最後のおじいさんの照れぶりも微笑ましく、おじいさんを見送る「僕」の微笑みも清々しく、とても良い読後感でした。
イッパイアッテナ 9/24 2:14	ん————、なんだろう。すごくきれいな作品で、とても好きな部類に入るんだけど、たった一点が引っかかってしまう。 ——『この時計はな、ばあさんからのプレゼント、なんじゃ』 なんかなあ、これ要らないと思うなあ。 いや、普通にこういう設定のほうがいいと思うんだけど、最後の最後で明かす設定じゃないかなあっと。 位置が微妙なのかな。たぶん、もっと前に書いておけば、すごくきれいに納まったと思うけど、話の落ちとして、そう落ちというところに納まっているのがひどく納得できない。 これが最後にある、ただそれだけで作品が陳腐に思えてしまうってのが、自分の感想。ひ

	ねくれているなあ
神無月 9/24 2:23	なんかいいなあ。この雰囲気。主人公の反応にも共感もてるし、爺さんも台詞もずっと落ちました。 最初がちょっとだらけてるかもしれませんが、個人手金はこういう情景描写は好きですし。総合的に良い評価です。こんな短い文章なのに、キャラクターを生かすことが出来てるのは凄い。
ほろほろ 9/24 3:20	いまは もう うごかない その とーけーいーー♪ いやはや、ええ話や。おじさん泣かせてもろたで。 飴ちゃんいるか？ いらんか。 こぶ飴やで？ え～、同業者（僕はこういう話を書くのが好きなのです）としてアドバイス。 おじいさんの些細なくせとか、変った所とかを スパイスとしてもう少し書くと、 この子のお爺さんへの愛着がより一層感じられて良いと思います。 特に、おばあさんと2人で居たところと、先立たれてひとりになったときの様子の違いとか、その辺りはなかなかのスイートスポットですぞ。
八剣 9/24 10:13	個人的には > 祖父は、とにかく物持ちが悪かった。 の辺りでつまづいてしまった。 > 映らないテレビは、叩くもの。 > 回らない洗濯機も、叩くもの。 って、物持ちとか以前に既に壊れてるのでは。
弟子 9/25 3:55	自分は祖父の亡くなった時刻丁度に鼻血が止まりなくなりました 意外と分かるものなのですね、誰かの時が止まるのって
こかみ 9/25 18:16	全体的にこの作品のよさは歌の雰囲気が作品の雰囲気にとてもよくマッチしているところにあると思うので、そういう意味では「すげ、・・・」のくだりは少し違和感があるかな、と感じました。作者が見込んだ通りの読後感を得られるような文章だったことがよかったと思います。
blue-orange 9/26 0:51	「すげ、嘘、マジで。本当に？」はこの作品の雰囲気に合わないと思いました。 でも、それ以外の部分はいいと思います。雰囲気が素敵です。 おばあさんからの時計を自慢するおじいさん...かわいらしいですね。
木星/dx 9/26 3:17	（生涯に一度きり）ある人のことを思い出して詩にしたら、丁度その時間に亡くなってたとかありましたが・・・ 科学を超える何かって、あるんですかね？ あったとしても、絶対認識できないと思うけど。 誰もいないはずなのに誰かに見られているような気配に突如襲われ、辺りを見回すとドアの隙間にイタチの小さな顔があったとか、これくらいなら科学で解明できるのかな？ 室温の微妙な変化を無意識に知覚したとか。 作品については・・・概ね好感を持って読めましたが、ラストの文は「ここでキメてやろう」という意識が見えて、大きく減点。アッテナさんの読みは、今回については（←深い意味無し）ひねくれてないと思う。ここは反応してしかるべきところかと。

[TOPへ](#)

Ourglass

合計ポイント：14 Point

作者：mendel

作者コメントは暫くお待ち下さい。

本当に貴方は、気が利かないヒト
そう思って、砂時計をひっくり返す

欲しい物は、言えばプレゼントしてくれた
行きたい所は、いつだって連れて行ってくれた

でも、そんなの嬉しくない

貴方は、私の言葉に頷いているだけ
ただ、私のお願いに従っているだけ

だから、あの時くれた砂時計は
貴方が初めて、自分で決めたものだから
安っぽくて、変哲もなく、地味だけど
今でもちゃんと持っている

最後まで貴方は、気が利かないヒト
もう一度、砂時計をひっくり返す

海外に行く事になった時は、さすがに驚いた
私が着いて行けない事は……、二人とも判っていた

だから、私は貴方が別れ際になんて言うのか、ずっと気になっていた

一緒に着いて来い、……だったらちょっとヤリスギ
ずっと待ってる、……はクサいけど嫌じゃない
別れよう、……も仕方ないかもしれない

でも、たった一言「いってきます」だけとは思わなかった
……本当に気が利かないヒト

砂時計が全部落ちる寸前に、私はまた、ひっくり返す

砂の一粒一粒に、私たちの思い出が刻み込まれているようで
砂の一粒一粒が、私たちが再開するまでの時間を刻んでいるようで

全部砂が落ちたら、思い出が零れてしまうんじゃないかって

全部砂が落ちるまで、待ちきれなくて
私は、砂時計をひっくり返す

貴方を思い出している間だけは、最後まで落ちる砂を見たくないから

貴方は本当に気が利かないヒト
「いってきます」って言われたら
「おかえり」を言わないといけないじゃない

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
さむらす 9/18 13:11	すごくまとまった作品ですね。ぼくは好きです。 素敵な笑顔でおかえりなさいと言って上げて下さい。
わがし 9/18 18:14	いってきます、っていい言葉ですよ。いってらっしゃい、って言ってあげてください。 きっといいお返事が帰ってくると思います。がんばれ！！！！
RiZEL 9/18 19:8	好きです。 何度か同じ雰囲気の商品があった気がしますが、その中で一番綺麗にまとまっていると思います。
茜 9/18 21:53	そういえば、うちの父が、あたしが子供の頃、「行って帰ってきます」って言って出かけてたの思い出しました。 気が利かない人っていうか、男の人って案外こんな感じかも。 でもあたし、こんな風に言われたら、「さよなら」って言ってしまいそう。「おかえり」を言うために待ってられる強さがうらやましいです。
さむらす 9/18 22:15	>あかねさん さよならと返してしまっただけですよ。そんなことしたらこの人も泣いてしまうかもしれません。 送るときと迎えるときは、にっこり笑顔で。そうすれば運命は悪いほうには流れない。笑顔の法則です。
鬼 おん 9/19 10:16	「いってきます」は気が利いてるような気がするけどなあ。 「さようなら」って言っちゃったらもう会えない気がするもの。
茜 9/19 13:24	この作品のいいところって、気が利かないって言いながら、なんだかそんなところもすくめて彼が好き、みたいな彼女の気持ちが透けて見えてるところかなって思います。 でも、あたしは、「いってきます」っていう、帰ってくる約束も何もないあやふやな言葉で、縛られるのはあたしはいやだな、と。あくまでも、あたしは、ですけどね。 彼女にはそういう言葉のほうがよかったのかもしれないね。待ってしまっているのがその証拠。「気が利かない」って半分負け惜しみかも、後半は。ちゃんと帰って来てくれるといいなあ、彼。
わがし 9/19 17:44	いやあ、彼も精一杯、いってきます、を言ったのですよ。 なんて言おうかすごく考えて、それで、いってきますになったのではと思います。 確かにやわらかく縛ってますけど、なんていうか、物理的な距離感にいつか慣れる時が来るから、慣れたらまた新しい関係に入ると思うけどなあ。 最初は不安定だけでも。どうかねえ？

あそびにん LV.2 1 9/19 19:7	どうでもいいけど、タイトルにスペース入れようよとか思ったのはあそびにんだけ？ あそびにんも、いってきますはすごく貴方らしい気がする。さよならとはいえないけど、彼女を強く縛るような言葉もいえなくて、結論としてこんな台詞になっちゃったんじゃないかなあ。ほんのちょっとだけ待てることを期待してるみたいな彼もちょっと可愛い気が。 何となく、私のほうも待ってはいるんだけど、お帰りって言う時はあえてそっけなく言いそうな気がする。気が利かないやらなんやらの文句を言いつつ待てる場所なんかから。 なんというか、微笑ましい二人が容易にイメージできて好きだなあ。
Asagi 9/20 20:22	「気が利かないヒト」の繰り返しが全体のリズムをつくりだしていて、心地よい作品でした。なんだか色っぽい。 起承転結もしっかりとしていて、盛り上がりの部分に自然とつながっていきけるのもいい感じ。 私としては、彼氏さんの言葉が「いってきます」だったのは、なんだかんだいいながらもこの人はちゃんと待っていてくれる、って信じてたからかもなー、と思いました。 3つの「気が利かないヒト」の意味合いが、それぞれ微妙に違ってくるのが面白いです。
melonsan 9/21 22:54	語り手自身は別れ際に、何と云うか決めていたんでしょうか。相手の出方を見てから、ですか。そういうのは男性がリードするものなんですか。この二人の性別はわざわざ議論するまでもないですか。 > 作者さん 無粋で失礼極まりないことを承知で確認させてください。 題名はHourglassと私たちの思い出をかけて、Ourglassとしているんですよね。東工大生でおられるなら、素で間違えておられるかもしれないと思ってしまったものですから。
エスィフィア 9/22 21:31	何も欠けていない人間なんてありえない。むしろ、欠けていることによって、その人がすてきに思えたりもする。そんな風に思える作品です。 そうですよ、言わなきゃですよ、言ってあげてください、おかえり。
木星/dx 9/22 21:55	感じのいい作品ですが、ラスト近く、＜砂の一粒一粒に～待ちきれなくて＞の辺り、キレがなくてしっかりこないのが惜しいな。
さむらす 9/23 1:45	ところで、ちょこちょこカタカナがでてくるのは何か意味があったんでしょうか。 人ってのをヒトと書かれると無機質でちょっといやかな。 あと、個人的には貴方よりあなたのほうが好き。
Asagi 9/23 3:29	> さむらすさん 確かに、わたしも書くときはひらがなで通すと思いますが、この作品の中では、「あなた」を「貴方」、「人」を「ヒト」と言うことが、「私」の性格を間接的に表していて、作品にあったいい雰囲気をつくりだしていると思いますよ。 あえてカタカナで書くことで、それぞれの言葉がぴっと立っていると思います。なんというか、普通に書くよりちょっと年上で大人びた感じ。 砂の一粒一粒に～の周辺は、砂という言葉が何度も出てくるのでちょっと重ったるい印象を受けているのかな、と解釈しました。場合によっては、少し整理したほうが良かったのかなあ。
茜 9/23 12:10	> ヒト 語尾が片仮名になっているのは、女性の、少し媚びたような印象を与えるように感じました。いえ、悪い意味ではなく。ここではそれでいいんだと思います。「貴方」に対して甘えているような感じで。 気になったのは、「待ちきれなくてひっくり返す」って描写でしょうか。せわしなさを感じてしまうんですよね。この2人って、もう少し落ち着いた関係であるような気がしたのですが。
イッパイアッテナ 9/23 16:58	つ、つんで..... ふーーーー、俺は耐えた、耐えきったぞ。 いやあ、この女の人かわいいですね。いいツンデレでした。
茜 9/23 17:6	> アッテナさん 耐えてないから。（突っ込んであげなきゃいけない気がした）

さむらす 9/23 20:40	ヒトや貴方は主人公に大人びた印象をあたえるため。なるほど、たしかにそうかもしれませんがねえ。 この女性ってこの島の作品のどの女性よりも大人びているんですよね。別れ際になんていうかずっと気になっていたのあと数行なんてかなり大人ですよね。別れようといわれても仕方ないと思える。 一定の距離をもっているのに、むしろ近づきすぎなひとたちより強い愛情をもっている。これが愛じゃなくて恋なのかもしれない。
作者 9/23 22:44	> melonsanさん 返信送れてすみません。 安心(?)して下さい、「Ourglass」は故意に「H」を抜いています。 > 無粋で失礼極まりない～ いえいえ！気付いて頂いただけで感謝の極みです！
作者 9/24 3:29	× 返信送れて ○ 返信遅れて 恥ずかしい……
木星/dx 9/24 4:46	> 作者さん 「再開」は「再会」じゃなくてOKなんですよね？
作者 9/24 11:41	> 木星/dxさん あらら……。やってしまった……。 「再開」でも通りますが、そこは「再会」の誤字です（泣） ご指摘ありがとうございます。
弟子 9/25 2:43	たった一言「いってらっしゃい」
blue-orange 9/26 0:32	長すぎず短すぎず、読みやすいです。内容的にも好きな作品です。
Tohma 9/26 4:5	次にいつ会えるか分からない人に「いってきます」と言えるセンスは素晴らしいです。おそらく何日も前から考えていたセリフに違いないと考えてしまうほど。 戻ってきたときの第一声はちゃんと「ただいま」と言って欲しいですね。
赤ずきん 9/26 6:45	すごい綺麗な作品です。読後感も爽やかです。 ラストの台詞は、仕方ないなぁと思いながらも満足げな表情で思っているに違いない。

[TOPへ](#)

Time is going round

合計ポイント：13 Point

作者：ペピン

作者コメントは暫くお待ち下さい。

僕は歳を取って、見送ることばかりうまくなっていったのかもしれない。

今、各地で遊園地は潰れていってるらしい。そして、僕のところも例外ではない。僕のメリーゴーラウンドはもう動かない。

僕はメリーゴーラウンドの管理人だった。

閉園の合図の楽隊の音が流れ始める。閑散とした園内には人の姿はなく、自分だけ置いてきぼりをくらったようだった。

僕は最後の仕事に取り掛かる。濡れた雑巾で乗り物一つ一つを丁寧に拭いていく。何十年分の傷がつき、塗装もひどく落ちていた。全部を拭き終えると、メリーゴーラウンドの前のベンチに腰掛けて一服する。ライトアップされたメリーゴーラウンドがやけに大きく、虚しく感じられた。

美代子が乗っていたのはどれだったろう。有給休暇をとって、家族三人で一回だけこの遊園地を訪れた時、美代子は当時五歳でまだ妻も居た。美代子はもう二十歳になるはずだ。美代子は私がまわしたメリーゴーラウンドに乗りたと言った。休暇中ではあったものの、半ば強引に私が運転した。そうだ、お馬さんに乗りたと言ったんだ。ピエロからもらった赤い風船を持って乗ったけど、途中でそれを離してしまって悲しそうに空を見上げていた。僕も同じように今、空を見上げている。

僕はどこで間違っただろう。そもそも僕はなぜ妻を愛し、いつの間にか心が離れてしまったのか、今ではよく思い出せない。

「いいですか。」といって、僕の返事を待たずに僕の隣に座った背の高い一人のピエロ。かつては二人組だったピエロも老いて、いつの間にか一人の六十歳の男になっていた。

「ノッポさん、ピア樽さんは今どうしてますかね？」

「この前ピア樽の娘さんから手紙が来たよ。癌だってさ。」

そう言って椅子に深くもたれかかると、ピエロのおどけた顔を作っていつもの拍子抜けしたような声で言った。

「おっと、お悔やみの言葉なんかかけてくれるなよ。余計悲しくなるじゃないか。」

声は震えていた。目からこぼれた涙はピエロの白い化粧を台無しにしていった。

「お前の娘さんは今どうしてるんだ。もう結構な歳になるだろ。」

ピエロは涙を手の甲で拭って言った。その手は随分荒れた肌をしていた。

「二十歳になりますかね。離婚してから会ってませんよ。」

「いいのか？」間髪入れずに僕の方を見て、少し低い声で言う。

「いいんです。もう会うことは無いでしょう。娘は私と妻の間で板ばさみになっていて、苦しい思いをさせましたから。またそんなことになって娘は苦しめたくは無いですよ。」

背の高いピエロは、そうかとつぶやくように言った。そして捨て台詞も無く、行ってしまった。

僕はまた一人になった。売店とメリーゴーラウンドの間に一人きりで、タバコを吹かす。一度だけ、自分の

ためにメリーゴーラウンドを動かしてみようかと思った。重たい腰をあげ、いつもと同じように細長い操作室の中で赤と緑のボタンを押す。古いレコードをかけたような音楽が流れ、ゆっくりと動き出す。誰も乗っていないメリーゴーラウンドは、申し訳なさそうにゆっくりとまわった。美代子の乗っていた馬が視界に入るたび、二十歳になった美代子が笑顔をうかべて僕のほうを見ているんじゃないかと、少しだけ期待してしまう僕が居た。

妻も娘もメリーゴーラウンドもなくして、今の僕には何が残っているのだろうか。考えるまでもなく何も残ってはいないと思った。楽しかった思い出だけを持って、老いていくのだろうかとも思った。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
RiZEL 9/18 17:54	「僕」という一人称に違和感を感じました。この話なら「私」の方がしっくりくるような気がするのですが・・・。 最後の一文の寂しさが好きです。
茜 9/18 21:7	あたしはむしろ、最初の一文にひきつけられました。 最後の文章も悪くなかったと思います。 静かな孤独。小さくなった背中が見えるような気がします。残ったのが、せめて、楽しい思い出でよかった。 あたしも一人称「私」に一票かな。「俺」とかでもいいかも。「僕」は可愛いイメージが漂ってしまっ
さむらす 9/18 22:33	いまはじめて、あの乗り物がメリーゴーラウンドという名前だということを知った。ずっとメリーゴランドだと思ってた。 それはおいといて。年老いていく男のさびしさうまくかけてますねえ。どうして20前後の人がこんなことかけるのでしょうか。
ほろほろ 9/19 14:19	「ピエロ」「ノッポさん」「樽ヒゲ」と呼び合うのが 妙にリアリティがあって良いですね。 ただ、時に擦り切れたおセンチさで一様に押しすぎたかな、と思います。 もうちょっと「楽しかった頃の思い出」をしっかりと書くと バランスが取れたように思います。 メリーゴランドが順風満帆に回っていたころや 妻と妹と仲睦まじかったことなどを 思い出していただきたかったなあ。
あそびにん LV.2 1 9/19 15:11	誰も乗ってないメリーゴーラウンドを眺めているシーンがすごく印象的。全体から孤独感とか、それでもしみじみと生きている感じが好きかも。おやじが魅力的な作品は大抵いい作品。 あそびにんも僕はちょっと違う気がしたかな。というか、ノッポさんへの台詞中では私なのに……。 > ほろほろさん 多分、ピエロ＝ノッポさんじゃないかと。どうでもいいことだけど。
わがし 9/19 17:55	うまいなあ。さむらすさんのおっしゃる通り、よく書けていると思う。 美代子というのは娘の名前ね？ 最初妻かと思いました。 今時の若い子の名前というのは、もう少し、なんというか、今時な感じがしますが・・・。 美代子っていうと、今、30代、40代な印象を受けます、なんとなく。 それにしても、どうして奥さんと別れちゃったのだろ？ 興味ある・・・。

作者 9/21 12:4	どうも、作者です。皆さんのコメントありがたく読ませてもらってます。 「僕」と「私」について。正直ぎりぎりまで迷っていたんですね。それで、どうしようかって迷った末に自分の父親を思い浮かべたんですね。私の父が一人称使うとこって聞いたことないんですが、「俺」「私」はないかな。「僕」というのにも違和感を抱いていたんですが。 内容に関しては、くらいい方向になってしまいましたね。1500字だとこれが限界ですね。他にもエピソードがいくつかあったんですが、字数的には仕方なく。その他のエピソードや、設定は作者コメントに載せます。 えーと、ピエロの名前なんですが、このとき読んでいた本が重松清の「哀愁的東京」で、そこに出てくるピエロの名前を借りました。「哀愁的東京」には、というか重松清には非常に感銘を受けまして、書こうと思いました。ちなみに、その本の中に閉園する遊園地のピエロが主人公の話があります。 美代子の名前には突っ込まんといってください。突然思い浮かんだのがこれだけだったので。
イッパイアッテナ 9/24 1:41	そっか、メリーゴーランドって見送るものなのか。 ってというのが、作品の中で一番気に入ったところ。 あれってくるくる回るものだから、見送るっていう風には認識していなかったけど、作品の中の描写を踏まえて考えてみれば、確かに”見送る”っていう表現がマッチしていると思う。 > 作者さん登場 ・・・ちょっと早すぎるかもよ。
こかみ 9/25 17:31	最近キャラクターを中心に物語を回す文章が目につくのですが、この作品では背景というか作品の「場」から人物が自然と浮き上がってくところが素敵だと思いました。このタイプはなかなか上手く書けるものではないと思います。 一人称の話が出ているようですが、私は「僕」でも不自然ではないと思います。いい歳したおじさんが寂しそうにぼつりと「僕は・・・」と言う方が、「私は・・・」などと言うよりも物悲しさが増すような気がしませんか。
blue-orange 9/25 23:27	見事です！寂しい雰囲気がよく出ていて、素晴らしいと思います。
朱雀 9/25 23:39	上手く書けていますね。人を見せるのではなく、場所を見せる。私にはできない芸当です、羨ましい。私は、この作品では一文一文というよりも全体としての空気が好きです。
神無月 9/26 0:26	雰囲気は好きなんですけど、代名詞の多さとか、誤字とか、会話のときの地の分の不自然さとかが気になって、上手く入り込めませんでした。 最後の物悲しさは素敵。ピエロとの会話シーンも文章的なことを抜きにすれば最高に好きです。涙で化粧が落ちた年老いたピエロが、捨てゼリフもなく去っていく。うん。素晴らしい。多分、素晴らしかったからこそ、さらに上を期待してしまうのだと思うのですが。
colt 9/26 0:52	『美代子』の名前が少し多かった印象。代名詞にしなかったのはこだわりでしょうか。 あと、ピエロの名前がいかに凸凹コンビらしく、巧いなーと唸っていたのですが、借用でしたか。少しがっかりしました。やはり作者登場は早かったのでは。 本格派な文体で、ストーリーがしっかりと描かれていて、非常に好感の持てる作品でした。 なんとも言えない寂しさを、見事に表現していると思います。おみごと。 #重松清といえば、「流星ワゴン」読んでます。 #彼の作品はこれが初めてだけど、なかなか良いと思う。

時間旅行機

合計ポイント：13 Point

作者：ふじさき

作者コメントは暫くお待ち下さい。

——追われていた。

このままではつかまって殺されてしまう。でも周到に高飛びの準備をしたんだ。絶対逃げ切ってみせる…！

約束の場所に立っていたのは、高飛びの依頼を受けるには相応しくない格好……白衣を着た初老の男だった。

「ようこそおいでくださいました。もう来てくださらないかと思っていました」

「話は後だ。時間がない！早く出発しよう」

「了解です。それでは早速こちらへ」

と言って近くのビルの地下に案内された。そこには機械の塊と鉄格子のようなもので囲まれた、3メートル四方の箱があるだった。

「さ、この中にお入りください」

「わかった——っておい。これは何だ？」

「私が開発した、時間旅行機でございます。あなたを追っ手が来ない安全な時代へと『輸送』させていただきます」

「おい！あれだけの金を払ったんだ！今更こんな嘘っぱちを信じろと言うのか！？」

「信じていただけないのもよくわかりますが、まもなく追っ手が来る事でしょう。信じないなら私ともども殺されるだけ。信じて乗ってみるのが賢明というものではないでしょうか？」

「くっっ……！何も起きなかったら、真っ先にお前を撃ち殺してやるからな！」

「結構でございます。さ、早速始めましょう」

そうやって白衣の男が機械を動かす。

と。十秒もしないうちに男の体がブレだした。

「ほ、本当だったのか！？これは凄いぞ！！」

「ありがとうございます。では、いってらっしゃいませ」

そこで、男の姿は鉄格子のなかから忽然と消えてしまった。

「始末できたのか？」

「はい、いつものように」

そういつて私は黒服の男達、さっき輸送した男から言わせれば「追っ手」にあたる男の問いに答えた。そう、私と追っ手の男達はグルだったのだ。

私は有名な研究者だった。研究が上手く行っていれば、時間旅行もできただろうが、時間を越える時、人間の体が耐えられる事は不可能だった。
私は何度も何度も実験を繰り返した。何か打開する方法があるはずだ、と。

そんな時だった。私は今の組織に拉致され、命の保証と引き換えに仕事をしている。
組織にとって邪魔な人間を死体を出さずに処分する、といった風変わりな仕事を。

こうして人間の希望になるはずだった時代旅行機は、死体を知らない時代へ転送する機械に成り下がってしまった。
さっきの男も今頃は骸となって違う時代に飛ばされてしまったのだろう。しかし私は願わずにはいられない。

さっきの男が生きて時間旅行できていますように、と。

いや、研究者が神頼みするようになったらお終いか。そう独り言を言った私の顔には自嘲の笑みが浮かんでいた。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
Begonian 9/18 11:59	～グルだった、までは「はいはいよくあるオチね」って思っていました。 が、しかし。 それ以降が素晴らしかったです。おみごと。
茜 9/18 21:48	> さっきの男が生きて時間旅行できていますように、と。 このあたりが、さすが学者というか。うまい、ですね。 ただ、それ以外のところがちょっとつまらなかったのだけれど、どうすればよくなるのかな。ちょっと思い浮かばない。 ・・・・ん？知らない時代？ 明日とかあさってとか昨日とかに転送されてたら大騒ぎですよネ。

melonsan 9/19 8:11	Xファイルに、同じような設定がありましたね。 時間旅行が開発されたけど生身の人間は耐えられない。ところが別の技術との併用で人も時間旅行できるようになった、と。 その未来では、旅行機は絶望しか生み出さなかったようですけどね。 研究者、というか科学者でも神を信じている人もいるし、別にお終いじゃないと思う。他の東工大生がどう考えるか気になる場所ですね。 読めたけどさ、むくろはちょっと浮いてるんじゃない。
ほろほろ 9/19 14:39	最後の1行をカットして、 それでも時間旅行の成功を願う科学者であった、 という落げのほうがかっこよかったと思うなあ。 作者さんも思う所があるのでしょうか・・・。
わがし 9/19 18:15	怖い。なんとなく怖い。研究者も意外と神頼みするのでは？　うちではおまじないをするらしいですよ、どうやら。冷静沈着な感じがいいのではないのでしょうか。
さむらす 9/19 18:21	8行目のあるだったって誤植ですよ？ それにしても、この人自分で有名とかいってるよ。
あそびにん LV.2 1 9/19 20:57	有名な科学者が拉致されて問題にならないって、本当に有名なんですか？なんて聞いちゃ駄目ですか、駄目ですね。まあ、風変わりな研究で有名とかだったら、案外そんなものなのかも。 まあ、でも、何だかんだでこの仕事にすごく私が喜んでてもよさそうだよなあ。実験体が一杯一杯、マッドサイエンティスト冥利に尽きるぜ！みたいな感じで。逆に、自嘲なんてしてる辺りが善人だなあとか思った。あえてマッドじゃないところが良さなのかな。 > 骸 別に期にならなかったかなあ...というか、埋もれてた印象。でも、これをしっかりと想像しようと思ったら.....突然どさっと肉塊が...はい、やっぱり想像するもんじゃないね。
kiku 9/19 22:2	仔細についてのツッコミを挙げてくとキリないし、きっとそんな読み方に意味は無いので書かないでおこう...とか思ったけど、やっぱ細部のミス（状況にしても文法にしても）が目につくなあ。SFショートショートだと余計に。 > melonsanさん 『神を信じる』と『神に頼む』は違う気がする。この辺日本人的（無宗教的？）な思考かもしれないけど。 神を信じてる研究者はごろごろ居るみたいです。自然科学の法則性の美しさに神を見た、とかなんとか。いやIntelligent Designじゃなくて。詳細は全く覚えてないが、キリスト教が自然科学の土台となった、とか何とかどっかで聞いたような。
melonsan 9/20 2:13	> kikuさん こういう話ですか。神の完全性の証明を自然科学に見出そうとして、それが発展につながったとか。ケプラーの、惑星軌道が美しい真円であると示そうとして、結局楕円だと判明したとか。 > 『神を信じる』と『神に頼む』 そうですね、ちょっと違ってた。神と科学（というか真理？）が別個のものであるとすると、自分が打ちたてた理論が正しいならば、それから帰結されること（この場合男が死んだであろうこと）には、神といえど介入できないから、神頼みはおかしい：科学者が自分の理論を信じないでどうするの、っていうことかな。
kiku 9/23 14:39	> melonsanさん 『神といえど介入できない』、『奇跡だなんて言葉で自論を崩されたくない（介入されたくない）』 = 『自ら建てた理論を正しいのだと信じたい』んじゃないかな、とか思ったり。別に神と真理は同義でいいと思う。自分（科というより学者）が真理に近づけたか否か、って話で。 まあ、自論が崩れること自体は新たな発見に繋がるから悪くないんだろうけど。自分で言ってるなんかややこしい...
kiku 9/23 14:40	> 科というより学者 なんぞこれー。 「というより」を削除して「科学者」にしてくださいorz

イッパイアッテナ 9/24 1:10	思うに、冷凍保存技術と併用すれば時間転送は可能なんじゃないだろうか？ 物質を時間移動できるというなら、人間を一度物質の状態にして、それで転送をおこなえば あれ？なんだろう。この作品を読んで抱いた感想がそれだけって(汗 冗談です。 いいSFだと思います。タイムマシン＝死刑装置という詐欺は普通ですが、実際にその装置が完成しているという点が、俄然話を面白くしていると思います。 生きたまま転送できない装置は、死体遺棄と変わらない。いや、いい発想です。(鋼の錬金術師の劇場版で似たようなことやっていたけど。) 最後の一文は、自分の中では賛否両論。入っていないほうが、研究者の廃退さが極まって作品としては引き締まると思いますが、同じ研究者を目指す自分としてはこれがあるほうが救われるという。 いい作品です
---	---

[TOPへ](#)

リミット

合計ポイント：12 Point

作者：にび

作者コメントは暫くお待ち下さい。

僕には今、それこそ人生をかけて目指さなければならない場所がある。
1秒でも早く、とにかく早く、その場所にたどり着かなくてはならない。
もうこの苦しみに耐える時間が僕には多分ほとんど残されていない。

一步一步進みながら、苦しみを紛らわすために僕は考え続ける。
なんでこんなことになってしまったのだろうか。いや、そんなことはいまさらどうでもいいことだ。今はあそこを目指すしかない。しかし、何のためにそこにいくのか、もう足を止めればいいじゃないか。すこし道から外れてしまえばいいのだ。他人にさえ気づかれなければ問題ない、そうすればこの苦しみから解放されるのだろうか？馬鹿な、そんなことが出来るはずがない。わかりきった事だ。おそらく一生後悔するだろう。僕は僕自身の人間としての尊厳を守る為に耐えなければならないのだ。

しかし、そのようなことを考えて紛らわす余裕すら、すぐになくなってきた。
一方で道のりはまだ長く、そして険しい。いや、うそだ。別に長くはないし険しくなんて全然ない。くそ、頭が混乱してるな。長くも険しくもないが、とにかく苦しい。どうにせよ。もう時間がない。急がなければ。

・
・
・

速く、速く、速く、走るのは、、、ムリムリムリ絶対ムリ、ヤバイ、速く、ヤバイ、ヤバイ、ヤバ、、、あれ？なんか、治まった、、、かな。これなら大丈夫、、、じゃない、マズイ、本格的に痛い、ヤバイ、これヤバイ、速く、ああああああああああああああああああ、ヤバイ!速く！走る、ムリ！歩く！速く！ヤバイ！静かに！ヤバイ！滑らかに！とにかく！今は！早く！着く！

・
・
・

...そして、僕はトイレの扉まで約5メートルの位置にいた。最後の理性を振り絞る。トイレに入るまで3秒程度、体勢を整えるのは2秒で済ませられる！よし！これはギリギリ間に合った！僕は僕自身の尊厳と信念と未来を守りきったのだ！
それは勝利の確信であった。

その4秒後、僕は1秒差で2位になったマラソンランナーの気持ちを想い、泣いた。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
RiZEL 9/18 19:31	吹きました。最初どんな妄想話かと思っていたのに・・・ 予想通りのオチでしたが、最後の一文が上手いと思います。 途中の描写の臨場感が凄いというかなんと言うか・・・ 読んでいて楽しかったです。
わがし 9/18 23:56	これはおかしい、面白い、笑った。 最後の一行がいい。
鞆 9/19 11:36	確かに面白いし、描写もすごい確で、かつ、最初の段落を読んだだけではオチが予想できない、と様々な点で良作だと思うのですが、こーいう余り綺麗でない方向のネタは個人的には好みでないで、なんというか、生理的に受け付けませんでした。 ごめんなさい。
key 9/19 11:38	お約束だけど、楽しかった！ 速く～の段落の臨場感がなかなかw
茜 9/19 11:39	そっかあ・・・2位かあ。1秒差で1位になったランナーの気持ちではないのかあ。 うまかったと思います。あたしは嘔くほどではなかったんですが。でも、楽しめました。 >もうこの苦しみに耐える時間が僕には多分ほとんど残されていない。 この表現に疑問。 もう余り長くは耐えられないって意味だと思うんですが、耐える時間が残されていない？こんな言い方するかな？なんか引かかるんですよ。
あそびにん LV. 2 1 9/19 14:58	最初は下に速く、速く辺りのがチラッと見えつつ、遅刻とかの話かなとも思ったけど... こう来たか！ この手のネタは苦手なんだけど、速く以降の表現は臨場感とかたといえ方とかすごく秀逸だと思った。 最初の一行、人には、それこそ～場所がある。みたいに、無駄に話を大きくした方がお約束ではあるけれど、いいと思う。最初から僕レベルだと馬鹿っぽさがちょっと落ちるかなとか。
ほろほろ 9/19 15:29	最後のオチのために全精力を注いでくれて どうもありがとうございました。
さむらす 9/19 17:52	すごいですね、うまいです。 ただ、ちょっと品の無い作品ですね。二位になったって、おいおい。
忠犬ヤス公 9/20 18:39	そりゃ泣きますね。『僕』に同情してしまいました。 ちゃんと、しりぬぐいしておいてくださいね。
melonsan 9/20 19:48	はじめの数行で何の事が分かったけど、それでも面白く読めました。それだけうまく描かれています。 ただ、途中半角の！があつたりと、細かい部分はまだ良く出来る部分があると思います。 >僕へ 余計な計算してるから、間に合わないんだよ。
えむえむ 9/21 22:37	持久走かと思いきや、トイレネタでしたか。でも、これは1秒差で2位どころの悲しみではないでしょうね。
zoo 9/22 22:15	途中でわかったのですが面白かったです。 でも2位は悲しすぎます。これはつらい。 探しても探してもトイレが清掃中なときもつらいですよ

イッパイアッテナ 9/22 23:47	むーーーーー、文章はうまいんだけど、なんだかなあ。 (なんだろ、三段落目で話が全部予想付いてしまったのが.....) とりあえず、落ちがありきたりすぎる。←笑いには結構厳しい。 > その4秒後、僕は1秒差で2位になったマラソンランナーの気持ちを想い、泣いた。 は、たしかに文章としてはうまいんだけど、うまいんだけど、 この表現を使うんだったら、むしろ落ちは時間ではなく ” 2位 ” という点を強調すべき だったと思う。
ヤンヤンマ 9/23 17:53	臨場感が秀逸。 最後の『泣いた』っていう締めも好き。
vicky 9/24 7:2	面白かったです
鞆 9/24 10:13	生理的に受け付けませんでした、だけではなんともアレなので、もう一度読んでみたら、 すごくナナメウエの読みを思いつきました。 実は「僕」は間に合った、がしかし、同時にそこへ駆け込もうとしていた人がもう一人いた。 「僕」は間に合ったものの、一瞬前まで同じ境遇にいた彼の気持ちを深く理解することができる。 だから、彼こそが「1秒差で2位になったマラソンランナー」で...ああ、うん、ないですね。ごめんなさい。
エスィフィア 9/24 18:46	最初の数行を読んだ段階で、ネタモノのにおいがしました。 最後のほうで計算してるところが一番おもしろかったです。
イッパイアッテナ 9/24 18:48	> エスィフィアさん > > ネタモノの ” におい ” がしました。 誰がうまいこと言えとw
わがし 9/25 15:30	もう一度読んでみると、なにもここまで我慢しなくてもよかったのでは、と同情したくなった。
のろろ 9/25 16:38	文章上手だと思います。こういう状況では座るまで安心してはいけないっ！
ふじさき 9/25 23:36	わかりやすい作品っていいですね。 レイアウトの関係で前半ちょっと読みにくかった所を直せば、さらにいい気が。
blue-orange 9/25 23:43	最後の一文が最高です！笑
ねがいびと 9/26 0:52	第四段落の、僕 が焦っている描写がこれ以上ないくらいに伝わってきました。オチが笑えます。
赤ずきん 9/26 6:39	いや、これは吹きますって。オチがそれかい。 とりあえず、2位のランナーさんに全俺が泣いた。

[TOPへ](#)

胡蝶之夢

合計ポイント：11 Point
作者：RincO
作者コメントは暫くお待ち下さい。

そこには一人の女の子が居た

彼女はとても幸せだった

あるとき神様が現れて ひとつだけ願いを叶えてやろうと言った

彼女は 今の幸せを失うのが怖かった

だから 永遠にこの幸せが無くならぬ様 時を止めてくださいとお願いした

神様は頷き 彼女の頬にキスをして消えた

それから1年

彼女はあれからずっと眠り続けている

永遠に彼女は幸せであり続けるだろう

そして思うが俤にその世界で生き続けるだろう

自己の想像の世界を現実と錯誤し

時の止まったその世界の中で

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
Begonian 9/18 10:53	> 頬にキス 神様だかなんだか知らないがなんてことするんだこのやろう。 しかも「消えた」っておい！やり逃げかっ！さいあくだー。え？彼女はキリスト教徒？あ、じゃぁもういいです。
さむらす 9/18 11:9	幸せな人の願いをかなえてあげようなんて、ひどい神様だ。 ぼくの願いもかなえてくださいよ。
わがし 9/18 11:16	神様ってほっぺにチューしてくれるんですね。知らなかった。 幸せでありつづけたいって願うと、眠らされちゃうんですね。 じゃあ、波瀾万丈でお願いしますって言わなきゃ。
あそびにん LV.2 1 9/18 15:0	なんだか、すごく前回の茨姫を思い浮かべた。 願望機はえてして使用者の望まない形で願いを叶えようとするもので。もっとも、今回は使用者自身もそれでOKみたいだけど。 でも、何となく、幸せって他者との関わりの中で生まれてくるような気がするんだけど、残された他者はこの状態にどう思うんだろう？　そういうものをシニカルに描き出そうとしてるのかな？ あそびにんの的に、Begonianさんにもものすごく早いけどコメント賞を上げたい気分。なんだか、すごく和んだ。 > わがしさん きっと、神様に眠らされて波乱万丈な夢を見せてくれることでしょう。
茜 9/18 19:21	すごい唐突に現れるなあ、神様。ホント、さむらすさんも言ってるけど、何でこの子のところに來たのかしら。むしろなにしたかったんだろ。はっ？！まさかほっぺにキスしたかっただけ？！ > Begonianさん あたしからもコメント賞。すごい着眼点です。 > あそさんうん。あたしも。あれ？みたいな。 だからすごいコメント書きにくいんだけどどうしよう.....
RiZEL 9/18 19:41	雰囲気は凄く良いです。良いんですが、もう少し深みが欲しいと思います。
さむらす 9/18 21:17	> あかねさん キスしたかっただけか。 神様をも魅了する美少女。ぜひ拝見したいですなあ。 一生覚めることのない眠りにつけるのは、幸せなことなんだろうな。神様のキスでそうなれるならおねがいしたいですよ。 できれば、女神さまがいいですけど。
zoo 9/19 0:27	> さむらすさん 神様をも魅了する美少女。いや少女って決め付けるのもどうかと。 もしくはだれかれかまわずキスする神様。神様はみんなに平等です。 どっちみちこの神様が悪い。以上。
さむらす 9/19 0:42	> z o oさん 最初の一文から主人公は少女だとおもうのですが。
忠犬ヤス公 9/20 21:15	僕はキスしてもらっただけで満足です。綺麗な女神様希望。

イッパイアッテナ 9/23 14:35	頬にキスって、それは普通に挨拶だろ。 (妹Love-なBegonianさんだってきっと経験があるはず。) 皆、神様を悪く言いすぎです。チューしたいなんて邪なこと考えているのは君たちだけです。不潔です。 茨姫っぽい感触を自分も感じた。 でも、まあ、こっちのほうが少女っぽくて好きかな？（茨姫はなんか少女の振りをしているっぽい感じがするし。←まだ作者コメみていないので、何とも言えないけど。） > あそさん ぼくは、ずっと寝ていられるんだったら寝ていたいです!? 他人なんて知りません。全部夢なんですから。 (あっ、今ダメ人間だと告白した気がする。) > 少女 幸せっていうのは主観的なものなんだろうけど、正直寝ているだけで保存できるような程度の幸せを幸せっていえるのかなあ。とは思ったよ。個人的にこの作品は、” 檻に閉じこもる ” という行為を外から眺めて滑稽だね、と笑う作品な気がする。
作者 9/24 0:31	書き方があまりに抽象的過ぎて分かりにくかったかもしれませんごめんなさい。自分の言いたかったことがうまく伝わっていませんでした。 この作品は、残酷な現実を目を向けようとしない少女に、神様が” 彼女にとってそれが良く出るか悪く出るかは分からないけど彼女のねがいである『時』はとめてあげる ” というテーマで書きたかったのです。つまり主旨は「現実とは夢の中の世界のように甘くは無い」ということ。少女は今が幸せであってこの先も幸せでありたいと願った。しかし、現実世界で時が止まることなんてないし、ましてや自分が苦もなく幸せでありつづけることなんてあるわけがないですよ。ゆめという世界で生きていけば自分の妄想で好きなだけ自由に生きることは出来ますが、それを現実と錯覚して一生生き続けることは果たして幸せなことなのでしょうか。という問いのつもりでした。 特に、夢は現段階では「自分の好きなように見ることは出来ないもの」とされていますがそれが「自分の思ったとおりのものが見れる」ようになったらどうでしょうか。このストーリーはまさしくその状況です。 長い書き込みごめんなさい。
鞆 9/24 10:3	ええと...テイルズオブ...なんでしたっけ、テイルズの割と初期の頃の作品にそういう話があった気が。
あそびにん LV. 2 9/24 14:4	> アッテナさん 寝ているという事実が存在するのは現実であって、それは夢じゃない！ 残念！ > 作者さん さすがに、この作品からそれを伝えようとしていたってのは正直無理があると思うかなあ。 まず、第一に現実が残酷であるという描写が一切ない。眠り続けているという現実はあるんだけど、彼女がそれでも幸せを感じてて、周囲の反応も書いてないなら、残酷だって判断は出来ないと思う。現実と夢との対比みたいなものを主旨とするのなら、その辺をもう少し書いてみると良かったかも。 あと、少女も別に夢の中でも自由に生きてるわけじゃないと思ったかな。幸せなところで時を止めたんだから、あっても1日ループとか、幸せな思い出の走馬灯とか、そんな感じ。どの道、少女は眺めてるだけなんだろうなあってね。思ったとおりって言うと、思い出の改変まで出来る気がするけど、多分それは出来なくて好きな思い出を選択して眺めてるだけかなと。 段々と、あそびにんの言いたいことも纏まらなくなってきた……。とりあえず、彼女の主観的にはそれでも幸せなんだろうと思うよ。「永遠に彼女は幸せであり続けるだろう」って作品中でも書いてあるしね。というより、これがあるせいで、幸せであるとしか解釈のしようがない。ここは曖昧にぼかしておいた方が良かった気がするね。問いにしたかったのなら、いっそのことストレートに「あり続けるのだろうか」なんて疑問文にしてしまっても良かったかもね。 で、問いに対しては、あそびにん的には、退屈は敵だと思ってるから時間の止まった世界を幸せだとは思わないと即答しそう。人生、同じことをやっていても、何か新しい出来事が起こりうるから面白い。 グダグダと纏まらない長文すいません。

カケラ 9/24 15:8	> 永遠に彼女は幸せであり続けるだろう これは問いかけとして成功してると思います。断定しているわけではないので。 少なくとも私は考えました。きっと彼女は幸せです。
あそびにん LV.2 1 9/24 15:40	> カケラさん 確かに、「だろう」って入ってはいるけど.....でも、何となく第三者というか、神の声的な地の文での「だろう」って結局断定的な意味合いのことが多い気がするんだよなあ。 だろうって考えてるの誰だよ、みたいな感じ。
さむらす 9/24 17:23	うーん、ぼくもあそさんと同じ意見かなあ。 問いにするには完結してる。 問いに対しての答えは逆ですね。たぶん作者さんと同じ意見。 夢の中に閉じれるなら現実の苦しみを味あわなくていいじゃないですか。
カケラ 9/24 23:20	> あそびにんさん すみません。自分の書きたいことがうまく書けてないので、書き直します。 「自己の想像の世界を現実と錯誤し」と書いてあるので、彼女は想像の世界の中では幸せだろう。しかし、現実と錯誤していることを知った上でも、彼女は想像の世界で生きることを幸せと感じれるだろうか。という問いを内包した文章になっていると思うのです。 で、時を止めて欲しいと願うような人なら、幸せと感じるでしょう、というのが私の答えです。
木星/dx 9/25 0:1	一読しての印象。 > 永遠に彼女は幸せであり続けるだろう そうだね。 > そして思うが仮にその世界で生き続けるだろう そうだよな。いいんじゃないの？ という感じ。
弟子 9/25 3:23	胡蝶の夢、ということは、彼女には理解できるんですね 境界線が、区別された二つの「」を断つためのラインが だからきっと、彼女はいつでも錯誤した振り、騙されたフリ 偽りと分かっているても幸せは手放したくないんですもの まあ、何て我が侬、何て高慢、なんて、何て儚げなことだろう 『人々の、花、蝶やとめづるこそ、はかなくあやしけれ。』（「虫めづる姫君」抜粋
ふじさき 9/25 9:36	詩的な文章でいいですね。 周りにはどんな風に思われるかは置いといて、彼女は幸せなんじゃないでしょうか？
老若男女 9/25 21:6	何事も山あり谷ありだから楽しいんだろうなと思った
にび 9/26 5:57	神様は神様じゃなくて、彼女の幸せの元となっていた人物なんだろうな、と想像。 なんとなく作者の人柄が感じられて好きです。

[TOPへ](#)

そのままのあなたで

合計ポイント：11 Point

作者：わがし

作者コメントは暫くお待ち下さい。

あなたに 出会ってしまった あの時から

慎重に 慎重に あなたに 落ちないように 気をつけていたのに

あなたが あんまり 優しい笑顔で わたしを みるから

あなたが あんまり 優しい声で わたしを 呼ぶから

まちがって 足をふみはずして 落っこちてしまった

それから もう どれくらい経つかな

わたしは 気がつかない振りをして ずっと ずっと やりすごしてきたのに

神様が いいかげん 自分を誤魔化すのはやめろ って言うから

仕方なく いまごろになって あなたの方を こわごわ ふりかえってみた

あなたは 相変わらず いつものように 優しく わたしを呼びとめる

あの時と まったく なにも かわらないまま

そんな声で 呼ばないで

笑顔なんて みせなくていいから

できれば もっと そっけなくして

おまけに もうちょっと 離れてくれると もっと うれしい

あんまり くったくなく 笑うから 悪気なんて 全然 なさそうに

わたしは 思わず まいりました あなたの勝ち って言いそうになる

わたしは ずっと そばにいられば それが 一番 しあわせだから

どちらかが 天国に 行ってしまうまで どちらかが 見送るまで

あなたの笑顔を みられれば それで しあわせだから

ずっと ずっと このままで いたいから

お願いだから そばにさせて

わたしは あなたのそのまますを ずっと みてきたから

あなたのそのまます まるごと 全部 なにもかも ひきうけてきたから

これからも なにもかわることなく あなたのままでいて

わたしは ずっと ずっと あなたの わたしのままでいるから

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
さむらす 9/18 12:41	「あなたの笑顔をみられればそれしあわせだから」なんて言っていると、また神様に自分を ごまかすなっていわれちゃいますよ。
茜 9/18 17:12	>わたしは 思わず まいりました あなたの勝ち って言いそうになる ここがいいなあ。 勝ち負けじゃないけど、負けた！って思うような瞬間。ありますよね。でも、そういう 時って、負けたはずなのになぜだかあんまり悔しくないんですけど。 >あなたの笑顔を みられれば それで しあわせだから 欺瞞だって、思ってたけど。でも、もう、それでいいとおもうな。ごまかしてるわけじゃ なくて、手に入れる必要がないだけだと思います。たぶん、そういう恋もあるんだと思 う。
わがし 9/18 17:28	>茜さん (知らんぷりして書き込む) 茜さん、やさしいなあ！ 私仕事中なのに、涙出そうになった。 ありがとう……。ほんと、やさしい。だめだ、泣いてしまう。
あそびにん LV.2 1 9/19 16:26	あそびにんは最初の五行が妙に好きだったかな。 慎重に 慎重に とか、3行目、4行目の対句っぽいところとか、落ちる周辺の表現と か、とにかく、読んでも思い浮かべても心地よい感じだった。 基本的に、全体が読み心地がいい感じなんだけどね。 あんまり くったくなく 詠うから 悪気なんて なさそうに あそびにんは 思わず まいりました あなたの勝ち って言いそうになる なんというか、汚れた心にはどこかまぶしい。
さむらす 9/19 17:40	毎回思うのですが、文章全体がきれいですよね。世界観がきれいなのだと思う。 世界がこういう人で満たされてたらきっと争いなんておこらないんですよね、きっと。
He 9/20 22:32	なんだか優しい。 初めの数行でむくわれない恋を思い浮かべてしまったのはどうして？

さむらす 9/22 3:7	くつつきすぎると何かが壊れてしまうのだろうか。そうかも知れない。ぼくはまだ知らないけど。 個人的には、天国にいくまでそばにいるのくだりがいらないように思われた。だって、ここだけ終わりを意識させるじゃないですか。 ずっとそばにいるよ～な話のなかで、でもそれは死ぬまでよ～というのはいるのだろうか。
木星/dx 9/22 3:34	詩として優れているかどうかというのはひとまずおいといて・・・ 「らしさ」っていうのがよく出てます。それで好感を持たれるというのは、いいことです。テクニックで補えないところだから。 逆に、巧みな言葉の操りで正体を隠しているような人は、ボロが出たときに救いようがなくなるんですよね(´・ω・`) 文は人を表す
やまのかめさん 9/23 13:34	切なさを感じてしまいました。落っこちてしまった後ですら距離を置こうとするのは、近づきすぎて「あなた」との関係が変わってしまうことを恐れてのことなのでしょう。でも、変わらないで、そのまま、と繰り返し繰り返し重ねられる程に、変わってしまいそうな現実がそこにあるように感じられるのです。切ない。 この文章を読んで、茜さんの「危険地帯」を思い出してしまいました。
イッパイアッテナ 9/24 1:49	素直になりなよ 認めちゃいなよ 神様だって、背中を押しているよ。
モデナ 9/24 2:44	自分の心がいかに汚れているかがわかった気がする。
弟子 9/25 3:25	「あなたの わたし」かな？ 「わたしの あなた」かな？
わがし 9/25 9:32	> 弟子さん (また知らん顔で書き込む) うーん、そうですね。もう何が何だかよくわからないので、 「あなたの わたし」にしておこうかな。
こっくん 9/25 13:26	3人目の登場人物「神様」がいい味を出しています。 ああ、羨ましい・・・。
橘 9/25 14:59	前回の「くるくる」の初コメント、ありがとうございました。 ホントお見事です...Σ(□ ;)!! なんていうか...一度心理的にスゴイ近づいてしまうと、 あとから離れた時に上手く距離が取れなくなるのかな、 そんな風に感じました(・・;) 作品のテーマとは違うかもしれないけど、 傍には居られても、隣には居られない、 それに満足できないのは、ホントに好きじゃないからなのかなあ... それにずっと答えが出せずにいる自分...
わがし 9/25 15:6	> 橘さん、 ああ、本当、今みてみたら、私最初にコメントしていますねえ。 自分でもびっくり！！ お約束守れてよかったです！ > 傍には居られても、隣には居られない そのお相手には、決まった人がいるのかな？ もしくは、他に好きな人がいるらしい、とか？ いやあ、やっぱり欲はでますよね、当然。 でも、なんというか、何かの拍子に会えなくなるより、そばにいた方がまだいいよな、という感じなんだけどなあ。 すごく好き、だと、そういう気持ちの処理は難しいと思う。 私の場合は、好き、という感情の前に、なんというか、もうすでに懐かしい(今もいますけど)という感覚に近いのです。 どうかな??
のろろ 9/25 17:6	文章がきれいだし読みやすくてよいです。

八剣 9/25 21:12	私が言うのもどうかと思うが。 あまりペンネームで『作者です』と自白しているようなコメントを書くのはどうかと。
作者 9/25 21:14	> 八剣さん、 大変失礼致しました。ついねじがゆるみました。
橘 9/25 23:41	なるほど、作者サン（笑）はそういう状況のことを書いてるんですか。 たしかにそれなら傍にいただけで十分かもしれないですね(・・*) 自分の場合、相手の近くには居たいんだけど、 傍にいるがゆえに余計に隣に居られないことが辛く感じられて、 それならいっそ遠く離れてしまったほうが楽なのかな？ でも傍にいないことを相手が望んでいて、本当に相手のことが好きなら、 その辛さに耐えられるんじゃないのかな？ そんなカンジの葛藤です。どうですか？

[TOPへ](#)

ある朝のできごと

合計ポイント：10 Point

作者：地紅晴酸

作者コメントは暫くお待ち下さい。

「うーん・・・」
目が覚める。
「ん・・・」
伸び一回。
「さて・・・と」
着替え開始。
「よしっ・・・と」
着替え終了。
「今何時？」
時計を見る。

・・・八時十分。

一瞬、石化。

「うぞおっ！？」
始業まであと二十分。
あわわわわ。

階段を一気に下る。

「お母さんっ！何で起こして・・・って、あれ？」
居間は空っぽ。
テーブルの上に紙切れ。

『美晴へ
ちょっと留守にします。
朝ご飯は自分で作ってね。（はあと）

母より

父も仕事。

父より』

．．．．．

仕方ない。
食パンだけ口にくわえて．．．。

学校ヘダーッシュ！

．．．の前に鍵閉め。

カチャ

ふう。
では改めて．．．。
ダーッシュッ！

シュタタタ．．．

学校まで歩きで四十分。
走ればなんとか．．．

いけるかな？
いけるよね？
いけるって！

というか、いけるって信じたーい！

ん？

前方二十メートル前に交差点が！
でもスピード落とす余裕はなぁいっ！
そのままダーーッシュ！
（よい子はマネしないでねっ！）

「っ！？」

走ってる人とニアミス。
危ない危ない。
ここでぶつくとフラグ立っちゃうもんね。
あんな青ロン毛眼鏡な髭男なんて論外だもん。
わたしの心に決めた人は一人だけだからっ！！

．．．って、何考えてんだろう、わたし。
というか、フラグって何？

．．．

ええいっ、考えるヒマがあったら走れっ！
てなわけで、走行再開っ！

シュタタタ

逃げ逃げ。

タタタ

よし、あと少し。

タタ・・・

ピュウッピュウピュウッ

「ええっ！？」

食パン落下。

手でキャッチ。

はい、赤信号です。

「そんな・・・」

もう学校は目の前なのに・・・。

そんなとき。

「陽道、そんなに急いでどうした？」

「きっ、木ノ森君っ！？」

突然呼ばれて驚いた。

呼んだのは木ノ森樹君。

え？何者かって？

えーっと。

・・・

かあっ

うん、気にしないで！

あ、わたしは陽道美晴ね。

それはともかく。

「だ、だってもう学校始まるよ？」

木ノ森君、平気なの？

「はい？」

腕時計を見る木ノ森君。

「今、七時だけど？」

「ほへ？」

「俺は部活があるんだけどさ、お前帰宅部だろ？」

「で、でも、部屋の時計は・・・あぁっ！？」

「あの時計、壊れてたんだっけ・・・」

へなへな。

どっと力が抜ける。

もう立てません。

そんな様子を見て笑う木ノ森君。
「はははっ、お前らしいな」

クラッ。
ああ素敵。

パッポーッパパポーッ

信号が青になる。
「どうした？学校行くぞ」
「た、立てない・・・」
恥ずかしながら。
「しょーがないやつだなあ。ほら」
「ええっ！？」
ひょい、と背負われる。

「ひゃっ・・・はへえ、ひほひ、ひはへはら・・・」
心臓ドキドキ。
顔面温度急上昇。
もうろれつ回らない。
「見られたら困る、ってか？気にすんなよ」

「前から、お前のこと好きだったしな」

畳みかけるように追い打ち。

「へ？・・・ほへっへ・・・」
よく見ると、木ノ森君の頬も紅い。
「聞いた通りだよ。・・・ひょっとして、嫌か？」
きゃあああ。
「う・・・ううん、ははひほはいふひっ」
「そっか。・・・よかった」
ぷつつ。
じゅううう。
「お・・・おい、美晴？」
ぷすぷす。
ここで失神したみたい。

ぱちん。
気がつくと保健室。
時計見ると八時十分。
目の前に木ノ森君・・・樹でいいのかな？
「あー、やっと気がついたか」
「あ、木ノも・・・えと、樹」
「大丈夫か？」
「・・・うん、大丈夫」
「そっか、よかった」

ああ、でもまだ何か夢みたい・・・。
ほわほわ・・・。

ぐーっ

一瞬で現実回帰。
自分の顔は見えないけど、たぶん真っ赤。
「ははは。ほら、食パン」
「・・・ありがと」
もしゅもしゅ。
わたしは照れ隠しに食パンを三倍速でかじりながら、心の奥底から実感として湧き出てくる幸福を味わっていた。

家にかばんを忘れてるのに気付いたけど、そんなのもどうでもいいやと思えるくらいに。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
Begonian 9/18 10:44	相手がたとえ女の子とはいえ、自分で立てないほど力が入らない人を「ひょいと背負う」って、まずできないですよ。なんですか、彼は負ん部だとでも言うのですか。すみません後半冗談です。 それから、「見られたら困る」を「前から好きだから」で片付けてる彼ですが、いやいやこの場合見られて困るのはむしろ彼女の方じゃないのかと。そこのフォローになってないじゃん！？ あと、地の文がどうもしっくり来ません。彼女が内側から自分を語ってたりしたと思えば、外から語ってたり、さらに離れて読者と同じ次元まで来たり。 最後にタイトル。タイトルがポップすぎて中身といまいちマッチしてない作品をこのより前に読んだのですが、これこそポップなものにすると結構似合うのでは。今のままでもいいのですが、ちょっと引きすぎな気も。 そんなこんなで、細かい違和感ばかり列挙しましたが、これでもまだ全部じゃないのです。 こういう話は、一つの躓きが大きな転倒にもれなく繋がるので、もっとディテールにこだわって欲しかったですね。
さむらす 9/18 11:5	コメディにそんなに冷静にツッコミいれても・・・ということで、ぼくはこの作品の気に入ったところをあげましょうかね。 置手紙で父も仕事(父より)というのがシュールでいい。 では改めて～というコミカルな行動もいい。現実で急いであるときにこんなコミカルな行動しないと思いますけどね。 あと、妙な擬音もなんともいえないですなぁ。 一個どうしてもツッコミいれたい。作者ぜったい男性でしょ。フラグの話の前まで主人公も男だと思ってたよ。だから、フラグっていわれて事故でもあいそうなのかと思った。
jabberwock 9/18 17:23	舞城王太郎的な疾走感、擬音の使い方がサンプリング的でいいと思いました。
RiZEL 9/18 18:29	疾走感が素敵でした。舞城王太郎のそれとは少し違う気もしますが。 地の文の飛躍も、むしろ雰囲気作りに役立っていると思います。 ただ・・・、どうも「ありがち」なコメディで終わってしまってる感じがします。どうせならもっとぶっ飛ばしても良かったかなあ、と。

茜 9/18 22:19	置手紙のシュールさはなかなかですね。 まあ、なんか、時間間違えてるって言うのは何となく分かってしまいましたが。 途中から激甘路線はちょっとビックリ。 「ひょっとして、嫌か？」ってその自信はどっから来るのかとか、ツッコミどころはホントに山ほどあるのですが・・・うう、こーゆーの苦手なのでとりあえず一旦退散します。甘さに弱いんです。ケーキ好きだけど。 ていうかなによりも。・・・食パン、いつの間に彼の手に。主人公が力抜けた拍子に落としたの拾ったとか・・・そんなもの女の子に食べさせたわけじゃないよね？
わがし 9/18 23:43	面白い。シュタタタ、が好き。 そのあとラブコメみたいになったところもいい。 最後、食パン、食べるかなあ・・・。まあ、よし。
鬼 おん 9/19 10:23	効果音の使い方がグッド。 一文一文が短くてテンポもいい。 ほんわかしてていいね。
あそびにん LV.2 1 9/19 21:40	最初にぱっと見て、前回の時差の続編？！とか全然違うのに意味不明なことを考えてしまったあそびにん。 置手紙に名前かいてあるのに、髭男を見るまで男だと思ってたのはご愛嬌。スクロール的には長いのに、なんか大量のオノマトペとか、独り言的な地の分とか、コミカルな行動とか、もう勢いでガーッと読めてしまった。 妙に激甘なもの、もうそのままの勢いで強行突破してしまった感じ。ありえねえええとか突っ込みをすることもなく、勢いで許せてしまった。...恐るべし、勢い。 最後の食パン三倍速がリスっぽくて可愛いとか思ってしまったけど、茜さんのコメントを見て.....深く考えることを拒絶しましたとさ。
kiku 9/20 8:34	ニヤニヤしてしまう。 それだけでラブコメとして成功してると思う。 # 情景的にお姫様抱っこだったら更にGJだったんですが。 # 「陽道」は「ひのみち」って読むのかな？
key 9/22 11:49	置手紙が上手い！ お話の中で良いアクセントになっています。 擬音独特の会話表現？の感じがちょっと慣れませんでしたけど、お話の雰囲気には合っているように思いました。
pencha 9/22 11:53	短い文章で展開が流れていく... , 面白く思いました。 特に置手紙の内容。
オリボリ 9/22 13:14	シュールさと疾走感がいい！！ 食パンくわえてダッシュは古いな～。
さむらす 9/23 1:39	どうしても木ノ森君の下の名前が読めない。きではないですよね？ やっぱり美晴さんはおもしろいなあ。この二人ってちゃんと結ばれるのでしょうか。
えむえむ 9/24 0:7	細かいところですが、「あ、木ノも・・・えと、樹」と「樹」にいったん詰まったところを見ると木ノ森は双子の兄弟だと・・・さらに、美春はその双子のどちらも好きである状況とか・・・
イッパイアッテナ 9/24 2:21	これは、懐かしの柊作品。 いえ、独り言です。(厳密に言えば、彼は高校生の若い青春ものは書けないから違うんだろうけど。もしかして、これが噂の形式指定(ry) シュタタタタとかの斜め文字の使い方がうまいなあと思いました。 置手紙もシュール。 あれ、かんじんのラブコメはあまり笑えなかったぞ(あれ？
あそびにん LV.2 1 9/24 15:32	> さむらすさん あ、それはあそびにんも。本当に、樹ってなんて読むんだろ？ まさか、「じゅ」？そんなわけないか。 > えむえむさん あの詰まったところは、恋人になったんだし、下の名前で読んじゃっていいかな？みたいなためらいだと思った。元々、木ノ森君って呼んでたわけだしね。

茜 9/24 16:5	> 樹 「いつき」でしょ？
さむらす 9/24 17:28	ああいつきですかあ。 よかったぁこれ読めないとうまく流れてくれないから。 木ノ森君からいっきに樹までいくより、樹君のほうがよかたのでは、と尝试してみた。というか、この少女のキャラから呼び捨てはしないかと思った。
茜 9/24 19:23	> さむらすさん あー、そうかも。「木ノ森」→「樹」なら違和感はないのかな。 君付けまでいきなりなくなっちゃうのは唐突だったかもですね。（それだけパニくってた？）
神無月 9/25 4:19	微妙なアホっぽさが光るとは思いますが、微妙です。もっと、豪快にアホー直線アマアマコメディみたいなのが好きだったかも。 樹君は自信がありすぎてむかつきます。モテ男か？ モテ男なのか？ くるくる変わりまくる展開は良くもあり悪くもあり。僕はちょっと疲れました。 > 茜さん 「たつき」とも読めます。まあ、どうでもいいですが。
茜 9/25 12:43	> 神無月さん あ、ほんとだ。（漢和辞典で確認） そういえば、これ一文字で「みき」って言う女の子もいたなあ。
無味 9/25 14:14	走っているシーンがスゴイ！って思いました。 擬音語の使い方がうまいなあ。
忠犬ヤス公 9/26 1:4	> うん、気にしないで！ > あ、わたしは陽道美晴ね。 が妙に気に入りました。ここで自己紹介かよ！！ってついつい突っ込みを入れたくなってしまう部分ですね。
otacom 9/26 8:49	いいテンポだ。

迷宮のピエロタイム

合計ポイント：9 Point

作者：zoo

作者コメントは暫くお待ち下さい。

「君は後悔をしていますね」

振り返るとそこには一人のピエロがいた。

僕は過去にも何度か会っていた。

一度目はクラスの好きな子に告白するのをあきらめようとしたときだ。突然目の前にピエロが来て「しないと後悔する。成功するから」と言ってきた。結果は確かに成功だった。

二度目はその彼女とドライブをしているときだった。目の前に急にピエロが現れた。僕は思わずブレーキを踏んだが、もしそうしてなかったら赤信号で横から突っ込んできた車と衝突するところだった。

他にも何度か目の前に現れた。でも共通していたのは現れてすぐに姿が全くなってしまうことだった。

「もう一度やり直せたら、そんなことを考えてはいませんか？」

「先に聞かせてください。あなたはいったい何者ですか？」

僕は何度も会っているピエロと初めて会話をした。

「見ての通りピエロですが」

「なぜそんなに僕の前に現れるのですか？」

「君の後悔を取り去るようにすること、それが僕の願いですから」

願い？使命とかならわかるけれども願いというのはおかしくないか。

「とにかくもう一度戻りたいとは思いませんか？」

「戻れるものなら戻りたい。でもそんな方法あるわけが—」

「あるから僕は来たのです。このピエロの服を君にあげます」

「そのピエロの服がいったいなんだというのですか？」

「このピエロの服は過去に戻り一つだけ願いをかなえることが出来る服。僕は戻った時間をピエロタイムと呼んでいます」

「一つだけ？それをかなえたあとはどうなるんですか？」

「過去の自分と同化します。僕も読んだだけですからはっきりはしませんが。現れるのもやり直したいと思った瞬間だけです」

僕はようやく理解した。過去に会ったピエロが何者かも、このピエロが誰なのかも。

「それであなたの願いは僕の後悔を取り去るようにすることなのですね？」

「はい」

「ではお尋ねしますが、あなたは何回目の僕ですか？そして今の僕は？」

「僕は1回目です。ですが、あなたが何回目かはわかりません。先ほどあなたはピエロ姿の僕が何度も現れたといいましたね。それは後悔するたびに戻ったあなた、いや僕自身です」

そうか。見ただけでも7,8回はあっただろうか。もしかしたら会わないときもあったのかもしれない。

僕はこれまで何回やり直したのだろうか、それでも後悔は尽きないのか。

「ところで2回目からあとの僕はピエロ服をあなたつまり1回目の僕にもらったのですよね。でもあなた自身はどうやって手にいれたのですか？」

「僕が後悔していたとき、見ず知らずの人がもう必要ないからと言って手紙つきでくれたんです」

僕もそろそろこの生活から抜け出して未来を見なければいけないのかも。

「すいませんが、その服は受け取らないことにします」

「わかりました。謝らないでください。それは君が、いや僕が後悔を克服したということなのでしょう。

Good luck」

そう言った瞬間ピエロの姿は無くなった。

でも今までと違って服はその場に落ちていた。

たぶんこの服は今のピエロが最後のピエロである証なのだろう。

翌日僕は公園に来ていた。

服の処分についてはかなり考えた。

このまま誰かが着たら永久に回り続けてしまうのではと。

「君は後悔していますね」

僕は落ち込んでいる学生に声をかけた。

「もう僕には必要ないから君に上げるよ」

やっぱり手紙つきで渡すことにした。僕が今ここで話しても全て理解は出来ないだろうから。

「ピエロはね、人を幸せにする生物なんだよ」

それだけ言って公園を後にした。

ピエロは人を幸せにする生物、本当にそう思う。

このピエロの服だって手にした人を幸せにする。

たとえどれだけかかろうといつかは抜け出すことが出来るはず

——迷宮のピエロタイムから

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
わがし 9/18 11:25	一瞬、ドラマの「プロポーズ大作戦」のようになるのかと思いました（誰も見てないか）。ふむふむ。 かなり考えたわりには、さくっと学生くんに渡していますよね。
さむらす 9/18 11:44	ピエロタイムって面白い言葉ですね。
Begonian 9/18 11:49	あれ。「プロポーズ大作戦」でそんなに視聴率低かったっけ？ 全部見たんですが……もしかしてすごい少数派？ あっれー。
茜 9/18 14:27	・・・・・・いいんだろうか。そんなともすれば危険極まりないものをそこらへんの学生に渡して。下手すれば不幸のどん底に突き落としそう。 そもそも「幸せにする」って根拠はどこから来てるんでしょうか？ 自分がそうだった、というだけ？ でも、彼、どーいう風に幸せなのかしら？ 「未来を見なければいけないのかも」っていきなり後悔を克服してるし。 うーん。葛藤とかそういうのを省きすぎたんでしょうか？
RiZEL 9/18 17:43	作品の構造は好きです。 ただ皆さん書かれていますが、最後の行動が「かなり考えた」割りに妙にあっさりしている印象を受けました。 やはり、「幸せ」という部分が引っかかります。

あそびにん LV.2 1 9/19 19:37	なんか、今回他にやり直したからといって幸せとは限らないみたいな話あったよなあ。元々、そういう考えも持っていたし、それにさらに納得させられた分もあったから、幸せにするっていうのに反発を感じてしまった。 まあ、自分の意思で後悔が意味がないと思えるようにするって意味では幸せなのかな？ 冷静に考えるのはきっと無粋なんだろうけど、1回目の僕が全部渡してたってことなの？ 後悔するたびなんだから、事故って死んでしまったら公開もできない気がしたりもするし...あれ？ まあ、迷宮のピエロタイムって言葉は面白いと思うし、プロット自体も結構面白かった。 あっさり渡したのは字数が足りなくなったからじゃない？.....と思って調べたら、微妙に9文字オーバー.....orz 本当に、チェックしようよ。
オリボリ 9/22 12:33	最後あっさり渡すなら、かなり考える必要なかったんじゃない。 でもすごくおもしろい話だと思いました。 個人的には好きです。
木星/dx 9/22 21:17	話はありがちだけど、ピエロタイムって発想は○、って感じかな
イッパイアッテナ 9/23 0:39	深い。たった1500字でここまで深い内容が書けるなんて、とすごいほんと手放しで褒めちゃいます。 それくらい、この作品が短い枠の中で作品として見事に完結していると思う。物語の起承転結がしっかりしていて、ピエロとのトークの内容が非常に哲学的で考えさせるものがある。言葉の選び方も非常にうまい。 ” ピエロタイム ” だなんて、実際に使われている言葉かと調べてしまったくらいだ。 文句なく五題二百作品の中で最高の小説作品だろう。 *このレベルのコラムが何本も載ってある本があったら、たぶん自分は買ってでも読むと思う。というのが、この作品に対する総評。
木星/dx 9/23 3:41	言い忘れてた。 >手紙つき ってとこ、 #自分はやっぱり、文章表現上の挑戦・・・のないものはなかなか買えないな、基本的に。挑戦失敗作品よりかはこうゆうの方がずっとマシ、とは思うけどね。
ほろほろ 9/24 1:13	話の展開がとっても良いね。 着想したアイディアをきちんと描き上げた点、非常に高く評価します。 欲を言えば、登場人物の葛藤を話に組み込んでほしかったですね。 ピエロの服を使った自分とピエロの服が要らなくなった自分との違いはなんなのかな？ その辺りがあっさりしていたので、 「もっと面白いキャラクターにピエロ服を貸してあげたら良かったのに」と思いました。
神無月 9/24 3:38	>僕もそろそろこの生活から抜け出して未来を見なければいけないのかも。 この一言で済ましてしまっているのがちょいと悲しい。それだけでなく、どうしようもなく急いでるのが見て取れてしまいます。「落ち込んでいる学生」というのも、なんとも適当だし。 キャラクターをストーリーのためのコマとして使う手法はありだと思いますが、この話は主人公が過去の自分から脱却して未来へ歩もうとするという心の動きが主題なわけですから、服の処分方法を削ってでも心の動きを丁寧に描写するべきだったんじゃないか、と思います。 発想はグッド。ネーミングセンスもグッド。ピエロという魅力的な題材を、しっかり消化してるのが好感触。
pencha 9/25 0:11	文章を考えながら読めておもしろく思いました。 過去と今...考えてみるとなかなか難しい。。 まさに"迷宮"って感じですね。

こっくん 9/25 13:47	うーん。最後になんでピエ口服を渡したのでしょうか。 燃やしてしまうという選択肢もあったのでは？ 内容は面白いです。設定も抜けた所がないですし。
Tohma 9/26 4:4	設定が独特で面白かったです。 最後のくだりが急ぎ足になってしまったのが少々残念ですが、文字数制限を考えればこの物語は素晴らしい出来だと思います。
イッパイアッテナ 9/26 7:8	> なんでピエ口服を渡したか。 道化ってなるのも楽しいけど、それ以上に見るのも楽しいからでは？ いや、真面目に考えたら、ピエ口服の存在そのものは、彼にとって幸福を呼ぶ善のツールだと思っているからじゃないでしょうか。 (たとえるなら、核兵器。核による緊張肯定派みたいな？へどが出るけど。)

[TOPへ](#)

じっくりと

合計ポイント：8 Point
作者：やまのかめさん
作者コメントは暫くお待ち下さい。

「さてと、あとは煮込むだけって」
エイダは鍋にフタをしました。

「今日はお手伝いありがとね、ご苦労さま。お茶でも入れよっか」
エイダはやかんを火にかけます。トニーは椅子に腰掛けながら尋ねます。

「どのくらい待てばいいの？」
エイダは背伸びして、棚からドライフルーツの瓶を出してやりました。

「一時間くらいかなー」
「一時間も！？」
トニーは干しブドウを手に取りながら、大きな声を出してしまいました。

「料理って時間がかかるんだねえ」
もう涼しさを運んでいる風が、窓からそっと二人をなでていきます。エイダは頭に手をやって、長い髪を背中に流しました。午後の日射しがやわらかく、エイダの髪を輝かせます。

「食べ物ってさ、時間がたった方が、おいしくなるの？」
トニーは不思議そうに、エイダに尋ねました。

「じっくり煮込んだりじっくり寝かせると、優しい味になるのよ」
エイダはやかんの前に立ったまま答えます。

「果物もおいしくなってるの？」
トニーは干しイチジクを取り上げて首をかしげます。

「ドライフルーツは乾かして腐らないようにしてるんだけど、そうね、こうするとすっぱくなくなったりしてるかな」
「あ、おじいさんとかおばあさんとかも、こんなふうになんかしわしわだよね。時間がたつと、みんなこんなふうになるのかな」
トニーはイチジクを口に運びながら言いました。

「おじいさんとかおばあさん、みんなあったかくて優しい感じがしない？」
エイダは、うふふ、と軽く笑いました。でもトニーは考え込んでしまいます。

「ぼくもそのうちしわしわになっちゃうのかなあ？」
トニーはじっと、自分の手を見つめました。エイダはトニーを安心させるように、にっこりと微笑みかけます。

「まだずっと先の話よ」
「あ、でもそのときは、エイダもしわしわだよね」
やかんがぴゅーっと湯気を吹き上げました。さぁーっと風が吹き込んできます。エイダの長い髪が踊り舞う向こうから、にっこりしたままの笑顔がトニーを見つめます。トニーが、あはっと笑いました。

「ま、まだまだずっと先の話よ……」
エイダはやかんの火と止めました。風がゆらりと、エイダの髪をさすっていきます。

「さ、さぁ、お茶にしましょうか」

「あ、ママ、お帰りなさい」
エイダのママが帰ってきました。
「お帰りなさい、おばさん」
トニーも立ち上がって挨拶をします。
「あらあら、いらっしゃい。お手伝いありがとね」
おばさんはにっこりと微笑みます。
「あ！ ねえ、おばさん」
「なぁに」
おばさんは抱えていた袋を床に下ろしました。
「目の横んところ、ほら！ 干しイチジクみたい。しわしわー」
湯気がぼんと鍋のフタをハネ上げました。さぁーっと風が吹き込んできます。おばさんの長い髪が踊り舞う
向こうから、にっこりしたままの笑顔がトニーを見つめます。トニーは、あはっと笑うと、干しイチジクを指
でつまみ上げました。指でぶにとつままれて、干しイチジクは一層しわしわに見えています。
おばさんは笑顔のままトニーに近付きます。そして両手をぐーの形にすると、トニーの頭をはさみ込んで

ぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐり

「悪気がなくとも言っちゃいけないことがあるのよ～？」
「わぁっ、イタイイタイイタイイタイっ！」

ぐりぐりぐりぐりっ

「ほぁら、わかったかなぁ～？」
「う、うんっ、わかった、わかりましたぁっ」
おばさんは、やっと放してくれました。トニーは目をうるませて頭をさすります。
「さぁっ、今日はお手伝いに来てくれたんでしょう？ はいっ、あと一時間お鍋かき回してちょうだいっ！ エ
イダ、ちょっと納屋まで来てくれる！？」

おいしくできあがるには、まだまだ時間がかかりそうです。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
茜 9/18 20:14	・・・いい話っぽい雰囲気ながら。エイダとおばさんが怖いです。 長い髪が踊り舞うって割と冗談じゃなく怖いとあたしは思うんですが。 ふつーに、可愛いトニーのお話でまとめた方が、あたしは好みだったかも。 人間も食べ物も、時間によってまるやかになっていく。つまり今のトニーはまだまだ棘の ある味って意味なんでしょうか？
ほろほろ 9/19 15:16	髪を逆立てるために 毎回わざわざ湯気を出してる所が面白いですね。 せっくなのでこの『湯気』部分をもっと極端に、派手に 書いてみたらどうでしょう。

あそびにん LV.2 1 9/19 17:42	>おばさんの長い髪が踊り舞う向こうから、にっこりしたままの笑顔がトニーを見つめます。 おばさんをエイダに変えたバージョンもあるけど、髪って後にあるはずなのに顔の前に来るくらい踊り舞う状態ってものすごい気が.....怖い。この辺から、ついついインペリアルマーチがBGMとなったり。 でも、この辺も含めて、ほのぼのとしててあそびにんは好きだなあ。 ました。とます。ってどう使い分けられてるんだろ？ ました。→ます。と使われてるところならまだ分からなくもないけど、ます。→ます。って使われてるところとかちょっと変な感じがした。 >ほろほろさん 別に、髪を逆立てるために湯気が出てるわけじゃないかと。それとは別に風が流れ込んでるしね。 あそびにんはこれくらいでいいと思うかなあ。というより、もう字数がギリギリでそんな余裕がなかったり。
わがし 9/19 18:17	かわいいなあ！ ほのぼのでいいなあ！ ぐりぐりは痛いなあ！
さむらす 9/19 18:39	いいですねえ。ほんわかコメディ。マンガにできそう。 どうでもいいけど、エイダさんの髪は黄色だと思った。 いやぁエイダさんいいですねえ。もっと見たいです。
木星/dx 9/21 1:58	あ、何か懐かしい雰囲気。。 ほのぼのに始まり、途中ちょっとハラハラドキドキなんですけど、最後はきっちりほのぼのに戻るという・・・匠の技（あっ！褒めすぎたw） 風が吹き込むところ、狙い定めたケレン味や、ちょっと変化させながらの『魂のルフラン（？）』もハマってるし、擬態語の入れ方も効果的（げんこつ代わりにのぐりぐり） このおばさん、Jack-o'-Lanternみたいな顔なんだろうな～
RincO 9/22 21:58	結構怖いと思ってしまいました・・・
さむらす 9/23 1:33	怖いといっている人がいるのはなぜでしょう。 たしかにエイダさんの考えていることはわからないけど。 最後のオチのそこだとエイダさん完全にフレームアウトですよな。 エイダさんファンとしてはもっとエイダさんを出してほしかった。
イッパイアッテナ 9/23 14:41	・・・ピーターラビット？ いえいえ、なんでもないです。 読んでいて、なんとなく“ほのぼのした時”というものを共感できました。雰囲気を楽しめたんで、自分としては○。
神無月 9/24 3:15	うむうむ。よかよかです。なんともほのぼの。外国のホームコメディみたい。 確かに、髪が踊り舞うのはこわいかもです。でも、金髪だと何となく愉快というか、コメディチックなイメージが生まれて、個人的には問題なし。 強いて問題点を言うなら、話の流れが単調すぎるくらいかしらん。でも、僕はこういう空気が好きなので問題なし。いい感じです。
無味 9/25 14:8	ほんわかしててよかったです。 ぐりぐりは怖いけど....。
朱雀 9/25 23:44	爆笑はしない、でもクスッと笑ってしまう定番のオチ。それがこの作品にはぴったりですね。最初からいい雰囲気が流れていました。
mendel 9/26 1:16	すご～くホンワカ。和みました。 おばさんも「優しい味」になるには「まだまだ時間がかかりそう」なんですね。

聞きたいこと

合計ポイント：7 Point

作者：ばっは

作者コメントは暫くお待ち下さい。

東京の家に帰るため、僕は駅へ続く坂道を上っている。
季節の変わり目を告げる強い風が僕を突き抜けるように吹いていった。
その風がなぜか僕を呼んでいる気がして、僕は後ろに振り返った。

地元に戻るとどうしても昔のことを思い出してしまう。小学生のときに引っ越していった友達のこと。中学で先生によく怒られたこと。高校でしたたくさんの無茶のこと。あまりにも多すぎてすぐには思い出せないことばかり。世の中も大魔神は海を渡り、ワールドカップは開催され、柔ちゃんはこのころから強かった。

ほとんどがどうでもいいことだらけだ。少し思い出しては忘れていく。でも中にはどうしても忘れないこともある。忘れたくないこともある。

あのころ坂道を上りきった道を振り返ると、朝から不機嫌そうな君がいた。

小学生から高校生までの腐れ縁。男勝りな君は、いつも男子とケンカしていた。僕とも、ほぼ毎日ケンカしていた。いや、僕が一番多かった。女子のくせに男子よりも強かった。でも、弱いものイジメは絶対にしなかった。小学生のくせに、大人っぽくて、凛々しい君が、あこがれから始まった僕の初恋だった。

中学校はお互い私立で別々のところ。でも男子部女子部の姉妹校。最寄り駅は同じで、朝礼まで同じ時間。もちろん、朝の登校時間もだいたい同じ。取っ組み合いのケンカはしないけど、顔を合わせるたびに、文句を言う。くる。「あんたのせいで巨人が負けた」は今でもはっきり覚えている。時間をずらそうにもこれ以上遅らせると遅刻をし、早くするには気力が足りない。向こうも同じなのか、六年間三日に一回はまったく同じ電車に乗っていた。

中学も終わりのころ、彼女はちょっとした有名人になっていて、毎日帰りは追っかけにあっていた。朝の死んだ魚のような目をした姿からは想像できない姿だった。周りの目も気にしてか、朝も同じ電車に乗っても話をするのは知り合いがいなくてこまでと暗黙のルールができていた。

そういえば、このころに一度告白した。そしたら、思いっきり笑い飛ばされた。人生初の告白は相手に笑い飛ばされるというなかなか稀な体験をした。

高校になると、朝から文句を言い合うこともなくなり、朝会うと「おはよう」「うん」と挨拶を交わして無

言で二駅だけいっしょにいて、別の車両に移っていった。昔のように、周りを気にせずにケンカした毎日が懐かしい。

二年目の冬、普段はいっしょにならない帰り道。たまたまいっしょになったときに、三回目の告白をした。君は「ごめん、今は無理」とやっとな断ってくれた。その後に、今までごめんといった君の優しさがうれしくてつらかった。次の日からまた僕たちは、少しだけぎこちなく、昔のように文句を言い合った。

半年ほどたち、互いに恋人ができた後は、偶然あったときは、向こうからは男性の欲しがるもの、こっちからは女性の欲しがるものを聞いたりなどして、恋人の相談などをしあったりなどした。そんなことが何回かあって、でも、やっぱり気になって「何で駄目だったんだ」と冗談半分に聞いてみたら「いいところも悪いところもたくさん知ってるから」って素直に応えてくれた。その後に、「35を過ぎてお互い独身だったら考え直してあげる」と笑いながら言った君が、最後に見た君だった。そのときの笑顔は幼い時にあこがれた君の笑顔そのままだった。

後ろに振り返っても、そこに君の姿はない。当然だ。だいたい、地元にいるかもわからない。携帯を持っていなかった高校生活、彼女と連絡手段はない。

でも、もし会えたら一言「元気か」って聞いてみたい。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
きしと 9/18 12:4	文章はすごくよかったのですが、最後だけぶつ切り切れた感が... もう少し語ってもよかったのではないのでしょうか。
わがし 9/18 23:6	あ、なんだ、ここで終わっちゃうのか・・・という読後感。 もうちょっと読みたい。
茜 9/18 23:22	そー言えばこんなことあったなあ。電車の中だけで会う人。高校のときだったけど。 まあ別に、あたしはマドンナでもなければあの人はヒーローでもなかったけど。 でも、懐かしかったです。 最後の部分、あえてこんなものかな、とも思います。 今更、何を話そうってこともないというか。もしも会えば、ひとことくらい言ってやりたいことはあるけれど、それだけ、みたいな。どうせもう、会わないし、ね。
あそびにん LV.2 1 9/19 20:46	何だろう、最後下手にスペースがあるせいで、すごく期待してしまって肩透かし食らってしまった。坂道登りきったらなぜか君がいるとかね。これで終わるなら終わるで、スペース無い方が変な期待もたれてがっかりされるよりもいいと思うなあ。 一回目笑い飛ばされて、三回目でやっとな断られるって、二回目どうだったんだろう？ 二回連続で笑い飛ばされるってのもすごく悲しい気が。

ラ 9/19 21:15	こんな関係の幼馴染、いなかったなあ。 小学生の時点で。 作品については、できればもう一度会ってほしい。 そこが一番読めたら、と思った。
さむらす 9/21 15:50	この男の子はすきになれないなあ。 ちょっと軽く蹴飛ばしたくなった。
イッパイアッテナ 9/22 23:34	えっと、実話をもとにしたストーリーですよ。(フィクションだったら、あまり面白くなかったよ。の一言で...) 男勝りで男子とケンカばかりしていたのに、大人っぽかった？ とひっかかったのですが、それは小学生らしい主観なんだな、ってちょっと納得。 あと三回も告白していたのにびっくり。うーん、やっぱ恋愛感情→友情って昇華できないもんか。 *読んでいて、少し長ったらしく感じた。客観的に見ればもう少し短くまとめられた部分はあると思う。ただ、作者の目から見れば、その無駄な部分も含めて、大切な思い出を形にした部分だと思うので、削ってはダメだと思う。(この作者の想いのたけをぶつけるのと、読者に読みやすくする折り合いをつけるのが難しいんだよね。自分は書きたいものを書いた作者を偉いと思う。)
ほろほろ 9/24 2:32	>アッテナさん 僕はこの話、ウソっぽいと思います。 冒頭、小学～高校の回顧が抽象的だったのと、 女の子の気持ちを深読みしていない所がウソだと思った理由。 もし体験談だったら 「この子はこういう性格だからこうした」という風に、 もっと深層的な性格を勧めるような気がしません？ と、ウソかホントかトークから始めましたが、 この人がホントにこれを体験したかどうかの正解は 作者さんじゃない限りわからないんですよー。 なので、実際にウソかホントかは意味がないと思うのです。 創作とした上で「ホントっぽい、ウソっぽい」が すごく大事だと思うんです。 で、僕が読むにこの作品は、 最後の3行以外は「ホントっぽく努めたんだけどあと一歩ウソっぽく」て、 最後の3行は「ホントっぽい」んです。 そして、 「最後がもの足りなかった」という感想は、 比較的ウソっぽい話として読んだときの 最後の装飾の弱さへの不満として出ている、 「こんな子、いないなあ」という感想は ホントっぽい話として読んだときの 前半のウソっぽさから出てくるんじゃないかと思うんです。 僕は、前半をもっとホントっぽく書いて、 全体をホントっぽい話として完成させる方向をお勧めします。 どんどん彼女との接点が少なくなっていく中で、 彼女と接している瞬間の風景をしっかりと描いたり、とか。
イッパイアッテナ 9/25 1:14	>ほろほろさん うーん、脳内ストーリーだったらもっと面白いものが書けるんだと思うんだよね。 この物語としては中途半端な感じが、逆に現実で実際に起きていたら ” すげー ” と感動できるって点で、自分はすごいかなって。 (というか、同じ子に告白を三回もしたというそこに自分はエールを送りたい。)

Kissing!

合計ポイント：7 Point

作者：Asagi

作者コメントは暫くお待ち下さい。

綾音さんの舌が入ってくる。

さっきまで飲んでいたアルコールのにおいが口の中に充満してああ酔っ払ってやっぱり駄目だよなと反省しつつ、それでもこの感覚がやめられないのが酒飲みの性だ。

頬から首筋、肩、背中。俺の手は綾音さんのしなやかな身体を撫でていく。それに応えるように、細くてやわらかい綾音さんの指先は身体の上を這い回る。二の腕、手のひら、指の先。まるでお互いのかたちを思い出すように。

エアコンの壊れた夜のワンルーム、互いの舌の触れ合う音と、ときおり通る電車のだけが聞こえる。最初は軽く触れ合うように、だんだんと強く、深く、火傷しそうなほど熱く。

ねえねえあんずのあじがするよ。綾音さんは耳元でそうささやいて、くすくすと笑う。これでこの酒臭さがなければもっといいんだろうが、それは自分も同罪だろう。

触れあって、絡みあって、溶けあって、

——そしていきなり綾音さんの限界が来た。

くたたりと全身の力が抜けて倒れこんだと思ったときにはもう遅い。頭を俺の肩に乗せて綾音さんはもう深い夢の中、安らかな寝息が聞こえはじめる。

...しばらくは動けそうになかった。

綾音さんと初めて一緒に飲んだ日のことは、今でもはっきりと覚えている。
夜も遅くに呼びつけられたて何事かと思ったら、いきなり彼氏との別れ話を聞かされたから。

いやーもーやんなっちゃうわよまったくもー。

思い出話もそこそこに馴れ初めから破局まで事細かに語り尽くす綾音さんの饒舌さとワンマンっぷりはいかにも綾音さんで、しかしながら綾音さんに憧れとともにほのかな恋心を寄せていたあの頃の俺にとってそのキャラの壊れっぷりと生々しい体験談の数々は余りにも刺激が強すぎたというかその想いを打ち砕くのに十二分な破壊力を持っていた。

焼酎をかつ喰らいながらあははははとだらしなく笑う綾音さんはいつもと同じように見えたけれどどこかとても寂しそうで、別れた彼氏にこれでもかと罵詈雑言をぶつける姿はたまらなく痛々しくて、だから俺は綾音さんの目からぼろぼろこぼれてくる涙に気付いたときも、黙ったまま何も言うことができなかった。

散々飲んだ綾音さんは結局べろんべろんに酔いつぶれて、俺は肩を貸して、酒臭い綾音さんをワンルームまで引きずって行ったのだ。背中シャツに一発お見舞いされたのも今になればいい思い出。もちろん、次の日のバイトで謝り倒された。

今にして思えば、あれが縁だったのだろう、しだいに二人で遊びに行くようになって、3ヶ月くらい経ってから告白されて、付き合い始めて。何で俺だったのかは、今でも正直、よくわからない。

ただそれでも、底抜けに明るい綾音さんの、苦しそうな涙を見せられるのはもう、金輪際ごめんだった。

肩越しに綾音さんの顔を見る。
さっきまでの暴れっぷりはなりをひそめて、今は静かに寝息を立てている。
こうして大人しく寝ているときの綾音さんは、綺麗というよりかは、どちらかというと、かなりかわいい。

とろんとした目に夢うつつ、そっと顔に触れれば、綾音さんはくすぐったそうに笑う。

酒臭く悩ましい姫君の頬に俺はもう一度、そっと口付けをする。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
わがし 9/18 9:40	なかなかいいんじゃないですかー！ タイトル、これほど直球でなくてもいいかも。 それにしても、いいですねえ、うらやましいですねえ（笑
Begonian 9/18 10:0	上に同じく。 しっとりとした中身に、ポップなタイトルはどうかと。 ちょっとタイトルが中身を殺してる感が否めない。
茜 9/18 10:44	・・・・・・・・・・・・・・・・・・。（冒頭の一文で噴きかけた人） 何でこれいきなりディープなキスシーンからはじまってんだろ。 おかげさまで最後の口付けがディープなのかソフトなのか無意味に気になってます。 えーと。中身についてですね。はい。 よく読むと俺の人となりはまったく見えて来ないんですが（強いて言えば綾音さんのペースに巻き込まれまくってるだけの人）、あたしの方も綾音さんのペースに巻き込まれたのでさらっと読んだ時点では気になりませんでした。 綺麗とかかわいいとかはいちいち言わなくていいかなあ、とか。そこまで綾音さんの容姿についての描写がなく、性格面だけでイメージ出してるので、綺麗とかかわいいなんて安直な容姿をここで持ち出すよりは、「なんだか子供みたいだ」というくらいにしておいた方がいいかな、と思いました。 あと、冒頭の「この感覚」ってどんな感覚だろう。（お酒飲まないのによく分からない・・・・・・・・） 人目を引くという意味では成功してるタイトルかと思います。・・・・・・・・だってあたし実際思わず読んだし。 ほ、ほら。キスって乙女の大好物な気がするしっ。 あ、そーいえば攻めたのって綾音さんなんだ。（冒頭より）

わがし 9/18 10:56	> 茜さん、 > この感覚 作者さんが何を意図したのかわかりませんが、酔っぱらってるのに思わずキスしちゃったり、いちゃいちゃしちゃうような感覚、ではないでしょうか。 確かに、このタイトル、いきなり読んだもんなー。そゆ意味では、いいのかなー。
茜 9/18 14:13	> わがしさん たぶんあたしもそうだと思います。というか、「酔っ払ってるのに」というより「酔っ払った上で」かな。あえて酔っ払っていちゃつくことで味わえる感覚。というか。・・・・なんにしても、どんな感覚なんだろう。この部分は描写不足かなあ。
わがし 9/18 14:25	> 茜さん 飲まないからもっと細かい描写がほしいわけよね、きっと（笑 私もこういう経験はないのですが。 っていうことは、作者さんはこういう経験があるってことか・・・。むむむ！
茜 9/18 16:13	> わがしさん むしろ経験ないから「この感覚」について説明できない、に一票。
木星/dx 9/18 16:18	おしゃれにエッチな雰囲気ってちょっときもーいと思う私。。 内容についてはまた後ほど・・
わがし 9/18 17:43	> 茜さん、 ああ、作者さん自身がこういう経験がない、と（笑 うーん、そうなのかあ。残念！
鞆 9/19 11:18	タイトルだけ見てMissingを彷彿と...ああごめんなさいごめんなさい。 私の画面だとこの作品が一番上に表示されていて、私は大概一番上から読んでいるので、いきなりディープで噴きました。 「この感覚がやめられないのが酒飲みの性だ」と書いてあるので、単純に酔いの感覚ではないでしょうか。そこまで深い意味ではないのではないかと私は思いました。 全然関係ないですが、木星さんのコメントの意味が分かりません。単純にこの作品の雰囲気に馴染めない、ってことなんでしょうか。
あそびにん LV.2 1 9/19 19:24	うーん、何だろ.....コメントしづらい。とりあえず、お幸せに。 というか、綾音さんつえー。そもそも、元々は何だったの？ 単なるバイト仲間とか？ そもそも、何で付き合うのが俺なんだ、よりも、何で呼び出されたのが俺なんだ、の方が気になるかも。 なんというか、まあ、うん、こういうのもそれはそれで好きなのかもしれない。 > この感覚 うーん、何なんだろう？ あそびにんも飲まないわけじゃないけど良くわからない。 そもそも、これってディープキス中の話だよね。自分のアルコールのにおいに対して言ってるでいいの？ アルコールのにおいが好きなのかなあ.....酒飲みの方、どうぞご教授を。
茜 9/19 19:46	> アルコールのにおいでも「あんずのにおい」って言ってるよ？ なに飲んだんでしょーねこの人たち。
鞆 9/19 20:51	> 茜さん 素直に考えるとあんず酒では。
茜 9/19 20:59	> 鞆さん なんかこう、酒臭くなるような酔っ払い方をするなら、ビールとかウイスキーとかの方がイメージにありませんか？ いやたぶん杏のにおいって言うから杏酒なんでしょうけれど。なんか、杏のお酒って妙にかわいいイメージがするのあたしが飲まないから？ 酒臭いって言ったり杏のにおいって言ったり、あたしの中でにおいがごっちゃになってます。

あそびにん LV.2 1 9/19 22:9	> あんずのお酒 あんずのお酒といえば、杏露酒ってあそびにんにはイメージがあるけど、意外に度数高いよ？ 14, 5くらいと日本酒程度には度数があるかと。一杯飲めばそりゃ酒臭くも……なるのかなあ。 でも、そもそも、あんずに関してはにおいじゃなくて味って言ってるし、ちょっと方向が違うのでは？
茜 9/19 23:26	・・・・あ。（おい）
さむらす 9/19 23:36	ぐう、ぎぶあっぷ。 こういう生々しいのはちょっと無理だあ。
木星/dx 9/20 1:13	> 鞆さん 目を背けたくなるような描写もなく、汚れ役もいなくて感じのいい男女がいちゃついているだけ、読者のハートをくすぐってウフフ・・・みたいな、エッチな内容をきれいに料理した作品って、今イチなじめないんですよ。都合のいいニセモノという感じがして。 透けて見える作者の態度の虚飾性がちょっと自分的にムリかな。 あの「ごめんな」男に通じるものを嗅ぎ取ってしまう。 この書き方が許容できるのはプラトニック・ラブまでかも。
やまのかめさん 9/20 7:0	み、みんな、惑わされてはいかん！冒頭の描写は読者をつかむための文章、前座のようなもの。要するにこれはノロケ話でしょ、ってか、そんな拒絶反応起こすほど生々しくないでしょうに(^_^;;; 「この感覚」は、ここでは場面からして、酔いに浸って行動に突き進んでしまう感覚、のことかと想像もしたのですが、これが「やめられない酒飲みの性」とは思わないなあ。でもまさか、酒飲んだ相手とキスして相手の口からアルコールの匂いを味わう感覚ではありませんまい。 酒の結果としての陶酔、といえ、昔、飲んだ挙げ句にへたりこんでとろんとした目で見事に微笑んで投げキスをしてきた女の子を前にしてこの子をどうしたらいいもんかと悩んだことがあったけどそういえばあのときあの子はまだちゅ
木星/dx 9/20 7:19	う学生でした(^_^;;;
わがし 9/20 9:38	最後、頬じゃなくてもいいんじゃないですか、口付け。 一瞬長く、ダイレクトに真面目なキスしてもいいんじゃないですか。起こさない程度に。まあ、キスされて起こされるっていうの、いいんですけどね。とっても。幸せで。うふ。
やまのかめさん 9/20 13:1	えーと、いかん、そう、感想をちゃんと書かねば。 というわけで要するにこれはノロケ話だと思うのですよ。彼氏と別れちゃった女の子のなぐさめ役をきっかけに収まる所へ収まったなんて構図は珍しくないものだと思うのですが、にも関わらず冒頭の描写から読者をつかんで、読ませてしまう力があると思います。いきなり冒頭で「綾音さんの舌が入ってくる」と来られたのにはさすがにちょっと驚いて興味を引かれましたし、その後の読者への情報の与え方やその分量も、適度に並べられている印象があります。興味を失わずに読むことができました。文章として、よくできた文章だと思います。
カケラ 9/20 23:54	楽しく読ませてもらいました。きれいにまとまったいい文章だと思います。 ほのかな恋心を打ち砕くのに十二分な破壊力を持つキャラの壊れっぷりを示している綾音さんが、いつもと同じように見えた、というのがよく分かりません。
木星/dx 9/21 1:18	つつこみ1つめ。 > 火傷しそうなほど熱くなってるのに、 > ねえねえあんずのあじがするよ > 耳元でそうささやいて、くすくすと笑う はないんじゃないのかなあ？ 特に「ねえねえ」「くすくす」はちょっと・・・と思う。冷静すぎてツクリモノっぽく感じる。 もっと怒濤のようn（略

わがし 9/21 18:14	> 木星さん > もっと怒濤のようn（略 うーん、大人だなあ！！！
Perseus 9/22 0:22	・・・いや、あちいですね。 火傷未遂じゃなく本当にしちゃえばいいのに。とか思ったり
zoo 9/22 22:18	よくかけるなあ。最初の一文を読んでそう思いました。 描写の力もすごいのですが、どちらかというと勇気のほうが・・・ でもいいですよ。甘党の私にとっては。
イッパイアッテナ 9/23 2:20	これは、きっと”酔い”を表現したくて作った創作に違いない。 ほら、全体的に読んでいてアルコールの匂いがしてきたでしょ。 じゃないと書けないって、こんな話。(もしかして、これが噂の形式指定together?)
colt 9/23 2:25	これは！ や、オトナのセカイですね！ ばばば、僕には早すぎます！ と、ウブなふりも大概にして。 木星さんの指摘した台詞部分ですけど、逆に、酒その他で夢心地な感じ、出ていませんか。なんか、蕩けちゃってるような。 普段、「あはははは」と底抜けに明るい綾音さんだからこそ、このギャップは、その熱によるものだと思うのですけれど。 エアコン壊れたワンルーム、火傷しそうな熱さ。伝わりました。 ドキドキして、笑って、和んで。良い作品だと思います。 最後に一点、違和感が。 > 深い夢の中 > 安らかな寝息・静かに寝息を立てている と来て、なんで > とろんとした目に夢うつつ、そっと顔に触れれば、綾音さんはくすぐったそうに笑う。 なのでしょうか。この文章自体は好きなのですが、いきなり限界が来て倒れこんだ人は、決して夢うつつにはならないのでは。 脳内激情の綾音さんが、一瞬ブレてしまって残念でした。
colt 9/23 2:27	あ、激情→劇場です.....。 追記：この作品『時』要素薄すぎるんじゃないか、とも思いました。
ほろほろ 9/24 1:46	キスの描写とか、お互いの求め方とかをきちんと書けていると思うんだ。 でも、綾音さんがどういう人で、 僕がどういう人なのかというのがわからないのが 全てに影を落としている気がします。 僕の読む限りでは、 綾音さんはよく居る元気な女の子だし、 男の子も凡庸な少年、といったところなんです。 で、ふたりがお互いのどこが好きなのかも、描かれている範囲では 「綾音さんと俺だから」ってよりは、「男と女だから」って感じなんです。 それだと、たとえばキスにしたって、プラスαの意味付けができないよね。 せっかく2回キスシーンがある（しかもする方が逆）のだから、 それぞれに各々の想いを乗せてほしかったな。 そのためには、平面的な男と女と差別化を図る必要があると思うので、 例えば馴れ初めをキチンと書くとか、 もうちょっとフェティッシュな描写をするとかが欲しいです。
結政 9/24 13:16	なんというか、題名と冒頭の描写で一気に引き込んだ割には・・・ という印象がありました。 もうちょっと字数的にもあまっているので なにか書いてほしいなあと。 山場が頭（と冒頭？）にきているので、 物足りなさを感じてしまっているのですよ。

木星/dx 9/25 1:16	ほろほろさん発言ともかぶりますが、二人ともキャラ立ちが半端なのが致命的。結政さんの、 > 一気に引き込んだ割には・・・ というのも、その通りかと。 要するに、中身の伴わぬまま「読者のハートをくすぐってウフフ・・・」で満足している、見かけ（押し）倒し作品。押し倒される人は押し倒されるけど、押し倒されない人には通じない。
老若男女 9/25 21:15	主人公にもっとあざとい部分があったら好きな作品だった

[TOPへ](#)

小さな森のお化け達

合計ポイント：6 Point

作者：カケラ

作者コメントは暫くお待ち下さい。

二つの村の真ん中に、小さな森がありました。
小さな森の中を小さな道が通ってます。
道の周りにはたくさんのお化けが住んでいます。

「キャー」
「クスクス」
今日も森の中では人間の悲鳴と、お化け達の笑い声が響きます。
「また来たよ」
「今度は私の番だからね」
お化け達が話してる間に女が一人森に入りました。
すぐに逃げられないよう、森の中ほどに来るまで隠れて待ちます。
そして骸骨のお化けが飛び出します。
女の髪を引っ張りました。
女が振り向くとそこには半透明な骸骨が漂ってます。
悲鳴と笑い声の合唱が生まれました。
女が走って逃げていきます。
そこに別のお化けが現れます。
「いい加減にしとけよ」
「何で」
「こんなに楽しいのに」
「やりすぎると人が来なくなる」
「大丈夫だよ」
「ここは二つの村をつなぐたった一つの道だから」
すっかり調子に乗っているお化けは、聞く耳を持ちません。
新たな獲物を探して飛んでいきます。
残されたお化けは納得しているものの不安です。
その不安は的中します。

ある日を境に森に人が来なくなりました。
人々は森を迂回するように道を作ったのです。
それほどに人々はお化けを恐れたのです。
お化けた達は後悔しましたが、どうにもなりません。
森の中にお化け達の泣き声が響きます。

薄暗い森の中、お化け達が笑ってます。

「ほら、人間が歩いてくるよ」

「本当、久しぶりのお客さんだ」

見ると、確かに少年が村を外れて森に向かってました。

「もう目の前だ」

森の中が一度大きくざわめいて、静まりました。

少年が足を踏み入れます。

待ち切れないと人魂が飛び出しました。

 フッフッフ アハハ クックック

笑いながら、少年の近くを飛び回ります。

しかし少年は驚きません。これにはお化け達が驚きます。

「情けない」

一番落ちて着いている偉そうなお化けが、少年の前に飛び出します。

偉そうなお化けは大きく発光します。

辺りが光に包まれました。

しかし少年は何事もなかったように歩いていきます。

お化け達は呆然と見送りました。

次の日も、その次の日も人間はやってきました。

それなのに、そのうちの誰一人として驚くものはいません。

お化け達はには何が起きているのかわかりません。

「ただいま帰りました」

「どうも」

男は買い物袋を受け取りながら呟きます。

「やっこの田舎にもロボットが届いたよ。

しかしこれは運動不足になってしまうな」

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
RiZEL 9/18 17:59	ほのぼのファンタジー系だと思って読んだら、最後にちゃんと（ちょっと意外な）オチがあって面白かったです。 てっきり「人間には見えなくなってしまった」とか、そういう王道系に行くかと思っていたので、良い意味で予想を裏切られた気がします。
さむらす 9/18 21:23	個人的にこういうお話は好きです。
key 9/19 10:22	意外なオチまでつけてちゃんとした文章になってると思うのですが、結局なにが良かったんだろう。 アメリカンジョークっぽい感じ。 最後予想を裏切られました... もうちょっと最初と最後の雰囲気の違いがあった方がガクッときたかなと思いますが、こういうノリは好きです！

茜 9/19 12:3	とりあえず叫ばせてください。 女性の髪の毛ひっぱっちゃいけませんっ！！！！ よし、気が済んだ。 ・・・・・・うーん。ファンタジーだと思っていたので、ちょっと裏切られた感が。そうかあ。ロボットかあ。 意外でいいって言う人もいるんでしょうけど、あたしはRiZELさんの言う、王道的な最後になってくれたほうが、好きだったかも。
あそびにん LV.2 1 9/19 17:2	予想の斜め上を行ってくれた方が好みではあるんだけど、なんだかロボットを登場させる必要があんまり感じられなくて、これはそれほどつぼに入らなかったかな。 いやさ、ロボットってのは悪くないんだけど、最初に小さい森って書いてあるし、しかも回り道がもう出来てるんだから、導入する必要ないじゃんって思ってしまうもので。どうせロボットを導入するのなら、回り道の話も入れないほうが良かったんじゃないかな。 あと、どうせならロボットがお化けを驚かせ返して欲しかったなあとか。ロボットだからこそ出来る動きみたいなものを使ってね。目を光らせてみるとか、転んだら首が外れたとか。それくらいやってくれたらツボにはまってたかな。この作品の狙いがシュール狙いっぽいから、路線は多少変わってしまうんだけどね。
わがし 9/19 18:14	ロボットだったのかあ！ 最後の会話、もう少し無機質な感じで言ってもいいのかな。いや、どうやって書くかな・・・？
He 9/20 22:47	お化けに驚かないって辺りで「目の見えない少年」を思い浮かべて、そこから始まるであろう物語に寄せた期待はどこへ…。 まあ、確かにオチは予想外。
イッパイアッテナ 9/23 1:59	これはいい意味で裏切られた。 いや、このオチは予想できなかったなあ。 見事に王道にとってかわるイイ落ちを持ってきたと思います。 > あそびにん LV.2 1 さん いや、こっちのほうがロボットというオチにとってはいいよ。 回り道の話も入れないとお化けが久々にきた男の子に張り切るところが入らなくなるし、お化けを脅かし返すというよりも、お化けが心底不思議に思い呆然としているほうが、読者にとってこの男の子の存在が際立つと思います。(下手に脅かし返すと内容が子供向けのコメディチックになる。)
ほろほろ 9/24 3:7	話の展開は良いと思いました。 ただ、ちょっと焦って書きちゃったのかしらね。 まず、文体が統一されていないのが気になります。 2行目： 通ってます → 通っています 2段落め： 漂ってます → 漂っています などです。 中身に関しても、 例えば最後を運動不足で×るのではなく、 『ロボットは窮屈そうな動きで頷きました』 なんて一文で終わると、 お化けはロボットと人間の違いが案外わかんないんだとか、 そういう話も追加できる、とかネ。 ブラッシュアップすればもっともっと面白い話になりますよ！
あそびにん LV.2 1 9/24 15:5	> アッテナさん 回り道の話がなくても、ロボットを導入できるまで交流をしないなんて理由とかでお化け達が待ち望む状況は作れると思うんだよね。最後の買い物袋の話が出てくるまでは、生活するにあたってどうしても通らないといけないんだ！なんて設定はどこからも匂ってこないし。そもそも、そんな設定があるかどうかとも分からないけど。 回り道を作る労力だって馬鹿にならないだろうに、さらにその上にロボット導入するなんて、どれだけ資金力とか労働力が豊富なんだとも思っちゃうしね。 脅かし返すと子供向けのコメディチックになるのは同意。でも、文体とお化けの台詞から見れば、雰囲気的にはその方向もありな気がするんだよね。実際、最後のロボットがでてくるまでそういう風に期待しながら、あそびにんも最初読んでたと思うし。 やっぱり、ロボットが唐突過ぎる感じがするんだよね。Heさんの言うように、これって目の見えない少年とかでも十分うまくいくわけだし。ロボット出すのなら、もう少しロボットを匂わせる部分はやっぱり欲しいかな。

イッパイアッテナ 9/24 17:53	>あそさん いやぁ、ロボットができるまで交流をしないというほうが、ぎゃくに不自然だと思う。小さな森とあるから迂回路を作るのもそんなに手間がかかると思わないし。(ロボットが交流の手段として使われているというほうが、そもそも不自然なんだけどね。技術の無駄遣いだ。) 目の見えない少年じゃ、意味ないよ。だって、笑い声は聞こえるんだから。いきなり笑い声が聞こえたら、目が見えなくても怖くなるんじゃない？(つーか、目が見えない少年が森を歩いちゃいかん。) この作品を読んで思ったのは、たぶんお化けたちに流れている時間と人間との間に流れている時間って全然違うんだろなあってこと。 お化け全盛期 迂回路完成 ロボット登場との間に、たぶん20年くらいは隔たりがあるんじゃないだろうか。 お化けたちは、それこそある日突然とか一か月くらい待っていたらとかそういうつもりだったんだろけど、人間の時間でいえばそんなに短いわけがないと思うんだ。たぶん、お化けたちは毎日毎日楽しく人を化かしてきたつもりだろうけど、人間側からすると何十年も正体不明の脅威に怯えていたんだと思う。 っていう設定は、あれだ。この話が、なんか自然と人間との戦いのメタファー的な作品に読めたからかもしれない。 西欧では、森はお化けが出なくてもすごく怖い場所とされていた。平野を延々と木が生い茂っているからね。上と下がある山と違って、ほんとに方角がわからなくなる森は脅威そのものだったんだろ。それを人間はさまざまな技術で克服しようとしていた。昔は自然の脅威を避けることに力を注ぎ、今は脅威を無効化することに力を注ぐよう戦いを挑む。なんて、ことを読んでいるときふと思ったよ。(この辺は西洋史を少しかじっていないとわからないかもだけど)
こっくん 9/25 2:46	オチのアウトローさには参りました。その発想はすごいです。 ただ、ほろほろさんもおっしゃっていますが、オチのばらし方をもっとひねった方がよかったと思います。
木星/dx 9/25 2:55	ああ、何か言いたいことはもう既に言われてるような・・・ 楽しかったです。 なので、この方向で、ブラッシュアップ・ボリュームアップ・パワーアップしてほしいな。完成したら掲示板にw
神無月 9/25 3:37	複線が欲しかったかも。唐突過ぎるオチが腑に落ちませんでした。 「何十年、何百年経ったのでしょうか」とか途中に入れると納得行ったのかも。
blue-orange 9/25 23:5	そのオチは予想外！巧いですねえ～。
忠犬ヤス公 9/26 0:28	って、ロボットかい！！と突っ込んだのは僕だけじゃないはず。 いや～便利な世の中になったもんだ。
えむえむ 9/26 2:1	予想を裏切るオチ。昔話をイメージしてたら3改行で急にロボットの時代にワープしたので、やられた感じです。 ここは王道に至らずよかったです。

逢魔が時

合計ポイント：6 Point

作者：八剣

作者コメントは暫くお待ち下さい。

「やっぱりまくあよりその人のことを選ぶんだね」
にっ、とくちびるの端をゆがめた。
「さよなら、わたしの大好きだったおにいちゃん」
まくあが一步また一步近づいた。手から光の玉が現れる。
魔法？まくあが？なぜ？
光の玉はビー玉くらいから野球、ボーリングのボール大へと加速度的に成長し、
「おにいちゃんのばか！」
悲痛な叫びと共に向かってくるのがやけにゆっくりと感じた。
「・・・さま・・・」
みかが割って入る。
パーーン
微笑みかけた顔がわずかに歪む。
閃光、轟音、そして衝撃。抱き合うような形で吹っ飛ばされる。白い光に包まれると同時に力が流れ込んでくるのを感じた。

一人の神がいた。
神は孤独だった。
ある日、一組の恋人を観察した。
神は恋に恋した。
神は力を結集して一人の少女を作った。
とびっきり美貌、優しく素直な性格、そして神への愛情。
完璧な出来に神は喜んだ。
だがそれは長く続かなかった。
少女は神の求めなら何でも聞いた。
こんなのただのおもちゃじゃないか。
神は落胆し、作りかえた。
言いなりにならぬよう、拒否出来る力を与えた。自発的に考える力を与えた。
そうした努力は次々と失敗した。
神の望みなら何でもしてあげたい、少女の純粋な想いが尽く裏目に出た。ただそれだけのことだったのだが・・・
神は何でも言うことをきいてしまう少女に恋することが出来なかった。
やがて、相手の心を一方的に縛る神という強者の力が悪いと悟り、力を少女に預けて人間になった。

「悪魔だったのか。最初から知ってて近づいたんだな」
力が戻った今、まくあが悪魔なことがわかる。
まくあの瞳から涙がこぼれた。
「違う。まくあと一緒に・・・みかさんと結ばれることが無ければ目覚めることなんて・・・こんなことしたくなかったのに・・・」
「そうだな」
低くつぶやく。
「・・・」
呪文を唱えた。

「体はもう大丈夫みたいだな」
「ええ」
みかさんがにっこりと笑った。
あの後、強力な治癒魔法をかけた。瀕死の重傷のはずがもう傷跡一つ無い。
「それにしても・・・みかさんってもう男の手がついていたんだな。ショック・・・」
「誰のせいです！」
「はい。でも、そんなの覚えてないし・・・もう一度やり直ししょ」
「嫌です」
みかさんがきっぱり断る。
「が～～ん」
「もともと言いなりになんてなりませんし、わたしも色々成長したんです」
べーっと舌を出した。
成長ねー。ちらっと胸を見る。
「み、見ないで下さい」
赤くなった。
それはさておき、成長って本当かな、俺は思った。
ただ単に、心から想った事とそうでないことの区別がつくようになっただけで、本質的には変わっていないんじゃない。

それも成長のうちかな。
心から想った事は拒否できない。それはみかさんと何度か再会できたことでも推測が立つ。
本当は姿を消して俺に寄ってくる悪霊をこっそり片付けてくれていたのだ。
ずっと。何年も何年も。
気付かれずに・・・

「お・に・い・ちゃ・ん！
まくあならいつだってOKだよ」
抱きついてきた。
「洗濯板」
ぼそっとつぶやく。
「お兄ちゃんのばかー！」
ばかばか殴られた。
あの後、力を使いまくあを人間にした。
悪魔としての記憶はもう残っていない・・・はずだ。
でも・・・思うのだ。
悪魔でないまくあは果たして本当にまくあなんだろうか、と。
何をやっているんだろう。
結局、俺は・・・昔も今も都合よく作り変えて自己満足するだけの存在なんだな。
まくあを見つつ軽く嘆息する。
「わたしは幸せです」
ふわっと背中からやわらかい感触が包み込んだ。
「正しかったかどうかはともかく、わたしはよかったとおもいます。あまり思いつめないで・・・」

抱きつく腕に力がこもった。
「みかさんばかりずるい！」
まくあが抱きついてきた。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
わがし 9/18 9:42	あー、いた。2つ目でみつけた！ だから、まくあ、だったんだー。 番外編、作りません？ おふら、来ません？
zoo 9/18 9:54	当てました、一発目。 最初は話が飛躍しすぎていてどうかなと思いましたが、後半の甘い感じが良かったです。 それでは番外編をよろしく！ でもどんな話に持っていくのだろうか
茜 9/18 10:52	．．．．．話がめっちゃくっちゃ飛躍してますね。 そして最後のプチハーレム状態は甘いというかなんと言うか．．．．．うん。あの。お幸せに。（ごめんそうとしか言えません） ところで、「洗濯板」は、がりがりの子の肋骨が見えてる感じですよ。胸がないのは「まな板」かと。
さむらす 9/18 11:11	主人公が元神様ってことでいいんだよね？ ずいぶん俗っぽい人間けど。
鞆 9/19 0:28	「まくあ あくま」に気付いていたのに、 「みか かみ」に気付いていなかった自分に愕然としました。 常に敬称がついていたからかなあ、みかさん。
ほろほろ 9/19 15:9	電撃萌（以下略）。
わがし 9/19 17:48	編集会（以下略）。
あそびにん LV.2 1 9/19 18:1	なんか、納まるべきところに収まった気がする。で、ここからまた新キャラなんかが出てきて、電撃萌（以下略） > 鞆さん あそびにんもなんか悔しく感じた。本当に、どうして気づかなかったんだろう？ あそびにんは、多分みかって名前は普通にありそうだからだと思ったんだけど、いかが？
作者 9/19 23:39	あんまり関係ないけど、 School Daysが放送休止だ。何故だ！ せっかく見る気になってたのに．．．
kiku 9/19 23:43	コメディなのに設定がイマイチ分かりにくいのはどうか。コメディに急展開は確かにありがちなんだけど、なんつーか、もうちょい具体的な描写の方がよかったと思う。この手のは多少なりとも読み手に考えさせたら負けな気が。 # ハーレムENDだなんてがっかりだぜ！ 無論外伝はヤンデレ精神異常ENDですよ？ # むしろ俺が！ # ああ、リアルセッションでネタ思いつかなかったからまくあSS祭とか誰かやらないかな？

やまのかめさん 9/20 6:55	作者さん、それ全然関係ない(^_^;; 噂の鋸ENDとか、まさか執筆計画にはあったり！？ 感想はまた改めて。
わがし 9/20 9:35	> 作者さん、 いやあ、おふら、来ましようよ。最後変じゃないから（プロフィールね）。 次作、期待していますよ！
きしと 9/22 18:7	とりあえず、5回のセッションお疲れ様でした。 先生の次回作に期待（えー
イッパイアッテナ 9/23 17:20	なんだかなあ、別に神様や悪魔とかの設定いらない気がするなあ。っと思った。 (だいたい、悪魔がなんで寄ってくるんだ？という点が謎なままだし。) > みか んー、あっ、神と悪魔かあ。とは連載当初から思っていたけど、まさにその通りだったのには驚き。(まくあ＝悪魔はともかく、みか＝神のこじつけは上手いような気もするし、やっぱりこじつけな気もする。)
作者(PN変更に意味があると思えないが) 9/23 19:11	後ほど来るとかいう感想を待ってたんだけど、時間も少なくなったので。 遅まきながら感想とアンケートの部屋にしたいと思いまーす。 以後のコメントには、作者の気まぐれと時間の都合で返事を書いていますのでそのつもりでいてください。 以前のものでも返事が聞きたい人はその旨連絡ください。 さて、念願の(?)単独首位の夢を叶える前にWEB版こらむらんどが終了し、100を超える戦歴に終止符が打たれる覚悟で臨んだ乗船。 頭の中で両者が戦っている。 『お前のやりたかったのはこんなもんなんかい！』 『そうだ、文句あるか！』 と。 やりたかったこととは何か、それは部屋がすし詰めになってくればおいおいわかってくることなのでおいといて、 アンケートをとってみたいことがある。 どんなエンディングがよかったですか？
イッパイアッテナ 9/23 21:26	> どんなエンディングがよかったですか？ 電撃連載
作者(回答ありがとうございます) 9/23 22:32	はあ、それは確かに衝撃的ですな。 それはちょっとこの場ではできそうにありませんが。
やまのかめさん 9/24 0:8	予想を超えた超展開でした。実はまだちょっと展開を把握できていない部分がありまして…… 主人公が神様で、みかさんはその作られた少女なんですよ。で、主人公は神様としての力をみかさんに預けてただの人間になっていたと。まくあは主人公に恋した(?)悪魔。ところでみかさんに男の手がついていたという話は、そんな話ありましたっけ？唐突に思えてしまいまして。 とりあえず、主人公は結局、未だに恋するということができているんじゃないかと思いました。これまでの作品でみかさんに惹かれている様子ではありましたが、それは単に記憶がなく、自分が作った通りのとびきりの美貌に惹かれていただけだと思います。この後このまま、多少の成長はあったにしても基本的には従順なみかさんにつきあっていても、また、一方的に慕ってくるまくあと過ごしていても、やっぱり主人公は満たされない心を抱え続けていくような気がしてなりません。 そんなわけで、今回はあまり楽しげな雰囲気を感じませんでした。一見するとハーレムエンドに見えますが、主人公自身、最終段落でただの自己満足だとため息をついています、願い事がかなってしまうから逆に虚しく感じてしまう、そんな教訓話のようにも感じられてしまいました。こうしてまた日常が始まる、という終わり方なのでしょうけれど。

作者(見解を押し付けるのもなんだと思うので簡単に) 9/24 4:31	> ところでみかさんに男の手がついていたという話は、そんな話ありましたっけ？ 以下の部分を引用します。 少女は神の求めなら何でも聞いた。 「それにしても・・・みかさんってもう男の手がついていたんだな。ショック・・・」 「誰のせいです！」 「はい。でも、そんなの覚えてないし」
作者(いかん、寝ぼけて裏話&裏設定の部屋という目的を忘れてた) 9/24 5:43	> 主人公は結局、未だに恋するということができているんじゃないかと思いました。 『俺は、みかさんに恋をするために人になったのかもしれない・・・』 とかなんとか、企画段階にあったはずの言葉が抜け落ちちゃってますね。 読み返すと確かに暗いです。 みかさんはパートナーになれる程度に成長し、主人公は想いを受け止められるようになった、という話でもあったはずなのだが。 すみません、実力不足でした。 考えながら思っていたのが、作者って神なんだなってこと。 その作者が、『みかもまくあも自分の言うとおり動いてつまらん』と思うかということ、別にそうではない。 みかもまくあも好きですし、それがあある程度自立した思考を持って3次元に現れたら・・・どうなるんでしょう。
木星/dx 9/24 5:47	宇宙まで連載を続けるとかは考えてないのですか？
作者(そもそも参加できるかどうかもうからないし) 9/24 8:39	少なくともこのシリーズでの連載は考えていません。
わがし 9/25 9:55	> 作者さん、 ねえねえ、おふらは来れそうですか？ 番外編、つくりましょうよう（くどい女）
作者(さり気にその問いかけを待ってたりするが、どうせ無理だと思っている) 9/25 18:2	作品の人気(得票数?)と人望(ここのコメント数?)に対して交通費がつりあうかで決めます。
作者 9/25 18:47	えっと、真面目に受け取らないで下さいね。 念のため。
わがし 9/25 20:51	> 作者さん、 わたしはですね、まくあとお兄ちゃんのいつものからみと、みかさんとお兄ちゃんのさらなるラブシーンを希望します。 ドキドキするのを書いてくださいね！

[TOPへ](#)

夕暮れのひととき

合計ポイント：6 Point
作者：あそびにん LV.2 1
作者コメントは暫くお待ち下さい。

時が――止まった。

……え？ 何、何なの？

自分の置かれている境遇がとっさに理解できない。
あのうるさかったセミ達の声も、
風にそよいでいた木々も、
全てが止まっている。
心臓の鼓動だけがやけにうるさい。

ちょっと、冗談でしょう？

夕暮れの赤く染まった小道。
辺りには誰もいない。
大きく見開いた私の目に映るのは、
固く両目をつむった彼の顔だけ。

そう、私は、彼にキスされている。

ひょっとして、動揺してるの？
……ええ、そうよ。当たり前じゃないの。
いつもの帰り道でいつもの馬鹿話。
それが急に真面目くさった顔しちゃってさ、
「好きだ」なんて突然言われたって、
とっさに反応できるわけじゃない。
しかも、そのままキスするだなんて、
ちょっと強引すぎると思わない？
冷静でいろっていう方が無理ってものよ。

で、実際どうなの？ 彼のこと好きなの？
別に彼のことを嫌いってわけじゃないの。
…ううん、はっきり言って好き。大好き。
ムードに流されてるだけなんじゃないの？
違う！ ……と思う。

本当の本当に？

段々と自信がなくなってくる。

——あれ？

ふと気づく。彼が...震えている？

時間が止まってもなぜだか分かる。

むしろ、確信。彼は震えている。

そうか、彼だって不安なんだ。

赤く染まった彼の顔。きっと夕日のせいだけじゃない。

私の顔も、彼に負けにくいくらい赤く染まっているんだろう。

落ち着け、落ち着くのよ、私。

何を迷ってるの。答えなんて最初から決まっていたのに。

きっと、覚悟がなかっただけ。

私は彼のことが好き。今までも、そしてきっとこれからも。

そうだ、もう...迷わない。彼にちゃんと答えてあげよう。

安心して目を閉じる。

——私達の時間が動き出した。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
Begonian 9/18 11:25	なんですかもう。またキスですか。 多いですねー今回。一体何があったと言うんですか。 でもなんだかんだで、これが今まで読んだ恋愛物の中では一番レベル高いですね。
さむらす 9/18 11:30	純愛ものなのかもしれないけど、ラブコメに見えてしまう。 落ち着くのよ私みたいにいってるあたりが漫画っぽい。
わがし 9/18 18:11	おお、またキスカ！ はやっとなるなあ、若者たちよ。 キスだけでひとつかけるというのが、なんともうらやましい。 いいんじゃないかしらねえ！！
茜 9/19 11:56	キスの最中にうっかり目をあけると、なかなか相手が面白い顔してたりするんですよね。 笑いたくなるのでやめたほうがいいと思います。 というか。 好きって言ったまま答えも聞かずにキスするなんて失礼な！乙女の唇なんだと思ってんですか！その挙句に震えてるとか言われましてもおねーちゃん知りませんっ。 よし、言いたいことは言った。で、作品についてですね。 あたしもちょっとラブコメっぽいかもって思っていました。文体のせいでしょうか。 キスの最中にめっちゃくっちゃいろんなこと考えてますよね。でも、案外ビックリした拍子にこのくらい考えてしまっているのかも。 あと、時間が止まったって言う割りに、心臓なってるし彼震えてるし、スローモーション、くらいがちょうどいいかな。

あそびにん LV.2 1 9/19 18:12	一瞬、赤く染まった小道ってのを見て、この後残虐シーンが続いてると予想してしまったあそびにんは.....やっぱ歪んでるかな？ なんというか.....彼も暴走が受け入れられて良かったね♪ 絶対、強く拒絶されても文句言えないようなことをやってる...。 ご都合主義万歳！
木星/dx 9/22 22:16	私は目なんか閉じませんから。 鼻と口をかぶっとふさいで（案外簡単w）相手の苦しむ顔を見るのが楽しい。 クイズ：どこまでホント？
イッパイアッテナ 9/23 0:29	Good Job!? これは素晴らしいキスですね。 って、違うよ。みな、そこ違うよ。彼、ものすごいフライングしすぎだよ。 なんて、野暮なことを言っちゃだめです。KYですよ、KY。 彼は、”キス”したくなって、いきなりしたらびっくりするから、”好きだ”って告白しちゃったんですよ。 もう二人の関係は”Kiss me if you can”的なところまで言っていて、ただ”つきあっている”という事実がなかっただけなんですよ。 だから、”no time”で彼女も彼のキスに答えることができたんだよ。 という風に自分はこの作品を読めました。 ちょっと、頭冷やしてきます。(本当にいい作品だと、トランスしっぱなしです。)
八剣 9/25 7:14	悪くないとは思いますが、情景描写とか経緯の説明何ぞやっているあたり、違和感を感じます。
わがし 9/25 15:28	夕暮れのひととき、という大きな枠のタイトルより、もう少し、内容に近いタイトルでも・・・っていうと、とあるコラムと一緒にしてしまうのか。残念！ 確かにこの彼は強引だ。私はもっともっとあまーいのが好きです。 見つめあって、言葉でない言葉で話して・・・（仕事しろ）
こかみ 9/25 17:48	何かこういう話だと、コメントに含まれる主観の度合いがぐーんとアップするような気がします。まあ、いろんな人の恋愛観が見えてそれはそれで面白いんですけど。それから、この作品のどのあたりがラブ「コメ」なのか、自分には理解できませんでした・・・。 気持ちが高ぶっているときなどに時間の流れが急に遅くなったりすることはありますが、それが丁寧に描かれていてよかったと思います。シーンとしてはやや使い古された感じが否めませんが、セオリー的な中でもきちんとポイントが押さえられていたかと思います。
茜 9/25 20:16	>こかみさん なんていうか、文体に情緒が感じられなかったのかしら？ そのせいで、あたしはラブコメと勘違い。内容はコメディではないはずなんですけどね。
朱雀 9/25 23:31	ラブコメ感、否めませんね。 べ、別にキスされたって嬉しくなんかないんだからねっ！ ごめんなさい。一回死んできます。 あそびにんさんと同様、私も赤く染まった小道という言葉で残虐なシーンがいろいろと浮かんでしまった人です。 やっぱり、一回死ぬべきでしょうか。
Asagi 9/26 0:13	答えるよりも先にキスしてるっていう暴走がいいなー。若いー。好きー。 だからこそ、そこでびっくりしてる女の子の口調がわざとらしく感じてしまったのが残念。 もうちょっと落ち着いた言葉遣いのほうが、わたしは好きだったかなあ。 あと木星さんはいいツンデレ。
神無月 9/26 0:14	好きだ→キスへの移行が出来る人間にろくな奴いないやい。へーん。 何で皆そんなに自信満々なんだよ！ つーか、不安ならキスは早いだろ！ くそう、大胆の皮を被った小心者の振りをした大心者め！（意味不明） 文章的には、冷静でいようとする彼女のリアリティのなさ、かえって漫画的でちょっと好感。分かりやすさって、時にリアリティに勝る武器になると思うんですよね。 まあ、キスしたことのないもうすぐ20年間彼女なしが、リアリティをかたるのも可笑しい話ですがね。ふっはっは。

鏡を見ている少女のお話

合計ポイント：6 Point

作者：弟子

作者コメントは暫くお待ち下さい。

あなたは信じて疑わない
鏡に映った時計の針は、世界の望む過去を刻むと
それでもあなたは願ってしまう
鏡に映った虚像の針は、二度と帰らぬ未来を示すと

失語の時計が1 2を指した

『
もう演じるのは疲れたから
もう踊るのは飽きたから
あなたは致死的退屈病
ジジの助けが必要ね

箱庭ごっこは楽しかったわ
予定調和で滑稽だったわ
これは儀式
これは生贄
水色の海を背景にして
漆黒の闇を書割にして
嘘に漂い
夢に溺れて
あなたが『ユウ』で
あなたが『レイ』で
人形のエリカを
共に忘れる
あはははははは
あはははははは

でもお父様が箱庭の外へ
あの人形を持ち出したのよ
せっかく作った密室の中から
嘘で頼張る夢の中から
不愉快ね
不可解ね
大切なものは目に見えないのに

目に見えるものは大切じゃないのに
対偶ね
奇遇ね

針は3時と言っていた
』

『
今宵は月が赤いから
昇った月が緋いから
長短二つの針を模し
一緒にワルツを踊りましょう
時代遅れのステップで
左回りのレコードで
真紅の靴を片方に履いて
覚めることない魔法をかけて

さながらあなたはドロレス・ヘイズ？
それともアナベル・リーかしら？
いいえ、あなたは舞姫エリス
もしくは運命、牟礼藻羅

あなたは踊る
あなたと踊る
真円を窓の格子が捕る前に
月影があなたを十字に裂く前に

針は6時と言っていた
』

『
あなたはいつでもこのままなのに
あなたは歪に「代」わってしまう
あなたは憎い
あなたが憎い

山をも穿ち、街を滅ぼし
海を餓死させ、月さえ砕く
全てを喰べて、全てを蝕み
食らい尽して、忘れ去られる
時という名の犯罪者
時は、あなたの、頭の中から
あなたの姿を盗み取る

あなたはいつか、罪を犯す
贖いきれない大罪を
あなたは忘れる
あなたを忘れる
思い出せなくなっていく
あなたは違う
あなたと違う

白く鮮明に消えていく

上書きされるは白い色
全てを隠す虚無の色

時計は9時と言っていた
』

あなたは問う
『《自分を意味する語》』は誰かと
あなたは答える
『《自分を意味する語》』はあなたと

『《自分を意味する語》』は、『《自分を意味する語》』を表現したことがない
『あなた』がいれば十分だから
『あなた』がいれば孤独だから
『《自分を意味する語》』は誰と、思いもしない

時計は12時を

(そういえば忘れていた
魔法というものは、12時を過ぎると解けてしまうんだっけ)

「ほら、ねえ、見て、この時計
ずっと前から、壊れていたの
ほら……………」

最後に、あなたは発見をした
『あなた』に代わる言葉を

『《自分を意味する語》』に替わる言葉を

そうだ、これで納得がいく
あの人形も
お姉さまも
『自分』も
全部

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
あそびにん LV.2 1 9/18 15:35	1 0 0 0 字と別にそう長いわけでもないのに、なぜだかおなか一杯。多分、こういうのは整合性を求めようとしちゃ駄目なんだろうね。雰囲気飲まれていく感じを受けた。もう、なんか圧倒されちゃう感じ。 ただどうしても気になったのが、針は○時と言っていた の部分、絶対に『』から外に出した方がいいと思う。あそびにんが読むときって、大抵脳内音声がいろいろと読み分けてたりするんだけど、針は○時の部分を『』内の台詞（のようなもの）と一緒に雰囲気で読むのはやっぱり強烈に違和感を感じるかな。
茜 9/18 19:5	なぜ、ジジ。（めいっぱい引っかかってしまった） いや、すごい。確かに空気に圧倒されていく。マザーグースみたいな感じかも。面白いなあ。・・・面白いけど謎だなあ。えーとえーと。うん。あとで時間があったらじっくり考えよう。他の作品と多分繋がってるんでしょうし。 最初の過去と未来は意図的に逆なんですよ。普通なら、望む未来、帰らぬ過去、だと思うけれど。なんとなく、この辺から鏡っぽいものを感じたりもしました。
鞆鞆 9/19 12:7	私は納得がいきません。 全部。
E i s e n 9/20 2:35	意味を込めたように見せかけて実は何の意味も無い妥協の産物。と、心の底から沸き出でた狂おしき衝動の産物。が、美しからず入り混じっている。そう感じました。
He 9/20 22:41	『』の中が二人の人物の対話に見える。そこに交わされる謎かけのような言葉がどこか心地よく感じた。 いくつかの単語から前回のとある作品が思い出されてしまうのだけれど...
さむらす 9/21 15:30	ぼくもEisenさんに同意ですなあ。 いままでだしてきた登場人物の名前だして美しくまとめるふりをしてるんじゃないかと思ってしまった。 ただ、時という名の犯罪者のくだりは好きです。むしろ、ぼくにその部分ください。

イッパイアッテナ 9/24 1:16	> 時計は●時と言っていた なんで、』の中にあるんだろう。 外にあったほうが納まりがあると思うんだけど。 自分もEisenさんと同じように感じた。 なんか、頭の中に沸いた言葉を適当に並べただけかと。 まあ、当に適うように並べたから、意味は通じそうな気がするけど。 読者の目を回させて作者が楽しむのが目的の作品なのかなあ。 評価は低め
モデナ 9/24 2:57	とりあえず自分にはさっぱりです。 でも最初の部分だけ好きかな！！なんかカッコいい。
木星/dx 9/25 3:16	嘘だね（半分褒め言葉）
『筆者』 9/25 4:29	嘘だよ
わがし 9/25 15:14	わたしには難しい……。うーむ。理解力のなさをなげきます……。
こかみ 9/25 18:24	もしこの作品がEisenさんの言う通りなら、理解力などいくらあっても足りないんですけどね。 個人的には、韻律が効果的に使われていたのが気に入りました。内容についてはあまり深く考えない方が、作品の雰囲気味わえて良いと思います。

[TOPへ](#)

今週のお題

開催中：時

投稿受付中：投稿受付期間外

Column Land

■最終セッション結果発表！ 作者コメントをお早めに。
■オフラインセッションは土曜日16:00西9の607。作品「風」の投稿は前日17:00までです。くわしくは掲示板370へ。ただいま風速3メートル。

コンテスト会

コラム掲載ベ

コラムアーカ

プロフィール

自己プロフィ

BBS

まじょコメン

.....だが、時は流れる

合計ポイント：5 Point

作者：一分間

作者コメントは暫くお待ち下さい。

注：この作品は、3000字を超えています。
申し訳ございません.....読んでくだされるのであれば、ご覚悟を。

私は小学校の、一番教卓に近い.....いわゆる、最悪の位置にある席に座っていた。
周りからは拍手と冷やかしの声があがり、それはなんとも、無邪気な盛り上がりで――

「はい！じゃあ学芸会の、ピーターパン役は桜井くん、ウェンディ役は小中さんに決まりました！みんな拍手～！」

（＊）

『地球』は、密かに観察していた。
彼は悩んでいた。意識を持つこと、それはすなわち、過ちなのではないかと。
それを確かめるために、彼は一つの実験を試みた。
そうそれは、現在という世界に縛られてしまった者たちに、
自意識の確立していない、過去の姿を思い起こさせ、
それでもそこに立ち止まる気概があるかどうかを試すというものである。
そのために彼はある男女の中から、過去の象徴を取り出し、それを己の振動の中に組み込んだ。
そうして作られた独特の波長.....これに共鳴したものたちは選択を迫られる。
彼らはネバーランドの入場券を渡される。それは楽園ともいうべき、魔法の国。
ただ、そこに入るために肉体などは必要ない。
地球という波長の中で、さながら電脳というバーチャルで生きるかの如く、振る舞えばいい。
そして、人類がその無限なる夢幻を選択したとき、地球は意識を断つことを選択する。
そのためには、地球は自らの中に形成されたネットワークを破壊しなければならない。つまりそれは――

（＊）

「.....あなたたちは、何？」
膝をついたまま、震える声で尋ねた。
がらんとした体育館に、私の声が響き渡った。
『ぼくたちは――かたまりさ』
『あなたが時の流れの中で.....世界との軋みの中で.....変えてしまったもの、そのかたまり――』
ゆっくりと子供たちは、歩をこちらに進めてきた。

私は腰がぬけて、立ち上がれないでいた。

『世界は苦しみをもたらす』

そのとき、私の右手を桜井くんが、ガシッと掴んでくれた。

『誇りを踏みにじり』

「小中、しっかりしろ！」

私はその手に支えられ、ゆっくりと立ち上がる。

『愛を歪め』

「桜井くん、あの子たちって……」

彼はゆっくりと頷いた。やはり彼も気づいていた。

『絆を手放し』

彼はそのまま相手を睨みつけた。

ピーターパンを模した、かつての自分を。

『夢を失う』

彼の手には、力強い温かみがあった。あったのだけれども……

……けれどもその中に、私は一かけらの冷たさを感じた。

『そう……君にもあるはずだ。小中翔子』

「あ……」

私は思わず、手を離してしまった。

「……小中？」

私は彼の、左手を見てしまった……気にしないよう、
努めていた——薬指に輝く、銀色のリングを。

(＊)

「小中？ どうしたんだ……？」

『俺さ……今度、結婚することになったんだ』

ハッ！として周りを見渡すと——そこは体育館ではなかった。

それなりに大きなパーティの会場、それは、一週間前の、同窓会の一コマだった。

ぼくたちの前にはそれぞれ、一週間前のぼくたちがいた。

『そうなんだ……おめでとう！』

小中が微笑んで、祝福してくれた。

(……私ね、まだね……)

「……！？」

そのとき、耳の中に声が響いてきた。

この声は……

「や、やめて！」

そのとき後ろにいた、本物の小中が叫んだ。

(桜井くんのこと……)

「いや、聞かないで！！」

(……好きだったんだよ？)

「いやあああ！！！」

…そして小中の体から力が抜け、その膝が崩れるのと同時に、
ぼくたちはあの、寂れた体育館の中に戻った。

(*)

『そう……君の想いは消えてしまった』

『踏みにじられ、彼はいつしか二度と届かない存在になってしまった』

『彼の心を、再び手に入れても』

『その先に待つのは、醜く歪んだ背徳の世界』

頭の中に、鋭くその言葉は突き刺さった。

「……！……！」

桜井くんが何かを言っているが、私の耳には届いていなかった。

……彼には、聞かたくなかった。

自分が未だに、彼を想い続けていたということ。

『でも、ぼくたちの中には確かにあるんだ』

『汚れないですむ、純粋な恋が』

私はいつしか、子供たちの声に囚われていた。

『だから、君たちは——ぼくたちを認めてしまえばいい』

『そうすれば、もう一度……』

私はその甘美な誘惑に——

「——小中！！」

ハッ！として目を覚ますと、桜井くんが私の顔を覗き込んでいた。

「……桜井くん……いや……私を……見ないで……」

目から涙が溢れてきた。

桜井くんはその言葉を聞くと、少し悲しそうな顔をして……

……そして、真っすぐな目で、私を見つめて言った。

「なあ小中……最後に俺たちがあった日、覚えてるか？」

家が引越しすることになって、お前がわざわざ見送りにまで来てくれたとき」

「え？」

「俺、なんだかやけに悲しくなって、

好きな女の子の前で泣いちゃってさ……あれはみっともなかったなあ。

……それでな——」

(*)

そのとき、私たちは再び体育館から移動した。

そこは団地の駐車場で、小さな私たちは並んで、ちょこんと座っている。

『なんで泣いていたの？』
『……泣いてない』
『……嘘』
『嘘じゃない』
『……違う学校行っても、元気でね』
『……どうだろ』
『……星が、綺麗だね』
『うん』
『……星って、ずーっとずーっと昔の光が、地球に届いてるんだって』
『……ふーん』
『私、なんだか安心する。
ずーっと昔でも、こうして私たちを照らしてくれるんだなあって』
『……』
『……だからさ、大丈夫だよ。きっと私も、桜井くんも、今のことずーっと、忘れないで——
——この時間も、きっと大人になったときも、輝いてるよ』
『……うん』

私は、桜井くんの横顔を見つめた。

「俺は、ある人と結婚する……それは、今までの俺の思い出……
その思い出が、俺の道を照らしてくれたからなんだ。
そしてその思い出の中でいつも、最も強く照らしてくれたのが、小中なんだ……
俺はそんな君に——あいつらなんかに、負けてほしくないんだ！」

桜井くんは、とても一生懸命だった。

その言葉に、私は胸が熱くなった。そして、涙を拭くと……

(*)

……先には、私たちの「過去」……その姿を、借りたものがいた。

『どうしてだい？ その男は、君の純情を——』
彼らは無表情に、私たちを見た。
「違う！ 駄目だったのは、私の方。
過去は縛り付けられるものじゃない。
歩いていく先を迷わないように、今を照らすためのものなの！」
『だけどその照らされた先には、世界という大きな軋みが待ってる』
「本当に怖いのは軋み、それ自体じゃない。
それにビビって、前に進まなくなることだ」
『……大人め』

彼らは始めて、感情らしい感情を出した。

「……おまえたちは、子供なんかじゃない。
おまえたちは、失ったものこそが、すべてだったと思わせる何か、
……二度と手に入らないものに、もう一度手を伸ばせると錯覚させ、
人を騙すペテン師——俺達よりも、よっぽど大人じみてる」
『！！ 違う、ぼくたちはピーターパンなんだ！ いつまでも……』

……そのとき、周りの子供たちに変化が起こった。

『……友達じゃなかったの？』

『友達じゃ……なかったんだ』

一人、また一人と、彼らの姿は薄れていき……やがて、消えていった。
二人になす術はなく、ただ消えていくのを見ているだけだった。
そして、彼らは私たちの方を向いた——その目には、諦めが宿っていた。

『……君たちはどうして、前に進むんだ……どうして……？』

彼らの輪郭もぼやけていく。

.....彼らの最後の疑問には簡単な、だが、とても漠然とした答えがあった。

「それは.....私たちが、人間だからよ」

その言葉を聞くと、彼らはキョトンとし.....そして、無邪気に笑いながら、消えていった。

(＊)

...私たちは帰り道、互いの思い出話に華を咲かせた。
いつまでもこんな時間が続けばいいのにな、とも思ったのだけれど、
やがて、別れの時はやってきた。
私は車から降りると、運転席側にまわって、彼にウインドウを開けるようジェスチャーした。
彼が言われたとおりにウインドウを開けると、私は一呼吸を置いて、そして想いを伝えた。
「ねえ、桜井くん.....私ね、桜井くんのことが好きだったのよ」
桜井くんは少し驚いた顔をしたあと——微笑みを浮かべた。
「.....うん、俺も、好きだったよ」
クスクスと、しばらく私たちは笑いあった。
それは昔の.....戻らない、でも、いつまでも忘れない、思い出からのメッセージ。
「じゃあ」
「うん」
彼が去った後、私は何気なしに空を仰いだ。

——満天の、星空だった

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
さむらす 9/19 0:38	ううむ。壮大な世界のわりにただの恋愛話なんですね。 最初の二人はでてこないんですね。
あそびにん LV. 2 1 9/19 13:28	思い切って3000字。もはや、完結させるためだけに作った品... ある意味、思い切りがいいとも言えるけど、ある意味放棄とも.....。
	連作の総括としては、割と好きかも。ただ、ところどころ伏線を回収してないと言うか、謎が残ってるところが残念。
	最初のコーヘイとユイは導入編みたいなものでしょう。一番外堀から始めるってのは割とよくある手法。まあ、せめてどこかでちらっとでもいじって欲しかった気はするけど。
	で、インターネットの回が一番謎。 地球がなんで実験前にやるべきことを示唆してるの？ 　というか、その実験自体は前から進めていたのでは？（コーヘイとユイとか...ひょっとして、ほとんど同時？） で、一番気になってるのは、電話って何だったの？ 結局、触れられてない気が。
	まあ、どうしてこの二人かってのはこの際いいや。ご都合主義万歳。
	それを除けば割といい纏め方だったと思う。 桜井くん、よくうまいこと言い訳したねとか思ってしまうのは、あ

	そびにんがきっとどこか汚れてしまっているから。 > さむらすさん 壮大なものほど、案外できっかけは小さなものだったりすると思うけどなあ。あそびにんは悪くないと思う。
さむらす 9/19 18:42	もう、作者ばれどころの騒ぎじゃないから、作者さんとの対談にしましょうよ。 雰囲気はいいと思うのですが、地球って名前出したのがあんまきいてないかなあと思ったのですよ。
作者(まあ、ほらやっぱ便宜的にですね) 9/20 23:30	どうも、相変わらず字数オーバーしまくりの作者です。 いろいろ思うことはありますが.....とりあえず質問に答えようと思います。 > コーヘイとユイ これは導入部、でも少しは触れた方がよかったですよね。 > インターネット 実験前にやることを示唆したのは、ピーターパンたちと、小中たちを引き合わせるためです。 コーヘイとかユイとかは、実験の前段階で、地球が最終的な判断を下すには、最後に地球が生み出した、ピーターパンたちが小中たちを消す、必要があったわけです。 ただ.....地球は過去のデータを使って、子供の小中たちを作ろうとしたわけなのですが..... 他の実験のため、ピーターパンは「大人」となってしまっていたわけです。
ばっは 9/21 6:54	3 0 0 0 字でいききった作者にアップレ。 自分のポリシーを前面に出した心構えはいいですね。でも斜体は読みにくい。ものすごくいいテンポで字数を感じなくする展開なのに失速させられました。字数制限とは長い作品をOKにするとただらだと読みにくいのが増えてしまうことを懸念しての予防線だと思うので、こんな感じならいいと思いますけどね。昔読んだ憐を少し思い出しました。
ルンタッタ～ 9/21 19:8	壮大な口マンス、すごすぎる。
イッパイアッテナ 9/24 1:36	ああ、いい。 安易に恋愛を答えにもってこないというのが、コラムランドの中では新鮮で自分は好きです。 そだよね、恋愛って腐るもんじゃないよ。人に恋してふられて、それは負の感情を伴うかもしれないけど、けして負の感情にとどまり続けるものじゃない。 なんだ、こういう普通の作品というか感覚をもった人もいるんだと安心できました。(いや、別にほかの失恋系の話を否定するわけじゃないんだけど、粘着質すぎて自分は嫌い。)
結政 9/24 13:12	まあ、字数については何もいいません。 とても読みやすかったです。あまり長さを感じさせないなと。 ただ、これなら、掲示板に上げてよかったんじゃないかなあ。 無理にこの場で終わらせる必要もなかったのでは？ ちょっと残念です。
木星/dx 9/24 14:3	これは、サクサクっと読ませるより、劇として上演すれば面白いのでは。子供から大人まで楽しめると思います。
Eisen 9/26 1:29	確かに、学園祭の劇とかでやったら絶対にステキです。 台詞＋ト書き、という構成がより劇っぽい雰囲気を出している。 高校時代の学園祭を思い出しました.....。 (時代劇ばかりやっていましたけれど)

今週のお題

開催中： 時

投稿受付中： 投稿受付期間外

Column Land

- 最終セッション結果発表！ 作者コメントをお早めに。
- オフラインセッションは土曜日16:00西9の607。作品「風」の投稿は前日17:00までです。くわしくは掲示板370へ。ただいま風速3メートル。

コンテスト会

コラム掲載ペ

コラムアーカ

プロフィール

自己プロフィ

BBS

まじょコメン

「うん、じゃああと10分くらいで着くから」

合計ポイント：5 Point

作者：老若男女

作者コメントは暫くお待ち下さい。

「うん、じゃああと10分くらいで着くから」

今日も満面の笑みだね。いつもそんなに笑ってて顔びくびくしてこないか心配だよ。

今日私の誕生日だけど、毎年ウケ狙ってるのか何なのか知らないけど、わけわかんないものばっかくれるよね。

去年のほら...あれ、何だっけ？植木鉢からおじさんの顔出てるやつ。あんなのどこに置けっというの？おとしだってそう。アロマが欲しいとは言ったけど、エッチな気分になれる香りって...こんなのでエッチな気分になんかなんないし。ってか、アロマじゃないし...

そんな必死に笑わせようとしなくても、私はあなたというだけで笑顔でいれるんだから普通のもの、プレゼントしてくれていいんだよ？照れくさいとか何かとか言うけどさ。去年の約束覚えてる？来年こそは私が欲しいもの絶対プレゼントしてくれるっていう約束。何気にチョー期待してるんだから、わかってるよね？私が一番欲しいもの...

今日はいつもより早起きしたの。あなたから電話がかかってきたら、すぐに出られるようにって。メールも電話もくれなくて、もう1年近く経つけど、今日こそは連絡くれるよね？

いつも言ってるでしょ、待つの嫌いだって...

浮気？浮気ならばれないようにやってよね。浮気みつけ次第即別れますから。

ってか、笑ってないで何とか言ってよ。聞してるの？人がこんなに会いたくてたまんないのにさ...一緒にいたい。あなたの甲高い声聞きたいの...いつもはうっとおしかったあなたのいたずら、楽しみにしてるの...どこにいるの？どこに行けばあなたに会えるの？ねえ...

あと10分で着くって言われてから、もうすぐ1年だね。嘘ばっかつくあなただったけど、人のこと待たせすぎだよ。写真に話しかける私のこと、クローゼットに隠れて見て笑ってるんでしょ？死んだなんてうそでしょ？もういいじゃん、出てきてくれたって...

今日、誕生日なんだよ？私、まだ待ってるよ。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
さむらす 9/18 12:31	う～ん、愛を語るのにどうしていちいち人を殺すのだろう。 彼が死んでから一年後ってこんなふうなんでしょうか。
わがし 9/18 16:44	うーん、死んじゃったのか・・・。 一年っていうと、まだそれには触れたくないという感じですよねえ。どうなんだろう？
RiZEL 9/18 19:4	最初の方でオチが読めてしまったので・・・。 雰囲気は良いのですが、どうしても「またか・・・」と感じてしまいました。
茜 9/18 19:43	> エッチな気分になれる香り めいっぱい笑えない気がするんですがこのプレゼント。なんか怖いと思ったのはあたしだけ？ あたしも前半くらいでオチが読めてしまって。この台詞、なかなかいいなあ、とか思ってたんですが、ちょっと残念。 > 1年 立ち直る人は立ち直っちゃうみたいですね。 薄情とかそういうわけじゃなくて、1年もあれば、いろんなことが起きたりもするんですよ。その中で、気持ちの整理もついていくみたい。 ここまで立ち直れないのは、よっぽどだと思います。
ほろほろ 9/19 14:47	う～ん、愛を語るのにどうしていちいち人を殺すのだろう・・・・・・・・・・。
鬼 おん 9/19 16:42	「死ねば感動する」はチープだということを肝に銘じるべきでしょうか。 よほど自信がない限り死にオチは避けるのが無難でしょう。
あそびにん LV.2 1 9/19 21:56	うーん、やっぱり死んでたか...なんとも。 植木鉢からおじさんの顔ってのはものすごく気になるとして、エッチな気分になれる香りに対して、私の突っ込むところはそれでいいのか？ その感覚からなんか怖い。 10分でつくって言われてから1年間待ってるって、あそびにんの的には事件に巻き込まれて失踪なんかの方がしっくり来るなあとか。どの道、もう会えないことには変わらないんだけど。
Perseus 9/22 0:41	題名見てこういう落ちだろうなァとは読みました。 にしても、最近はみんなこんな話好きですね。 彼との思いで部分は独創的だったけど
さむらす 9/22 2:57	ちょっと思ったのですが、なんだか無理して女性言葉使っているのか、少しおかしいところありますよね。 二十代後半くらいの設定なのに、一昔前の女子高生みたいな口調が少しまざってる気がする。 実は女性作家だったりしたらおもしろいな。
イッパイアッテナ 9/24 2:25	や、ヤンデ..... ふう、思いとどまることができた。 どうなんだろう？大好きな人を失ったら、一年たっても再起不能なくらいに病んでしまうものって、物語の上ではけっこうべただけど、現実でもそうなのかなあ。 (ふられて一年以上引きずる人がいるから、たぶんそうなのかもしれないけど。) とりあえず、作者さんが”ヤンデレ”を描きたかったんならとても成功していると思う。
さむらす 9/24 2:58	> アッテナさん 耐えてないから。姫よりさきにツッコミをいれてみる。
弟子 9/25 2:57	王子様の現れなかった白雪姫はどうなると思う？ 七人の小人に囲まれて永遠に美しく死んでいくんだよ

のろろ 9/25 16:51	雰囲気がよくて好きです。
イッパイアッテナ 9/25 18:42	>でしさん そなの？ あれは別に若さは保存されないんじゃないの？
colt 9/25 21:47	ずるい、の一言。 僕は、人が死ぬ話には弱いのです。元々涙もろい上、例えどんな文章でも、登場人物たちの気持ちを想像（妄想）してキャラに入り込んで、その悲しさ・辛さにウルルときてしまうわけで。 本文に対する評価は低いです。 ストーリーは陳腐だし、主人公の抱える様々な感情を描ききれておらず、非常にありがちな作品だと思います。 しかし、それでも感動してしまいました。 やはり、人が死ぬ話はずるいです。
blue-orange 9/25 23:22	ありがちな話だと思いました。でも、嫌いではないです。
ねがいびと 9/26 1:10	私は題名からは推測できず、最後の最後まで展開が分かりませんでした。2段落目が切ないですね…。
otacom 9/26 8:44	いい雰囲気です

[TOPへ](#)

輝く炎

合計ポイント：5 Point

作者：結政

作者コメントは暫くお待ち下さい。

鮮やかに過ぎ去る時を
じっとここで眺めている

人々はその火を
別のろうそくに移しながら
静かに消えていく

新たに生まれた火は
また別のろうそくに火を移しながら
長い長い連鎖を作っている

時の川に浮かんでいる灯籠は
それぞれの色に光りながら
一枚の絵を描きつづけている

ここにいるすべてのものは
遠い時の中で朽ち果ててしまうけれど
そこで輝いていたことは
永遠に消えない事実だから
そこに居た時間に誇りを持って
そこで輝き続けていて

やさしく描かれた時や
狂気が描かれる時もある

色の数も違う
川幅もずっと広がりながら
まだまだ流れていく

僕はただここに居て
壮大な絵巻物を眺めているだけだけど
どんな色ができるのか楽しみなんだ

一つ一つの模様には
それぞれのドラマがあって
すべては等しく光り輝く

ここにあるすべてのものは
遠い時の中で朽ち果ててしまうけれど
何かを演じてたことで
生まれたドラマがここで輝くから
そこで演じた自分に自信を持って
時の絵に模様を残して

ここにいるすべてのものは
遠い時の中で朽ち果ててしまうけれど
輝いていた火の色は
もう二度と現れはしないのだから
ともされたその火に自信を持って
あなただけの色を刻み付けて

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
茜 9/18 19:10	ドラマってことばが、ちょっと浮いてたかも。物語、とかの方がよかったのかなあ、この雰囲気だと。 > 遠い時の中で朽ち果ててしまうけれど > 輝いていた火の色は > もう二度と現れはしないのだから この部分の理論展開がやや謎でした。「もう二度と現れはしないのだから」ではなく「たった一度のものなのだから」だったら、納得できたかなあ。朽ち果てたら二度と現れないの当然だろうって感じだったので。 前半部分と後半部分、少し雰囲気にギャップがあるように感じて、あれ？っと思ってしまったのですが。あたしは前半部の雰囲気が好きでした。
jabberwock 9/19 14:26	「僕はただここに居て壮大な絵巻物を眺めているだけだけど」とありますが、僕の存在は「すべてのものから」離れているのですね。茜さんの言葉を借りると僕が『浮いている』。「ドラマ」とすることによって外側にいる僕が強調されている気がします、何か悲しさを感じました。
あそびにん LV.2 1 9/19 18:58	これ、歌詞のつもりなのかな？ 1 番、2 番、サビ繰り返してみたいな。 誰か、曲作れる人、伴奏を作ったりしないかなあ（他人任せな期待） ドラマは確かにちょっと浮いてるかなあ。絵巻物って言葉があるくらいだから、物語とかの方がいい.....のはあるけど、多分字数の問題なんじゃないかなあ？ 他とのバランスみたい。歌なら 2 文字程度何とかならんこともない気がするけど。
わがし 9/19 19:31	言いたいこととてもよくわかります。私には響くなあ。人生色々ですよ。それでも精一杯がんばろうねってことだね。 感情移入したので、あまり些細なことが気になりませんでした。
ばっは 9/21 7:8	雰囲気とかは好きでした。でも、序盤の流れから、後半で僕みたいな人称やドラマみたいな外来語は入れてほしくなかったかな。特にドラムは二回使ってるからそこがもったいないと思いました。 いっそのこと > まだまだ流れていく で閉めくくてもよかったかも

さむらす 9/21 15:39	綺麗でいいとおもうのですが、やっぱり最後の一節はいらないように思われた。 時を見守る神みたいな設定のぼくさんが、自信を持って～など言うのはおかしいのではないかな。
ルンタッタ～ 9/21 19:9	火と時、なるほどと思いました。
えむえむ 9/21 22:33	「ここにあるすべてのものは遠い時の中で朽ち果ててしまうけれど 何かを演じてたことで生まれたドラマがここで輝くから」ですか・・・ちょっと感動。今をしっかりと生きることが大事なんだよね！
イッパイアッテナ 9/24 1:43	生命を蠟燭の日に例えるって、けっこうよくみかけるのですが、そのありきたりな表現をうまく用いて作ったいい詩だと思います。 奇抜さが無い分、それをいいなあって思えるだけの優しさを自分は感じ取れました。
He 9/24 19:50	『時の絵』の描写がいいなあとと思いました。 たくさん色や線があって、その微妙な加減が一つの絵を作っているというイメージは好きです。
弟子 9/25 4:8	ろうそくの炎で一番温度が高いのは外炎 外炎は色がついていない、透明 小学校以来の知識をふと思い出した
やまのかめさん 9/25 23:7	あそびにんさんが仰っているように、歌詞みたいになっているんですね。分量の配分がよく整えられていて感心させられてしまいました。 内容も悪くはないのですが、一巡目が詩的な雰囲気です。醒めた視点からの綺麗な描写であるのに対して、二巡目は「僕」の個人的なメッセージのようで、ややくだけたような、軽くなった印象を受けてしまいました。せっかく蠟燭の火や時の絵といった題材で情景を綺麗に構成してきたというのに、例えば特に「そこで演じた自分に自信を持って」の句など、平易で直接的に過ぎ、陳腐に感じられてしまいます。言葉の選び方にもう一工夫できなかったかという気持ちが抑えられませんか。
橘 9/26 0:33	灯籠流し...最後に行ったのは何年前だろう?(・・;) 次の世代が炎を受け継いでいく。 人が生きるって、終わりのない聖火リレーなんですね。 他の炎と一緒にあったり、すべてが違う炎である。 ちょっとスゴイことですね。 細かいことを言わせて頂くと... みなさんの言うとおり、歌詞調のコラムになってるみたいですが、 ちょっとサビの部分がくどく感じられました(+ +;) 割と長めの文を何度も繰り返しているの、 ちょっとそこだけ重かったように感じられました...

[TOPへ](#)

私は砂。

合計ポイント：4 Point

作者：鞆鞆

作者コメントは暫くお待ち下さい。

不定期に訪れる安定の崩壊。私達は安定を求めて動き、安定の崩壊が連続しでもしない限りにおいては、一定の周期で再び安定へと帰る。

私は、あの世界から零れてしまった。なぜ、どうして、どうやって。疑問は尽きないが、考えても詮無いことだ。どうせ、私には分からないのだから。ただ一つ言えることは、ここはひどく安定していて、そしてまた、私がかつて存在していた世界がよく見える場所だった。

彼らはやはり、かつての私と同じように、不定期に訪れる安定の崩壊と、そこからの一定時間での安定を繰り返す生活をしていた。私一人欠けても、なにも変わらない。なにも問題はないと、私に見せ付けるかのごとく。いや、これは私の考えすぎに違いない。この場所からは、あの世界がよく見えすぎるのだ。

かつての私は、自分がどのような役割を持っているのか、理解してみようとしなかった。ただ、時折訪れる不安定期に、一刻も早く安定へ向かおうと必死だったことは覚えている。漫然と過ごす日々。そこに意味など、ありはしなかったはずだ。

けれどもここから見ると、彼らの必死さは薄れて見えた。彼らの一人ひとりが、何に必死になっているのか、もはや、かつてはあの場所にいた私にすらも、透かし見ることはかなわない。

結局のところ、彼らは利用されているに過ぎないのだ。私は、利用されていたに過ぎないのだ。

余りに安定しているこの場所では、時の流れなど、あってないも同然のものだった。しかし、進んだ時が戻るということは決してありはしないのだ。

そう、時の砂をばら撒いても、あの頃には戻れない。

私がもしも今、あの世界に戻ったら。私はかつてのように、安定を求めて必死に動くことが出来るだろうか。あのごく狭い世界を成り立たせているシステムそのものを俯瞰してしまった、今でも。

そのようなことを考えながら、私は、一瞬の刻ですら永劫に等しいような、安定し切ったこの場所で、誰に気付かれることも無く、一人朽ちてゆくのだ。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
茜 9/18 17:36	> 時の砂をばら撒いても、あの頃には戻れない。 なんだろう。この一文、妙に浮いて見えました。 なんだろうなあ。この、孤独な感じ。うまく言えない。 本当は戻りたいのかも知れませんが。あの中に。何も知らずに利用される、有象無象に戻ってしまいたいのかも、しれません。
RiZEL 9/18 19:58	孤独な傍観者的な世界観は非常に好きですが、表現したかった物が何なのか、が少し見えてこなかった感じがします。 > そう、時の砂をばら撒いても、あの頃には戻れない。 ここでドラ○エを即連想してしまった僕はアウトでしょうか。
あそびにん LV. 2 1 9/19 10:49	私は砂。ってタイトルから、そうか、私は砂なのかって思って、公園の砂場とかそういう感じかなあと思いながら読んでいたけど、時の砂で違う気がしてしまった...。 でも、考えれば考えるほど、私は砂ってタイトルから砂じゃないとおかしいよね。時の砂を出すのが間違いなのかな、きっと。砂が砂使うから不思議な気がするんだ。 一応、最初に考えてたことを言うと、たとえば砂場で山とか作ってたときに、何かの原因で表面が崩れたりすることが不定期な安定の崩壊。それでも、何らかの形で安定する。私の立ち位置ってのは、もう既に崩れて砂場と同化してしまったような場所なのかなあ...我ながら、ものすごく読みが浅そうな気が.....。 > RiZELさん ばら撒いて時が戻る時の砂はドラ○エでいいのでは？ きっとセーフだよ！
key 9/19 11:47	> そう、時の砂をばら撒いても、あの頃には戻れない。 すみません、私も某大型RPGを思い出しました...orz 3だっけ、時の砂って...4？ 抽象的な雰囲気はなかなか好みます。 あくまで個人的な好みではあるのですが、タイトルの「。」が浮いているかなあ、と...
茜 9/19 13:4	> keyさん たしかに。「。」はないほうが私も好きです。ちょっとポップな感じが出てしまうように感じたので。 たぶん、これは、心なのかなあ？って思いました。心って一つのまとまりじゃなくて、もっと小さな心のカケラみたいなものの集まりって感じに捉えたもののように思いました。 時折揺さぶられるそのたびに、「いつものじぶん」に戻ろうと必死になる。そんな中で、ふと、心のカケラをこぼしてしまって、何かが確かに欠けたのに、それでも人って、なんでもない風に生きていくものだし。 あたしが感じたのは、そんな感じです。
kiku 9/19 21:44	砂時計における砂？ 現時点が下部で、上部を『俯瞰』している状態なのかなあ。 # 記憶力の弱い娘なんでもないっす。
さむらす 9/21 15:43	結局のところ～の文って何を意味しているのでしょうか。ぼくにはこの一文はいらないように思えます。
さむらす 9/22 3:0	全体的にはこの作品好きです。

木星/dx 9/22 3:48	「。」は目印に使ってる可能性もあるんじゃないかな？ (これが私の作品です。セットになっているのです)みたいな # 作品については後ほど
作者 9/22 5:50	すいません、どうしても気になったのでこれだけは言わせて下さい...。 > 木星/dxさん 真似しないで下さいっ！ タイトルの「。」についてはコンテスト終了後に作者コメントで語ります。
RincO 9/22 22:3	いたるところの表現が好きです。 悲しい作品だけど共感できるかな。
木星/dx 9/22 22:7	> 作者さん すいません、どうしてもやってみたくなくて...。 何となく、真似してみたくなる文体なんですよ！ 失礼しましたm陳()謝m
イッパイアッテナ 9/23 16:30	砂時計の中の砂が零れおちてしまった？ そんな擬人系コラムと読んだのですが、違うみたいですね。
木星/dx 9/24 6:46	わかるようなわからないような。 > 時の砂 ピンと来ない。 で、「私は砂。」なわけだから・・・ 私は<時みたいなもの>になっちゃったのかな？ 時・・・安定しているとも安定していないとも言いようのない概念 > 安定し切ったこの場所で と言いながら、心は揺れているようで。 要するに<煮ても焼いても食えない、砂のようになっちゃった私です>ってことかな？ ならそんな感じは出てますね。でも・・・ > 一人朽ちてゆく 砂は朽ちないからなあ・・・ > 一瞬の刻ですら永劫に等しい なんて言ったばかりだし、ここは別の表現の方がよかったかも。 いやでも・・・ 砂になりきったわけではないのかも。 私 = 砂 +。(だったりして)
カケラ 9/24 14:24	「私」が原子力発電の放射性廃棄物に思えました。 雰囲気良いのですが、分かりにくい。もう少し具体的な文が欲しいです。
こっくん 9/25 13:18	雰囲気や文体は大好きなのですが、細かいところを考えるとわからなくなってしまう・・・。 「私」はいったいどうなっているのでしょうか？

今週のお題

開催中： 時

投稿受付中： 投稿受付期間外

Column Land

- 最終セッション結果発表！ 作者コメントをお早めに。
- オフラインセッションは土曜日16:00西9の607。作品「風」の投稿は前日17:00までです。くわしくは掲示板370へ。ただいま風速3メートル。

コンテスト会

コラム掲載ベ

コラムアーカ

プロフィール

自己プロフィ

BBS

まじょコメン

極限の一撃

合計ポイント：4 Point

作者：神無月

作者コメントは暫くお待ち下さい。

その時、高校3年生。人生で初めて経験した新空手——グローブ、ヘッドギア、スネ当てを用いた空手。寸止めではない上顔面への打撃も禁止されていないため、K-1空手とも言われる——の試合前は、がちがちに緊張していた覚えしかない。

新空手の試合は3分間。KOをとれなければ、判定で勝敗が決まる。先生からのアドバイスは、とにかく前へ出る。判定で勝つためには、自分が相手より攻めていたという心象を、審判に与えなければならないからだ。

言われた通り、試合開始の瞬間から、ひたすら前に出て殴り続ける。もちろん、相手も攻めてくるが、普段の練習は先生との組手が中心だ。いつも異常に重い打撃を食らっているため、打たれ強さは自信がある。しかし、緊張で体に無駄な力が入っていたため、思うように攻撃が出せず、攻めはおろそかになった。しっかりした打撃が決まらないうと、判定にはほとんど影響しない。お互いに決定打がなく、時間はただらと過ぎて行った。

2分ほど、過ぎた頃だろうか。相手が放ったフックがこめかみを直撃した。ガード出来るレベルのパンチだったが、疲労していた僕は自分の頭をかばうことが出来なかった。弾かれるような衝撃に視界がぶれる。ヘッドギアとグローブに守られた頭部には、痛いというより不快と称したくなる感覚が巻き上がる。たまらず後ずさりしたときに、先生が叫んだ。

「下がんな！ 行け！」

その声は、僕の耳に届いていなかった。集中力は音を消す。ましてや、打撃をもらってフラフラだったのだから、無理もない。しかし、後で聞いた話によると、先生の叫び声とほぼ同時に、僕はハイキックを放っていたらしい。

ある程度力が入ったパンチを頭にもらうと、一瞬思考が出来なくなる。そこで出てくるのは、普段練習して体に染み付いた動きだ。僕は以前から、ガードして一歩下がってハイキック、というコンビネーションを使っていた。3年間に渡る反復練習はしっかりと体に染み付き、公式試合という大舞台でその力を発揮したのだ。

しっかりと胸を見つめながら、右足を地面から放す。左足は外側に90 捻り、後ずさりしたときに前に出していた右手を、一気に後方へ引く。練習通りの動きは、下半身と上半身による運動を全て腰の捻りとし、右脚へ伝え、

そして、僕の時は止まった。

最初は鈍い、スネへの感触。次に映像。廻し蹴りが相手の首に突き刺さっている光景が、写真のように鮮明に映し出された。驚いているような顔も、歪んだヘッドギアも、道着のシワまでも。次に感じたのは音だ。ドン！ という、布で巻かれた鈍器を叩きつけたような、自分の脚から鳴っているとは到底思えない音。そして時間は徐々に動き出し、相手が体の芯からくず折れる映像が、スローモーションのように流れ出す。倒れる。一瞬、気が抜けた。

「何してんだ！ 行け！」

今度は確実に聞こえた。先生の声だ。慌てて相手に向かい、構える。相手はギリギリのところで倒れず、僕が向かった時には既に体勢を立て直していた。慌ててパンチを放つも、焦った拳は落ち着いた相手には当たらない。それどころが、はやる攻撃にあわせて、カウンターを幾度かもらう。ようやくと体勢を立て直すも、時既に遅し。攻めきれず、守りきれずに時間は過ぎ、結果は引き分けに終わった。

勝てる試合を逃した。そんな消化不良な気持ちを抱えたまま、試合場を後にする。しかし、ハイキックが突き刺さった瞬間を思い出すだけで、血が沸騰するような強烈な興奮がこみ上げてきて、冷めやらない。これまでの人生で、これほどに色づいた記憶があっただろうか。

もっともっと、この快感を。

拳を硬く握りしめた。闘いたいと、叫ぶ代わりに。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
茜 9/18 18:47	新空手の説明について「――」ではさむにはちょっと長すぎたと思います。ちゃんと、新空手とはこういう競技だって説明したほうが良かったんじゃないでしょうか。
八剣 9/18 21:47	改行、もっとあったほうがいいかなあ、と。 試合のシーンがちょっと読みにくく感じました。 もっとすらすら読めたほうが、臨場感も増して、良いのではないのでしょうか。雰囲気はよくでていたと思います。
さむらす 9/18 22:22	誰目線なんでしょうか。ぼく目線だとしたら、その声はぼくの耳には届いていなかったっておかしくないですか。
あそびにん LV. 2 1 9/19 14:32	あそびにんも昔、寸止めの方の空手はちょっとやっていたんだけど、寸止め前提でも組み手の試合ではグローブとかヘルメットとかの防具はつけてたなあとか（もっとも、ヘッドギアと言うよりやっぱりヘルメットなんだけど）。だから、新空手の説明でそこを最初に持ってくるのはちょっと違和感があったかな。
鬼 おん 9/19 17:0	内容はグッド。 もう少し読みやすく工夫できたらよかったですね。 コラムは読まれてナンボですから。
わがし 9/19 18:34	画面上、字面だけ見て、ううむ、読むのに気合いを入れねば、と思ってしまいました。 改行とか入れてみるといいかも。うまく描けているのではないのでしょうか。
melonsan 9/20 1:16	> 改行 読みにくくなるということもあるけれど、読者のことを考えていないのではないかと思えて、うんざりします。
	> 拳を硬く握りしめた。闘いたいと、叫ぶ代わりに。 闘いたいのではなくて、攻撃をきれいに決めたいんでしょう。下手したら殺してたんじゃないの。
	> 左足は外側に90 捻り 大変だ、沸騰してしまうよ。
kiku 9/20 8:17	暴走してるのか冷静なのかよくわからん。回想シーンかな？ 文章自体はよく書けてると思う。最後2行が少年漫画っぽくていい感じです。
	> 90 > 血が沸騰するような なにこのアツい蹴り。

鞆 9/20 12:44	1回読んで、書き込みが結構細かい（手がこっている）なあ、でも格闘ものってどうにも入り込めないなあ、と思っていたのですけれど。 kikuさんのコメントを読んでから読み直してやたら笑いました。 90 ！そりゃあ血も沸騰しかけますよね！ いや、 は単なる誤字なんでしょうけどね。ああ面白かった。
わがし 9/22 18:39	> 90 い、いかん、気がついたら笑いが止まらなくなってしまった。 気をつけよう。誤字脱字。
イッパイアッテナ 9/23 16:8	きれいに決まった蹴りの一瞬。この作品はそこに集約するのかなあ。 新空手の試合を楽しんでもらうのが目的だったら試合全体の描写がいまいち伝わってこなかったんで失敗だと思うけど、あの蹴りの一瞬の素晴らしさを伝えたいというのが目的だったら、この作品は見事にそれを伝えていると思う。作者コメ待ちかな。
ほろほろ 9/24 3:56	文章は荒削りですが、 自分が経験したからこそ感じられることを 自分の言葉できちんと書ききった点、高く評価します。 ハイパー文化系のほろほろですが、 新空手をちょっと好きになったよ！ この文章の一番のウリは、 対戦相手にケリを入れた瞬間の高揚、ですよね？ この感触は、やっぱり経験者にしかできないので、 細かく書けば書くほどスルメのように味が出てきます。 その辺り、 自分のウリをもっとタツプリ、他はコンパクトに書くという意識をすると良いでしょう。 改行に関しては、コメントする皆さんの印象にそれぞれ納得しましたし、興味深かったです。 WEB上の原稿と用紙の原稿で、レイアウトへの意識がガラリと変わるものなのですねえ。 ぼくの趣味は、 メール文化に習うならもっと改行を入れたほうが良いと思いますが、 活字文化一般の作法としては問題ないと思うので、 そのままでもいいかな、と。 ただし、あそびにんさんの指摘する改行テクは参考にとすると良いですね。
やまのかめさん 9/25 13:4	だいたい皆さんと同じ意見になってしまいますが、この文章の魅力はハイキックが決まった瞬間の臨場感ですよ。この瞬間と、その前後の臨場感は素晴らしいと思います。反面、いくらか説明的な箇所のせいで、その魅力が削がれてしまっている側面があるかと思っています。あそびにんさんのコメントにありますように改行等の工夫もあり得ると思いますし、八剣さんやほろほろさんのコメントにありますように言葉を削ぎ落としてコンパクトにまとめるというのも手だと思います。 個人的には、例えば、新空手の説明などは端折ってしまってもいいのではないかと考えています。格闘技に詳しくなくそれ程強い興味も持っていない身からしますと、そもそも空手のルールを知らないの何がどう特徴的なのかピンと来ず、説明を受けても、ふーん、そういうものなんだ、という程度の印象になってしまうんです。結果として、冒頭から「～時間はだらだらと過ぎて行った。」までは、はっきり言って読んでの印象もだらだらしてしまったのです。競技中の臨場感だけで、真剣に殴る蹴るを行う競技なのだということは立派に伝わるとは思いますし、もっと絞ってもよかったのではないかと考えています。 中盤の臨場感と、締め方はとても良かったです。

時にときたま、たまさか徒然に（さかしまな少女たち）

合計ポイント：4 Point

作者：木星/dx

作者コメントは暫くお待ち下さい。

じもともと、むさしーのの森にてシンミリ語る。

「あっ！ あれ、あの木、光合成してんジャン？ うちらもしてんのかな～？ 高校生が光合成ってちょっとちょちょっとおもしろくね？」

別に、特に。それにしてないし

「自然の神秘とか感じない？ あ、それで思い出した。時にさあ、神秘的なことゆうケロ、トキってだるくねー？ トキドキわからんくなんねべか？」

はいい？

「ポンポン的なか～けつホーホってなーのかな？」

ああ、絶滅したんだっけ……

「ちがくてちがちがちがくて！ そのトキじゃなくて、時計のトキについてよ、ころろ～きなく話そうぜっつってんの！ だってうちら類友っしょ？」

意味わかめんたいこ～

「うちらケッコーなのかのなのかのってってっけど、いろんなことむやむやにしてんジャン？ たてーばよ、カローケ行って自分の番が回ってこなくてしゃーなしにカラゲ食ってるとすんジャン？ そしたらあれだ、そんなときのトキって無駄に消えてんジャン？ それをどーするかって問題さ。シンミリ語ろーぜ」

どーすればいいわけ？

「うちらかわゆよわいふちゅう人ジャン！ ラケロこれからたたかたねばなんねーわけジャン！ たたかつ、わかる？ 戦って勝ってこと。そんためにワトキってのどーするか、そこが勝負だと最近気付いたわけよ。だって負けたからってすぐにへこさるわけにはいかないジャン！ へこさる、わかる？ 屁をこいて去るってこと」

だから何なの？

「オメーわかんねえやつだなあ～。あ～もまんどくさまんどくさ～」

まんどくさいのはこっちだって！

「シンミリ語ろうぜってってんのによ～。もっと親身に語れよな～」

シンミリの意味知ってる？

「はあ～？ 親身に語るって意味だいね」

氏ネや

「何だよ、オレを死後霊 にして甘い汁吸おって魂胆かよ」

ソレ日本語おかしくね？ 霊は死後に決まってっから

「オメーのゆってっこと意味フメー！ オレ地味に辞書引いてってっから、オマエ勝手にシテロイド。だってチャッチャリーベえ？ 水平リーベって感じ～」

それをゆうならどってん解明だろ？

ここで五分間の沈黙が訪れる。

「あっ！ 何か林の向こう、でっかい音聞こえる！ 選挙カーだ！ セーじかに聞いたらわかっかも！」
そっかなあ……

「だって住民の味方のじゅみん党ってゆージャン！ 行こうぜ行こうぜ！」

……

「あっ！ カッケー兄ちゃんがいる！ こっちのほがーや（笑）」

あんなのギャ郎上がりのキモホストジャン。キモータと同レベル

「なにゆってんの？ ホストとオタと一緒にしないでよねっ！」

キラキラキラキラ、どっちも嫌い嫌い

「うらまやしんでそ？」

なにゆってどんだけ？

「ミクド入ったからついて行こうぜヤリ友よ！」

チガウチガウ

（中略）

「バリうまそ～、バリうまそ～」

ごちょサマー

『ガトーございま～す♪』

「嘘ちゅくな！」

『……』

「あっ！ え？ 何かによう」

えっ、そう？

「キンモ - ! くせえ～ 何か……何だろ。君ってもしか、へこっきなしと？」

ちょっくらベンジョ行っくらあ

「おう、早くしろよ。イケメンタイコいる内に帰って来いよ！」

おう

時は流れ、汚物も流れ。

「糞切りついた？」

だからさー、さっからさー、あんたのその日本語おかしくねーかつってんの！

「いージャン別に。んじゃ、イカメンもももういないし、またーしたア～」

股下って何？ まさかしてソレ喧嘩売ってる？ お前のくせに、も・ち・か・ち・て

「またーしたつつただけだろ！」

何も待ってねえーつつーの！

「さっき待たしただろ！ イケメン逃がしたジャンケ！ トキを返せよトキを！ トキトキトキトキ！ トキだよトキ！」

トキトキうっせーんだよボゲ！

「ハゲ！」

あ、今、ひどいことゆわれた衝撃で……

「オイ……またしたのかよ！ バカじゃね？」

ブリッ（時は戻らず）

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
きしと 9/18 11:38	方言...？ やり取りのテンポはいいのですが、言いたいことが明確にはわかりません。
さむらす 9/18 12:5	何が目的でかかれた文章なのだろうか。 ジャンってどこの方言でしたっけ？
茜 9/18 16:26	・・・・・・・・・・・・・・・・よ、よみにくい。 アクセントが分からないし、ときどき意味の分からない単語もあるし・・・・・・「かわゆ よわいふちゅう人」ってなに？？宇宙人？？ わーん、誰か日本語訳ー。 時間の有効活用について？でしょうか。うーん。テーマはなんだろう。むしろそんなもの 存在しないのでしょうか。
訳者 9/19 0:57	どーしてもわからないところがあればゆって下さいネ 訳しマスカラ
あそびにん LV. 2 1 9/19 11:38	ああ、なぜか大体意味は取れてしまった。悪いことじゃないけど。割とスムーズに雰囲気 掴めたし、脳内劇場も無理なく作れたからテンポとか悪くなかったと思う。こういう の、あそびにんには絶対書けない。でも、中略以降の下ネタがどうも苦手。というか、今頃気づいたけど、この登場人物たち少女だったんだなあ...なぜか男で 脳内劇場開いてたけど、これを女でやったらあまりにも破壊力ががが...緊急停止！←自分 の脳内劇場を > さむらすさん ジャンって方言なの？ 単に若者言葉とかかと思ってた。 > 茜さん かわゆよわいふちゅう人が確かに一番掴めなかったけど...可愛くて弱い人でいいのかな あ？と思った。かわゆよわいっちゅう人みたいな。 まあ、これってテーマないと思うよ。会話のノリとか空気を楽しむものかと。目的もそ うなんだと思う。
鞆 9/19 11:59	むさしーのの森、が武蔵野の森なんだろうから、ふちゅう人、は府中人なのではないで しょうか。その解釈で正しいかは知りませんけど。 まあ一応はそこそこそれなりに読めたけど雰囲気を楽しむことはできなかった私とは、 きっと相容れない作品なんじゃないかと思います。感性の面で。
わがし 9/19 19:44	む、難しい。何をどう読み取ればいいのだろうか・・・！
忠犬ヤス公 9/20 21:33	テンポと雰囲気は楽しむことはできました。何が書いてあったのかは完璧には分かりませ んでしたが。
地紅晴酸 9/24 18:27	これは・・・日本語・・・なのか・・・？ そんな心の声はともかく、おおむね意味はつかめましたが、ここまでのいろいろな意味で何 かが突き抜けた文章だと（「だから何なの？」とか「えっ、そう？」とか）文中の比較的 普通の言葉に逆に違和感を感じてしまうのが恐ろしいですね。 ノリは割と好きです。 ただ、女子高生に下ネタ系行動をさせるのはやめてあげてください・・・。 あと私見ですが、「かわゆよわいふちゅう人」は「可愛くてか弱い普通人」だと思ってま す。

イッパイアッテナ 9/24 18:46	もしかして、これがいまどきの女子高生？ 女子高生って案外下ネタ好きっていうし、メールの文面暗号だっていうし..... いや、絶対違うし。作者の女子高生に対する悪意がひしひしとを感じる。
木星/dx 9/24 20:20	●ドリフのもしもシリーズ もしもプラネットの女子高生がこんな子だったら・・・（悲劇）
弟子 9/25 4:4	夏休みの観察日記にして提出したらいい点が来そうだ
鞆 9/25 14:15	あらためてこの作品についてじっくり考えてみました、お風呂入りながら。 結論から言うと、この作品は「文章表現上の挑戦」なんじゃないかな、と思います。それ以上でも以下でもなく。その観点にのみ絞って見れば、秀作だと思います。音から会話を文字に起こす、という試みは（少なくともこの限定された場においては）他に類を見ませんし、ある種、外来語というのはこういう風に作られるものなのかな、とか思ったりもします。 ただ同時に、それ以外の点に余りにも乏しいな、とも思います。表現から意味を理解するために、考えることをある種強要されつつも、それ以上に内容について深く考えようという気を起こさせるような文章ではなかったと思うのです。そして、単純な娯楽作品として読むには、少なくとも知的好奇心をくすぐられるような面白さはなく、もっと単純な、笑いを呼び覚ますような面白さも特に感じられず。男子中学生が、「とりあえず下ネタ言っときゃウケるんじゃない？」とか安易に考えて発言した内容を聞いているような、純粋な面白くなさを感じずにはいられませんでした。 要約すると、文章表現上の挑戦として見れば素晴らしい、しかし深読みしたくなるような文章ではなく、浅い読みの範囲ではつまらない内容の作品だったと思います。 あくまで、私の個人的な感想ですけど。
木星/dx 9/25 20:6	少なくとも、短い周期で何度も読み返せる作品ではないですね。むしろ読み返したくないというか。だから、短文を短期間に読み込んで投票、というレースには不向き。 本一冊分くらいの量をガガーと読んで忘れる。 一年後くらいに表紙がふと目に入り、どんな内容だったっけ？ と思い出そうとしても全く思い出せず、でもミョ～に気になって再び開いてしまい、確認して一安心・・・それを毎年繰り返してしまう、というかそうなれば勝ちって感じの作品。
colt 9/26 0:30	おもしろかったです。内容が、ではなく文章が。というか、はなから内容度外視で読むべきなのでしょう。 島に来て、初めの頃はわからなかった「読み進めることが快感」という感覚が、なんとなくわかってきたような、そうでないような。これが、慣れ、ですか。 けれど、『いかんせん～』に比べたら、きっとこれは初級編なのでしょうね。 > 一年後くらいに表紙～ ああ、まさにそんな感じです。 負けました。 #『匿名の意味ねえー』四作者のうちの一人（と思っている）。 #他はシリーズもの・名前の流用なのに、コレだけ違う。 #それはきっと、すごいことなんだろうなと思う（真似出来ないし、したくはないけれど）。
神無月 9/26 0:41	なんかもう、意味を理解するのは無駄だと感じ始めてきました。勢いと言葉の使い方に笑え！ いや、頭ン中を上滑りする文章が、何でこんなに笑えるのか良く分からないのですが。痛快なテンポでうわすべる様は、さながらスノーボード。そうですね。多分この文章は、爽快感を与える文章なんじゃないかなーと思います。 意味のない駄洒落とか意味のない言い回しとか、そんな意味のなさに固められた意味のない文章。が、これがまた面白い。これも一つのエンターテインメントなのです。多分。

あと少し...

合計ポイント：3 Point
作者：無味
作者コメントは暫くお待ち下さい。

...ああ。動けない。

あと5分、あと5分でいいんだ。

でもこんな時の「5分」ほど短い時はない。

...あの晩どうして、くだらないTVショッピングを見ていたんだろう。

今日もまた遅刻だ。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
さむらす 9/18 12:51	前回のラジオ10分聞けなかった人と同じ人だともったのはぼくだけだろうか。
あそびにん LV.2 1 9/18 14:25	前日の晩の高々30分で翌朝の5分がなくなるだろうか、いやない。 朝の5分は、もはや人間の本能のようなものかと。何があろうと、あと5分...って思わずにいられないのが人間。 あるあるネタなんだけど、日常的に思うことが多すぎて、逆に感慨が沸きにくいって感じかな。多分、あるあるネタって、普段やってても言われるまで気づかないみたいなことこそ楽しいんだと思う。あまりにも身近すぎたことが短所なのかも。 > さむらすさん さすがに違うんじゃないかなあ？ 10分前に時計がセットしてあって、5分ごねて遅刻って、あまりにも悲しすぎる。それって、10分をやっぱり自分で頭の中で戻してさらに5分ごねてるってことに.....。
RiZEL 9/18 18:13	TVショッピングに凄い共感。アレって見始めるとどうしてもだらだら見ちゃうんですよね・・・。 ただ最後の一文がどこかしっくり来ませんでした。うまく説明できないんですが・・・。

さむらす 9/18 21:1	大学生に遅刻なんて概念ないですよ。
茜 9/18 21:19	・・・・・・ああ、うん。気持ちは分かるけどね？ 朝の時間は確かに貴重です。が。あるあるネタってだけじゃ、やっぱり弱いんですよえ。ここはこう、朝の5分ゲットするための秘策とかいろいろ語ってもらえると面白いかも、とか。 > あそさん 10分進めてあると思って、じゃあ5分くらい大丈夫と粘ったら、実は時計が元に戻されてたのわすれてたー！とか？ ・・・・・・さすがにないかな。 > さむらすさん あるから。それはありますから。
わがし 9/18 23:7	もうちょっと語ろうよ、と思いました。 なんだかもったいない。
さむらす 9/19 0:31	健全な大学生は、遅刻すると思ったら、ああ今日は行かなくていいやと思うのですよ、と言ってみる。
鞆鞆 9/19 11:46	あるあるネタはやっぱり、インパクトに欠けますよね。ああ、あるよねそういうこと、って思って終了、みたいな。余程の惹きつけられる何かがないと。 > さむらすさん それ、不健全ですから。
オリボリ 9/22 12:42	すごくわかる！！ あの時の「5分」はどんな「5分」よりも短い。
ヤンヤンマ 9/23 16:57	あるある。でも、 > 今日もまた遅刻だ。 この人もうちょっと学習した方が...
jabberwock 9/23 22:30	まだまだ大丈夫。
jabberwock 9/23 22:32	↑遅刻でも行ってるうちはまだ大丈夫という意味です。
えむえむ 9/23 23:51	昼のテレビショッピングは見ないのに、夜の寝る直前でつい見てしまうのはなぜでしょう？夜はほかに何も無いからですかね。
結政 9/24 13:53	この5分の貴重さは本当に。 くだらないTVショッピングは本当にいい。 でも、あれ深夜でも買えるのかなぞ。 電話したことある人いるんでしょうかね
pencha 9/25 0:5	> ...あの晩どうして、くだらないTVショッピングを見ていたんだろう。 5分のために昨晚の行動を後悔しちゃうことはけっこう多く、 共感できるようなできないような(TV見てないので...;;)。
橘 9/25 23:55	TVショッピングだけでなく、 人って結構無駄な時間を過ごしてますよね？ (自分も含めて。苦笑) 用もないのに携帯をいじる。 一日に何回もmixiにログインする。 電車の中で何もせずにボーッとする、とか(・・*) 何度も繰り返してしまう失敗(?)の一つだけど、 少し辛口ですけど、これだと「ああ～」で終わってしまうかも(+ +;) 自分の思い付きですけど、例えば、 1．↑のようなことを列挙する。 2．失敗から自分を奮い立たせる方に持っていく なんて風な進め方もありかと(・・*) あいだみつをの「人間だもの」を思い出しましたww

神無月 9/26 0:1	書き込みが少なくとも面白い文章はかけますが、いかんせんこの文章には面白みが足りない気がします。 つうか、多分こういうときの5分は、こんなに冷静じゃない気がする。こういうことを思うのは、慌てて着替えてるときとか、電車で揺られてるときとかだと思う。 > ヤンヤンマさん 学習で抗えるものではないのです……（泣） 毎日眠いぜ！
ねがいびと 9/26 0:49	あと一週間でこんな生活に戻れると思うとやり切れません。
blue-orange 9/26 1:7	共感できます！

[TOPへ](#)

勝負の一瞬

合計ポイント：3 Point

作者：ラ

作者コメントは暫くお待ち下さい。

球場の照明とスタンドの大歓声を一手に受けて、彼は打席に向かう。
一年に一度だけの祭典、オールスターゲーム。
六回裏、二死三塁。一打同点のチャンス。
三対四、一点ビハインドの状態での第三打席だ。
『五番、指名打者、中井』

過去の二打席は三振、併殺打。ここは何としても打ちたいところ。
マウンドには、今シーズン、海の向こうからやってきた豪腕、ジョニー・フェルナンド。
ジョニーの直球は凄まじく、彼はバットに当てるのが精一杯に見えた。
一球一球に、スタンドがどよめく。
彼はファールで逃れ続け、チャンスを待った。

ジョニーが八球目を投げた瞬間。
彼は、脳裏にこれまでの野球人生が走馬灯のように浮かんできたと言う。
中学生の頃、球場に足を運んで観戦したオールスター。
必死に野球に打ち込んだ高校・大学時代。
入団してから活躍できなかった五年間。
開幕一軍・初スタメンを勝ち取った四ヶ月前。
『チーム躍進の原動力』と紹介され、取材を受けたこと。
右肩痛に悩まされて不振にあえぐなか、ファン投票でオールスターに選出されたこと。
その会見の席で語った決意。
『私への投票にはインターネット票が多く、また成績が伴っていないとの批判もあります。
周囲には辞退を促す意見もありましたが、私は出場を決意いたしました。
私に野球を始めるきっかけを与えてくれたオールスターゲームは、常に憧れの存在でした。
そこに出たいという気持ちは、今まで忘れたことはありません。
私は、自分に嘘をつきたくはありません』

そしてそれが流れきったとき、彼にはボールがゆっくり近づいてくるように見えたそうだ。
『それまですごい回転のかかっていたボールが、回転していなかったんです。
それで判断できたんです。これはフォークボールだ、って』
彼はジョニーがこの日唯一投げた変化球、伝家の宝刀フォークを捉えた。
打球はぐんぐん伸びて、レフトスタンドに飛び込む逆転ツーランになった。
彼は拳を大きく突き上げ、ダイヤモンドを一周した。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
地紅晴酸 9/18 16:6	今までのお題を無理なく全投入。 感服しました。 ただ、三連目がジョニー選手の話だと取り違えて、的外れなコメントを書きかけました。 (危ないところだった・・・) そういうこともあるわけですし、中井選手を「彼」表記にするのはやめた方が良かったのではないのでしょうか。
茜 9/18 20:41	あたしはこういう技巧、評価対象にはしない主義なので。やってもやらなくてもあたしの評価は変わらないんですが。 で、その辺の技巧を無視してみても、ちゃんと成り立ってるいい作品ですね。新聞とかのコラムっぽいかも。 八球目以外を割とさらっと流しているので、読みやすく、詳しく書いてある八球目が引き立っていると思います。読後感もすっきりしてますね。
八剣 9/18 22:3	私としてはたかだか5回分のテーマを文章の中に組み込んだだけでは余技の類で評価に値しないのだが。 話自体は悪く無いと思います
鬼 おん 9/19 17:7	評価できるできないは個々人に任せるとして、読んでて特に違和感を感じなかったのも特別につっかかることもないでしょう。> 5 回分のお題 野球ネタ大好きな自分としてはなかなかツボでしたよ。 関係ないですが野球選手の動体視力って異常ですよ。
あそびにん LV.2 1 9/19 17:21	あ、そっか、言われてみれば、って感じだったから、別に5 回分の話題を入れたことでどうってことはないと思う。 ちなみに、あそびにんは、評価に加える方かなあ。ほら、たとえばB + って評価における + の部分くらいのボーナスとして。ま、これはどうでもいい話。 全体として読みやすかったし悪くなかったと思う。きらっと光るものまでは感じなかったから、優秀な佳作プラスアルファって感じかな。 > 地紅晴酸さん 最初から彼に統一されてるから、これはこれでいいんじゃないかなあとおそびにんは思ったな。
わがし 9/19 18:24	この作者さんは野球が好きなんですねえ、きっと。違うかな。 お題を全部入れたとのこと、すごいなあ。わたしにはできない。 さわやか系でいいのではないのでしょうかねえ。
作者 9/19 21:0	ども、作者です。 これまでのテーマを投入したのは、まぁ趣味のようなものなので、作者の遊び心だとも思ってください。 あと、これは「第三者視点」で書いているので、中井選手を「彼」としたんです。 一応、ジョニーはジョニーで統一したので、そのあたりでご勘弁を。
さむらす 9/21 15:59	う～む、すっきりなのはいいんだけど、たぶんスポーツものって読んでは側を引き込まなきゃいけないんじゃないかな。
イッパイアッテナ 9/23 17:2	うまいなあ。 まるで本物の取材記事を読んでいるような気がしました。 > 追記 な、なんだってー。 ということで、お題が全部投入されているというのにびっくり。 (しかも、すごい自然に組み込まれていると思う。)

ヤンヤンマ 9/23 18:45	そうか、5回分のお題を入れたんですね。気づかなかった... そのときどきの描写がよく描かれていて、生き生きと伝わってくるのがよかったと思います。
ほろほろ 9/24 4:11	すごい野暮な話だけど、 『4か月前に初スタメン』『右肩痛の不振』『まだ実力が伴っていない』のに、オールスターのスタメン、しかも5番の指名打者にはならないよねえ。 (注：指名打者(DH)はパリーグにのみ導入されている 守備にはつかず、打撃のみをする選手で、 小久保や外国人選手など、 ベテランの強打者があてがわれる事が多いのです。) 野球ネタはこういうディテールが大事だと思うんだよ。
イッパイアッテナ 9/25 1:26	> ほろほろさん えっと、実績を伴っていない選手がネット投票でオールスターの選手に選ばれるって確か元ネタあります。 去年か今年、某巨大掲示板で(名前忘れたんですが)活躍していない選手にファン投票して選手にしてつるという祭りをしかけられていたという話を聞いたことがあります。←もしかしたら勘違いかも？ たぶん、その選手の立場に立ってみて書いたなんていうコラムじゃないかなあっと、自分は思っていたんですが..... > 野球ネタはこういうディテールが大事だと思うんだよ。 野球ネタはディティールが一番無視される世界じゃないかな？ 某双子兄貴とか、某不良とか、某熱血親子とか...
ほろほろ 9/25 1:46	>アッテナさん 実力がない人がオールスターに選ばれることはあります。 問題は、そのポジションなのですよ。 そういう選手は大概、代打で使われるんです。 打順やポジションを決めるのは 前年にリーグ優勝したチームの監督の仕事だから、 パッとしない新人がスタメン指名打者で使われることはま～ずないのだ。 千秋楽の結びの一番に前頭が登場するようなものかしら？ せっかく野球ネタなんだから、 野球としての定石をキチンと活かせばいいのに、と思うのです。 タッチや巨人の星も、野球としての山場の作り方はとてもまっとうなんだよ。 それに上乘せする形でさらに色んな話を盛り込めるから野球ネタは面白いのだ。
木星/dx 9/25 1:50	関内から立川に行きたい。南部線は「川崎」乗り換えですよね？
木星/dx 9/25 1:53	> パッとしない新人がスタメン指名打者で使われることはま～ずない なるほど。 とりあえず作品読んでこよう（読む前に変な しちゃったよ～）
木星/dx 9/25 1:59	とか言いつつ余談ですが・・ 無茶苦茶調子のいいときって、ホントに止まって見えますよね。いや、バッティングセンターの話。真芯の中の真芯に当てられるから、軟球だと何度も破裂。でも、一生に一回、その日だけの感覚で終わってしまいました。。。
ふじさき 9/25 23:25	コメント見るまでお題の事気づかなかった・・。 お題云々を抜きにしてもいい作品だと思います。
神無月 9/26 0:35	結構好きですが、臨場感がいまひとつかな。や、それを目指した作品ではないのかもしれませんが、野球美談としてもなんだか。 映像としてみると面白いのかも知れませんが、文章という媒体だと、限界があるのかなあ、と思ったり。うーん。 要するに、もう少し癖がないと僕にはあわないのでしょうか。淡々と美談を述べるでなく、もっと演出をかけて欲しかったなと、個人的に。

blue-orange 9/26 1:4	今までのお題が全て入ってるんですね。コメントを見て気づきました。ちなみに私も講義版のときにやりました...どーでもいいですね。
otacom 9/26 8:47	シンプルでたまにはこういうのも良いですな。

[TOPへ](#)

運命

合計ポイント：3 Point
作者：ルンタッタ～
作者コメントは暫くお待ち下さい。

わたしが彼と出会ったのは、去年の夏のことだった。

初めて会ったのは、ある音楽会場である。

コンサートが終わり、建物から出ようした時、後ろから声をかけたのが、彼である。

それから、一周間後。

コンサートに誘ってくれた友人と会うために、駅で待ち合わせをした。

そんな友人と待ち合わせして、ある建物に入ると、後ろから声がする。

振り返るとあの彼である。

それから一年の時が経つ。

今では昔からの友人のように仲がいい。

今思う。

これが運命のめぐり合わせなのかと。

こうも思う。

いつか別れの日が来るのではないかと。

作品に対するコメントを下さい。

ペピン 9/18 12:22	そうですね、人って都合の悪いこと考えないんだよね。出会うということは、その先に必ず別れがある。特に、人を愛したとしても必ず別れる時が来るとするのは皆考えないようにしてますよね。でも、別れるたびに人って強くなると思う。でないと、何のために出会ったか分からないからね。 私はこの作品はネガティブな方向で終わるけど、ポジティブに終わらせることも可能な気がした。私としてはポジティブに終わってほしかった。別れにもちゃんと意味があるっていうかんじに。
わがし 9/18 23:53	運命、というタイトルのわりには、さくっとしてますねえ。 そうなんだよね、出会いがあれば別れがあるのは当然なんだけど、別れたくないよなあ。 一年で、別れの時のことはまだ考えないでほしい。
茜 9/19 12:39	なぜ声かけたんだろ。何がど一言う風に運命なのかな、とか。声かけたのは本当に偶然？とか疑ってしまったり。 さらっとしすぎてるかなあ。ちょっと厚みが足りない気がしました。 >ヘピンさん 別れに意味があるなんてこと、あたしは、出来れば一生認めたくないと思います。我儘なんですよね。あたし。 >わがしさん >一年で、別れの時のことはまだ考えないでほしい。 一年だから考えるのかも？まだ出会って間もないから、あっさり出会った分あっさり別れてしまいそう。2,3年経ったら、そこに居るのが当然、みたいになるのかも。
あそびにん LV.2 1 9/19 14:20	全体にあっさりしてるんだけど、最後ので突然違う方向に走っちゃった感じ。そういう展開にしたいなら、もう少しどうしてそう思ったのか伏線とは違うけど何か欲しかった気がする。単純に幸せすぎて見たいな感じなのかな？ そこまでは、割とあっさりとデートの当日かなんかにつらつらとmixiなんかにかいた日記のような文章かなと思ったんだけど...まあ、最後あっても別に变ではないか。 あと、「一周間」の誤字がちょっと痛い。短文でしかもスペース空けてるだけにどうしても目立ってしまうから、誤字注意。
ラ 9/19 21:18	彼が声をかけた理由、ってどうなんだろう。 それによつては、この作品が「運命」かどうか危うくなってくるようじゃ気がします。 さらっと流れるように終わるのはいいのかも。
忠犬ヤス公 9/20 18:43	そうですね。出会って間もない頃って別れのこと気にしちゃいますよね。なんか不安で不安で仕方ないって言うか・・・(そんな自分は経験が無いので推測で書いています。ごめんなさいorz。)
He 9/20 22:14	なんだか話に唐突過ぎる印象があって、頭の中を流れて行ってしまった感がある。 > 運命 色んな偶然や必然の重なりに運命というものを感じてしまう立場からだと別に違和感だとかはなかった。
さむらす 9/21 15:47	ずいぶんさらっとしてて、この世界のなかにいてうたったという感じがしないですね。
ルンタッタ～ 9/21 19:11	運命、いい響きですね・・・
イッパイアッテナ 9/23 2:35	???? えっと、昔からの友人のように仲が良いってことは恋人じゃないってこと？ でも、恋人じゃないなら、別れの日が来るっていう書き方はおかしいし。 解釈求む
弟子 9/25 3:27	別れが怖ければ、何もかも、全て忘れてみてはいかが？ わたしや別れこそ運命の醍醐味かと思うけどねえ
のろろ 9/25 17:31	出会ってからの楽しい時をすごすうれしさと、未来を想って別れがかすかに頭によぎる切なさの感情がなんか好きです。

にび
9/26 5:46

さらっとした雰囲気が好きです。
「一週間後」に過去形現在形が入り混じってて、なんとなく時系列がわかりにくく感じました。思い出を現在のように感じている、ということなののでしょうか？
あと、出会いよりも現在を重視して描写したほうが時間と別れを上手く表現できる気がします。

[TOPへ](#)

思い出の風景

合計ポイント：3 Point

作者：He

作者コメントは暫くお待ち下さい。

しとしとと雨の音だけが響く境内を歩いて行くと、記憶に残る景色がそのまま私を迎えてくれる。久しぶりに故郷へ戻って来たんだと思う。雨宿りをするように屋根の下へと入って行って、傘をたたんで適当に座った。そこから見えるのは、紅く色づき、降り始めた木の葉だけ。そんな木の葉も記憶の中で青々と彩られ始めた。

蝉時雨の賑やかな閑けさに包まれた、君の季節。私の中にあふれてくる。

いつからだったのかわからないけど、夏の真っ盛りを少しだけ過ぎたこの時期は、『彼』につながっていた。夏休みももう少し終わってしまうという頃に彼は決まって私の町に現れる。だけど、私にはそんなこと関係なくてたった一、二週間だけの変わった友達を気に入っていた。

何回目かの彼の季節。

「ねえ、せーくんはユーレイなの？」

せーくん、彼のことをその時はそう呼んでいた。そんなことを考えたのは、その季節に家々に飾られる祖先を迎えるための飾りのせいなのだろう。

「ちがうわよ、あの子もご先祖様を迎えるために来るのよ。」

母は少し苦笑いを浮かべながら、そう返してきた。幼かった頃の私にはそこに違いを見出すことはできなかったけど。

「せーくんはどこから来るの？」

お寺の石段に座って私は彼に直接聞いていた。

「う～ん、下の方、かな…。それよりももっと奥に行ってみようぜ。」

彼は地図を頭に浮かべていたのかもしれない。でも、そんなことを考えるより森に続く細道を走りだした彼を追いかけることができなかった。

お寺で行われたお祭りの日、二人でかき氷を食べながら話しているうちに足が疲れて来て、近くにあった岩に二人で座っていたことがあった。

「冷たくて、おいしいねえ。」

足をぶらぶらさせながらそんなことを言っていた。夜のお祭りを子供だけで歩いたのが、その日で初めてだったからものすごく不思議な気持ちでいた。

でもその後、和尚さんの説教を聞くことになってしまった。暗くて気付かなかったけど、座っていた岩というのがものすごく大切なものだったらしい。

昼間、特にあてがないとお寺によく行っていた。理由は簡単で一番涼しかったから。うっそうとしげっている木々の木陰の下で、その風に揺られたざわめきを聞いていると自然と涼しい気持ちになってくる。

付け加えるなら、この影の中に点々と差し込んでくる木漏れ日もそこが一番きれいなんじゃないかなって

思ったりもしていた。

そして、そこでたわいもない話が何度も、時には一年を挟んで交わされた。

ある年から突然、彼を見なくなった。確か、私が受験とかで忙しかった頃だったから彼も同じような理由だったのかもしれない。それから再び会うこともなく、何年か経って私は遠くの街の大学へ進学した。それから彼のことはあまり考えなくなっていた。

彼との時間はいつも世界を埋め尽くすような蝉の声とともにあった。そして私達の一番の遊び場は、蝉の声が一番強いところでもあった。

傘をさして思い出をなぞるように歩き回った。ふと視線がかつて上に登って怒られた岩に行きつく。

雨にぬれて湿ったその岩に手を触れると、ひんやりとした感触が伝わってきた。彼と蝉の季節をずっと見届けていたのかもしれない。そんなことを考えながら岩を見つめているとそこに文字が刻まれていることに気付いた。

「そっか。」

そこに本来の意味とは別の意味を感じてしまい、微笑みがこぼえる。そして、確信していいのかもしれないと思った。

ここには彼の蝉時雨が溶け込んでいる。

誰かに呼ばれた気がして振り返ると、一人の人影が映った。驚いて走り出した私の中で、有名な句の一部が流れた。

岩にしみ入
蝉の声

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
わがし 9/18 11:32	> たわいもない話 たあい、他愛もない話、ですな。 うーん、なんだか難しかった。もうちょっと読み込んでみる。
茜 9/18 17:42	> 一、二週間だけ 確かセミの成虫の寿命ってそのくらいだったような・・・ 文章は読みやすくてきれいで、雰囲気は良かったと思います。謎のお友達。不思議な感じだけど、いっそ不思議のままでもいいかな、と思えてしまうような気もしました。
RiZEL 9/18 18:8	> 彼との時間はいつも世界を埋め尽くすような蝉の声とともにあった。そして私達の一番の遊び場は、蝉の声が一番強いところでもあった。 この一節が綺麗に景色を見せていると思いました。 この雰囲気は非常に好きです。

あそびにん LV.2 1 9/19 20:17	お母さんの否定が気になってしょうがない.....最後のほうは蝉っぽいんだけど、お母さんを信じるときっとそれは気のせいに違いない！でも、下の方から来た... もう一個気になるのは、最初の段落だけ彼じゃなくて君なんだよね。何か意味があるんだろうか... 基本的に情景描写も過不足なく良く書けてると思う。特に、視覚はもちろん、聴覚や触覚（涼しさとか、風とか）も含めてイメージしやすいのはいいと思った。 それにしても、どうして最後は全部使わずに一部にしちゃったんだろ？ 最初に「蝉時雨の賑やかな閑けさ」って使ってるんだから、全部つかっちゃって良かったと思うんだけど。
ばっは 9/21 6:44	一つ一つの表現が綺麗でいいと思いました。でも、展開が速くて、ちょっとついていきにくいかな。ひと夏の出来事で書いてほしかったかな、字数的にこの作品は1500じゃ無理があったかな。できれば5000くらいで読んでみたかったです
さむらす 9/21 15:57	えっ、せーくんってセミなの？ それだと毎年せーくん別人(別せみ?)じゃないのかな。
colt 9/23 1:47	この短さで、これだけのストーリーが綴れるとは。有名な句がアクセントとなって、ストーリーとしてはありがちな（失礼）幼馴染モノが、別物に仕立て上げられています。おみごと。 描写がとても綺麗で、目に浮かぶ様です。見えるもの全てを写実しているわけではないのに、すごく細やかな雰囲気まで伝わります。そうした言葉の取捨選択の仕方も、おみごとです。 難を挙げるとしたら、タイトルでしょうか。少し凡庸すぎたかと思います。 > あそさん 僕は普通に、せーくんはお盆時期に都会からお墓参りに来る少年って読みました。芭蕉の石碑があるなら、恐らくお寺は山形の立石寺（ネットって便利）。地図を思い浮かべて下なので、せーくんはそれより南の人間なのでしょう。 言われてみれば、一段落目の『君』、確かに気になりますね。回想から明けた後も『彼』のままですし。.....ミス、なのでしょうか。
イッパイアッテナ 9/23 16:4	蝉のせーくんって、素直に読むべきなのか。 蝉とせーくんの共通点を楽しむべきなのか。 なんか難しい作品。個人的に、あまり雰囲気も好きになれなかったし。きれいな文章だということはみとめるけど、それだけな印象しか得られなかった。 なんとというか、方向性を捕えられなかったからかもしれない。
えむえむ 9/23 23:58	せーくんが蝉とは思わず、せーくんはやっぱり人間（幼なじみとか）で蝉の存在は彼との思い出を演出するBGMなのかなと読みました。
モデナ 9/24 4:55	せーくんは人間と認識して読んだけど...良かったのかな？ 汗 文章は読みやすいし、情景もわかりやすいと思うし、なかなか雰囲気の良い『不思議』なお話だと思いました。
結政 9/24 13:10	セミだったんですね。 こういう見せ方はすごくいいなと思いました。 このまま不思議、という形で放置するのもあれですし。 シンプルにまとまっていて、とてもよいと思いました。
あそびにん LV.2 1 9/24 15:21	> さむらすさん 蝉そのものだとは思ってないかな.....何というか、蝉の集合体というか化身というか、ある種精霊的な存在というか...やっぱり、お母さんの否定から懐疑的ではあるけど。 > coltさん あそびにんも、上に書いたような存在じゃないとするなら、候補はそれかな。でもなあ...うーんって詰まった上で下の方って言うなら、普通県とか市の名前の方を言いそうな気がするけどなあ。しかも、下の方でさらっと流してるし。単純に墓参りなら、特に自分の来た場所を伏せる必要もないと思ったんだけど...要するに、現状あそびにんはどちらにも懐疑的。 君には意味がある可と思って考えたけど...やっぱり、ミスなのかな。

作者 9/25 1:22	素朴な、とても純粋な語り口が素敵です。その語り口にまた、ちょっと現実離れした内容がよく似合っていて。 こういうの、好きです。 気になったのが、合って欲しいところに主語が無かったりするところ。 『彼は地図を頭に浮かべていたのかもしれない。でも、そんなことを考えるより森に続く細道を走りだした彼を追いかけなければならなかった。』 を引用してみると、 『でも、そんなことを考えるより』 の《そんなこと》を考えたのは、一見したところでは「彼」のように思えてしまいます。でも文脈からして「私」なんですよ。 一人称視点の場合、「私」の多用は厳禁です。とはいえ、やはり然るべきところには入れるべき。そう思います。 > せーくん セミ、そのものではないと思います。『何度目かの彼の季節～』からの段落が感じさせるのは、やはり人間的な存在でしょう。……第一、もし「セミ」だとしたら、これほどまでに「蝉」という単語を連呼はしないと思います。 セミに喩えた、とでも言いましょうか。セミに近い意味を孕む存在として、「せーくん」なのだと思います。 では一体何者かと言えば……？ ごめんなさい、具体的に何とは言えません。 なんらかの神的存在のような印象を受けた、というのが精一杯です。
Eisen 9/25 1:31	ごめんなさい！ 上で「作者」となっているのは、私「Eisen」の間違いです。うっかりです。失礼致しました。 ……ちなみに私は今回、自分の作品に「作者」としてコメントはつけていません。つけようと思って名前を変えつつも、どうにかこうにか堪えました。
やまのかめさん 9/25 22:42	この「彼」は単にお盆に帰省してくる男の子のことだと思っていました。蝉の声は彼と強く結びつく聴覚的な記憶。と思っていたのですが、最終段落の中身がよくわからなくて、結局どういうことなのでしょう。語り手はなにかを確信しているんですが、なにをきっかけになにをどう確信したのかわかりません……やっぱり蝉の精かなにかなのでしょうか…… みなさん仰っていますが、描写はとても良いですね。子供の頃の記憶が断片的に並ぶ様もいいですし、描写が丁寧で、個々の場面の空気がよく伝わってきます。 個人的に一点だけ気になったのが読点の打ち方で、もう少し工夫できるのではないかと思います。例えばEisenさんが指摘されている場面も、「でも、そんなことを考えるより～」を「でもそんなことを考えるより、」にするだけで動作の主体がはっきりしません？
忠犬ヤス公 9/26 0:19	せーくん = 人間と捕らえて読む方が僕は好きです。 情景描写の上手さがピカイチな作品です。

変わるもの 変わらないもの

合計ポイント：3 Point

作者：jabberwock

作者コメントは暫くお待ち下さい。

母はそこでよくタバコを吸っていた

夫婦の寝室の一番奥

ドレッサー（鏡台）の椅子に腰掛けて

母が嫁いできた30年前

祖父が自ら建てたという母屋に

両親の部屋は増築された

その一番奥にあるドレッサー

「母屋」から一番「離れた」場所

ライターの音と共に上がる煙

「一人」になった母の背中

ぼくが大学に行き 家を離れた間

かつて母屋に暮らしていた

祖父は亡くなり 祖母は養護施設に入った

無印の大きな茶色のクッション

「時効警察」のDVD

帰省して見た母屋の居間

主の変わったその部屋に

灰皿は置いていなかった

誰もいなくなったあの家

母はいつもの場所でタバコを吸っている

ドレッサーの椅子に腰掛けて

もう一人になることなく

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
さむらす 9/18 12:54	お父ちゃんはいつのまになくなったのだろう。
作者 9/18 16:24	やっぱそこきますか。 実は単身赴任で東京にいて一緒に暮らしてるんです。 向こうは母だけです。
Begonian 9/18 16:30	作者さん出てくるのはーやーすーぎーるー。 なんか最近「作者登場」がすごい軽いんですか？ う～ん、いいんでしょうか。 とりあえず三行目の（ ）で思いっきり萎えました。 こういう説明の仕方はあまりにも蛇足だよー。
茜 9/18 21:25	> 実は単身赴任で東京にいて一緒に暮らしてるんです。 案外多いのか？このパターン。あたしも1年半やってたけど。 > 作者さん登場 講義形式ではだめですよ。最後の最後まで隠し通しましょう。バレバレでも。試練です。 個人的にはタバコは嫌いなんですけど、上手く小道具として生かした感じです。 母親と父方の祖父母との距離感。父母が居なくなっても、お母さんはドレッサーの前でタバコを吸う事で、表されているように思います。 最後の一文が、ちょっと、よく分からなかったのだけれど。
さむらす 9/18 21:29	最近、作者さんの登場がはやくなったのは、どうもぼくのせいなんじゃないかと思ってしまふ。そうだったらごめんなさい。 結局、おかあちゃんはどうなったのかよくわからなくなってしまった。作者さんがなにかを訴えようとしている気はしますが、それがなんなのか今はまだわからない。 ひょっとしてお母さんも死んじゃった？それだったらもう一人にならないけど。
ほろほろ 9/19 13:50	ぼくは「父親が亡くなった話」だと思って読んでいました。 単身赴任だったのね。 いや、死んでなくて良かったといえは良かったんだけど(笑)。 いやはや、詩というのは難しいんだよねえ。 今回の中身は、詩で書くにはトピックが多すぎるんですよ。 詩で書くならもっと情緒的な部分を一点突破で書かないと散漫な印象になってしまう気がします。 また、細かいところだけど 「かつて母屋に暮らしていた 祖父は亡くなり」 の間の改行はミスリードを誘いますよね。 句読点をキチンと打つとかの対処もできますが、 やはり内容が詩の形式に向いてないんだと思います。 作者さんの意図もあると思うんですが、

	僕だったらこの題材で 1人称的なエッセイか小説を書くと思うのですが、どうでしょうか。
鬼 おん 9/19 16:51	「感情」が足りないかな。 「何がどうしてどうなった」の「どうして」を端的でいいからもっと書けば読者の心にぐっとくる文章になったかも。
わがし 9/19 18:20	最後の「もう一人になることなく」ってのは、精神的に孤独になることなくって意味かな？ お嫁っつーのは、厳しいんですよ。このお母さんの描写、良く描けてると思う。 タバコを吸うことで、色々なことを消化していたのでしょうか。
あそびにん LV.2 1 9/19 21:27	Begonianさんに同意。（ ）で説明するくらいなら、最初から鏡台って書けばいいじゃない。というか、ドレッサーだけでも大体イメージつくし。 あそびにんも、これお父さん死んじゃったんだと思ったなあ。一人を強調されてるところなんかで。 でも、この「一人」と最後の一人は多分同じ意味で、普通の一人とはちょっと違うんだと思った。なんというか...孤独の一人じゃなくて、孤立の一人というか。そのやりきれなさがタバコにいっちゃったんだろうなあ。だから、最後の一人も「」でくくらないきゃいけなかったのでは？ でも、主が変わったってどういうこと？ 変わる対象って、お母さんに変わるしかないと思うけど、お母さんはタバコ吸う人では？ 他の人でタバコを吸う描写なかったわけだし... と、細かいところがちょこちょこ気になっちゃったかな。やっぱり、ほろほろさんの言うように、詩でたくさんの事実関係を絡めた感情を描くのは難しいんだろうなあ。 > 作者さん 早いーってのはおいておいて、やっぱって思った上に、説明が必要なんだと思うのなら書いこうよ。 まあ、読み進める上では、そんなに死んでるのと単身赴任してるのと今現在家にいない意味では同じだからそんなに変わらない気はするけど。
jabberwock 9/20 0:6	鬼 おんさんのコメントにあるように確かに感情の表現が少ないように思います。一方で「母屋」が家的な制度を象徴しているようにモノの使い方が効果的に感じました。 「無印」は装飾の無さ＝モダニズム（デザイン）的なものとして「母屋」とは対比的な存在に、「時効警察」は時とかけているように思います。お母さんと祖父母の間にも時効には成立するのでしょうか。。。
melonsan 9/21 11:27	表面的にみれば、「祖父母はタバコを吸わなかったので、離れた場所で吸うしかなかった」心情を思えば、義理の両親になじめなかった。 祖父母が退場して、好きに出来るのだから居間でも吸えるだろうに、灰皿はなかった。クッションなど他のものは母が新調したもののだろうに。 つまり、退避の場所から、単身赴任の夫を想う場所に変わったってこと？ そんなの読み取れません。
イッパイアッテナ 9/24 0:49	難しい。 何度読みなおしても、最後の「もう一人になることなく」の意味が読み解けない。 精神的に、って意味かな 喫煙という形で隅に追いやられていた当時と違って、自分の親しんだ空間としてそこに落ち着くって感じ？ 難しい。
結政 9/24 14:14	この形なら、作者が出てこなくても説明できたと。 （私が言うなというのはおいておいて） その点で残念ですねー 匂わせることもできたでしょうに。
弟子 9/25 3:41	i miss you ってことかな？ 無で有を表現するか、有で無を表現するかの違いかな？

名無しのミューズ

合計ポイント：3 Point
作者：さむらす
[作者コメントを読む](#)

もう冬も終わろうかというころ、まだ外も寒く、外に出る気がしなかった私は、こたつでぼんやりしていた。テレビではニュースをやっている。どこかの国での内戦の話、東北で誘拐事件があったという話・・・争いは今日も尽きることはない。ベランダには一羽の鳥がとまっている。はて、なんとう名前の鳥だろう。私は暖かさにさそわれて、しだいに、夢の世界に引き込まれていく。

・・・気がつく、私は何も無い闇の中にいた。音も無ければ光もない。ここは世界が誕生する前の時だ。なにがどうなったのかわからないのになぜかそのことだけははっきりしていた。私はその暗闇のなかでさまよい続ける。永遠に続くとさえ思われるような無の時間のなかで私の心は壊れかける。

誰か助けて・・・叫びたいけどかなわない。ここには声もなければ音もない。もうだめだ、私の時はもう終わる。

そう思い始めたころ、世界にかすかな変化が訪れる。いつのまにか現れていたらしい別の闇が私のいる闇と混ざり合う。二つの闇が混ざり合った瞬間一筋の光が生まれた。儚く頼りない光なのに壊れかけた私の心は光にすがる。光は強さを増していく。時は速度を増していき、世界の誕生に向かっていく。色がうまれ、音がうまれ、星がうまれ、・・・時はますます加速する・・・

はっ、として顔を上げるとそこは私の部屋で、私はこたつにはいていた。今のは夢？普通に考えたら夢なのに、私にはどうしても夢には思えない。

ベランダでは数羽のメジロが鳴いている。

投稿者	コメント
茜 9/18 16:34	> 闇の中にいた。音も無ければ光もない。 > 叫びたいけどかなわない。 ここら辺からなぜかふと金縛りを思い出した人。なんか、夢と現実の狭間みたいな感じのときに、おきようとしても目が開けられないとか体が動かない時ってありませんか？ ふたつの闇が混ざり合うと光が生まれて世界が生まれる。 何の比喻だろう。ビックバン・・・ならふたつの闇が謎だし。 題名は名無しのミューズ。この子、無自覚に神様？とか考えてみたり。
RiZEL 9/18 18:55	> ベランダでは数羽のメジロが鳴いている。 こういう切り方をする作品は非常に好きです。 単なる夢オチの話ではないみたいですが、その辺が曖昧なままなので詳しくは分かりませんでした。 タイトルに何か思惑があるような感じもしましたが・・・僕の知識不足でしょうか？
わがし 9/19 18:29	むむむ。難しい。何かすごくいいたいことがあるような気がする。 > はて、なんとか名前の鳥だろう なんという、だよね、きっと。がんばろう！
あそびにん LV.2 1 9/19 21:10	うーん...難しい。 最初に名前が分からない一羽の鳥。最後に数羽のメジロ。 何でメジロなんだろう？ ...問題はそこじゃないか。 一つの闇が私の闇だとするなら、もう一つの闇って何？ ひょっとして、最初の鳥？ 雰囲気は世界誕生っぽいんだけどなあ...私が無自覚に新たな世界を作るような神様っていうなら、それは創造主的な神であってミューズには結局合わないし。ミューズに沿うと、歴史を見直してる感じなのかなあ？ 何か気になるような雰囲気は持ってるんだけど、それが何かさっぱり分からないのが...うーん。
ばっは 9/21 7:4	名無しのミューズ？ミューズってどっかの女神の名前じゃないの？わからん。世界の真理を知った人のお話かな。メジロは夢から現実に戻ってきたことをはっきりと描写するためなのかな？なぞが多い。メジロが創世に関係するものとかだったりするのかな。知識不足です。
さむらす 9/21 15:21	もう少しこの少女のがどういう人かわかるとよかったと思います。まあ1500字じゃそんな詳しくかけないと思うけど。 あと、普通に考えたら～の文はいらないと思います。 > ばっはさん ミューズは音楽の意味だと思いますよ。名無しなんですし、神様だとおかしいでしょ。
ばっは 9/22 4:6	さむらすさんありがとう。私は音楽は本当に疎くてわからないのですよ。音楽のって言われてもいまだに？ってなっています。でも、音楽だと文章とつながりあるのかなあ。ミューズって言葉を詳しく知っていたらわかるのでしょうか？
鞆鞆 9/22 5:58	ミューズ...？教えて！Wikipedia先生！ ...なるほど。ギリシャ神話の女神？の複数形？ 9人居るといふ女神にはそれぞれ名前が付けられているようなので、「名無しのミューズ」ということはその9人の分野の外の分野の話、っていうことなんでしょうか。結局関連性はよく分からなかったのですけれど。 こういう終わり方はなんか謎めいて好きです。

さむらす 9/22 17:27	musicと同じ意味だと思ったのですが、ミューズだとmuseでそういう意味はないらしい。ちょっと勘違い。 で、英語辞書によると詩や音楽の神や詩人をあらわすらしい。(おおげさに)詩人と辞書にかいてあるのが気になった。 名も無き詩人は宇宙までつづるというのか。
イッパイアッテナ 9/24 1:28	ミューズって、手を洗う石鹸でh.....冗談です(反省 メジロってどんな鳥だったのか思い出せないの、最後の数羽のメジロの意味がとれなかったのですが、なんとなく作品の言わんとしていることは伝わったと思います。 (目をつむったときに、目の裏に残る残像というのが、まさにこの作品と同じような雰囲気の世界だと思ったけど、それは関係ないかな。)
jabberwock 9/24 2:5	夢落ちの逆？
弟子 9/25 3:58	夢って疑ったものは多分なんでも夢だと思うよ そう思い込んでしまったほうが楽なもの
やまのかめさん 9/25 12:58	Muse だとギリシア神話に出てくる芸術の女神のことですが、そこから転じて英単語としての muse (通常 the muse)は、芸術的直感の源、のような意味になるはずですが。調べてみたところ、典型的には、男性の芸術家に着想を与える女性のことを指して使われることが多いようです。 さむらすさんが「(おおげさに)詩人」と紹介されていますけれども、それはジーニアスでしょうか(^_;; おおげさに、というか、これは文語的表現ということだと思います。 で、こんなことを調べてはみたものの、作者さんの意図は今ひとつ把握できていません。名無しのミューズ(メジロ?)に誘われて夢の中でなにかのアイディアを得た、という話になるのかなあ。でもそれだけ、なのかどうか、夢の描写はなにかを暗示しているように見えますし、冒頭で鳥の名前がわからない様子なのに最後ではさらりと「メジロ」という名前を出しているのもなにか意図があつてのことなのだろうか、と頭を捻っています。
木星/dx 9/26 5:49	芸術的直感が降りてきたんだけど、肝心の当人がこたつに入ったまま何もしなかったの、世紀の大傑作が幻になった話かな。 怠けてたら折角の直感も無駄になる(＝名無しのままで終わる)という、教訓話？
さむらす 9/26 9:54	うーん、どうやらぼくの作品は毎回わかりにくいらしい。 たしかに、こんな一部分だけ切り取ってもわからないですよ。 生きることへの関心が薄れてきている少女の話です。薄れていくといっても一直線に関心が無くなっていくわけではなくて、ゆらゆらと薄れていっているんですね。で、そのゆらぎの部分表現したつもりです。 強い孤独を感じている彼女は、いつか自分の世界に光が差し込むことを信じている。その信じる心は薄れゆく。いつしかきみの世界にも光は差し込むと告げているような夢を見て、少し信じる心が強まった。 心に光が差し込むとき人としての世界が始まると考えているので、世界の始まりを夢に持ってきたのです。 世界の始まりとはどういうものなのだろう。おそらく光が生まれたときだ。では、光はどうして生まれたのか。神が光あれと言ったからという人もいるかもしれませんが、ぼくのは違います。完全に無の世界があつて、別のところにもまた無の世界があつた。そして、無と無が重なり合ったときに世界は始まった。そう、ぼくは考えています。きっと世界の始まりは0 + 0 だったのです。 ちなみにメジロは冬の鳥らしいです。季節を表現するためと、彼女が世界への興味を取り戻したことを表現するために登場してもらいました。 なんか妙なタイトルなうえ本人意味よく知らないですが、これでよかった気がします。タイトル考えてたときに降りてきたので、大事にしたいです。
さむらす 9/26 9:58	S F じゃなくて純文学のつもりです。 ごく普通の少女が生きることに悩んでるんですからね。 ちなみに、前回の白いワンピースの女性とは別人です。

かなしいとき

合計ポイント：3 Point
作者：忠犬ヤス公
[作者コメントを読む](#)

- かなしいとき
- 着信履歴が「お母さん」で埋め尽くされているとき
- かなしいとき
- アドレス帳に入ってる女の人が「お母さん」だけのとき
- かなしいとき
- 友達の携帯の受信トレイをのぞいたら自分が「その他」に分類されていたとき
- かなしいとき
- 身体測定で座高が伸びてるのに身長が縮んでいるとき
- かなしいとき
- 夜道を歩いていたら前の女の人が急に走って逃げ出したとき
- かなしいとき
- タクシーの値段が目前で上がったとき
- かなしいとき
- 時計を12時間間違えて20時に学校に行こうとしてしまったとき
- かなしいとき
- 携帯の電池パックだけを家に忘れてきてしまったとき
- かなしいとき
- そもそも、その携帯がリモコンだったとき
- かなしいとき
- セーブする前に電気がとんで、データが消えてしまったとき
- かなしいとき

満員電車なのに自分の両脇に誰も座ってくれないとき

かなしいとき

有効期限切れの1000円割引券が財布から出てきたとき

かなしいとき

ノストラダムスの大予言を信じて全財産使い切ってしまったとき

かなしいとき

「表示できません」と出てきたとき

かなしいとき

大好きな漫画の最終回が夢オチだったとき

かなしいとき

掲示板にスレをたててもレスが一個もないとき

かなしいとき

夕日が沈んだ時

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
わがし 9/18 9:32	わかりきっていたのに、面白かったです。
さむらす 9/18 9:38	おもしろいけど、ちょっと長かったという印象。
Begonian 9/18 10:2	まあ、超えられても困るのですが、やはりオリジナルには敵いませんよね。中身もいわゆる「あるあるネタ」に留まっていますし。
きしと 9/18 12:7	久しぶりに見ましたこのネタ。 なんかどんどん引きこもり少年っぽく見えてきていたたまれなくなりました。 面白かったですけどね。 > 夕日が沈んだ時 これは元ネタの定番の閉めですがこの文章にはちょっと会わなかったかも。 独自のオチをつけてもよかったかもしれません。
RiZEL 9/18 19:25	ネタの切れ味が足りません。 本家のあのシュールさを再現して欲しかったです・・・。 こういうお笑いネタは個人的に大好きなので、どうしてもシビアになってしまいますが・・・。

茜 9/18 19:53	・・・・・・ながっ。 長い割にネタは単調。ひねりが無いのが残念です。 「かなしいとき」より「かなしいときー」の方がよかったかな。 分かってる人には、脳内でちゃんと再生されるんですが。 そういえばちょうど2年ほど前に「かなしいときー。誕生日プレゼントがうさみみだったときー」ってコラムがあったの思い出しました。そのなれの果てがまじょ様の研究室にまだあったりとか。
鬼 おん 9/19 10:18	せっかくのパロディが生かしきれてないのがちょっと残念かな。 自身のあるネタに絞ってまとめちゃった方がよかったかもしれません。
あそびにん LV.2 1 9/19 11:22	全体的には、今一つだと思ったかな。脳内再生とか、完全にオリジナルの方でかかってたけど、なんかオリジナルに寄りかかってそのまま終わってしまった感じを受けた。やっぱりこの作品といえこれっていう打破するものがせめて一つは欲しかったかな。 あと、構成としては、一番最初の3連続の携帯ネタもっと後でも良かった気がする。それからスタートしてるから、3連続見て携帯ネタで攻めるつもりなのかな？って期待して、あれ？ってがっかりした印象を受けたから、どうせバラバラとしたものが中心なら最後か転換させるつもりで連続のネタを使った方がいい気がする。 何はなくとも、とりあえず一つは破壊的なネタを！一つツボにはまればこういうのって勝ちだと思うから。 一番共感したのは、タクシーの奴だけど、惜しむらくはあるあるだけでこれ笑いじゃないんだよね……。 笑いの点では、20時登校かな。外見りゃ分かるだろ！ってつい突っ込みを入れたくなった。
ラ 9/19 21:21	量より質で勝負してほしかった。 少し長さを感じてしまいました。
kiku 9/20 7:4	オチを元ネタと一緒にしちゃ駄目でしょう。 ネタ自体は楽しいと思う。
エスィフィア 9/20 10:5	ちょっと長かったけど、おもしろかったです。 おもわずくすっといってしまいます。
木星/dx 9/20 10:24	やっぱ冗長。キレも今ひとつ。 並びを工夫するだけでちょっとはマシになるのでは？
He 9/21 19:47	他の人と同じく他に何か欲しかった感が…。 たとえば、ストーリーとか。
Perseus 9/22 0:38	他の人が言うみたいに長いけど面白みが足りないと思う。 後半がオタクっぽくなっていくのは、ギャグ？なんかあるあるネタじゃないね。
key 9/22 11:51	最初から最後まで、何かしらの流れがあるともっと面白かったかな、と思います。 有名なネタですけど、楽しく読みました！最近見ないな、あの二人。
オリボリ 9/22 12:39	おもしろいけど長い… 読んでて最後のほう飽きました。
colt 9/23 1:58	思いついたままに書きなぐった印象。個々のクオリティももちろんですが、ちゃんと全体の流れを作ることも重要だと思うわけなのです。 そもそも『いつここ』の元ネタはあの絵ありきでおもしろいのだし、「夕日が沈むときー」で終わるなら「誰かが死んだときー」で始めて欲しかったという思いが。 まあ、よく言えば二番煎じ、悪く言えばパクリの枠から出てないかな、と。パスティーシュ、と呼ばれるくらい昇華されたものでない限り、こうしたものは評価され辛いと思います。
Asagi 9/24 2:12	印象が散漫にならないように、ネタに一貫性がほしかったです。 もしくは、たとえばお母さんネタがやたらしつこく出てくるとか。 セーブと割引券はかなり共感したし、ネタの一つ一つは好きなのですが。

ほろほろ 9/24 2:43	かなしいときー。 鎌倉旅行で友人がひいたおみくじが3つとも『凶』だったときー。 かなしいときー。 鎌倉旅行で友人がマニアックな武器・防具が並んでいる店に入ってしまったときー。 かなしいときー。 その店で友人から、「ほら、このトランプ、端がカミソリみたいになってる！」と勧められたときー。 かなしいときー。 友人が「カッコいいペーパーナイフだなあ。どうしよかなあ、買おうかなあ」と目をキラキラさせていたときー。 かなしいときー。 自分では全く価値のわからないペーパーナイフを結局買ってあげたときー。 かなしいときー。 友人にとって鎌倉旅行の目的が実はその店だったときー。 かなしいときー・・・。 という風に、流れがあると面白いですね。
結政 9/24 13:1	> タクシーの値段が目前で上がったとき ” 目的地目前で ” を入れるとわかりやすかったかなあ・・・。 一瞬、メーターは目の前にあるだろうと思ったので。 いや、十分なレベルだと思いますけど。 > 満員電車なのに自分の両脇に誰も座ってくれないとき これなんて、シュールですけどねえ・・・。
こっくん 9/25 13:28	もう少しひねったのがほしいです・・・。
のろろ 9/25 17:14	面白いけどやっぱり長いと思います。
老若男女 9/25 21:26	本家が本家なのでおもしろくはないけど、つまらなくもない
地紅晴酸 9/25 22:56	文体が淡々としすぎていると思います。 そのネタにするのならば、もう少し語調を叫びっぽい感じにすべきではないかと。
blue-orange 9/26 0:53	もうちょっと減らしても良かったと思います。長すぎて途中で読むのを辞めようかと思ってしまいました...
えむえむ 9/26 1:56	懐かしいなあ。長い割りにはずっと読めた感じもする。 かなしいとき この元ネタがすぐ思い出せないとき
さむらす 9/26 2:21	かなしいとき～ コメント数多いのに、みんな言ってることたいして差がないときー
赤ずきん 9/26 6:50	ちょっと懐かしい。元ネタがある時点でどうにもプラスの評価をあげにくいのが問題ですが。 ちゃんと「誰かが死んだとき」で始めてほしかったなあ（えー）
イッパイアッテナ 9/26 7:30	やっぱ、人のネタばくるんなら、文字じゃなくて現実で自分の口でやってほしいなあ。 っと、笑いに厳しいアッテナは思うのです。 だから、作者さんは風の回に皆の前で漫才をしなきゃいけないと思うのです。

第三の解

合計ポイント：3 Point

作者：ゆーべる

作者コメントは暫くお待ち下さい。

「さてティール君、ここにタイムマシンがあるわけだが」

モーブ博士が唐突に切り出した。目の前に組み上げられた、やたらとごちゃごちゃした機械。天板に左右二つ並んであいた、直径15センチばかりの丸い穴が目をひいた。博士の右手から、拳ほどの大きさの赤いボールが放たれた。

「右の穴に投入した物体は、その2秒前に左の穴から飛び出してくる」

それが天板を転がり、右の穴へ吸い込まれようとする2秒前、左の穴からこちらへ向けて転がってくるものがあった。赤い、ボールだった。その間に、博士が放ったボールは右の穴へ吸い込まれて消えた。

「さあティール君、ここで問題だ」

博士は慣れた手つきでボールを拾い上げる。

「赤いボールを転がす角度をうまく調整すれば、左の穴から飛び出すボールが、右の穴へ向かうボールと衝突するようにできる」

ボールを軽く宙に放っては受け止める博士。

「それにより赤いボールは軌道を外れ、右の穴に入らなくなるだろう。では左の穴から出てきたボールはいったい何なのか？ 2秒後に赤いボールは右の穴に入らず、したがって過去に送られることもないのに」

「タイムパラドックス、ですか」

「左様。この問題には解が2つ知られている。ティール君はご存知かな」

毎度の事ながら無理難題がお好きな博士だ。こちとら単なる事務作業員、そんなことをどうして知っているはずがあるのか。

「ひとつ答えを言ってしまうおう。衝突するはずのボールはなぜか軽く触れるにとどまる。激しい衝突とならなかつたためにボールの軌道は大きく乱れることなく、本来のコースをわずかにずれて右の穴に入る――」

私も昔はSFに胸躍らせた科学少年、なんとなく答えが読めてきた。まあ理科系のほうは対数やら微分やらが出てきたあたりですっぱりあきらめてしまったわけだが。

「――右の穴に入った赤いボールは2秒前の左の穴から登場し、右の穴に向かうボールへむけて転がっていく。しかしわずかに軌道がずれているために予定通りの衝突は起こらず、軽く触れるにとどまる、と。そうですね、博士？」

「ご名答、ティール君！ しかしこの問題にはもうひとつ、興味深い解がある。赤いボールを右の穴へ向けて転がすと、なぜか左の穴からは、赤ではなく青いボールが現れる」

博士の口調が早まる。得意になっているときの、いつもの癖だ。

「そしてその青いボールが、赤いボールを弾き飛ばすんだ。仕事を終えた青いボールは軌道を変え、右の穴へと消えてゆく――それは2秒前の世界へ送られ、赤いボールを弾き飛ばしに行くことだろう」

「青いボールはいったいどこから来たのでしょうか」

「さあな。こればかりは時のみぞ知る、だ」

博士が首をかしげる。

「では実験してみよう。右の穴へ向けてそのようにボールを転がしたとき何が起こるか。軌道をわずかにずらす接触で終わるか、未知なる青いボールが現れるか」

厳かな口調とともに、博士がボールを放った。赤いボールは天板を、重たい音とともにゆっくり転がってゆく。右の穴まであと5秒、4、3.....

ド ッ カ ー ン ！

回路のどこかがショートしたのであろうか、モーブ博士苦心のタイムマシンは閃光とともにはじけ飛んだ。天板は跡形もなく吹き飛び、赤いボールは高い弾道を描いて.....

「イテッ」

博士の脳天に、クリーンヒットした。

「あいたたた.....まさかこんな解があったとは、さすがの私も気づかなかったよ」

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
ペピン 9/18 12:14	こういう話好きだけど、落ちがいまいちよく分からないなあ。というか、分かったようでよく分からない感じかな。タイムパラドクスを出してきたのは個人的にはポイント高いです。自分じゃこういう理屈っぽいのかけないので。
モーブ博士 9/18 13:7	タイムパラドックスのそもそもの元凶であるところのタイムマシンが壊れることにより、タイムパラドックスとなりうる状況自体が起こらない、という解であるな。それにしてもひどい損害だ——早くマシンを修理しなくてはな。
あそびにん LV.2 1 9/18 14:51	いや、作者登場はいくらなんでも早すぎでしょ。言われなくてもそういう落ちだってことは分かりやすかったと思うしね。ちょっと興ざめしてしまったかも.....。
	さて、気を取り直して、落ちはともかく、内容は結構面白かった。いかにも理系っぽい嗜好かも。落ちは派手ではあるけど落ちきってない印象。まあ、確かにいい落とし方はちょっとわからないけど...。
	あと、スペースが足りなくてちょっと読みづらく感じちゃったかも。会話と地の文が入り混じった感じになってるから、その辺で一行スペースを空けてみてもよかったかもね。
茜 9/18 18:55	青いボールの話とか、面白いですね。その割にオチがミもフタもないのですが、まあ、それはそれでアリかもしれません。ただ、落ちきっていないなあ、という印象はあそさんと同様。もっとミもフタもなさを強調するとか、それまでにちょっとユーモラスな雰囲気を出して、ギャグっぽい終わらせ方で読者ががっかりしないようにするとか.....どうすればいいのかな？
key 9/19 10:37	軽い文章かと思ったら、うん？？？と何度も読み返し読んでて頭が沸騰しそうになりました。大学受験のねじくれた物理問題を解いている気分になりました。
	もうちょい...分かり易い機械にして欲しかった...って理系にあるまじき要望をしたい...
鞆鞆 9/19 11:44	もし第二の解の場合、青いボールが現れて衝突をしてから右の穴に入るまでの間に、右の穴に青いボールが入らないように青いボールを取り去ったらどうなるんだろう、とか考えたりしました。
	作者登場が早すぎ、には私も同意です。あんまり早く出てきて分かり辛いところを解説されてしまうと、読み込む気がなくなってしまうので。そんなに早く解説するくらいなら、作品の中に解説まで含めてしまえば良いのです。
わがし 9/19 19:33	うーん、まじ文系の私は、この文章、難しいのであるが、どうだろう？ みなさんすんなり入ったのかな？
カケラ 9/20 11:6	この手の話が好きな私としては、内容はどこかで聞いたことのあるもので、タイムパラドックスが出た瞬間落ちが分かりました。もう一工夫欲しいです。
	この落ちにしては、それまでの文章が論文調になりすぎてると思います。でも、この実験をもっと簡単に説明するのは難しそうだから、この実験と落ちは相性が悪い気がします。

さむらす 9/21 15:32	なんか難しいな。 この博士あんま好きじゃない。
イッパイアッテナ 9/23 14:48	理系の話というよりかは、哲学の話に近い気がする。 (タイムパラドックスという概念そのものは、理系ではなく哲学か論理学の世界の話だし。) で、哲学の話としては、結構興味深くて楽しめたかな。こればかりは時のみぞ知る っていうセリフがおしゃれで好き。 機械の故障という解は、予想はできなかったけど、納得できる回答だと思う。 ところで、自分はこの機械を見て、いかさまの匂いを感じたんだけど皆はどうだった？ (同じような機械、俺作れるよ。同じ赤い玉を二個用意できれば...)
ほろほろ 9/24 1:27	思考実験を作品にしたのは、面白いねえ。 時間の操作は現実の実験系ではなかなかできないんだから、 確かに文章の世界で描くのがいいよね。 この作品を書く上でけっこう大事なのは、 どこまで現実のルールを踏襲して、 どこのルールを外すのか、という点ですね。 今回はある機械があって、その機械が2秒前に時間を戻せる、という事を許したわけだよ ね。 このルール下でどれだけ遊べるかというのがこの話の肝で、 オチ以外はうまくいっていたように思います。 オチはちょっと、逃げちゃったねえ。 せめて青いボールがオチに絡んでほしかったなあ。
結政 9/24 13:24	タイムパラドックスの内容の理解のときに 二秒前を二秒後と間違えていて・・・ あほですね、はい。 理屈っぽい文章なので、人を選ぶでしょうけど なんとか成功はしているかなあ。 一応、落ちもこれで及第点かと思います。 作者さんの解説の話もわかりますし。 で、問題は読みにくさ。 改行を適時に入れてやれば、もっと理解もさせやすいかと。 もっというと機械の様子を想像しづらかったので 肝心な部分の描写がほしかったです。 あと、青いボールの話は永久機関になりませんか？
神無月 9/25 4:38	個人的にはなかなか好きです。最大限遊んでいる感じがしてナイスです。 オチは、遊びきるためには必要不可欠なものなんじゃないかなあ、と。前提を壊せば何も 起こらない。時間の防衛本能みたいな。 最後は水戸黄門的楽しさがあって、手放しに褒められるものではないけど、まあまあ良い 感じかな、と。 作者さん登場は早いですよう。みんな、もっと根気強く行きましょうぜ。
mendel 9/26 1:8	内容は凄く面白いと感じました。 この機械って有名な話なんでしょうか？創作でこの思考が出来たのだったらホントに凄 い！（特に青球の発想は、なかなか思い付かないと思います） ただ、書き方が少し見辛かったです。もうちょっと、整理して欲しかったです。
イッパイアッテナ 9/26 7:14	文字数カウントしてみたら、コメント欄の博士の台詞も合わせたら文字数が、 ...1466文字。 ち、残念ーなにがだ。(大会終わった後に文字数オーバーが発覚したら面白かったのに。)

七年間

合計ポイント：3 Point
作者：melonsan
[作者コメントを読む](#)

昔、ワンドという、物語りの才に恵まれた少女がいました。
ワンドが語るお話は空想的で、聴くものをみんな引き込みます。
さて、ワンドが住む国にはワーグという、聡明な王子がおられました。
ワーグ王子も物語りに長けていました。特に、たとえ話で人をさとすことが得意でした。

ある日、このワーグ王子は、いなくなったまま戻らなくなりました。父親の王様は悲しみます。

そんな時です。王様は、王子と同じように良いお話を語る少女のうわさを知ります。感心した王様はワンドを養女として迎えいれました。

折しもその日はワンド、七歳の誕生日でした。その日から、ワンドはある時は楽しいお話、またある時は怖いお話などを語って聴かせ、王様をなくさめ、気をまぎらわせていました。

ですが、自分で面白い話を作れるとはいえ、ワンド自身はまだまだ遊んでいたい年頃。
お城の一角の、百ある部屋のうち、一つを除いた残りの九十九の部屋がワンドに与えられました。

「自由に使ってよい。ただし、最後の部屋だけは絶対に踏み入ってはならない」

ワンドは六年間、言いつけを守り続けていました。
ワーグ王子が遊んだ跡を、部屋で見つけては王子がどんな人か思いを馳せます。
自分だけに紡いだ物語では、王子とワンドはお茶会で楽しんでいました。

ただ、六年を過ぎる頃には、ワンドは許されていた部屋の全てを知り尽くしていました。

ですからワンド、十四歳の誕生日のことです。
お城に来てから七年目になるその日、ふとした弾みで少女は百番目の部屋に踏み入ってしまうのです。
そこで何を見たのか、ワンドは理解できませんでした。でも、どうしても怖くなったので、すぐに部屋を出ました。

最後の扉を開いたことで王様はワンドをとがめます。

「ワーグ王子も十四歳の頃、あの扉を開いたことがあったのだ。
その後になくなってしまった、だから百番目の部屋に入ることは禁じていたのだ。
お前はどこにも行かないだろうね？」

でも、部屋の中で見たものにおびえていたワンドは、お城を飛び出してしまいます。

国の境い目に来た所で、ワンドは、みすばらしいけれど何故か自分よりも気品のある、青年に出会います。

なんと、それはワグ王子でした。

十四歳だった頃に、最後の扉を開いて傷ついた王子。彼は答えを知ろうとして家出し、七年間、各地の国を放浪してたそうです。このほどようやく部屋の中で見たものの答えを見つけました。王子が答えを見つけたことに、少女はやっと安心します。その答えも聞かずに。

めでたく二人してお城に戻ったことにより、王様はたいそうお喜びになりました。

しばらくすると、ワグ王子と少女ワンドは結婚し、末永く幸せに暮らしたそうです。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
RiZEL 9/18 19:22	100番目の部屋には何があったのでしょうか。 なんとなくは想像できましたが、それを確信に変える描写が見当たりませんでした。もしかしたら読みが間違ってるのかな・・・。 色々想像の膨らむお話ですね。雰囲気も好きです。
茜 9/18 21:1	実子と養女って結婚できたっけ？（無粋な話） 100番目のお部屋。なんだったのかな。あたしにはあんまりピンとくる答えがないんですが。二人が出会ったことが答え？ で、これも無粋なお話なんですが。 7歳の誕生日からまる6年って、それは13歳では・・・？
さむらす 9/18 22:46	結論は読者に任せますってことなのかなあ。 それとも、100番目の部屋についてはよく読めばわかるんだらうか。なにかの話がもとになっているのかな。 >あかねさん 十四歳になったのは、六年後じゃなくてそれから一年たってるんだと思いますよ。言い付け守ってる期間が七年には届きませんでしたよーということをいおうとしているはず。
jabberwock 9/19 13:14	私は脱社会的化した少年少女が社会に再着陸するような話として読みました。 王子と少女の差異は 『「物語りの才に恵まれた少女」＝社会と自分が未分化な状態』 『「たとえ話で人をさとすことが得意な王子＝外部と自分が分化し論理を持つ状態」』に 思えます。 少女に比べ大人に近い王子。しかし論理を持つがゆえに、既存の法や秩序の根源がわからない。ちょうど社会秩序に反抗したくなる反抗期の子供に重なる感じでしょうか。そんな王子は言い付け守れず100番目の部屋をのぞいてしまう＝脱社会化する。王様やお城は秩序や権力の象徴（のような気がします）なので、王子はお城にすることができなくなります。 一方少女も始めは「物語り」「空想的」なわけですが、時がたつにつれ成長し「許されていた部屋の全てを知り尽くしていました」というように自己と外部＝社会が分化する。そして少女も王子と同じように社会の外側＝100番目の部屋を見てしまう。王様はそれをとがめますが、脱社会化した少女に王様のとがめは有効性をもたない。 脱社会化した少女は「国の境い目」で王子と出会う。「国の境い目」は社会と脱社会の狭間。少女がそこで出会った王子は「答えを見つけました。」とあるように、社会秩序や法の根源の無さを「自分の中で」処理できるようになっている。こうして二人は「めでたく二人してお城に戻った」＝社会に再着陸する。。。

	ちょっと無理やりだなあ。。。。 とりあえず王子は答えを見つけたのでしょうか気になるところです。
jabberwock 9/19 13:15	ちょっと無理やりだなあ。。。。 は自分の読みに対してです。RIZELさんのいうように想像の膨らむお話ですね。
あそびにん LV.2 1 9/19 14:48	しばらくするとして、あんまり何年もってイメージないけど、それだと、21歳と14歳で結婚...（もっと無粋な話） 100番目の部屋、大人の汚い面とも思ったけど、それなら王様の咎め方がなんか違う気がするんだよなあ。jabberwockさんの解釈みたいに、秩序とかそういう見られても困りはしないけど、怖いと思わせてしまうみたいな感じだと受け取った方がいいのかな。 寓話としての雰囲気はよく出てるんだけど、現在形と過去形が妙に入り混じってるのが気になった。何か意図があるのかな？ >jabberwockさん いや、多分それくらいの読み方は作者さんも望んでいると思う。話の特徴とかもわざわざ最初のほうに書いていたりすることだからね。 割と、jabberwockさんの解釈を見てしまって、それがはまっているような気がしているから、今とっさには別の解釈思いつけない状態だけど、またあそびにんなりの解釈思いつけたら書き込んでみようかな。
茜 9/19 15:42	>さむらすさん んーと、14歳の誕生日ってことは、まる7年ですよ？ てことは、この日から「八年目」に入っちゃうんですよ。 「まるまる6年ではなくて6年過ぎて」って意味だとおもったんだけど、この、「七年目になるその日」ってのが、あれって感じで。題名はちゃんと7年間になってるから、たぶんこれ、誤植だと思うんですけどね。
作者 9/19 16:44	この点だけは早めに訂正しておいた方が良いので。すみません、誤植というか勘違いです。作者コメントで詳細を報告します。 >お城に来てから七年目になるその日 は意味としては、七年後になるその日、です。正しい日本語か分かりませんが、題名にあわせて >お城に来てから七年間になるその日 と訂正します。
さむらす 9/19 18:24	ああ計算にがてだ。 七年目になる日って、六年間しかたっていないんですね。 勘違いな返事を書いてしまった。
pencha 9/22 11:57	こわい結末になるのかなあ...と読んでは思ってたが、ハッピーエンド的でしたね。 展開をおもしろく思います。
あそびにん LV.2 1 9/22 16:55	今ふっと気づいた。この二人の名前って、寓話王子と少女童話か。それで、最初の設定がついた気がしてきて.....あれ、じゃあ、そんなに深読みするようなことでもなかったの？ 二人とも、物語に関係しているとして...百物語とかも考えてみたけど、それって答えが出せるようなことでもなかったね。
イッパイアッテナ 9/23 16:15	百番目の部屋に入っていたもの、なんとなく想像は付きます。 話の内容は面白いけど、なんか文章が読みづらい。もう少し、読み流しやすい文章のほうが良かったかな？ 最後に結婚して幸せになったというのが、おとぎ話的で自分はあまり気に入らなかったかも。なんか必然性に欠けると思う(素直に読めな自分は汚れた大人だ.....)

ほろほろ 9/24 2:57	100番目の部屋、気になるう～～。 ず～っと考えたんだけど、 しっくりする答えは出ず。 特に、最後2行の終わり方に謎がないので、 具体的な何かを想定していないのでは、と思いました。 たとえばワグ王子と少女ワンドが結婚してその子どもがまた100番目の部屋に入ること を考えると、 帰還してから100番目の部屋になんらかの対処をしそうですね。 それが描かれていなかったのもので、 放っておいても大したことのないものなのかなと思っちゃった。
エスフィア 9/24 19:9	100番目の部屋の中身が気になります。なんだったのかなぁ。 「王子と少女は結婚し、末長く幸せに暮らしました。」 おきまり中のおきまりですね。大好きです。
茜 9/24 19:20	何故だか知らないけど結婚した二人は100番目の部屋で暮していそうな気がしました。 (ほんと何故) でも100番目の部屋がなんなのか、全然わかんないんですが。うーん。
弟子 9/25 5:7	大きな部屋には鏡が一つ 王子はその鏡の中へと吸い込まれていきました
mendel 9/26 2:27	100番目の部屋、一体何があったんでしょうね……。 私としては、「100個の部屋」が「王子の心」を例えているのかなぁと感じました。 最後の部屋には自分自身のエゴのような暗い感情があったのではないのでしょうか。少女は 99個の部屋を知り尽くす、つまり王子の明るい感情の部分を知って、恋心を抱く。でも、 最後の部屋の暗い感情は理解できなかった。 王子は14歳のとき、自分の暗い感情を見てしまった。そして、その感情を理解するために 旅にでた。といった感じで受け取りました。 でも、こんな裏が無かったとしても、ほのぼのとした良い作品だと思います。キレイにま とまった文章だと感じました。

[TOPへ](#)

今週のお題

開催中： 時

投稿受付中： 投稿受付期間外

Column Land

■最終セッション結果発表！ 作者コメントをお早めに。
■オフラインセッションは土曜日16:00西9の607。作品「風」の投稿は前日17:00までです。くわしくは掲示板370へ。ただいま風速3メートル。

コンテスト会

コラム掲載ペ

コラムアーカ

プロフィール

自己プロフィ

BBS

まじょコメン

そして 世界で最後の二人になるまで

合計ポイント：2 Point

作者：key

作者コメントは暫くお待ち下さい。

生まれた時から探し続けた相手は、再会の時、既に十年先を歩いていた。
きっと、君を置いて卑怯にも去った僕への罰なんだろう。
あの日君がしたように、いつか、僕が去る君を見送る日がやって来る。

その日を恐れていた。
怖くて、何度も逃げたくなった。
それでも逃げなかったのは、もう『次』はないと思ったからだ。

息を引き取った人間は、こんなにも冷たくなってしまうのか。
冷たい手のひらを少しでも暖めたいと、両手で包むようにぎゅっと握った。彼女の顔に苦痛の跡はない。一週間も意識不明の後の死だから、当たり前だが。寝顔にも見える表情だったが、目を覚ましそうだとは思えなかった。もうこの身体に君はいないのだ。

君は覚えていないみたいだったけど、僕たちは本当は何度も、この世界で出会っている。僕らは出会った数だけ、何も知らずに恋に落ちた。『探す』、そう言ったのに、僕は思い出せなかった。残酷な方法で、何度も君を傷つけた。そして必ずその後に、全てを思い出すんだ。

全てが手遅れになった世界で、僕は愚かな自分を罵倒した。君は結局、僕のことを思い出すことはなかった。記憶なんてなくなたって、君は君だから構いはしないと思いながらも、心のどこかで思い出してくれさえすれば、また全てを取り戻せる気がしていた。今思うと、なんて身勝手な考えだろう。

この生を受けたとき、今までと違って僕の頭の中には既に過去の記憶があった。誰かがくれた、最後のチャンスなのだった。今度こそ、僕は過ちを犯さなかった。あまりにも幸せで、幸せすぎて、何年かたつと不安になった。僕と君との間にある十年という時は、永遠に縮める事ができないから。

固まって棒のようになった足を引き摺るように動かして、霊安室の扉を閉めた。

「パパ」

ようやく姿を現した僕の姿を見て、ベンチに座っていた娘が、駆け寄って脚に抱きついた。慌ててしゃがみ、宥めるように髪を撫でる。決して短くはない鬪病の末の死だったから、聡い娘はいつか母親がいなくなることを感じていたようだった。

大泣きした後の潤んだ瞳が、僕を見上げると、僕は心臓を鷲掴みにされた気がした。
あの日、『嘘だ』とたった一言残して消えた君に、あまりにもそっくりだったから。
胸から溢れる感情がこらえきれなくて、娘の肩に顔を埋める。

「パパ、泣いてるの？」という声に頷いて、小さな肩を抱きしめた。

閉じた瞼から涙が溢れて、ワンピースの肩を湿らせていく。
こんなでも覚悟しているつもりだったんだと言ったら、君は笑うだろうか。

「『今度は私が探すから』」

唐突に呟かれた言葉に、抱きしめていた娘の身体を離してその顔を凝視する。
娘は子供ながらに真摯な目で父親の目を見ていた。

「ママがね、パパが泣いてたら言ってあげてね、って。最後にお話、した時に」

そう言うと、その時のことを思い出したのか娘の顔が一気に歪んだ。
堰を切ったように声を上げて泣き出した身体を抱き上げる。

僕の涙は止まり、胸の痛みは消えていた。
愛する人は、何もかも予測して逝ったらしい。
あまりにも強い彼女に、僕はずっと敵わなかった。

これからもずっと、そうなんだろう。
そう思えるようにしてくれたことが嬉しくて、さっきとは別の涙が溢れてきた。

「あとね」

泣き声を必死にこらえ、声を詰まらせながら娘はまた僕の顔を見た。

「『今度は浮気しないでね』だって」

腰を抜かしかけて、僕の額が娘の頭にゴチンとぶつかる。
「パパ痛い」と言うのに慌てながら、いつ思い出していたんだ！と天国の彼女を追いかけて問い詰めたい衝動に駆られた。

とにかく、

せめて次に会った君に怒られることがないように、

初めて生まれた君と僕の子供を、命の限り守っていこう。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
八剣 9/18 21:28	連載・・・なんだろうか。 そうだとすると、この作品単体ではちょっと地味かな、と。
茜 9/18 22:10	下手に連載を意識したせいで、なんかごちゃごちゃと説明が入って、それが、ちょっとうるさく感じました。 で、一番面白かったのが、「今度は浮気しないでね」って台詞。 裏設定がある上ですから、普通の浮気とはちょっと違う意味だと思うんですが。 でも、裏設定消した上でふつーの別れのシーンで、「いつかまた巡り会いましょう。今度は浮気しないでね」なんてことばを娘から聞かされた日にはなかなか面白いことになるかと。
わがし 9/18 23:38	え、どれと連載ですか！？ 浮気しないでね、のところで、吹き出しました。 あ、裏の設定があるのですか。なんだ。 このセリフを見て、もしやこれは最後はコメディになるのでは、と思ってしまいました。 失礼。
あそびにん LV.2 1 9/19 16:55	最初に十年先の時点で連載に気づいてしまったせいで、単体で読んだ時にどうだったのかいまいち判断できない……。 多分、最初の一行、これ単独だとすっごい違和感を感じる気がする。まあ、その違和感が気づかせただけど。でも、多分単体でも十分読める程度には説明がついてるんじゃないかな。 > 僕たちは本当は何度も、この世界で出会っている。 これがちょっと違和感。時（時代）を超えて出会っているみたいな感じの方がいいと思う。この世界っていわれちゃうと、つい同じ時間軸とかそんな感じで直感的にイメージしてしまう気がするんだよね。 連載に気づいてしまってるから多少補正かかてる気もするけど、結構良かった。こういう話好き。聡い娘も健気でいいね。 にしても、確かに浮気しないでねは気になる。ひょっとして、残酷な方法で傷つけたってのがこのことなのかな？
忠犬ヤス公 9/20 18:20	連載には気がつきませんでした。わがしさんと同様どれと連載かわかりません。これ単体で読んでも十分おもしろい作品でした。あと裏設定が非常に気になりますね。
さむらす 9/21 22:32	いやぁなかなか文章力のある人ですね。 でも、ちいさい女の子に浮気しないでねなんてセリフいわせないでくださいよ。
kiku 9/22 14:1	どうしても連載補正入った評価になるけど、そのオチとしては結構好きです。 でも単体で見たら意味不明だったかも。
イッパイアッテナ 9/23 15:59	連載...なの？ むしろ北村薫の”リセット”のオマージュだと思った。 （そもそも連載そのものが”リセット”のオマージュ？） 浮気しないでね、が笑っていいのかいけないのか、ちょっと難しかったかな。 全体的にいい雰囲気作品だと思います。 *初めて生まれたという描写が、転生ということを繰り返すいびつな恋愛感情と対比されていい感じだと思います。
エスィフィア 9/24 18:56	もしかして、あの作品と連載なのかな？当たってたらうれしいです。 こういう輪廻の考えは好きです。ぜひまためぐりあって、幸せになってほしいです。
ルンタッタ～ 9/24 19:2	過去があるから未来がある。そういうことなののでしょうか？

弟子 9/25 4:59	「『今度は私が殺すから』」 にみえた私は死んでいいはず
朱雀 9/25 23:24	連載だったのですか……。私は全く気付きませんでした。文章、上手いですね。簡潔に、リズムよく。結構難しいのに、よくできていると思いました。この作品単独でも、私は十分楽しめましたよ。
blue-orange 9/25 23:31	何と連載なのか分かりませんが、この作品だけでも十分良いと思います。
mendel 9/26 1:1	私もどの作品と続いているのか判らない……。前作を知らないせいで解釈できない部分もありますが、作品の雰囲気がとても良かったし、自然と文章へ惹きこまれました。

[TOPへ](#)

今週のお題

開催中： 時

投稿受付中： 投稿受付期間外

Column Land

- 最終セッション結果発表！ 作者コメントをお早めに。
- オフラインセッションは土曜日16:00西9の607。作品「風」の投稿は前日17:00までです。くわしくは掲示板370へ。ただいま風速3メートル。

[コンテスト会](#)[コラム掲載ペ](#)[コラムアーカ](#)[プロフィール](#)[自己プロフィ](#)[BBS](#)[まじょコメン](#)

合計ポイント：2 Point

作者：きしと

作者コメントは暫くお待ち下さい。

日曜日、昼まで寝ていた私は突如鳴り響いた轟音で目を覚まし、玄関へ向かってみると男が倒れていた。私と同年くらいの、ひどく痩せた男だった。

彼を家へ入れ事情を聞くと、自分は未来から逃げてきたのだ。と言う。

やれやれ、厄介な男に出会ってしまったと思っていると、男は言ったのだ。

「時間停止とはどういうことだと思います？」と。

時間停止...字面どおりに受け取れば、時間が止まるということなのだろう。

しかしそういわれれば、時間が止まるとはどういうことなのだろうか？

時計が止まることだろうか。いや、身の周りのものの動きが止まることだろうか。

そんなことを考えてるうち、男がまた話し始めた。

「今から二十年後に、ある男が時間を停止させます。その男は強力な超能力を持ち、時間軸上の時間の動き、そして時間の変化によって状態を変える物質のすべての変化を止めることができるのです。

それが、時間を止めるということです。一度時間が止まれば、その止めた人間も止まってしまうのだから、その時間が動き出すことは永久にありません」

男はあっけにとられている私を尻目に、さらに話し続ける

「その能力は彼が生まれて二十年後の9月9日、ちょうど彼の二十歳の誕生日に覚醒します。しかし彼はその能力の恐ろしさに気づいていません。それを認識できているのは、双子の兄であり、時間移動の能力を持つこの僕だけなんです。お願いします。どうか弟の時間停止の能力が覚醒する前に、彼を止めてください。これはあなたにしかできないことなんです。お願いします、お願いします。」

そういうと、彼は姿を消した。

なんだったんだいったい.....そう思いながら、私は寝室へ戻り、ベッドに倒れこんだ。

どれくらい時間がたっただろうか、目を覚ますと、ちょうど病院へ行っていた妻が帰ってきていたところだった。

「もう、日曜日だからって寝すぎよー。ちっとも起きないから一人で行ってきちゃったわよ。まったく大変だったんだから」

妻はすっかり大きくなったお腹をなでながらぶつぶつと文句を言う。

「でも、経過は良好だって。このままいけば予定日どおりに生まれるそうよ。」

「そうか、楽しみだな。双子の.....」

言いかけて私は言葉を止めた。双子.....予定日どおり.....予定日は、今から一週間後、9月9日.....

「？どうしたの？」

「いや、なんでもない。疲れたろ、ゆっくり休んでろよ」

そういいながら私は、またベッドに倒れこみ、あの男の言った言葉を思い出した。

時間停止.....それがいったいどういうものなのか私にはやっぱりわからない、世界が滅亡させるわけでもないし、巨大な犯罪を起こすわけでもない。

だが、一度止まった時間は永久に動き出すことはない.....

それを私が止めなければならない。それは私にしかできない。

やはり私は止めるべきなのだろうか、たとえ、愛する人の腹を裂いてでも.....

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
Begonian 9/18 11:5	1マナでカード名がなんでもありません。 《時間停止》って10thにいえいえなんでもないったらなんでもないのです。 で、腹裂く必要あるの？ 発想はすごくいいと思うのですが、その分どうもオチが追いつけてない気がします。
さむらす 9/18 11:37	Begonianさんに同意。もちろんギャザのほうじゃなくて、腹を割く必要があるのかということ。少年漫画風のすべりだしだからそれっぽいラストがいいなあと考えた。
茜 9/18 20:55	・・・・名古屋かどっかの事件思い出しました。あ、調べない方がいいです。怖いから。 で、旦那さん。そんなよく分からない夢っぽいもの見ただけで、奥さんのお腹裂かないでよ。生まれた瞬間悪さするわけじゃなし。 言いたいことがなんなのかよく分からなかった感じです。テーマはなんなのかしら。時間停止の恐怖？ 大体兄はどの時間から逃げてきたのでしょうか。弟が時間停止させる前？後？なにしろ、兄が時間止める直前の弟のところ行って、止めればいいとおもうんだけど。うーん。
zoo 9/18 21:1	>Begonian 1マナ？なぞなことを・・・・ 時間停止はたしか6マナなはずでは？ などはおいといて最後暗いですね。しかも答えを出さないとはずるい！ 手法といってしまえばそうなんです、なんとも・・・・
attena in USA 9/18 23:23	I think Miss.Begonian means "Time Walk" not 《時間停止》. And this Power 9 is 2 mana. Don't mind Beggy!?
あそびにん LV.2 1 9/19 18:20	腹裂かなくたって、普通に、生まれてきてから息を止めるとかでもいいだろうに...あれ、それ、普通なのか？ さむらすさんに同意。なんか、後半妙に生々しくなってきた気がする。他の能力者を探して、一緒に息子の暴走を止めるんだ！...本当に、どこの少年漫画だよ。 >アッテナさん 違うよ、時間停止はちゃんと6マナのカードであるよ！ Begonianさんが1マナの分で言いたいのは、きっとタイトルのことかと。アメリカンジョークなカードは恐ろしい。 というか、このタイトル、なんでこんなのなんだ？
わがし 9/19 18:27	腹は裂かなくてもいいのではないのでしょうか、恐いし。 日曜にお医者さんに行くというのは、よっぽど緊急ではなかったのかな、というのは蛇足か。 タイトル、気になりました。気になるから、読むのですが・・・・。 なんかつきたいかな。
さむらす 9/19 18:31	カードの話関係ないじゃん。 たしかにタイトルがほしいですねえ。 設定が「いつも美空」と似ていると思ったのはぼくだけだろうか。

key 9/19 20:19	タイトルが気になって読んでしまいました。 このページの特性上、皆に興味を持ってもらえるすごく上手いタイトルだとは思いますが、内容との必然性が見えなかったのを残念に思いました。
ラ 9/19 21:6	文章上手いと思います。真剣に読んでしまいました。個人的には、悩んでいる所でお話が終わってしまったのがもったいないと感じました。なんとか円満に問題を解決する方法を示して欲しかったです。ウェブでの最後のコラムなので、尚更。
kiku 9/20 0:45	タイトルは、父親の心を表しているのでしょうか。 とりあえず、腹は裂かずに、何かほかの手を考えるのが良さそうですね・・・。 腹割いたら兄さんも死んじゃうよ！ 展開が設定を生かせてない感じが。それだけの設定を出すなら、せめて結論まで出して欲しかったな。 # 『時間が止まる』ではなく『時間に止まる』が正しい、って誰かが言ってたのを思い出した。時間軸ってものがある以上、軸の俯瞰が出来るはずで、それをやると必ず未来も既に軸上にあるはずだから、って感じに。 # ギャザ人口大杉。
忠犬ヤス公 9/20 21:23	腹裂くなんて！！絶対駄目！！！！殺すだけならお兄さんでもできる。わざわざお父さんに頼みに来るあたりが、問題解決の鍵とみた！！！
He 9/20 22:25	> 忠犬ヤス公さん うーん、逆にそこが失敗のもとに見えるんだけど...。 > kikuさん > 兄も死んでしまう 兄が消えてしまった理由を考えるとそこに行き着いてしまいました。 > ギャザ なんか懐かしい話が...。 永遠に自分のターンを繰り返した記憶が...
イッパイアッテナ 9/23 2:49	だから、もう少し落ちがわかりにくい作品を... ミステリー中毒のアッテナです。例によって例の如く一段落目で落ちがわかってもうがっかりな今日この頃。もっと濃ゆいミステリーを(ほんとすみません とりあえず、わたしと同年くらいの痩せた男というのがおかしいかと。 この描写が正しいとするなら、"私"は二十歳であるか、男が妻がいてはじめての子供が生まれる年齢かのどちらかになるわけで、前者は普通では考えがたいし、後者は話の設定そのものを揺るがすことになる。(ようは、双子の兄貴だけは固定された時間をまたいで自由に移動できるわけだから。) というか、時間固定と時間移動では移動のほうが上位能力な気がする。兄貴なんとかできないのか？ > 忠犬ヤス公さん なるほどね。おやじじゃないとできないことか。もしかして、親父にも時間系能力があるのかな？←能力と力平気で使っている(汗
モデナ 9/24 3:7	腹を裂かないで...エグい泣　この一言で終わると後味がやたら悪く感じられました。
pencha 9/25 0:1	他の方もコメントされてますが、 目立つタイトルでこの作品に行き着いたのに、物語との関連性がつかめませんでした。 しかし、ミステリーというか色々考えられる作品でおもしろく思います。
木星/dx 9/25 0:39	ミステリーとしてもホラーとしてもSFとしても出来損ないというか..... > これはあなたにしかできないことなんです ここが最高に引かかるし、仮に時間移動の能力が未熟で、この時点にしか現れることができなかった、或いは「時かけ」のように、過去の自分に会うことはできない、というのを拡大して双子の弟にも会うことはできない、のだということにしても、 > 愛する人の腹を裂く 必要もなさそう。二十歳になるまでになんとかすればいい。

Eisen 9/25 1:44	タイトルがアンダーバー[_]の連続なのは、どういう意味なのでしょう。虚無感の演出かな。気になるところです。 > 腹裂き あくまでも「たとえ.....でも」という表現中のこと。作者さんの意図としては、単純に《そのぐらいの覚悟で》という意味合いなのかも知れません。 余りにも強烈過ぎて、この場所に見合わない言葉だというのは確かですが。
blue-orange 9/25 23:3	腹を裂いたら未来から双子の兄が来ることはできないですよね。だからきっと腹を裂くことはしなかったんじゃないですかね？ で、別の方法で時間を止めるのをやめさせる...でも、やめさせられたら未来から双子の兄が来る必要もなくなる...？ なんかわけ分かんなくなっちゃいますね...
にび 9/26 5:28	なんとなく昔の筒井康隆のSF作品みたいな雰囲気ですね。会話の感じとか。 時間移動できるのなら、時間停止の次の瞬間に移動すれば何事もなかったかのようになりそうだけど、それが出来ないのならば時間停止というよりは物体停止なんだろうか。

[TOPへ](#)

平和なセカイの作り方

合計ポイント：2 Point

作者：こっくん

作者コメントは暫くお待ち下さい。

ある星に、ひとりの平和主義者がいました。
彼は、この星が平和でないことを、悲しく思っていました。
——このままでは、この世界は滅びてしまう……。
彼の頭の中は、いつもそのことばかりでした。

ある日突然、彼の前に悪魔が現れました。
「お・・・お前は誰だ！」
「お前の願いを4つかなえてやる。魂と引き換えにな。」
「本当か！？」

彼は、世界が平和になってくれるのならば、自分の命など安いと思いました。

「じ、じゃあ、この世界の住人がみんな、平和な心を・・・」
「残念ながら俺は悪魔だ。生物のココロまで操作することはできねえ。」
「そ・・・そうなのか・・・。」

——難しいなあ・・・どうすればいい・・・？
やはり、まずは武器をなくすことだろう。それが第一だな。

「じゃあ、まず、世界中の核兵器を消してくれ！」

翌日、その星から核兵器はなくなりました。
しかし、その後、多くの国がミサイル等の兵器を作るようになり、事態はあまり変わりませんでした。

「兵器があれば何でもいいのかよ。くそっ！」
「核兵器消したぐらいで平和になりゃあ苦労しねーよ。」
「・・・うるさい！」
「で、2つ目の願いはどうするんだ？」

——くそっ、どうすればいいんだ・・・とにかく、兵器をなくしないと・・・。

「それじゃあ、この世界の時を、うーんと戻してくれ、まだ科学が発達していない時期に！」
「・・・。」

時間がさかのぼり、兵器はなくなりました。
しかし、科学も発達していなければ農業も発達していないので、この星は食糧不足になり、奪い合いが起こり、対立が起こり、「殴り合い」という名の戦争が起こりました。

仕方なく、彼は時間を元に戻すことにしました。これが3つ目の願いになりました。

「・・・お前、ちょっと向こう見ずなところがあるよな。」
「・・・うるさい！」
「さて、最後の願いだ。これが叶った時、お前の命はなくなる。さあ、どうする。」
「・・・・。」

彼は絶望していました。争いをやめず、自分の事ばかり考えている、この星の住人に。
——せめて、わずかな時間だけでも、平和な世界にすることができれば・・・。

彼は、最後の願いを悪魔に言いました。

翌日、全ての国が、武器を作ることをやめました。
国と国との間でも、人と人との間でも、争いごとが起こらなくなりました。
お金を優先する人がいなくなりました。
彼の思い通り、全ての住人から、悪がなくなりました。

その一週間後、その星は大きな隕石に衝突し、粉々になってしまいました。

「・・・確かに、残りの時間が少なければ、争いなんて無駄だもんなあ・・・。
あいつも、最後にはまともなことを言ったもんだ」

そう言って、悪魔は去っていきました。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
Begonian 9/18 14:5	「まずは武器をなくすことだろう」→「世界中の核兵器を消してくれ」 いやいやいやいやだとしたらそこは「世界中の武器を消してくれ」じゃないの？ 平和主義者さん、向こう見ずというか、そもそも何かが抜けてますね。 最後の願いもなんだったのかよくわかりません。 「全人類の存在を消してくれ」系だったとしたら、隕石が謎に。 「この星を消してくれ」系だったとしたら、人間達の行動が不可解。 うーむ。はてさて。
茜 9/18 14:40	Begonianさんに同感。 なぜ核兵器限定なのか。兵器っていうと範囲が広すぎてややこしいのかな。・・・・。 ま、石でもなんでも武器にはなるわけですから。 最後の願いはおそらく「1週間後に隕石衝突させてくれ」ではないかと。で、隕石が近づいているのをNASAあたりが気付いて、「地球は残り1週間です」ってことになってみんな戦う気も失せたのかと。 ・・・・でも、それはそれで、シェルターの奪い合いだったりなんたり、無駄な足掻きをする馬鹿が戦争でも起こしそう・・・・。
さむらす 9/18 21:38	随分身勝手な平和主義者もいたもんだ。争いなくならないなら皆殺して、ちょっと子供すぎやしませんか。

key 9/19 0:33	寓話としていいと思う。たった一つ（×４）の願いで世界の平和なんて実現できるわけがない訳で、そしてさらに、たぶんそれ１００個あったって無理！って感じの話になっているのがすごく良いです。
鬼 おん 9/19 10:11	ちょっとだけ、４つの願いよりは３つの願いの方がじっくり来るかなと思いました。
あそびにん LV.2 1 9/19 11:54	全体の雰囲気とか、寓話として悪くないと思ったんだけど、最後の段落が寓話にしては説明的というか、そもそも皆殺しについて肯定する発言でもあるから、変えるべきかなと思った。いっそのこと４つ目の願いを目的と一緒に彼に言わせてしまって、平和になったあ、でも全滅エンド、って感じでよかったと思う。寓話としてはね。 寓話的な意味を込めない話としては、何を願ったんだろう？って思わせる意味でこれも悪くはないと思うけど...それだと、やっぱり前半の考えの抜けっぱりが気になってしょうがなくなると思う。兵器については他の人も言ってるからいいとして、時を戻すって、彼も消えちゃわない？　　というか、これって時を戻すじゃなくて科学のレベルを戻すだよな？ あそびにんとしては、寓話に徹してしまえばよかったのになあと思うかな。それだけに最後惜しい。 あと、keyさんに同じく、４つであれ？って思ってしまったことも追記。どうでもいいことだけど。
melonsan 9/22 1:29	自前の狭い視野では世界を捉え切れていないくせに、しかも自分勝手な価値観で、世界が平和ではないなどと決め付けて、おまけに仮にそうだとした場合その根本原因を考えることもなく、身の程知らずにも浅知恵で対処しようとして、事態を悪化させていく困ったちゃん。偉い地位にいる人ほど厄介。 そういう寓話ですかね。
オリボリ 9/22 13:4	平和のための皆殺しってかなり矛盾してますね。
イッパイアッテナ 9/23 16:56	とりあえず、この平和主義者はアルマゲドンではなくて、ディープインパクトを見たほうがいいと思う。 とりあえず、残り一週間しか世界がないと知ったら、秩序というものは崩壊すると思う。 世界を平和にする一番の近道は世界征服。圧倒的な力を背景に、戦争や争いにペナルティを下せるだけの能力を得られれば、世界は平和になる。(それが、国連の安全保障理事会の存在意義) 悪魔なんているんだったら、自分ならそういう解決方法を頼むかな？ えっ、独裁者になるかって？ なりませんよ、そんなめんどくさいもの。放置放置。
jabberwock 9/23 23:0	逆説的ですね～。
モデナ 9/24 2:8	これを果たして平和というのか... 4つも願いがかなうならもっといい方法が考えられたと思うな。
木星/dx 9/24 20:15	致命的に魅力のない主人公ですね・・・ 作品の欠点については既に言われてるし、もういいや。 自分なら何を頼むかな？ とりあえず、世界を平和にするなら、アッテナさんの言う圧倒的な力しかない。で、その力を自分に与えてもらう（他人は信用できないからね♪）。これで平和が完成・・・だけど、その前に、生死の自由をもらっとかないと。全人類の生死を我が手に・・・これはいくら悪魔でもムリそうだから、自分の知った人だけでいいかな（最悪自分のだけでも）。で、次に地球環境を永久にＢＥＳＴな状態にして（隕石衝突も自然災害もゼロ）・・・と。最後はやっぱり自分のために使いたい。全ての女性の心を・・・頂くのはムリらしいから、人の心を読みたいときだけ読める力とか。 でもこれだとまだ不慮の事故とか災害とか、宇宙人襲来とかは避けられなさそうだけど、圧倒的な力でなんとかかなるかな？　自動車の私用での使用を禁止してしまうとかもできそうだし、原子力発電所も移動させる。宇宙人もやっつけられそうだしね。

	ヨシ！　ＯＫ～
pencha 9/24 23:57	> 「残念ながら俺は悪魔だ。生物のココロまで操作することはできねえ。」 なかなか難しい条件。 主人公がどうしようかと焦ってしまった拳句の果てに考え付いた名案だったんですね。。
木星/dx 9/25 0:5	あと、バカの起こす事件なんかも、圧倒的な力を使い、犯罪者予備軍を隔離することでかなり減る（ちょっと苦しいw）
弟子 9/25 3:0	隕石を憎いと思いました それは「悪」でした
colt 9/25 22:47	地球滅亡直前、争いは増えるのでは。 もうすぐ自分が死ぬという絶望感に染められた人々。もちろん、公務員含め、仕事をする人はほとんどおらず、犯罪も咎められはしない。皆が『最後くらいは、自分のやりたい放題やろう』と考えてもおかしくありません。 命という概念が希薄となった世界で、人の良心がどこまでもつか。性善説は好きですが、この場合に適用するのは難しいと思います。
忠犬ヤス公 9/26 0:46	僕はこのパラドックス好きですよ。世界を一週間平和にするために世界を滅ぼす、面白い発想だったと思います。 あと願い事は3つというのがセオリーだと思ったのは自分だけじゃないはず。
blue-orange 9/26 1:0	この人ホントに平和主義者？って思いました。現実じゃこんな単純な平和主義者はそうはいないと思います。まぁコラムの中ならいいのかな。 あと、『その星は大きな隕石に衝突し』ってわざとなのかな。個人的には『大きな隕石がその星に衝突し』のほうがしっくり来るけど...はい、どーでもいいですね。
にび 9/26 5:52	幸せが何かを身の回りに実感していない平和主義者は頭でっかちでこういうイメージですね。 時間というテーマだし、1個目の願いがいらない気がします。そのほうが3個ですっきりしますし。
イッパイアッテナ 9/26 7:20	> 平和主義者 いやぁ、こういう発想してしまうだけで、すでに平和主義者じゃないよ。 プラカード持って反戦反戦と自衛隊に詰めよる次元の人たちじゃないかなぁ、どちらかというところ。 (平和主義って、魔法で叶えてもらおうとするような性質の人間では一生持てない主張じゃないかな。だから、ぼくは平和主義になれないけど。)

[TOPへ](#)

message - from the universe | from the earth -

合計ポイント：2 Point
作者：Tohma
作者コメントは暫くお待ち下さい。

君と別れたのは昨日の事 | 貴方と別れたのは昨日の事

でもそれは僕の時間であって | でもそれは私の時間であって

君の時間はもうすでに何年も経っているのだろう | 貴方の時間はほとんど動いていないのでしょうか

たった一日しか経っていないのに | たった一日しか経っていないのに

随分と君から離れてしまった | 随分と貴方は離れてしまった

距離も | 距離も

時間も | 時間も

最後に君に伝えたい気持ちがあったけど | 最後に貴方に伝えたい気持ちがあったけど

涙を浮かべた君の笑顔を見たら | 笑顔を作るのが精一杯で

この気持ちを口にしてはいけない気がして | この気持ちを口にしたら崩れてしまいそうで

僕は何も言えなかった | 私は何も言えなかった

だけど | だけど

どうしても君に伝えたい言葉がある | どうしても貴方に伝えたい言葉がある

伝えることが出来るだけで十分な言葉が | 伝えることが出来るだけで十分な言葉が

だから君に | だから貴方に

僕から最後のメッセージ | 私から最後のメッセージ

このメッセージが届くころには | このメッセージが届くころには

君の時間は僕よりもずっと進んでいて | 私の時間は貴方よりもずっと進んでいて

僕の知らない君になっているのだろうけど | 貴方の知らない私になっているのだろうから

このメッセージを受け取る君が | このメッセージを受け取る貴方に

幸せであって欲しいと | 今の私が伝えたい言葉を

僕には願うことしかできないけれど

幸せになっていることを

僕は信じて

このメッセージは

一言だけ

君に伝えたい気持ちがあるけれど

幸せでいる君に伝えるものではないから

このメッセージは

一言だけ

君に伝えたい言葉

どれだけの時が過ぎても

君が幸せでいることも含めて

君に届けたい言葉

最後のメッセージ

そしてそれは

未来の私も伝えたい言葉だと

私は信じて

このメッセージは

一言だけ

貴方に伝えたい気持ちがあるけれど

未来の私の気持ちではないかもしれないから

このメッセージは

一言だけ

貴方に伝えたい言葉

どれだけの時が過ぎても

貴方に対して偽りのない

貴方に届けたい言葉

最後のメッセージ

「ありがとう」

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
Begonian 9/18 11:13	以前にまったく同じコンセプトの作品を書いたことがあります。 それは、好き嫌いが人によって天と地の差だった曰く付きの一品だったわけですが、その ときのまじょさまの痛い一撃が未だに忘れられません。 そんなわけでまじょさまのコメントが楽しみなので、あえて感想とかはまだ言わないこと にします。
さむらす 9/18 11:25	これってスペースコメディでいいんだよね。
木星/dx 9/18 16:55	どっかにU Lされてた似たような作品を読んだな・・・でも違う作者っぽいのか な・・・
RiZEL 9/18 17:48	何かオチがあると思って読み進めたのですが、通して読んだ限りでは見えませんでした。 雰囲気は出ていると思うのですが、この手の作品ならもう少し短めのほうが好きです（そ こは人それぞれかもしれませんが）

わがし 9/18 23:48	ああ、そういうことなのか。 雰囲気好きですよ。 なんか人が別れる話は淋しくて読んでられないや、っていう 気分に合わせてくれるところが、すごいと思います。 ああ、なんか最後って、ありがとう、なんだよね・・・。 どんなに一緒にいても、最後ってありがとうなんだよなあ。 どうして別れなきゃいけないんでしょうねえ。淋しいなあ。
茜 9/19 12:20	うん。きれいにまとまっていると思います。 でも、きれいにまとまりすぎて、宇宙と地球っていう舞台以外の背景が見えてこなかった ですね。この2人がどういう2人だったのか。そういうのがないままにこの長さなので、 ちょっと長すぎる感じもしてしまうのかも。 「ありがとう」で終わる恋。きれいな終わり方ですよな。 でも、きれいな終わり方をすることに、どれだけの意味があるのか、あたしには未だによ く分かりません。
あそびにん LV.2 1 9/19 18:29	んー...あそびにん的には、長すぎると思った。ところどころ揃えるのはいいんだけど、 単純に代名詞変えただけみたいなのが多すぎて、正直ちょっと読み進めるのがだる かった。 きれいに終わらせるつもりなら、もう少し言葉を絞った方がいいのかもしれない。 で、折角こういう形式にするのなら、同じ言葉でも意味がずれてたりする方が面白いか なあと。すれ違いを比較しながら読んでいく感じにすると、これくらいでも苦にならな かったと思う。もっとも、完全なネタ作品にはなってしまうんだけどね。
He 9/20 23:37	構成を見た瞬間、思考上の風景に雨が降り出した...。 すれ違いとか以心伝心とかが表現されてると良かったかなあって思う。 でもそれはきっと、昔読んだ作品のせいなんだけど...。
Perseus 9/22 0:48	今までにストーリーがあれば場感動的なのもかもしれないけど、いきなり見ると安っぽく感じ る バカップルがアニメかなんかに感化されて感傷にひたってるみたいなイメージを感じ た。のは俺の性格のせいかな
木星/dx 9/22 1:19	終わるときの「ありがとう」は、現実を直視せず、人生をごまかしてやり過ごすための呪 文。癒し妄想系宗教的生き方に不可欠。 <ありがとうで終わるということは、短距離走等をみんな一番にしてしまって、大切な現 実から目を背けるのに等しい> そう考えるとこの作品、まさにごまかしの固まりに見える。何かまさに「ありがとう」の ゴール目指して走り、同時にゴールインしている感じがするし。妄想にもなってない、人 生や言葉というものを何かおちょくったような、そんな作品。
kiku 9/22 10:43	中盤以降はもっと言葉を絞ってもよかったような。回りくどい印象を受けた。 以下無粋。 宇宙 地球 なのだろうけど、宇宙から地球が『別れる』ってどーゆーコトだろう？ 宇宙 空間に浮かぶ塵芥は宇宙の一部だけど、惑星レベルにまで固まったら独立した、とみなす のかな。でも『距離が離れる』ってのは何だろう。宇宙の果てからの距離か、ビッグバン の発生地点からなのか（そんなもんを定義できるかどうかは知らんが）。まあどっちにし る、惑星が粉々になったり宇宙が縮小したりでそのうちまた一緒になれるさ！ # ここまで書いてuniverseに「銀河」という訳があることを発見したがキニシナイ。
鞆鞆 9/22 11:10	> kikuさん その前にfromがついているので、単純に考えて、 「宇宙から 地球から」 でいいのでは。別に宇宙と地球そのものではないと思います。

key 9/22 12:1	これを読んで、なんか似たような話あったような...とずっと考えていたのですが、思い出しました。「ほしのこえ」ですね。 レイアウトの工夫もウェブならではで、私はすごく好きなんですけど、この宇宙と地球で時の流れが変わっちゃうんだよ、ネタを活かすならば、やっぱ「ほしのこえ」のように二人のメールが交互にあった方がいいかな、と思いつつ...でもそれじゃ全く同じになってしまうし...（って作者さんが「ほしのこえ」を知らなかったら的外れの指摘ですね...申し訳ない） と、こんな感じでもう少し捻っても良かったかなあ、とは思いつつもタイトルと本文レイアウト、そして最後の締めと合わせて楽しく読みました。皆さんタイトルを付けるのが本当に上手いですね。
イッパイアッテナ 9/23 1:48	完全に拒否。 無意味に長すぎる。あと、宇宙と地球に分ける必要ない。 っと思って三回目読んでいたらきづいた。 しまった----- そうか、これは恒星間移動の話だったのか。 なるほどね。 でも、どっちにしろ、評価は下。恒星間移動のロマンチックなところが全然活かされていない。というか、やっぱ宇宙と地球である必要がない。 (いや、" 光の速度で別れていくカップル " というブラックジョークなのか。だったら、個人的には面白いと思うけど、たぶん気づかれないと思う。)
kiku 9/23 14:27	どうやら脳内の擬人化メソッドが暴走していたようです。 なるほど、宇宙開拓時代なのですね。地球から飛び立つ宇宙船！ あー、そう考えると結構いい感じな気がしてきた。 時間のズレは気分的なモノよりも寧ろ亜光速移動（『メッセージ』を伝達できるらしいから光速ではないのだろう。亜空間云々とか『気持ちは光より速く』とか言い出すなら別だけど）による実質的なズレ？ んー、もーちょい具体的なほうがよかったかも。
jabberwock 9/23 22:52	時間の流れが難しいです。まだ理解できていません。がんばって読んでみますが、作者さんには作者コメントで解説してほしいです。 形式のようなものについては、対称なところと非対称なところがあっていいと思いました。
弟子 9/25 4:47	「どういたしまして」もとどかないのか・・・ アンフェアだな

初めての家庭教師

合計ポイント：1 Point
作者：オリボリ
作者コメントは暫くお待ち下さい。

今日から家庭教師のバイトをすることになった。
生徒は高校3年生。科目は化学。
自給は5000円だという。おいしいバイトを見つけた。
予習はしていないが、2年前まで僕も受験勉強をしていたんだ。
その結果東工大にも入ったんだし、余裕だろうと思っていた。

生徒の家に着くと、生徒の男の子と母親が快く迎え入れてくれた。
僕は早速彼の部屋にいて授業をはじめた。
教科書を開いた瞬間思った。

なんじゃこりゃ！

オストワルト法？アルデヒド？炎色反応すら覚えてない。
どうやら時の流れとともに受験勉強の記憶も流されたらしい。
結局生徒の質問には全く答えられず、役立たず。
その日のうちにくびになった。

帰りの電車の中、僕はひたすら時の流れの残酷さを恨んだ。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
Begonian 9/18 10:6	あー、こういうのもなんですが、「くるくる」の時にあった「時差」って作品と何か違うんですか？ まあ、最後自分で解決(?)できてるようなので、その点はよかったですね。
さむらす 9/18 11:14	またブログが紛れ込んでるよ。 それにしても時給5000円はいいな。 おっ、自給じゃなくて時給なのでは？
key 9/19 10:26	懐かしいな、オストワルト法...忘れてて調べちゃったよ。アンモニアから硝酸を作るやつ...か... 確かに自給→時給の誤字ですね。

茜 9/19 11:12	なにも完全に暗記しなくても、教科書めくりながら生徒さんの質問に答えられればいいような気もするんですけどねえ。 ・ ・ ・ ・ ・ って、この人教科書開いて「なんじゃこりゃ」だったのか。 うちの大学の紹介だと、高3は2900円だったかな。時給。 まあ。うん。ブログみたいなもんなのかなあ。特にひねりもないみたいですし。
鬼 おん 9/19 16:31	コラムとは関係ありませんが、とりあえず予習はしようぜ。 「人に教えるには教える分の3倍のことを知ってなくちゃいけない」と恩師が言っていましたので。 内容的には内輪云々を別としても、もうちょっとターゲットを広くした方がよかったかな。
わがし 9/19 18:19	東工大生でもこんなことがあるんですねえ！ 時給のために、予習しようぜ！ もう少し、読みたかったな。
あそびにん LV.2 1 9/19 20:26	本当に、化学だって科目が分かってるんだから、自習しようよ……。というか、せめて教科書見ながらでも答えられるようにしてよ…。 時の流れの残酷さじゃない。これは、怠慢が招いた結果だ！ あるあるネタにしては共感できなかったから…がんばれ若造ってことで。 あと、東工大って入ってるけど別に内輪じゃないでしょ。まあ、より回避したいって言うなら、多分入るのにレベルの高い大学って意味で使ってるんだろうから、あの東工大と2文字つけるくらいで広くなるんじゃない？（東工大がレベルが高いというのを真と感ずるか偽と感ずるかは知りません）
忠犬ヤス公 9/20 21:1	その日のうちにくびって・・・授業後に生徒がお母さんに「この人全然駄目！！」とか言わないとクビにならないような気がするけど。(そこは突っ込んじゃ駄目なのかな！？)
RincO 9/22 22:2	最後に「時の残酷さをうらんだ」と入れなかったほうが良かった気がします。そのほうが時が過ぎていってしまった感じが出るような・・・
イッパイアッテナ 9/22 23:20	とりあえず、オストワルト法はともかく、アルデヒドと炎色反応が覚えていない時点で、この話の主人公が当時いかに真面目に勉強していなかったんだらうなぁっと思いました。 それ以外の感想があまりうかばない作品。 分野も、”あるある”じゃなくて”ねーよ”だしねー。 *作り話(ですよね。)にしては、作り込みが甘い。リアリティを出そうとして、失敗している気がする。もう少し設定の描写を曖昧にしたほうがいいんじゃないかな。
弟子 9/25 3:4	忘れる、という至極当たり前の事象に対して恨むのは間違い だれも自分が生きていることを恨んだりはしない だれも自分が死ぬことを恨んだりはしない あくまで、自分がするのであれば、だけれど
木星/dx 9/25 3:11	なるほど↑
無味 9/25 14:11	東工大生によくありがちですよねえ。 文もちょっとありがちでしょうか。
のろろ 9/25 17:13	最後の一文がちょっと言いすぎだと思います。恨むより悲しみくれるような表現がよいかと。
地紅晴酸 9/25 21:25	家庭教師に行くのに、事前に教科書の一つも読まないのはさすがにない気が・・・。 いや、家庭教師をしたことがないので断言はできませんけれども。
ねがいびと 9/26 1:5	自身の体験談でしょうか。字数をもっともっと使って、より内容の膨らんだ文章が読みたかったです。
blue-orange 9/26 1:12	時給5000円は羨ましい... というのは置いといて、少しぐらい予習はしましょうね！

キャンプファイア

合計ポイント：1 Point
作者：vicky
作者コメントは暫くお待ち下さい。

ここは富士山のふもとのキャンプ場、キャンプ・ファイアも佳境を迎えていた。
私は各クラスの出し物の中心から少しはなれたところで友達と二人でもう出し物を終えた満足感に浸っていた。

ふと空を見上げる。私は文字通りひっくり返って友達に降ってくるような星の存在を告げた。友達もひっくり返った。
何億年前の世界がそこには広がっていた。なんと言う名前の星なんてわからない。だってあまりの星の数だもの。
都会では見えない星、地球が生まれる前の世界も含めた違う時間の光がいっせいに見える。

二人して魅せられながら、怖いような気もした。時間の不思議さを肌で感じた瞬間だった。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
ペピン 9/18 12:37	東京って星見えないですね。田舎暮らししてたものだから、夜でも外が明るいと言うのがいまいちなじめない。 時というお題に対しては少し弱い気がした。星の光が長い時間かけて地球に降り注ぐ。その光は違う時間に発せられて、中には何億年も前の光も含まれている。だから、私たちは何億年前の光からつい最近の光まで、今というたった一瞬で浴びていることがすばらしいということですね。着眼点はいいいね。 文章的には、「怖いような」「不思議さ」というのが改善できる気がします。例えば、感情を表す言葉ではそこに多くの意味が含まれすぎるんですね。嬉しいと言っても、好きな人と居ることが嬉しいのと、好きな食べ物が食べれて嬉しいのでは全く違うわけなんですね。なので、単純に「怖い」ではなくて「背中に汗が伝っていくのを感じた」とか、「少し身震いした」とかはどうですかね。
あそびにん LV.2 1 9/18 14:33	ペピンさんの言ってることを丸っきり繰り返しそうだ。 ところどころペピンさんとそのまま被ってるから略。 時に対してのこの作品の着眼点は本当に素晴らしいと思う。ただその着眼から膨らんでない感じなんだよね。結局、最後3行あたりでしょ？もう少し膨らませておかないと、単純に星綺麗、そっかあ、って受け取られちゃうかも。 それこそ、ペピンさんのいう「怖いような」「不思議さ」ってのを膨らませて書くだけでもこの辺結構改善できたりするんじゃないかな？

茜 9/18 19:15	へピンさんのコメントを見て、ああ、そういう着眼点なのか、と思ってしまいました。なるほど、いい着眼点ですね。 でも、それに対して、書き込みが甘すぎると思います。 怖くて不思議って言っても、前の人が言ってる「どんな風に？」もあるけれど、あたしはまず「何が」怖くて、時間の「どこが」不思議なのかで引っかかってしまいました。作者さんはもしかしたら当然みたいに分かってるかもしれないけれど、案外、伝わらないんですよね。難しいところです。
jabberwock 9/19 14:13	前の文に比べ、最後の二行を深く書き込まないことで読み手に想像をゆだねようとする意図だったのかな。。。。
わがし 9/19 18:11	ふむふむ。もうちょっと読みたい。私も今年、山中湖に行きましたよ。星、たくさん見ましたよ。感動したところ、もう少し聞いてみたかったかな！
カケラ 9/21 0:13	最初の二行で書かれていることがほとんど活かされてません。おそらく、そのせいで最後の一行で書かれてる感情が伝わってきません。 どういう状況で星を見たのか、あるいは星を見た後どういう思考を経てこう感じたのか（こっちだと最初の二行は要らないかも）を、詳しく書く必要があると思います。
ルンタッタ～ 9/21 19:8	確かに火を見つめていると、時を忘れそうです。
さむらす 9/21 22:25	題ってキャンプファイアでいいのだろうか、光と星の話がメインだというのに。 まあとりあえず、都会でも結構星見れますよ。見えないと思ってると見えるものも見えなくなってしまうのですよ。
イッパイアッテナ 9/23 16:35	タイトルのキャンプファイアが、浮いている気がする。 星に魅せられ恐怖を感じるという感覚には同意。 超新星とか、ほんと怖いよね。 ” 数億年前に星ひとつが消滅した ” 瞬間を捉えているわけだから。
Eisen 9/25 1:33	短いけれど、文章も素朴だけれど、それだけに「時間」というものに対する感動を素直に表現した良作。です。
弟子 9/25 4:2	星は何億光年も遠くにあって、星の光が届くのに数億年かかるという説明をはじめて聞いたとき、私は「何億年前」とは思わなかった むしろ、数億年先の未来を無理やり見せ付けられてる気がした なんでだろ
無味 9/25 14:32	遠い遠い時間...って言うのを感じますよね。
blue-orange 9/25 23:17	発想が巧いなぁと思います。 あと、全然関係ないですが、富士山の山頂付近から見た流れ星は素敵ですよ。
Tohma 9/26 4:4	キャンプファイヤって独特の雰囲気があるから、その中で夜景を見るとまた違った感じがしますよね。 なんて言うか物思いにふけりやすいと言うか、センチな気分になるというか.....。 あの雰囲気、多分もう二度と経験できないけど、心地よいです。 そんな気持ちを思い出させてくれました。

[TOPへ](#)

時は永遠か

合計ポイント：1 Point

作者：朱雀

作者コメントは暫くお待ち下さい。

「『歴史は繰り返す』なんて、うまく言ったもんだよな。技術は進歩しているし、一般常識なんかも大きく違ってきてる。それでも、人間のやることなんか大差ない。闘って、喰って喰われて、平和になんかならない。いつまでたっても学習しないんだよな」

俺の言葉にも、奴はさも興味はないという風に、仕事の手を休めることなく言った。

「当然だろう？ 君たちの時間は、ずっと連続なんかじゃないんだから。君たちは、時間は常に進み続けると思ってるけど、そんなんじゃない。一定時間ごとに、ループしているんだ。完全にではないけどね」

奴の言葉に、俺は何となく納得がいかなかった。納得がいけない以上、帰るわけにはいかない。でないと、わざわざ『ここ』まで来た意味がない。

「おかしいだろ。時間がループしてるなんて。今まで、同じ人間なんて一人だっていなかったし、昔いた恐竜が、今もいるわけじゃない」

奴はため息を一つつき、めんどくさそうにこちらを向いた。それでもては休まず、一定のリズムを保って動き続けている。俺は何となく、その手の方を眺めていた。

「完全なループじゃないんだって言うてるだろう。世界の構成は引き継がれていくけど、起きる現象はほとんど変わらない。だから、『歴史は繰り返す』のさ」

それでも俺は納得がいかなかった。どうしてループする必要があるのか。時間というものは永遠に刻まれていくものなのではないのか。当然、ただの人間である俺にその答えは分からない。だから、さらに問うのだ。奴に、『時の番人』に。

「ループする必要がどこにある。時間は、今も昔も、お前がこうして刻み続けてるじゃないか。それとも、お前は時間を使い回してでもいるのか？」

俺の言葉に、一瞬奴はあきれたような顔をした。手が止まりそうになったのに気付き、慌てて元のペースに戻す。そして奴は、ゆっくり話し始めた。

「僕たち『時の番人』にも、世代交代がある。僕が何代目かは、もう忘れたけどね。時間というものは、世界の構成には直接干渉できない。ただ、現象を操る役目を持っている。そして、僕たち『時の番人』は、君たちの言葉で言えば、量産型のロボットみたいなものでね。思考パターンが大差ないんだ。そして、先代がどういう時間を刻んできたかの情報は与えられない。これで分かっただろう。結局、何代経っても、大差ない時間が刻まれ続けるのさ。君みたいに、ここまで来た世界の構成要素も、一つや二つじゃないはずだよ」

俺は世界の平和を願った。繰り返される歴史に終止符を打ちたかった。だから、肉体を捨ててまでここに来たというのに。結局、俺も繰り返された歴史の一部分だったということだったのか。

「神様も、なんで君たちみたいなのを作ったのかね。人間が出てきてから、僕たちの世代交代が早まっちゃってしょうがないって、先代がつぶやいたのを、覚えてるよ。もっとも、世代交代の時に伝えられるのは一言だけだから、僕も同じことをつぶやくんだろうけどね」

そう言ったっきり、奴はこちらを向くこともなく、時を刻む作業に集中してしまった。結局、俺は無力なまま、何もできないまま、この場所を去らなければいけないらしい。

投稿者	コメント
さむらす 9/18 21:10	コメント第一号。 いい感じの文章なのに、たしかにコメントいずらいですね。 人間のおろかさを書こうと思ったのだと思うけど、時の番人の世代交代の話って必要なのかな。 個人的な意見としては、時は人が生まれたぐらいでなんにも影響ないと思いますよ。人という生き物が誕生したなんて気にも留めず、時はペースを乱さず刻み続ける。
melonsan 9/18 22:49	コメント第二波。 ラストがちゅうぶらりんのままなので、読後感は消化不良でちょっと気分が悪くなります。 主人公は肉体を失って、その場所を去って、そのあとどこへ？ちょっと怖い。 ところで、番人の一世代の期間が、そのまま歴史の周期となっているんでしょうか。 > 世代交代が早まっちゃってしょうがないって その事実はどうやって発見したのだろう。 > 世代交代の時に伝えられるのは一言だけ のはずなのに。
茜 9/19 11:6	う・・・・・・・・んと。 なんていうか、あまり、心に訴えてくるような感じはなかったです。 何で世代交代するの？とか、なんで量産型なの？とか、ループさせるための設定みたいなものがどうも取ってつけたみたいで納得いかないんです。 「めんどくさいから使いまわしてます」とか「もったいないから再利用です」とか言われた方が、あたしは納得してしまったかもしれません。 あと、「平和を願った」って主人公の願いも薄っぺらく感じました。わざわざ体を捨てるほどのことをするには、もう少し利己的な理由とかありそうな気がするんです。たとえば、平和にしても、家族が殺された、村が焼かれた、もう二度とこんなものは繰り返したくない、とか。そういう理由の方が、「俺」に人間味が出て、時の番人との対比にならないでしょうか？
あそびにん LV. 2 1 9/19 14:5	『ここ』とか『時の番人』とかの正体を中盤まで引っ張る必要ない気が。で、一番気になる俺の過去が平和を願った程度なのがちょっと寂しかったかな。 世代交代は、分からなくないけど、完全に人間中心の話だよね。人間が出てきてからっていうのは、その人間中心であることと反してる気がする。人間に限らなければ、動物だって群れ同士の抗争とか人間に関係なくやったりしてるわけだしね。 その辺、ちょっと作りこみが甘いのかもしれない。 melonさんのコメントには全面的に同意。
ばっは 9/21 7:14	時の番人にする必要はなかったかな。ただの学生同士の議論のほうが共感をもてたかもしれない。片方が答えを知っているような話し合いを書くのは難しいですね。読者がその答えに納得できなかったらいまいち共感がわかなくなりますし。 文章の流れ、表現がまとまっていて、作品の良さは出ていました。やはり、字数が厳しいかな
key 9/22 12:6	改行スペースがないのが、実に惜しい。 ウェブ上でこのギッシリ詰まっている文字を見ると、どうしても読もうという気を殺がれてしまう...。 文章が上手いと思います。終わりの一文も好きだ！

イッパイアッテナ 9/23 16:27	読んで思ったことを箇条書き 1.時の番人はアナログ時計。だから歴史はくるくると同じ場所を回り続ける。 2.Matrix的な世界。会話の流れが、まさにマトリックスの二作目そのものかな？と思った。世界の構成とか、一言だけの伝言とか、そんな感じだと。（救世主の役割をもつ人間を構成要素といいきる思想がまさにそれに似ているな。とも） では、マジレスを。 歴史は繰り返すという現象を、時の番人というシステムと断言したのが(マトリックスという前提があるものの)新しい。 安易に人間の愚かさのせいにしないというのは、読み手に相当の絶望を与えるものだと思う。(実際、世界を変えたかった主人公は、人間の愚かさではなくシステムとして歴史が繰り返すという事実打ちのめされているし。) 歴史は繰り返すなんて嘯いてしまうけど、でも、その言葉の裏は”繰り返したくない”、”改善したい”という人間の前向きな思考があるから。愚かな人間のせいで繰り返される歴史は、人が学ぶことでかえることがいつかはできる。そう信じるからこそ、人は前に進める。 でも、違うんだよ。運命ってあるんだよ。 っと、作者は残酷な提示をするわけだ。ほんと、神様も、なんで君たちみたいなのを作ったのかね。って話なわけだ。 自分はそう解釈しました。
ほろほろ 9/24 2:7	アッテナさんのコメントのように僕も読んだのですが、 う～ん、安易に人の愚かさのせいにしない代わりに、 安易に『時の番人』のせいにしちゃった、って感じだよなぁ。 空想としてのリアリティに欠けていると思うのです。 作中でも結局、人は『時の番人』に干渉しなかったし、 なんだか「『時の番人』を空想した人」が出てくる空想」を読んだ ような気分になりました。 運命を描くって、難しいねえ。

魔女からの誘い

合計ポイント：1 Point

作者：ねがいびと

作者コメントは暫くお待ち下さい。

あなたは過去を変えたいと思ったことはある？
もしもあの時違う選択をしていたのなら、今の自分はもっと輝いていたに違いない。
そう嘆いた経験は、あなたにもあるでしょう。

今のあなたは、とても暗くて淀んだ目をしているから。体からは全く覇気が感じられなくて、このままでは消え入ってしまいそうな気さえしたから。だから救ってあげようと思ったの。

私にはね、あなたが望んだ時代へ、時間を巻き戻すことが出来る力があるの。
今の記憶はそのまま過去へ引き継がれるから、同じ間違いを繰り返す事は無い。約束された未来が、あなたを待っているわ。

どう？魅力的な話だと思うけど。

...そう。断るのね。こんなに早く決断するとは思っていなかった。

ええ、あなたの言う通りよ。過去を変えたところで、より豊かな人生が歩める保証はどこにもないの。約束された未来なんて、有りはしないのよ。

確かに、一度時を遡って、そのときの選択を最良なものに変えることは出来る。でもそれはここで打ち止め。
否が応でも違う人生を歩むことになるあなたは、これから迫られる選択にどう対処していいのか分からなくなる。以前の人生よりも遥かに大きな落とし穴に嵌まってしまうこともあるかも知れないわね。

選択肢の中で、何が最良なのかは誰にも分からないの。だからあなた達人間にはね、自分が選んできた選択肢が常に最良であったと信じて、胸を張って生きていくことしかできないのよ。

ふふふ…。瞳に輝きが戻ってきたわね。本当のことを言うとね。もしあなたが欲に目がくらみ、私の誘いに乗っていたならば、私はあなたを食べてしまっていた。私は魔女だもの。醜い人間を糧に生きているのよ。

今のあなたなら、これから起こる出来事も全て受け入れることが出来るでしょう。
私は他の人間を探すことにするわ。ふふふ…。それでは、ごきげんよう。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
茜 9/18 16:38	「暗くて淀んだ目」になるほど落ち込んでる割には即決しますねえ・・・ 魔女さんがなぜか代わりに説明してあげてますが、もっと相手に迷わせた方が良かったかも。で、「でも、それで上手く行くとは・・・」とか悩んでる相手を魔女はあの手この手で誘惑。結局はねつけられて・・・の方が魔女っぽいかなあ。
わがし 9/18 18:13	さくさくしてるなあ。わかりやすかったですよ。 確かにもう少し逡巡してもよかったのかも知れません。
さむらす 9/18 21:46	時をかける少女でも似たようなこと言ってたなあ。 この魔女さんすごい美人ですよ、きっと。
key 9/19 10:18	他にもう一つ（たぶん）願い事叶えます系のお話がありますが、雰囲気が全然違っていいですね！こちらも楽しく読みました。 すっぱり断っている男らしい「あなた」、確かに現実的にはもう少し逡巡しそうなものだけど、このあっさり具合がこのお話の個性かなと思います。なぜこんなにすっぱりはっきり断れたのか、ちょっと知りたいかも。
あそびにん LV.2 1 9/19 12:2	今の仮面ライオンを思い出した。ちょっと違うけど。 パラレルワールドを想像する話って割と好きなんだけど、最後から4段落目の魔女の説明が考えたことないこともないのに、改めて説明されるとすごく新鮮に感じた。 即決もすごいと思うけど、魔女も諦め良すぎじゃない？悪いわけじゃなくて、すごく優しいなあ。これって、断ってなくても、魔女は自分から同じようなことを説明してあげるんじゃないかなあと思った。 ただまあ、きれい過ぎる印象は受けたかな。あなたの葛藤もないし、魔女は優しすぎるし。これはこれで良さなんだけど、ちょっと物足りなく感じてしまった。
鬼 おん 9/19 16:39	決断早い。偉い。 僕なら悩みますね。 なんとなくだけど、この魔女はおっぱいでかい気がする。
さむらす 9/20 1:7	いやいや、この魔女さんはスレンダーです、きっと。で、結構ベタな格好してるんですよえ。たぶん背は結構高い。 それにしても、かなり優しいですよ、魔女さん。実は魔女じゃないってオチなのかな。
He 9/20 23:3	「現在」の必要十分条件が「過去の全て」なんだと考えたりすることがあったので、内容はすんなり入ってきた。 それにしても魔女への妄想が風船のよう…。これでひらがなだったらネタだろうな…。

やまのかめさん 9/23 6:49	Heさんコメントの >「現在」の必要十分条件が「過去の全て」 に全面的に共感することもあるって、魔女の言っていることはすんなり頭に入ってきました。 で、作者さんは要するにそういう内容(魔女が説明しているようなこと)を書きたかったんであって、魔女の存在はその説教役というだけでないかな。この魔女が本気で誘惑しているとは思えないので。でもそれを物足りないとは思わなくて、物語として読むのなら、この魔女は、時として人間を脅しながらも人間を愛おしみ導いてくれる妖精のような存在とも読めるし、個人的には結構好きですね。
弟子 9/25 5:2	魔女様、魔女様 過去へ遡る力はほしくないの、そのかわり自分に過去をください いつの間になくしてしまったんです、これじゃあ変えたくても変えるられません だから、自分がどこにいるかを知るために、でたらめに書かれた地図を下さいな
こかみ 9/25 18:2	確かにすんなりと読める文章ではあるのですが、読むスピードに対して展開が速いのか、やや作者に振り回されている感じがしました。そのあたりのバランスは見落とされがちですが結構重要なのかな、と。魔女の口を借りて作者の主張が出ているところ、自然でいいと思います。

[TOPへ](#)

今週のお題

開催中： 時

投稿受付中： 投稿受付期間外

Column Land

■最終セッション結果発表！ 作者コメントをお早めに。

■オフラインセッションは土曜日16:00西9の607。作品「風」の投稿は前日17:00までです。くわしくは掲示板370へ。ただいま風速3メートル。

コンテスト会

コラム掲載ベ

コラムアーカ

プロフィール

自己プロフィ

BBS

まじょコメン

アイデンティティ

合計ポイント：1 Point

作者：Eisen

作者コメントは暫くお待ち下さい。

そなえろ！そなえろ！そなえろ！
剣を負え。楯を持て。石弓を引いて、矢を渡せ。
彼らはじきに攻めてくる。
三河を渡り二山を越えて、彼らは今にも漏れいづる。
そなえろ！
我らは最期の砦なのだ。

たたかえ！たたかえ！
槍をかかげろ、旗を立てろ。馬にくつわを噛ませるが良い。
もはや彼らの顔すら見える。
白い屍の顔をして、嬉しそうに駆けてくる。
たたかえ！たたかえ！
彼らは我らを喰らうつもりだ。

あわれ、ああ……あわれ！
砦は崩され、鎧は剥がれ、彼らは我らの上にある。
我らも白い屍となる。
肉を喰われ、目を削がれ、身も心も奪われる。
あわれ、ああ……！
なんと、なんと身軽な姿だろう？

すすめ！すすめ！すすめ！すすめ！
喰らいつくせ、味わいつくせ。いまだ肉着るおろか者どもを。
我らは一つの止め処も持たぬ。
恐れるな餌ども、そうして我らに喰われるが善い。
すすめ！
白いカラダの望むがままに！

春の夜のゆめは心地よくも刹那、
風の前のちりは何処へも在らぬ。
さてはうつつか、幻か、
知るも知らぬも、ただうたかた。
されどなれど……

.....されどなれど、
この肉というもの、この魂というもの、
はたして此れはうたかたや？
ただの一刹那、浮かび、消える、
はたして此れは、うたかたや？

頭が痛い。目も痛い。どちらも痛い、特に目の方がひどい。少なからぬ時間をまどろんでから、やっとそれが「眩しい」という感覚なのだと気づいた。同時に、自分が眠っていたらしいことにも気づく。床に直接座り込んで、そのまま壁にもたれて眠ったらしく、少し身体が痛かった。

なかなか現状が把握できない。なぜこんなところで寝ていたのか。ぼうっとした頭で辺りを見回してみるのが、特に変わったところもなかった。小さな部屋に僅かな家具。赤カーテンに、暖色を投げる蛍光灯。

（ああ、この蛍光灯がいけない）

眩しさに目を細めながら、近くに紐が垂れ下がっているのを見つけた。座ったままに手を伸ばす。ふっと光の量が減り、目の痛さも和らいでいく。少し楽になって溜息をついた。

しかし今度は、鈍い頭痛が気になりはじめた。耐えられないほどではないが、脳の奥が痺れるように痛い。

（二日酔い、なのかな）

そう考えて、壁に手をついて立ち上がる。

（水.....残っていたかな）

部屋の端にある冷蔵庫。そこまで行こうと一歩踏み出した。

そのとき、ひどい違和感が私を襲った。私の部屋に冷蔵庫はない。水が欲しければ台所まで行かなくてはならない。あってはならないものがある。ここはどうやら、私の部屋ではなかった。

だが、見覚えはある。何度となく来たことのある場所であるのは確かだ。ここはそう、由美子——昔の女——の部屋。そして.....

カーテンに視線が向かう。明かりを落としたから黒に見えるが、あれは赤い色をしていた。だが、あいつは赤が嫌いだった。口紅すらつけないほどに。

背筋をミミズが這うような悪寒がはしる。なにかを思い出しそう、でもどうしても思い出したくなかった。

「ひっ」

一歩下がろうとして、何かにつまづいて思わずよろめく。柔らかい感触。見たくない、と思った。しかし私の眼球は、意に反して下方へと向かっていく。

「あ.....」

目を覆おうとして、はじめて自分の両手がねばついていることに気づく。それがそのまま顔についた。ぬるぬるとして、どうやら赤く。

私は、悲鳴を上げた。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
わがし 9/18 11:35	ひょえー、怖い。ホラーだ。 タイトルと内容が、どうなんだろう？ あと はいるのかな？ どうか？
さむらす 9/18 11:51	アイデンティティの話なのですか？最後の場面で由美子という名前がでてたり血のなまなましい感覚があったりで、昔の女をなんやかんやで殺してしまったというのがメインなきもするんですが。

茜 9/19 11:34	冒頭の「そなえろ！」が「お供え物しろ！」って意味に聞こえてハテナマークだらけになったあたしって一体。 さむらすさんのイメージに同意。うーん、前半と後半のイメージが繋がらない。これで由美子さんが白骨化でもしてれば繋がるような気はするんですが。それにしたって、なんかよくわかんない感じではありますが。 誰のアイデンティティの話なんでしょう？うーん。 ホラーとしてなら、雰囲気でてるなあって思うんですが。 あと、蛍光灯が暖色ってちょっと気になりました。白色のイメージが強かったから。あまり、普通の部屋の蛍光灯に、暖色のものをわざわざ使わない気がするのですが。
鞆 9/19 12:4	前半と真ん中と後半とのそれぞれが頭の中でうまくつながりません。まあ、ホラーなんだろうな、といった感じ。 余談ですが、茜さんの「お供え物しろ！」で盛大に噴き出しました。なんでお供え物。 > 茜さん 蛍光灯が暖色を投げるのはきっと、蛍光灯を覆っている、ついてしまった赤いもののせいなんじゃないかと思います。
さむらす 9/19 17:45	血ってそんなどばとなるもんなんですか？カーテンも真っ赤っかばいし、
あそびにん LV.2 1 9/19 18:45	茜さんに同意。そなえろ！ 何を？！ ってつい突っ込みたくなった。 あそびにんとしては前半だけでお腹一杯。というか、前半が好きだったんだけど。ゾンビ軍団の話みたいに読んで、起承転結しっかりしてて、ああ、この作品よかったなあ。コメント見よって思ったら、続いてて逆にびっくり。 で、中盤はつなげる意味なんだって半分スルーして、前半が何かの比喻になってるのかなあ...って思ったら、後半殺人事件かよ！鞆さん同様、混乱中。うまくつながらない。 こういう前半のおどろおどろしい比喻って、たとえられたものは大抵なんでもないものだったりするものなんだけど...そもそも、比喻だったんだろうか？
木星/dx 9/20 7:14	それぞれの作品は結構いい感じ（順位つけるなら前・後・中の順）なんですけど、やっぱり、無理矢理繋げたんでしょうね・・・1500字以内ではちょっと、無茶な試みだったか？ 最初の詩はコミカルながら、みよ～に頭に残ってGOOD！ カラッとした不気味さが、後半のじとーとしたホラーと対照的。 重量感的にも骨と肉でバランス取れてるし。 真ん中のが骨と肉をつなぐ魂というか「揺れる心」みたいな。 作品全体で「人間」・・・かな？！
忠犬ヤス公 9/20 21:8	僕もつながりがまいち。個々の作品は大好き。作者コメント楽しみにしてますよ。
木星/dx 9/21 3:40	やっぱりもっと単純に考えて・・・と。 前半が「あっち側の白い世界」 後半が「こっち側の赤い世界」 で、真ん中のは・・・ 形状から考えて・・・ 「シナプス間の神経伝達人魂」？？？
茜 9/21 11:59	> ぶらんこさん あー、そっか、その色ですか。納得・・・ってそれは暖色って言うか原色なんじゃ・・・ 想像すると、なかなかすさまじい光景になりそうです。 > 木星さん > 作品全体で「人間」・・・かな？！ あ、この解釈面白いかも。でも、骨と肉を繋ぐ心ってちょっとピンと来ないかも。肉体と魂を繋ぐ精神、の方かな？ でも、前半は心うばっちゃってますから、やっぱり残るの骨っぽいんですけどねえ。

木星/dx 9/22 0:16	やっぱこれ、人間ですよネ？！ で、真ん中のについて・・・ 別に「つなぐ」役割を与える必要はないのかなァと、思い直し。 骨と心と血肉で人間、ってことで。。 で、問題点1つめ～ これで合っていたとして、果たして読者に気づいてもらえるのか？　ということ。もうちょっと何か工夫が必要、なのかな？ お手軽なところでは、サブタイトルを『人間』としてみるとか、そんなの。 問題2つめ～ 最後の作品、果たして「血肉」に適任だったか？　ということ。 何となく、死体をそれっぽく転がせば、いくらでも取り替え可能のような。意欲作『人間』のメとして、読み手をうならせるものではなかった気がします。
あそびにん LV.2 1 9/22 17:14	今更ながら、単純に考えてみた。 つまり、 前半は、自意識に眠る、破壊衝動、ないし、殺人衝動との戦いで、あえなく屈して取り込まれてしまった。 中盤は、多分、後半の私は殺すシーンとか、前半のものを夢っぽく認識していたと思うから、それが本当に幻なのか？　って警鐘を鳴らす感じのつなぎ。 後半は、現実世界での結果確認って感じかな。 すごく単純だとは思うけど、そこまでおかしくもない……と思う。 > 蛍光灯 普通に暖色の蛍光灯売れてると思うけどなあ。逆に普通の部屋だからこそ、暖色の蛍光灯を使おうかなあとか思うんじゃない？
茜 9/22 20:8	> あそさん 暖色って白熱電球の代わりとか、食卓用に使うイメージがあったんです。 普通に売ってるので、普通の部屋にあっても変ではないんですけどね。まったく。
イッパイアッテナ 9/24 1:1	> 剣を負え ……いや、しょっちゃだめでしょ。 > 三河を超えて これは……松平家康公の若き日の物語じゃなかった。 > 前半 白血球VS細菌　とかなんとか思った。違ったけど > 後半 ああ、由美子さん死んじゃった。 土曜サスペンス　温泉街のメイド探偵美人妻由美子がみたものはとふと思った。 今回は、ほんと作者の意図とは全然違うであろう読み方しかできなかった。何週読んでも。なぜだろう？
神無月 9/25 23:56	一つ一つは悪くないのですが、全部あわせると微妙。つながりの薄さに戸惑いました。もう少し分かりやすくリンクさせると、キャッチーになるかなあ、とか。3つ目でカニバリズムとか。いや、これは安易過ぎますが。 あそさんの読み方が妥当な気がしますが、木星/dxさんの読み方が好き。最終段落は「肉」としては不適當な気もしますが、それでも実に意欲的。

時の流れに身を委ねて

合計ポイント：1 Point
作者：イッパイアッテナ
作者コメントは暫くお待ち下さい。

アメリカという国は、その広さゆえに場所によって時計の進み方が違う。その広大な大地ゆえに、日の入りと日の出の時間が数時間単位でずれてしまうからだ。昼のロサンゼルスで、ワシントンDCの夕日がTVに映っているのを見たとき、なんて広い国なんだろうと痛感した。

そんな風に始まったアメリカ旅行、僕はここで「時」というものがどういうもかのを体験した。

そこは、ネバダ州のブラックロック砂漠。山と海に囲まれた世界で生まれ育った僕は、東京に来てはじめて平野というものを実感してその広さに舞い上がっていたのだが、三年目にしてその愚かさに気づいた。

地球は丸いのである。生まれてはじめて地平線というものをみた。陽炎や蜃気楼のさらにさらに、境界線がくっきりと。水平線ではなく地平線に沈む太陽、陸の砂色と空の赤色がくっきりと浮かび上がる姿は本当に美しかった。

さて、その砂漠をぐるりと禿山が囲んでいる。アメリカで驚いたのは、山に木が生えていないこと。伐採されてとかそんな愚かな話ではなく、初めから存在していないのである。それが延々と続く。僕が走ったアメリカの道路は100km単位で町がない世界で、ただ禿山だけが横にそびえただけだった。

はじめは、ただ退屈だった。同じように続く世界、時間は停まってしまっている。そこにアメリカを感じたものの、感慨は感じなかった。ひたすら続く道、脇にはブッシュがあるのみ、横を眺めれば何も生えていない山山山山。ぼっとながめているしかない。

ぼっと眺めているとき、鹿が目の前を通過した。急ブレーキ。衝突はさけたものの、しこたま頭を打った。車はまた動きだし、打った頭で山を眺めた。

時間は流れていた。

急に眼が開けるとは、このことを言うのだろう。本当に違いがまったくないただの禿山に顔が見えたのである。100kmの長さで連なる山々は、それぞれの形が驚くほど違っていた。同じような地形なのだから、同じように風化すればいいものを、ある山は風化が激しく切り立っているのに、その隣はどしりと形を保っている。禿山にだって草も生えているが、草と岩とに境界線があり、それが山々によって全然違う。山の一つ一つに時は流れていて、その一つ一つが重なって、大きな一つの川となる。僕は、その川の流れるようや気付いたのだ。

めまぐるしく変わる風景になれていた僕には、変わらないことで変わる時間の流れというものがものすごく新鮮だった。おそらく、日本でもこのような景色を見れる場所はあるのだろう。しかし、あの圧巻される広さによる強烈な印象によって、心臓マッサージのように“時”というものを呼び起されるあの感覚は、日本のような狭い国ではけして味わえないものだと思う。

もし、人にアメリカを案内するのだったら、僕はぜひともあの広大な砂漠をスケジュールに加えたいと思う。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
茜 9/18 17:28	> 三年目にしてその愚かさ気づいた。 3年目だから気付いたのではなく、アメリカ行ったから気付いたんですよね？なんかここはちょっと違和感でした。「ここに来て始めて」とかだったら良かったのかなあ。 それから、「一つ一つが重なって、大きな一つの川となる」あたりがちょっとイマイチよく分からなかった。「僕」が感じたであろう感動が、うまくあたしのほうまで流れ込んでこなかったのがちょっと残念。 「心臓マッサージのように“時”というものを呼び起されるあの感覚」っていうのは、なかなか上手かったりするんですが。 あと、最後の一行がちょっとイマイチな感じかなあ。なんとなーく、作者の感動を伝えきれない締め方になってしまった感じです。 全体的に良いコラムだったと思いますよ。なんていうか、読み心地が気持ち良かったです。
melonsan 9/18 20:43	> アメリカという国は、その広さゆえに場所によって時計の進み方が違う。 えーっ、相対性理論がこんな身近に！？じゃないのか。 いくつものタイムゾーンに分けられるほど広い、ってことですよ。表現がちょっと変に思えます。
あそびにん LV.2 1 9/19 15:26	ああ、そうか、茜さんのコメントを見て初めて気づいた。三年目って、東京に来てから三年目だったのか。ずっとアメリカに来て3年目かと思って、旅行にしては長いなとか、書く場所おかしくない？とか思ってたけど、勘違い勘違い。茜さんの言うとおり、ここに来て初めてとかにした方が分かりやすかったかな。 地平線って、本当に最初見たとき感動するよなあ...日本で見られるところがないのが残念くらい。ただ愚かさ気づいたって前の文に書いているなら、ここももうちょっと膨らませた方が良かったのでは？ この愚かさに対応するのは地平線の部分だけだろうからね。最初勘違いしたまま読んだとき、この文全体が愚かさの話かなとか思っちゃったくらいだから、はっきりさせた方がいいとおもう。 割と素直に筆者の感動が伝わってきて、いい随筆文だったと思う。
わがし 9/19 18:9	いやあ、アメリカは広いですよ！ その感動をそれなりに伝えられているので、いいと思います。
ばっは 9/21 6:39	昔を思い出しますね。ロサンゼルスは昔の生息地名もので。あそこらへんは、ゴキブリの代わりに素でスコープオンがいて、安全って言う言葉は建前程度にしかありませんからね。しかし、鹿のいる砂漠？って思いました。どこだろう？カリフォルニア周辺はだいたい砂漠だしな。 ネバダの砂漠より、デスバレーのほうが砂漠としてはスケールがでかすぎてネバダの砂漠でもまだまだかなって思ってしまう。 時として自然を表すならグランドキャニオンとかのほうがよかったかな。一つの川が作った景色になっちゃうけど。
ルンタッタ ~ 9/21 19:10	アメリカの時の速さは他の国よりも早い気がします。 なぜかな・・・
さむらす 9/21 22:41	いやぁこれがコラムというものなんですな、きっと。 ただ、心臓マッサージのようになって何かぴんとこなかった。いや、あんた心臓マッサージ受けたこと無いじゃんとツツコミたい。

木星/dx 9/21 23:53	アメリカナダの人には、日本の木の生えた山なんて、山に見えないらしい。ちょっとした盛り上がりにはしか。 > 僕はここで「時」というものがどういうもかのを体験した大げさ。 僕の体験したのはアメリカ大自然的な時の流れだけですよ？ 国が変われば流れ方も変わるでしょう。 アンチアメリカな私としては、時を前に出すのであれば、アメリカ礼賛に終始しないでほしいかった。時に比べたらアメリカなんてピコッとしたしこりみたいなもんでしょうし。 > 三年目にしてその愚かさに気づいた 「三年目にして」っていう表現がおかしいのはさておき、 アメリカの砂漠で時を感じた、その愚かさに気づくまでは、あと何年？w > 心臓マッサージのように ここは上手い！
kiku 9/22 10:27	内容は素直な随筆文。 すごくいいなと思うのだけど、これならタイトルはもっと具体的なのもよかったと思う。 あと、山山山山って表現が浮いてるかも。 # ああもうアメリカ行きたくなってきたじゃないかっ！
木星/dx 9/22 21:17	> 心臓マッサージ やっぱりビミョ～（読み手によって想起される感覚に幅がある） # やっぱりアンチアメリカには拒否られるよな～、これ。
イッパイアッテナ 9/23 1:7	……なんで、アメリカにいたのにこの人作品書けたんだろう。なんかずるい… ↑ ほんと個人的な感想ですみません。 > 作者さん へえー、ネバダの砂漠ねえ。（というか、山の話だけど。） アメリカの自然の話をするなら、グランドキャニオンとかそういうの眺めてからのほうがいいと思うよ。また、愚かさに気づきなおすことになるから。←あれはすごいよ。ほんと > 木星人さん アンチアメリカの論点ずれてますよお。 アンチアメリカって、アメリカ人嫌いの人のことでしょ。たぶん木星人さんも同じだと思うけど、この作品“自然”のことには触れていても、“住んでいる人”については全く触れていない。アンチアメリカは感想の理由になっていないかと。 いや、そもそもアメリカ大陸が俺は嫌いなのだよ。って意味なら自分の勘違いって話なのですが。
イッパイアッテナ 9/23 1:8	訂正：アンチアメリカの意味に合衆国政府というもの入れ忘れてました。
木星/dx 9/23 2:39	アッテナさんの言ってることはわかるけど、人間ってもっと難しいもんじゃないかなあ？ 合衆国政府が嫌いなら、アメリカ大自然礼讃一辺倒ってのも、受け入れがたく思える可能性はあると思う。理不尽だけど。 ああこの作者、若者にありがちの、アメリカ憧れ視野狭窄君かなって、アンチには取られるかもね。
やまのかめさん 9/23 6:26	文章自体はさらっと追えるのですが、こういう形で「時」を実感するということがピンと来なくて、感想はもやもやしてしまってます。共感できるできないという話以前に、「変わらないことで変わる時間の流れ」という感覚自体がどういうものなのか理解できていないんです。ちょっと、皆さんのコメント見ながら様子見…… > 木星さん 木星さんはアンチアメリカに過ぎませんか？ なんだか、アメリカに関連しているもの全てを嫌っているかのように見えます。もちろん、この語り手はアメリカ滞在時の感動を綴っているわけですが、それは広さから呼び起こされる感動であって、アメリカ礼賛でも、アメリカの(固有の)自然礼賛でもないでしょう？ その広さを実感した旅行先がたまたまアメリカだったというだけで、旅行先が中国やアフリカだったとしても、細かい地名が変わるだけでほぼ同じ文章になると思いますよ。アメリカ嫌いが理由でこの文章に拒

	否感を抱くというのは、随分極端に感じてしまいます。
木星/dx 9/23 7:5	アッテナさんの言うことも、やまのかめさんの言うこともわかるんですよ。このコラムもまあまあだと思うし。 でもやっぱり「アメリカ」と「アフリカ」は違うと思うのです。世界にとって「アメリカ」は特別な国名。 台湾にとって「中国」が単なる隣国の名ではないように。 台湾で「中国」の自然を讃美するのと、ヨーロッパで同じことをするのとでは、意味合いが大きく変わらと思う。また台湾で「カナダ」の自然を讃美するのとも、違う。 今こそ『デュシャンの便器』を思い出すべき時なのではないでしょうか！w
茜 9/23 12:3	木星さんの気持ちも分からなくはないです。 なんだかんだ言っても、別にそのコラムが悪いわけじゃなくても、どうにも受け入れられないものってあると思うんですよね。 このコラムは、人によって好き嫌いが分かれるタイプのコラムってわけでもないと思ったけれど、「アメリカ」という地名に思わず反応してしまう人も居たってことでしょう。 極端だとは思いますがね。人の感じ方ってそれだけ、人それぞれだと思うんです。
イッパイアッテナ 9/24 4:30	なんかなあ、いつも客観性と論理性を人に求めている木星人さんにしては、ものすごい主観的というか感情的なコメントでしっくりこないなあ。 まあ、坊主憎けりや袈裟まで憎し。ともいうんで、アンチってそんなもんかと。自分も中国や韓国製品ってだけで、信用性0とか思いこんでいるから、人のこと言えないかな。(とはいっても、あれは本当に信用できないものが多いのは事実。)
木星/dx 9/24 4:40	要するに言いたいことは、アメリカ自然讃美一辺倒なら、他所の自然讃美一辺倒よりも、理不尽な拒否反応を起こされる可能性が高いと予測されるから、もしアンチ系も読者に引き込みたいのであれば、アフリカの自然を語るときには必要のないような工夫が要るんじゃないかな？ って感じかな？
木星/dx 9/24 5:16	あと、主観的な感想、というのを否定はしてきていないつもりですよ>アッテナさん 臨機応変？ に主観的な発言・客観的な発言を織り交ぜています（わかりにくいのかなア……）
結政 9/24 13:5	エッセイ風の文章ですね。 なるほど……。確かに一度いってみたいと思わせる文章です。 これは面白いですね。 ただ、（私が言うのも本当になんですが）心臓マッサージのくだりで無理やり時に結びつけたところが残念かなあと。 風化、地形の形成なんかで十分に時を想起させることができたかと思いますが……。
Eisen 9/25 1:38	実はなのでしょうね。妙に（巧みに、という意味です）ナマっぽい描写が、ああそうなのだろうな、という共感を誘います。 日本から一度も出た事の無い私。一度、偉大なる世界の「自然」というものを感じてみたいと画策しています。
blue-orange 9/25 23:14	アメリカに限らず、広大な土地というものが日本にはないのでやっぱ憧れますね。 アメリカにもいつかは行きたいなあって思ってるので、砂漠にも行こっかな。
忠犬ヤス公 9/26 0:37	この作品を読んで、僕も地平線とやらを見てみたくなりました。 読者をそんな気持ちにさせる作品、すばらしいと思います。
茜 9/26 0:46	どうしようどうしよう。 この作品読んで「やっぱ日本がいい緑の山とか紅葉の山とか見えて竹やぶがあっでごちゃごちゃしてないとヤダ」とか思ってしまったあたしって一体…………… だってなんか見渡す限り山が見えないって泣きたくありませんか？ （↑そんなん宇宙に行けるのか）
Tohma 9/26 4:6	この文章を読んで、やっぱ地平線って見てみたいよなあ、と海外への思いが強くなりました。 ただ乗り物に弱いので、でこぼこ道を延々と進むことが出来るのかは怪しいですが。 全体を通して読みやすいので、良い意味でとてもすっきりした印象でした。

木星/dx
9/26 4:53

禿山にちなみ、ロッキー画像をＵＬしました（ぷろふ）

[TOPへ](#)

一年の重み

合計ポイント：0 Point
作者：こえい
作者コメントは暫くお待ち下さい。

ぼくは、二年浪人をして大学に入学し、
さらに大学では学科を変えたので、もう一年ロスしてしまってます。

もうだいぶん歳とりました。

だから今いっしょに勉強している友達は最大で3つも歳が離れています。
中学や高校時代なら、同じ学校に通うこともなかった人たちなんだよなと思うと、
なんだか参る。

でもまあいいかとも思う自分もいて、
それは、「一年」が昔よりも重くなくなったってことです。間違いなく。

みんな若いなあーと感じながら、
いっしょにまぜてもらえてラッキーだなとも思う。

でも同じ歳の人とも真剣に物事に取り組みたいな。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
さむらす 9/18 13:7	おっと、ここにもブログ発見。 だいぶんとか言ってますが誤植ですよね。 重くなったんじゃなくて軽くなったんじゃないかなとぼくは思う。
茜 9/18 23:58	「だいぶん」って言いませんか？砕けたことばと言うか。 「重くなくなった」ですね。あたしも見間違えました。「軽くなった」って書いたほうが良かったかも。 あたしにはやっぱりでも1年って重いです。そこにはまあ、あたしなりの事情と言うか、理由があるんですが。だから、なんかこの話見ていろいろ考えちゃって・・・ 最後の1行、まとめとしてはなんかあれ？って感じがします。 こう思うのはなぜなのでしょうね？

ほろほろ 9/19 14:4	> 茜さん それはですね、最後の1行がまさに作者さんのお里が知れる、いっちゃん大事なところだからだと思います。ここで今一步、自分のことをしっかり書けなかったから読み手も肩すかしをくらったような印象になってしまうんです。あと一步、自分の深いところを出してほしかった。
鬼 おん 9/19 16:46	曲がっても曲がっても軌道修正してまっすぐに生きようとすればいいんです。最後の一文は...まァ本音はそうでしょうね。最初からまっすぐなのに越したことはないわけですから。
あそびにん LV.2 1 9/19 17:57	あ、あそびにんも重くなったって読んでた……。最近、コメントで読み違いに気づくことが増えてきた気がする...疲れてるかな。 なんて、愚痴はおいといて、最後の一行は肩透かしともちょっと違う気がする。なんというか...変なんだよね。 鬼 おんさんの言う意味だとしたら、「組み合わせたな」にすべき。「組み合わせた」だと、今後の希望に取れるから。 で、今後の希望とするなら、別に学校に縛られなければ、やろうと思えば出来ることであって、それまでの話が踏まえられてない感じがするんだと思う。 (そもそも、一緒に勉強してる友達とは真剣に物事に取り組んでいるのかと穿った見方もあったり) あそびにんは割と大学に入ってすぐのよかつるむ友達は浪人して1個上って人が多かったり、サークルにも2浪してる他大の同学年の知り合いもいる、この逆パターンな感じで、最初は正直どう接していいのかわからなかったりもしたなあ、としみじみ思い出した。今は普通に同年代の人と同じように喋るようになったけど、相手はどういう風に思ってるんだろうなあ？と考えさせられた。
さむらす 9/19 18:8	さらに疲れているぼくは、コメント見ても今まで何言ってるのかわからなかった。あぁぼく読み違いしてたんですか。否定語があったとは。 同年どうこうって大事なんですかねぇ？高校まででも誕生日の違いでほとんど一年ちがう人と同学年だったりするわけですし。
key 9/19 20:25	コメントを読んで「うん？」と思い、読み直して納得...私も同じ勘違いをしていました... 私も転学科しているのですが、個人的には重くなった方に共感出来ます。作者さんが軽くなった、と感じた所をもう少し知りたかったです。 でも、確かに自分にとっての一年の重さは重くなっても、他人との年齢差は以前ほど重くは感じなくなりました。年上であれ、年下であれ。
vicky 9/20 14:55	重くなったんじゃないんですね。私は大学休学したあと一年一年重かったですよ。
わがし 9/20 23:32	若い時の一年は重いと思う。一年一年真剣だし。年を重ねると、同じことの繰り返しになってしまったりして、あれ、今年何やったっけ？なんてこともある。だから、今なんか思うところがあっても、必ずそれは糧になるから、若者たち、がんばるのだ!!! ・・・そうですねえ、もうちょっと読みたかったかな。重みと言っている割には、さらっと終わってしまっている気がします。

あそびにん LV.2 1 9/22 16:44	あそびにんだけじゃなかった、わーい♪ 別にそんなにおかしい言葉ってわけでもないと思うのに、どうしてこんなに読み違える人が多いんだろう？ タイトルで一年の重みって聞いちゃうと、一年は重いものだって印象を何となく読者に与えてしまうってことなのかな？ ふと思ったのが、こういうタイトルでもあるわけだから、もう少し、元々どう重く感じていたのか、今どう重く感じなくなってきたのか、その辺をもっと書いた方が良かったのかも。勘違いも説明読んでるうちに気づけるって意味で防げるしね。 > さむらすさん 社会に出てしまえば、1、2年の差なんて本当にどうでもいいことなんだろうけどね、学生時代だと、未だに単に入学年度での年功序列的な先輩後輩関係もある以上、全く気にならないといったら嘘になると思うかなあ。あそびにんとしては、だけどね。
イッパイアッテナ 9/23 2:32	> 軽くなった 重くなくなった と軽くなったは違うと思うな。 今まで感じていた重さを感じなくなるのが重くなくなった。 今まで感じていた重さが減るのが軽くなったという意味ですから。 無駄な重さを感じなくなることは、メリット 必要な重さが減っていくのは、デメリット だから、重くなくなったという言葉つかいが本当の意味での作者の心を反映した正解だと思う。 自分は年下組。一目おける人に浪人生が多いのは、やっぱり年と経験を重ねているからかなあっと大学に入ってから思った。 同じ年の人とも真剣に物事に取り組みたいなというのは、たぶんこの学生が二年生だからだと思う。(とりあえず、コラム参加者のタメで転学科は知らない。) 大学の二年生三年生の一年間が一番充実するからね。その期間に自分のやりたいことを一番やれるけど、ふと見渡してみれば周りは皆同世代じゃないからね。これから、仲間がほしいなっていうところじゃないかな？ (っと、偉そうにいつてみたけれど、実はこの人自分より年上。sorry)(+自分はまだ学部生。何を偉そうに...)
老若男女 9/25 21:32	もっと思いがごちゃごちゃしてたほうがよかったんじゃないかと思った

[TOPへ](#)

今週のお題

開催中： 時

投稿受付中： 投稿受付期間外

Column Land

■最終セッション結果発表！ 作者コメントをお早めに。
■オフラインセッションは土曜日16:00西9の607。作品「風」の投稿は前日17:00までです。くわしくは掲示板370へ。ただいま風速3メートル。

コンテスト会

コラム掲載ベ

コラムアーカ

プロフィール

自己プロフィ

BBS

まじょコメン

あの夏

合計ポイント：0 Point
作者：blue-orange
作者コメントは暫くお待ち下さい。

その日はとても暑い日だった。
空は晴れ渡り、青空が広がっていた。

「じゃあ、行ってくるね。」
そう行って彼女は学校へと歩き始めた。

それは突然起きた。

ピカッ

目を覆いたくなるほどの閃光と同時にものすごい爆風と熱風が彼女を襲った。

ゴォ-----

気が付くとそこは焼け野原だった。

周りには皮膚が焼けただれた人がゾンビのように歩き、ガラスが全身に刺さった子供たちが泣きわめいていた。

何が起きたのか、彼女には全く理解できなかった。

ただ1つ言えるのは、彼女が今まで1度も見たことのない光景であったということ。

それはまさに地獄のようであった。

「お母さん、お父さん、どこにいるの？」

彼女は消え入るような声で呼んだ。

「どこにいるの？」

繰り返しそう言う彼女の声は次第に小さくなっていった。

「お母さん、お父...さん、どこ...に...い...」

あの夏から彼女の時は止まった。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
Begonian 9/18 10:9	このネタは、めっちゃレベル高いのがうようよ居ますからねえ。 他所でそういうのを読んできると、どうも。 とりあえず最後の一文は要らない気がしました。
RiZEL 9/18 17:36	かなり早い段階で話が読めてしまったためちょっとひねりが弱いと感じてしまいました。 折角ならお題の「時」についてもう少し深く触れればよかったかな、と思います。
鬼 おん 9/18 19:9	時期的にタイムリーでないのと、原爆の文としては弱いのがマイナスですかね。 あと、「時」を生かすなら「あの夏から～」の文で締めるべきだったかな。
茜 9/18 22:34	・・・・・・間空けすぎだと思っんですが。 それから、これは、さすがに書き込みが甘いのではないかと。 広島原爆はたしか十数万人がなくなったはずだけど、十数万人には十数万人分の人生があつて、この少女にもこの少女なりの人生なり死に方なりがあつたと思っんですが、それが見えてきませんでした。 ただ、死んだだけ。 それでは1人だけクローズアップした意味がないと思っんですね。これでは題材がもったいないです。
Perseus 9/19 12:23	やっぱ、緊迫感がないなって思いました。 もっと描写に力入れてもよかったかも
ほろほろ 9/19 15:36	あつー かぜの なかでー ぼくは いちーまいの え に なつたー 細かい描写については、 描かなかつたのではなく、 描けなかつたのではないかと思います。 そうだよな、描けないよ。 多分、描いたら嘘になってしまうよ。 そして、『だつたらそもそもこのコラムを書くなよ』 とも言えないよ。 そのあたり、コラムとはまた別に 時の流れの重さを感じてしまうのでした。
茜 9/19 16:2	ほろほろさんの言うように、書きたくても書けなかつた、のかもしれないね。題材が大きすぎると言うか。 あたしも昔「恐れ多くて書けない話」みたいなのに挑戦したことがあります。結果的にみんながみんなして恐れ多くてコメントしづらくなるという事態招いちゃつたわけですが。 でも、恐れ多いと思ひながらも書こうと向かい合う事には、意義があるんじゃないのかな、と思ひました。 あたしとしては、向かい合つて、書こうとして、そして出来れば書いて欲しかつた。そうすればあたしたちもその姿勢に対して向かい合うことが出来たのではないか、と思ひからです。 もしかしたら恐れ多くて何も言えなくなる可能性もあるわけですが。 「描写が甘い」ってだけの感想になつてしまつたのが残念です。

あそびにん LV.2 1 9/19 16:39	これはこれでなんじゃないのかなあ。まあ、確かに最後の一文はいらない。ないほうが、きっと余韻も生まれると思う。 あと、最初のほう、もっと明るい感じで膨らませた方が、後半の悲惨さみたいなものが引き立ったと思う。折角空間空けてから原爆描写入れてるんだから、ギャップは強めておかないと。 > 茜さん 間はこんなものなんじゃないかな。少なくとも、この作品において原爆の描写前後の間はこれくらい必須だったと思う。 > ほろほろさん 後半については、確かにこれ以上は中々描けないとあそびにんも思った。ただ、その分前半（というか、この作品では4行だけど）をもっと書けたんじゃないかなあと思うかな。茜さんの言う、少女の人生というか、日常という時がここでプツッと途絶えたって言うのを出すためには、やっぱり日常の部分がもう少し必要だったと思うし。
わがし 9/19 18:5	重い。これを題材にしようとしたのはいいのではないのでしょうか。 チャレンジングではありますが。 確かに忘れてはならないと思うもの。
vicky 9/20 9:28	今この題材を扱うことはとても意味があると思います。
さむらす 9/21 15:34	う～ん、なんのためにこの作品かいたんだろう。 原爆がこわいものなんて誰でも知ってるわけで、こんな短い文で訴えたところではたして何が伝わるんだろうか、と思った。
イッパイアッテナ 9/23 0:50	正直、作品の質としては低いと思う。 何のために書いたかわからないというコメントもあるように、また内容が薄いというコメントもあるように、そしてありきたりな作品だといわれているように、まさにその通りの作品だと思う。 でも、これを書いてくれるというそのことに自分はすごく感謝したい。 だって、すごい難しいから。題材が大きすぎて、そして著名な才能ある人たちがどんどんいいものを増やしているから、書きたいという気持ちがあってもそれを形にすると失礼になってしまうから。 ヒロシマ出身で原爆の問題に人一倍敏感な自分は、そういうコラムを書きたいんだけど、それを伝えるには技術がなくて、その重圧を受け止めるには弱いんで、いまだ一つも書けていない。 そんな自分にとって、たとえ拙い作品でもこうやって伝えなければならないものを伝えようとする行動は称賛してしまう。 作者さん、ありがとう。 > 追記 こんなこと書くと、作品そのものを吟味してないと某さんに言われそうだけど、作者の心意気もあわせてコメントするのがアッテナ流なので...
弟子 9/25 4:56	お願いだからそれを空白で語ってほしくない どんなにあがいてもいいから、千の言葉で、万の感情で表してほしい 相応しくない形容詞でもいい、意図に反した感嘆符でもいい 拒絶したってかまわない、直視できなくてもかまわない どんな読みづらくてもいいから、あなた自身の言葉で聴きたかった だって、空白に語らせるなんて卑怯すぎる 自分には全く持って理解でいいんだもの
木星/dx 9/25 5:16	ペンデレツキの「ヒロシマの犠牲者に捧げる哀歌」を聴きながら青来有一の「爆心」とか読みましょう> 作者さん

今週のお題

開催中： 時

投稿受付中： 投稿受付期間外

Column Land

- 最終セッション結果発表！ 作者コメントをお早めに。
- オフラインセッションは土曜日16:00西9の607。作品「風」の投稿は前日17:00までです。くわしくは掲示板370へ。ただいま風速3メートル。

コンテスト会

コラム掲載ペ

コラムアーカ

プロフィール

自己プロフィ

BBS

まじょコメン

裏話

合計ポイント：0 Point

作者：otacom

作者コメントは暫くお待ち下さい。

この作品は基本的にチラシの裏です。
ある特定の限定的な予備知識があれば三割増に思えるでしょう。
それ以外の方はただテンパッタ少年の嘆きとしてお読みください。

Once upon a time.....いやそんな昔じゃなくて一年前のある日。

まずい事になった。何もかけねえ。この文章完成させて印刷所（替わりの友人）兼編集さんに朝六時までには送らないと授業の単位がなくなってしまうっ！
先週まわりに余裕ブッコキ過ぎな台詞を吐いとくんじゃなかった。これこそ自縄自縛。
なんではじめの頃、この授業に萌えてたんだろ。カムバック、パトス！

マジで時間ないだろこれ。時が戻ったりとまったりしたらなあ.....ふっ、寝るだけの姿が思い浮かべられる自らの才能がおそろしい。とりあえず時間だし、テレビでも見るか。

三十分後.....風呂入って一服しよう。

さらに三十分後.....アイス食ったら、眠いなこれ。眠い中で考えても大したもののは出てこん。とりあえず仮眠。

時は無情に一時間も過ぎ去る.....ってまずいじゃん俺。なにねてんのよ。ケツに火がつかないと何もしないって知ってるけど、さすがにタイムリミットまでに時間位しか無いのはまずいって。

下手な考え休みに似たり、あと三十分です.....ここまできると”やべえ、時間がない、やべえ、時間がない”のエンドレスワルツ。こういうときにあれだろ、未知なるパワーとか目覚めんのかね。まったりあえずこう送っところ、
”時間がない”と。

モノは仕上げたし、お後は言い訳考えてうまい事言っとけばOKかな。

後日、例の物は意外に評価が高く後々まで虚勢を張る事に.....
やれやれだぜ。

御精読ありがとうございます。
まずスクロールしてここまで見た貴方、正しい。時間のロスが最小限で防げましたね。

よく読んでしまった貴方、ギャグなし裏なし落ちなしのこの作品に費やした貴方の時間は時給 9 0 0 円換算で 3 0 0 円ほどでしょう。こんだけあれば دونالد ンとこでそれなりに食べられます。

時は金也です。皆さん大事にしましょう。やべえ、待ち合わせまでもう時間がない。
お後がよろしいようで。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
	 ドゴォン（鈍い衝撃音）
	はい、あそびにんです。怒ってないよ、悲しくもなってないよ..... なんだろう、このしょっぱい水。
あそびに ん LV.2 1 9/18 15:55	いや、↑は大半がオーバーな表現というか冗談ではあるものの、なんというか見事に開き直ったなあと言う感じ。最初と最後に逃げ道作ってるのがどうにもあそびにんには好きになれない。真ん中のテンポというかテンションは確かにすっごくいいんだけどね。.....でも、これってひょっとして内輪ネタに引っかかったりは.....ギリギリしないのかな？ もう、最初のがその辺まで含めた逃げ道っぽくて見えてやっぱり苦手。
	最初にこのコメントが来るのはちょっと可哀想かなとも思ったけど、やっぱりどうしても書かずにはいられなかった。 何というか.....作品から逃げるな？
RiZEL 9/18 18:45	とりあえず最後笑わせていただきました。この部分のセンスがとても素敵です。
	でも残念ながら僕的には完全に評価対象外です。ごめんなさい。
さむらす 9/18 20:59	こんなのかくと、また内輪ネタ禁止ーと叫ぶ人があらわれちゃうよ。もっとも、この作者さんはかかってこいと言っているのかもしれませんが。

茜 9/18 22:41	・・・いや、内輪ネタ・・・じゃないでしょ。締め切りに終われるライターさんってことで。まあ。 ・・・だーって流し読みしてよかったと今心底思ってます。 なんだろうこの感じ。ううっ。なぜか悔しいぞめいっぱい。
木星/dx 9/19 6:19	いや、今さら特に、かかっていく価値も意味もないでしょ（爆） 特に面白い箇所もなく、脳内にあの懐かしの『しらけ鳥音頭』が流れたのみ。
鞆 9/19 10:42	掲示板308番のkikuさんの書き込みを思い出しました。
わがし 9/19 19:35	ううーん。なんだろう？ そうなんだ、という感じ。
colt 9/22 23:29	その特定の限定的な予備知識があったけれど（多分）、三割増しどころか、半額ワゴン大セール。予備知識無いほうが、すんなり『作品』として見る事が出来る気がします。 ヘッダとフッタで、内輪ネタラインをもんどりうって回避出来ていると思いますし（この限りないギリギリ加減は評価します）、最初にこれを『作品』と言い切っているのも評価できます。（ある意味）男らしい。 けれど、内容が致命的におもしろくないです。最初に「チラシ裏」と言い、最後に読者をあざ笑う構成は良いと思うのですが、いかんせん内容が流し読みされるレベル。中の文章を凝ったもの（けれどナンセンス）にすれば、最後の部分が光を放つと思うのですが、いかがでしょうか。 #コレを読むのに20分かける人は居ないんじゃないじゃ.....。
イッパイ アッテナ 9/23 2:11	どうでもいいけど、時給に換算すると60円でした。（さすがに20分も読むのにかからないって。） というか、この元ネタの作品のときにTAやっていて、” うわ、これ勘違いしているコラムだなあ ” っとすごい低い評価だったの覚えているけど.....あれ、評価高かったんだ。 へえへえへえ（授業があって講義は居たことがないので知らなかった。 えっと、えっと、これが” ゆとり ” 世代との格差ってやつなのでしょうか。（とりあえず言ってみたかった。 作品としては、作者が非常に楽しそうなので、自分としては嬉しい限りです。いいことですね、自分が書きたい作品を好き勝手に書くって。下手に飾ったコラムより作者の顔が見えるコラムのほうが自分は好きです。 (いったいどういう顔が思い描かれているかは、作者さんには秘密。)
木星/dx 9/23 2:30	内輪ネタをどの辺で回避できてるのかわからないですね。固有名詞を出さなきゃそれでいいなんて問題じゃなし。 >ある特定の限定的な予備知識があれば三割増だとすれば、アウト。 あと、全体の陰気~~~~~な感じも気味が悪い（うへえー）
木星/dx 9/23 6:24	で、 >ある特定の限定的な予備知識がなかったら・・・と読んでみたら、、、 すんなりと『落書き』に認定されました。 あと、どーでもいいことだけど、「。」と「.」の混在してるのは、テンパリぶりを表現したかったのか？ すべってるけどね。
地紅晴酸 9/25 0:20	・・・流石に、チラシの裏と自分で認識している文章をこういう場に出すのはどうかと。
赤ずきん 9/26 7:0	この発想はなかった。オチの文章の投げやりっぷりもまたよし。 でも、無駄な文章のところもできれば内輪ネタにしないでほしかったなあ。

あさどき

合計ポイント：0 Point
作者：のろろ
作者コメントは暫くお待ち下さい。

甲：朝だ、時間だ起きろ

乙：うるさいなあ、もうちょっと待てよう・・・

甲：時間だ、起きろ

乙：だからもうちょい、あと5分・・・

甲：そういつていつだって寝過ごしてるじゃないか、起きろ

乙：今日はちゃんと5分後にはしゃきっと起きますからぁ～・・・

甲：またそんなこといつて5分後に起きる覚悟なんてありゃしないさ

乙：まぁ、ちょっと待てって・・・

甲：昨日自分で決めたスケジュールどおり今日は気分一新でやるんだろう

乙：やるけどぉ・・・

甲：だったら起きろよぉ～

乙：遅れた分は集中力で解決・・・

甲；それって結局自分に負荷がかかるだけだってのはもう知ってるだろぉー・・・

乙：そうだねえー・・・知ってるよ・・・でもおれって何か学校とかぁ・・・バイトとかぁ・・・なんか外から縛られる理由がないとちゃんと起きれないなぁー・・・

甲：そうこうしてるうちに5分たったんじゃないかいい・・・よぉ・・・

乙：まだじゃない・・・、もうちょいあるでしょぉ・・・

甲：なんかこうやって起こすのがんばってるのに否定的になんなよぉー・・・どうして素直に従ってしゃきっとよぉ・・・お・・・お・・・

丙：・・・そうだよ・・・、がんばってるじゃん・・・

丁：・・・素直になりなて・・・

乙：　　・ ・ う ・ ・ ・ ・ ・ ん ・ ・ ・ ・ ・

甲：おお ・ ・ やつと ・ ・ なつとく ・ ・ ・ して ・ ・ くれ ・ ・ た ・ ・ ・ ・ ・

乙：　　・ ・ ・ ・ ・

甲：　　・ ・ ・ よか ・ ・ ・ った ・ ・ ・ ・ ・ z z z ・ ・ ・

乙：　　z z z ・ ・ ・

はじめのうちは威勢の良い甲がよくしゃべるが、議論が長引くほど意識は弱くなり、また新たなる丙・丁が出現し加勢してくれることで、乙を説得し、それに安心した甲は格闘を終了し怠惰にもぐっすり眠りにつくのであった。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
きしと 9/18 12:9	何かのたとえ話なのでしょうか？ 最後の一文は、それを気づかせるため？ そうでなければ蛇足な気がします。
わがし 9/18 18:16	なんか、これはこれで、笑ってしまいました。なぜに甲、乙、丙、丁？　法律でもやっているのかな？？
茜 9/18 21:57	脳内会話？ 葛藤の世界かしら。 あと5分って、言ったらほぼ確実に起きないですよネ。 学校とかバイトとかあればちゃんと起きられるって言うならまあ、いいと思うんですけどね。
ルンタッタ～ 9/19 18:56	レム睡眠とノンレム睡眠と関係があるのでしょうか？
ラ 9/19 21:11	あと五分。 私はそれが、二時間になった経験があるのでそれを思い出しました。 ただ私の場合、こんな会議にもなりませんわ 最後は必要ないかも。どうなんだろう。
あそびにん LV.2 1 9/19 21:51	いや、なんかこの脳内会話駄目だろ。甲結局何がしたかったんだろう。説得させれば満足なのかよ。 最後の2行いらないなあ。要するにあらすじ纏めただけだし。 まあ、でも気分は分かる。あそびにんはアラームを元を止めない限り5分刻みになるようにしてるのがポイント。一度で起きなくても第二陣なんかで起きれたりするし、眠い時は、あえて元を止めずに5分まどろんでたり。まどろむのってやっぱり幸せだからねえ。
忠犬ヤス公 9/20 18:28	これは「ミイラ取りがミイラになる」ということを言いたかったのかな！？
さむらす 9/21 16:3	なんか隠された意味があるのだろうか。表面だけ見るとなんでもない文章ですが。隠された意味ないんだったら名前つけますよねえ。

イッパイアッテナ 9/22 23:42	思うに、この会話"丙"と"丁"いないじゃん。 > 新たなる丙・丁が出現し加勢してくれることで乙を説得し いや、説得できてないから。眠そうな乙が適当に返事しただけだから。すぐに眠ったし。 * 丙と丁の出番を増やして、乙が説得され、甲が安心する過程を描くべきだと思う。じゃないと、本文と最後のまとめの文章とがちぐはぐ
jabberwock 9/23 22:36	油断大敵ってことですか。
弟子 9/25 3:35	スケジュールってのは妥協するためにあるんだから 作った時点で妥協だよ
朱雀 9/25 23:16	さて、これは一体どういう状況における話なのでしょうか。 脳内会話とともれる。自宅での四人兄弟の会話にも見える。とある合宿所での一幕にも見える。 いずれにしても、私個人としては、最後の説明は必要なかったように思います。その方が 雰囲気が出てよかったのではないかと。
blue-orange 9/25 23:33	脳内会話でしょうか？私も朝が弱いので、この会話がよく分かります。でも、最後の1文 はないほうが良かったかなあと個人的には思います。
にび 9/26 5:37	甲の言葉に段々力が抜けてきてるところからオチを想像したらそのとおりで笑ってしまいました。 自分だったら最後の文章を抜いて脳内会話とわかるような会話文を最後のほうに入れるかな、と思います。
otacom 9/26 8:46	これは二度寝の脳内会議なんですね。

[TOPへ](#)

「時」まじょコメント

時は流れます。過去から未来へ、たんとと、さらさらと。

その時の流れのなかで、ひとびとの物語を紡いだものが第 1 部 18 作品。

ここでは時は 舞台 です。

やがて人は、その時の流れを刻むことを覚えます。時計の登場です。

そうすると、ひとしく流れているはずの時が、それこそ「時と場合によって」伸び縮みます。一瞬を永遠と感じたり、永遠が一瞬に飛び去ったり。そんな時の伸び縮みを描いたものが第 2 部 18 作品。

ここでは時は 尺度 です。

ついには人は、時を制御しようという野望を抱きます。なんて不遜な、でも、なんて頼もしい。

夢のマシンを作ったり神に成り上がったりして、時の流れをコントロールしようとしたものが第 3 部 13 作品。

ここでは時は 客体 です。

目次です。

第 1 部 舞台としての時

- 1．計測可能
- 2．計測不能

第 2 部 尺度としての時

- 1．時を測る
- 2．短い時
- 3．長い時

第 3 部 客体としての時

- 1．時を戻す
- 2．時を繰り返す
- 3．時を止める

では、まいりましょうか。

第 1 部 舞台としての時

お話が始まってから終わるまで、いったいどれだけの時が流れたのか。
計測可能なものと計測不能なものに分けます。

1 . 計測可能

流れた時間が短い順にまいります。

じっくりと

ことことこと、あと1時間。どんなお料理が全然書かれていないのに、しあわせなおいしさが、ふわっと立ちのぼってきます。

そう、この世界の子たちは「あはっ」と笑うのですね。

それなりのドタバタなのに、なぜこんなにゆったりした気持ちになれるのかなあと読み直していて、ラスト1行で、なるほどと納得しました。

「おいしくできあがるには、まだまだ時間がかかりそうです。」

この光景を見つめている語り手さんの気持ちがゆったりしてるから、読者にそれが伝わるんですね。

変幻自在の作風をみせつつも、ラストはいちばん得意の語り口で夏に疲れたみんなの気持ちをやわらかく受けとめてくださった特別船室のやまのかめさんさま（←こだわる）でした。海の向こうからのご参加ありがとうございます！

みなさま、お気づきでしたでしょうか。やまのかめさんさまの活動時間が、日本時間でなかったこと。

時にときたま、たまさか徒然に（さかしまな少女たち）

むさしーのの森から出て、ミクドでダベってと、これはトータルで2時間くらいでしょうか。

日本語破壊中のジョシコーサー。ファミレスで隣の席の会話を流し込みつつ、生み出された作品でしょうか。この島のメンバーの誰にも絶対書けないなあ。

ちょっと下ネタ加減は、これでもだいぶセーブされたのでしょうね、推測するに。

好きキライが分かれるというより、キライが勝つであろうテイストを敢えて毎回突きつけてくる。強烈なモノカキ魂を感じます。

事件のあるところ、必ずジュピターの影あり。これまた特別船室から出ずっぱりでオーラを発し続けた木星/dx さまもおつかれさまでした。

運命

1 時間、2 時間のあとは、いきなり飛んで1 年間のおつきあい。
コンサート会場で鳴っていたのはベートーベンだったのでしょうか。
みなさん、「わたし」= 女性で読んでらっしゃるのですが、「今では昔からの友人のように仲がいい。」というフレーズから、私は男性同士なのかなあ、と。ダメ？
だから、まあ友達って、うたかたのものさ、と涼しげに達観してるのかな、と読んだのですが。正解をどうぞ、ルンタッタ～警部。

初めての家庭教師

ドンマイドンマイ(←死語)。2 年あれば忘れますよ、つめこみ受験勉強の知識なんて。また思い出せれば良いのです。
「なんじゃこりゃ！」までが実話かなあ。さすがに即解雇はなさそうです。展開を急がず、生徒の前で困りまくってるようすなど見せると、もっと読者さんに一緒にはらはらしてもらえたのでは。
がんばれ東工大生。

一年の重み

流れた時は3 年に増えます。
そんな3 年くらいで「もうだいぶん歳とりました。」なんておっしゃらないでくださいな。私は自称2 0 0 歳です……は措いとして。
学校という、完全に学年で輪切りにしてしまう社会の特性なのでしょうね、1 年の違いが大きな意味を持つのは。社会全体からみれば、それはかなり特殊な状況なので、同学年、同年齢という擬制にあまりこだわることはない気がします。
「なんだか参る」と「まあいいか」の間で揺れる気持ちがそのまま表現された飾り気のなさが、いい読み味でした。

七年間

3 の次は7。
ワンドとワグ。出会いを運命づけられているふたり。お話じょうず、という魅力的な設定が展開のなかであまり活きなかったのが残念。
七年、十四歳、九十九……漢数字でていねいに書かれていて、何か数学的な解がありそうな気もするのですが、うーむ。

思い出の風景

これは10年くらいかなあ。

少年の日の夏の思い出、かき氷に蝉時雨。ていねいな描写が実体験ベースかなあと思わせます。腰掛けて怒られたのは、句碑だったのでしょうか。まあ、それだと「ものすごくたいせつ」かどうか疑問。

しかし、「せーくん」蝉説が出るとは作者さんも予想されなかったのでは？

聞きたいこと

これも実話とみた！

「小学生から高校生までの腐れ縁」だと、えーと12年で、さらに1年くらいプラスでしょうか。電車通学のタイミングの話など、高校生の実感がこもっていて、ほほえましく読めるのですが、会ったら「元気？」って聞きたい、というラストとそれを受けているタイトルが違和感。

それは「聞く」というよりは、もっと軽い挨拶のように思えるのですが。

変わるもの 変わらないもの

「母が嫁いできた30年前」に躓きました。じゃあ息子さん、もう30歳台だよね、と。

このフレーズは「祖父が自ら建てたという母屋に/両親の部屋は増築された。」と受けられるのですが、

祖父が母屋をつくる→30年経過→母が嫁ぐ

という時系列なのでしょうか。ならば「母屋は祖父が自ら建てたもの/母の嫁ぐ30年も前のこと」とか。

「灰皿は置いていなかった」→「灰皿はなかった」のほうが、ずっと伝わるかなあ、など、あちこち流れが澁みがちなのが、詩として残念でした。流れができていないと、クッションも時効警察も、まるでとってつけたようで小道具が活きません。せっかく意味を持たされて配置されているモノたちなのでしょうに。

ドレッサーと煙草で、お母さまの暮らしようはそこはかとなく察せられるのですが。

Time is going round

こちらも30年モノ。

なぜかメリーゴーラウンドって、ドラマの舞台によくありますよね。夜だったり閉園後だったり。そこは目新しくなかったのですが、ピエロを配したところが工夫でした。

会話のつくりもていねいで哀愁しみじみ。

いくつか気になった言葉づかい。

「お悔やみの言葉」→これは身内のかたにしか申し上げないものなのでは

「捨て台詞」→あれ？ いつケンカした？？

2 . 計測不能

たしかに時は流れているのだけれど、もはや永遠に近いので計測不能です。8 作品エントリー。

まずは、とりあえず歴史時間にどうにかおさまりそうなものをふたつ。

小さな森のお化け達

うまい！ ロボットオチうまい！ 完全に想定外！ 拍手！

お化けくんたちの、いたずらっ子ぶりも楽しくて、ここでしっかりファンタジー気分読者を浸らせてくれるから、さいごのロボットオチが効くのですね。

残念なのは、ラストの種明かしセリフ「やっこの田舎にもロボットが届いたよ。」があまりに説明調なこと。日常の自然なセリフでありながら、読者が、あ、ロボットなんだって気づくような工夫ができなかったでしょうか。

時の流れに身を委ねて

急ブレーキで目が覚めて山の表情が見え始める、というくだりが、一緒に旅しているようで共感を誘います。海外旅行談という、こんな珍しいものが、とか、現地の人との出会いが、ハプニングが、といった派手な話題になりがちだけれど、ふつーの退屈な山がふっと表情を変えたという、さりげない瞬間をとらえて、ちゃんと思考につなげたところがいいですね。

まさに現地リポート。困難な環境を越えて海外投稿を敢行したコラムニスト魂に拍手。

ただしひとこと。「圧巻される広さによる」→「圧巻」という動詞はない。「圧倒される」

つぎは宇宙の運命と恋愛をつなげた作品を3つ。

……だが、時は流れる

たっぷり見せていただいたなあという印象。

ちょっと最初のほうが地の文になってしまって残念だけれど、子供たちの声の、輪唱のような美しさ不気味さが、いい音響効果になっています。

『……大人め』が印象的。「いやあああ！！」は、ちとエロティカル？

実らなかった初恋という、とてもわかりやすいたとえで、過去のまま閉じこもることと、過去を置き去りにして前へ進むことの葛藤を周到に描ききっていただきましたね。おつかれさま。

message - from the universe | from the earth -

宇宙から降る声、地から湧く声。ある時は呼び合い、ある時は反発しあい。

タイトルと構成は想像力を刺激するふくらみを持っているのに、なかみをふつうの男女にしてしまったのが残念。宇宙的なわくわく感が、どんどんしぼんでいってしまって、さいご、「ありがとう」でケリ。こんな安手の言葉で終わる恋愛なんて、恋愛じゃないやい!?

逢魔が時

かみ、ねえ～。私も気づかなかったけど。

ラブコメが突如、壮大な神話開示になるって、今日の流行ですかね。オールド人類にとっては急すぎて、ちょっととまどいます。ふたりの女の子に振り回されるいっぽうだったところが、お兄ちゃんの茫洋とした良さだったのに、さいごは何だかジジ(←猫の、ではない爺)むさく述懐までしてしまって、そこも違和感。

「結局、俺は・・・昔も今も都合よく作り変えて自己満足するだけの存在なんだな。」

これって物語全否定のセリフ？

はっちゃけるより、まとめるほうが難しいのは分かるのですが。

さいごは幻想的なシーンを見せてくれた作品を3つ。

アイデンティティ

そなえろ、をお供えと読むのは絶対オカシイだろ、東工大生。

最初、骸骨軍団だって、分からなかったです。「白いカラダ」に肉感的ななまめかしさを感じてしまったので。

この三部構成、読みに悩みます。人間という解釈も出ていましたが、そんなにくっきりした輪郭を志向したわけでもなさそうで、悪夢、まどろみ、覚醒の順か。

文章は達者ですし、それぞれのパートでのイメージ喚起力もすごいのですが、でも、まとまったメッセージを受けとれませんでした。さいごだから衣装替えの大サービス？

名無しのミューズ

ごくごくふつうの日常のすぐ裏側に、世界誕生の、闇から光への苦闘が貼り付いている。遺伝子に刻み込まれた原初の記憶、あるいは神がかり？ あるいは自分自身が母の胎内から生まれた時の記憶かもしれない。

最初わからなかった鳥の名を、さいごはずっと「メジロ」としていることから、こたつのまどろみの一瞬に、パラレルワールドから違う「私」が乗り移ったんだ、というSF的仕掛けを勘ぐってしまいました。

深読みすぎか。

輝く炎

時の川をたくさんの灯籠が流れてゆく。特段凝った言い回しは用いられていないのに、華やかさと動きを自然に想起することができました。たぶん、ていねいに手触りをたしかめながら組み立てられているから。それと詩のわりには感性に任せて流していないので、どこか理屈っぽくて読む側も減速がかかります（だって、正統派コラムニストさんだもの！）。この減速がゆったり感を生んでいるような。

さいしょ、「じっとここで眺めている」から神の視点を感じたのですが、どうやら自分への応援メッセージなのですね。そのあたり、描かれている事象と語り手との距離感、どんな立場でこの光景を描写しているのかが明確だと良かったか。

あと、「ドラマ」は私はアリだと思うけれど、「狂気」はないほうが、全体の静謐な印象を崩さずに済んだ気がします。

第2部 尺度としての時

ただ流れゆくのではなく、それを測ろうとした作品たちです。

時を測る、そしてその測った時間を短く感じたもの、逆に長く感じたものの3パートに分けます。

1. 時を測る

時計にまつわる7作品です。

私は砂。

砂時計から行きましょう。

いろんな説が出ていたけれど、砂時計の砂の視点。私は全く迷いなく、そう読みました。何かのはずみに砂時計から零れてしまった、はぐれっ子の砂の視点でかつての自分が住んでいた世界を見ている、と。

そこに重ねられる寓意。時の流れからはずれてみたら、一瞬もまた永劫。まるで世界の傍観者。

抽象的なものをとらえるために砂時計という小道具を使って、丁寧に真剣に書かれているので、一緒に哲学するような気分でした。

Ourglass

もう1個砂時計。

ふーん砂時計って Hourglass って言うんだ、おべんきょー。

いってきます——ニクいなあ。

いってきます——策士だなあ。

いってきます——待ってくれと言わないほうが、女は待つもんなんですよ～。意地になって Ourglass を何度も何度もひっくりかえして。

おんなごろの焦らしかた、つかみかた。機微をしっかりと読みとって、あざやかでした。将来、海外留学や海外赴任を予定しておられるみなさまは、どうぞご参考にされてくださいませ。

My Grandfather's...

そして腕時計。

骨壺って、そんなにささっと簡単に開けられたっけ？ と妙なところが気になりました。

たしかに時計は御棺のなかには入れられません。焼くことができないから。だから骨壺にしたのでしょうけれど、でもあれは錦の袋にしっかり包まれてて、親戚の目をかすめてささっなんてルパンでもできないと思うけど。

それと。祭壇と遺影があるということはお葬式の最後のシーンと推測されるのですが、それじゃあまだ火葬場には行ってないわけで、骨壺自体が存在しないのでは。

地方によって流儀が異なるのかもしれないのですが、ストーリーの根幹に関わる部分なので、気になりました。

ということで止まった時計は、ご仏壇にお供えするのが、いちばん似合う気がします。そなえる（え？

おじいさんと一緒に時を止めた時計。まさにファンタジーですね（やまかめ説に便乗）。

機械との相性を語ることで故人の人となりを感じさせて、小さな小さな奇跡へズームイン。そしてラスト。おじいさん今ごろ、おばあさんと再会してるよね。そんな言外の思い

が読み手に心にこだまするようで、なぜだか涙ぐんでしまいました。

掌におさまるくらいの幸せ

懐中時計がなぜだか人気。

「太い腕」だけにしておけば対比のなかでおさまって、みんなが引っかからなかったのにね、あかねひめ。でもそうしたら、コメント欄の賑わいが減ってしまうか。ここが気になるから、読者が自分なりに「あなた」の姿を想像しようと試みることになる。

ふむ、少し破綻のある文章のほうが、整いすぎているよりも心に引っかかる。なるほどなるほど、「いい人」の条件と同じですね>なごみ部屋のあるじさん。

鏡を見ている少女のお話

ここの時計は、たぶん柱時計でしょう。「お話」シリーズ種明かしの総集編です。

うーん、3・6・9時と並べた意味も読みとれないし、さいご、「自分を意味する語」なんて、妙な言葉のまわりをぐるぐる回り始めてしまっただけで処置なしでした。

良さは言葉のリズムだけ？ そんなあ。

とりあえず「針は」と「時計は」の使い分けの意図から伺ってみましょうか、作者さん。

ある朝のできごと

これも壁の時計っぽいかな。

シュタタタ・・・のリズム感で持っていかれました。

ずーっと画面の左の端っただけで展開するんですね、お話が。で、さいごのさいごだけ2行、しっかり右にも文字が入ってくる。そんな見た目のバランスにまで気を配ったのかなあと楽しく読みました。

かなしいとき

さいご、時計じゃないけれど、時を並べているのでここにおきます。

あ、そうなの？ ネタなんですか、ほー。

全然知らなかったという、たぶんこの島のなかで唯一の特殊な読者である私は、むしろ知らないがゆえに、純粹にこちよく笑いましたよ。

特に「そもそも、その携帯がリモコンだったとき」のところで。笑わせてくれて、ありがとー。

2 . 短い時

測った時>感じた時。つまり、あっという間に時間が経っちゃった4作品。

あさどき

シュタタタ姫ならずとも、え？ もうこんな時間！ の定番は朝ですよ。

ねむいねむい朝の葛藤。甲と乙の対話は、うんうんあるよねとすんなり読めたのに、丙と丁の登場で混乱してきます。うまく書けなかったから、さいごに説明書きを付けたのかな、と読みました。

アッテナさんご提案のように、この丙と丁をうまく使えば、ありがち葛藤からユニークな4人バトルへと展開できて定型から離陸する可能性をひとつ開くことができたのに、と思います。

あと少し...

同じく朝。さくっとシンプル。ふふっと笑ってもらう箸休めの意図だったのかもしれませんが、ちょっとだけつづやいてすぐいなくなってしまったという印象で、読み手へとアピールしてくるものがなかったです。

健全な大学生とはトークを生み出してコメント陣に助けられましたね。足りないよね、という感想はコメント陣に同感です。

ときに「あの晩」ではなく「昨晚」なのは？

裏話

いやまだ夜明け前か。

ドゴォンで始まったコメント欄。そっちでむしろ笑えました。

テンパリ方にもっと切迫感があると楽しめたのですが、なんだかだらだらしていて、テンパるという語感と違うような。

途中、「タイムリミットまでに時間位しか無いのはまずいって」は「2時間」のテンパリ表現？

えーと、どうせこのネタで書くなら、自分の作品が審議されている最中や、みごと3位を獲得してしまった時の驚愕やらに焦点をあてたほうが、まだしも読者が一緒に手に汗握ってくれそうです。

あ、もちろん、このネタで書けと言ってるわけではありません。この体験を別設定に置

き換えて、ちゃんと伝わるようにしてくださいね、ということです。それが物語の力。

たとえば孫のいたずら作品を自分のものとして出品したら評論家陣に大絶賛されて泣き笑いの前衛陶芸家、とか。

平和なセカイの作り方

おしまいはいははずの時間を短く感ずる、というより、強引に隕石をぶつけて短くしてしまったという作品です。

定番の3つのお願いを4つにしたのは、定番崩しを意図されたのでしょうか。

寓話的な仕立ては悪くなかったのに、さいごの人類滅亡を作者さん自身が、うまくやったね彼 ととらえているのか、サイアクだよな彼をとらえているのかが曖昧だったのが、みなさんの読後感に響いてしまったようです。

寓話ならば、何を読みとってほしいのか、作者のメッセージを明確に。

3．長い時

測った時<感じた時。つまり、一瞬なのに長く感じた7作品。

まずはスポーツ物2つ。

勝負の一瞬

どこか足りない。スポーツ物なのに熱さが足りない。フットボールだと気づいたくだりなど、とても臨場感あるのに、何だろう、この不完全燃焼感は？

繰り返し読んでいて、語り手の視点が原因だ、と気づきました。

「彼にはボールがゆっくり近づいてくるように見えたそうだ。」と、どうやら中井選手にインタビューしたスポーツライターの視点に立って構成されているようなのですが、このスポーツライターさんが透明なんですね。オレはこの選手のここに惚れた、だからそれを伝えたいんだ、という気合いが感じられないので、必然、読む側も微温的になってしまう。

ライターさんのキャラクターを立てないならば、いっそ中井選手当人に乗り移って、一人称視点で書いたほうが、読者も一緒に追いつめられたバッターボックスに立っている気分になれて良かったのでは。

どんな視点で書くかで作品の体感温度がずいぶん変わるなあ、と思ったことでした。

極限の一撃

文字ぎっしりは、たぶんわざと。読みにく～いの大合唱覚悟で、読者の読むスピードを減速させて、一語一語、苦勞しながら、あたかも対戦相手と格闘するように読んでほしかった、そうやって試合の 一瞬にして永遠 の時間感覚を共有してほしかったのではないかと推察します。

経験者さんでしょうか。ほんと、臨場感は良く書けてたと思うのに、あ～あ、「90 」がすべてをさらっていってしまいましたね。

いやいやいやいや、少しキズがあるほうが、カンペキすぎる男よりも（以下略） ね？
なごみ部屋のあるじさん。

勝負の一瞬という点ではキスも同じ。

夕暮れのひととき

ハイスクール・ラブでしょうか。ういういしいのが宜しいようで。

ただ、狙いがどっちつかずの感。乙女心のときめきにフォーカスしたいなら、こんなに理路整然と覚めたひとりごとではなく、もっとあたふた動揺させたい。それこそシュタタ姫みたいに。コメディとして笑わせたいなら、熱いはずのこの一瞬に妙に冷静な「私」の内心の焦りをもっと強調したい。うーん、狙いどころが不明でした。

Kissing!

も一個キスを、ここに入れとこう。

綾音さん、ナニモノ？

そっか書いたか、「溶けあう」ところまで。勇者だのう。

でも、それを「さっきまでの暴れっぷり」と片付けてしまうのは愛へのボートクじゃないのかしらん。暴れたのはアンタもでしょ。

ふたりの人となりが分からんぞ、という至極もっともなダメ出しがほろコメで出ていましたが、たぶんこれ、意図してキャラクターを透明にしてるのでは？ 「男と女の絡み合い」を描きたいために。

わあいわあい、ラブシーン書いちゃった（はあと）——小学生のおませ作文@文章力は大学生並み、という位置づけで読みました。

それとも、のろけばなし？

「うん、じゃああと 10 分くらいで着くから」

10 分の約束が永遠になってしまった。

せつないですね。そのせつなさとプレゼントのコミカル感の対比で、起伏のあるまとまりになったと思うのですが、コメント陣がずいぶん辛口だなあ。
彼を殺さずに、このせつなさを表現できると良いのですよね。

キャンプファイア

宇宙の神秘、何億光年かなたの光を今みている不可思議。
ずっと情景は見えてきたのですが、簡略に過ぎて主張が伝わりません。
せっかくキャンプファイアを出したのですし、それとの対比などにも言及しつつ、まとめると良かったのでは。

リミット

すてきすてき、これはすてき♪
講義版より深読みできる場になって、それを期待して暗喩や抽象表現がてんこ盛りになる（お題が抽象的なこともあるけれど）なかで、ほんとに何も構えずに純粋に楽しめた作品でした。
話題が話題なのに、ちっともバッチイ感じがしないところもグッド。
特に「……走る、ムリ！歩く！速く！ヤバイ！静かに！ヤバイ！……」なんていう表現のノリに惚れ惚れです。
このユーモア精神に乾杯！

第3部 客体としての時

流れる時を測ることを覚えた人類は、ついにはその時をコントロールしようとし始めます。行き着く先は？
時をどう操作したのか、戻す・繰り返す・止めるの3パートに分けてお届けします。

1. 時を戻す

あの日に帰りたい♪ （以下、懐メロシリーズ）

第三の解

2秒だけささやかに。

あ、そーいうことなの、とモーブ博士の説明に半納得（たぶん、ほんとうには分かってません）。

壊しておしまいにするより、ボールじゃなく、卵と鶏とかいろんなものを次々に放り込んで因果関係とは何なのかを説明してみせてほしかったです、博士。

時間旅行機

こちらマシンの力を借りて。

さいごの1行が作品の印象を決定づけます。途中は納得したのですが、そこでつまずきました。↓

「いや、研究者が神頼みするようになったらお終いか。そう独り言を言った私の顔には自嘲の笑みが浮かんでいた。」

「自嘲の笑み」は第三者視点だから、ヘン。鏡でも見てたならともかく。一人称視点を貫きたかったところ。ここを省けば、ずっとまとまって良かったかな、と。

マッドサイエンティストでまとめるほうが勢いも出てラクだったと思うけれど、そうしなかった誠実さがこの作品を「引っかけり」のあるものにしていると読みました。

魔女からの誘い

いや、魔法で戻っちゃおうよ。

ということで、魔女がさくさく語ります。おや、相手の言うことなんて全然聴いてない風だぞ、この魔女、という勢いで。

食べちゃうぞと言ってるわりに「ふふふ」では恐さが感じられないので、魔女の存在感が薄くて、そのぶん、作者さんが魔女に託して言いたかったことが前面に出た感。

むしろ対話型にして、答えを出すのは人間側にしたら、この一方通行の感じが消えて良かったのでは。

迷宮のピエロタイム

こちらは、戻るという経験をしたあとで、戻ることから卒業という組み立てです。

とても緻密に組み上げられた構成にまず感嘆。映画「バタフライ・エフェクト」を思い起こしました。あとから振り返って、あそこが運命の分岐点だったんだと分かって、何度でも何度でもやり直して、でもうまくいかな、というストーリーだったかと。

こちらは、そうしたやり直しを拒否するのですね。そこが潔くて好感。

「僕はこれまで何回やり直したのだろうか、それでも後悔は尽きないのか。」というフレーズが、ずしり響きます。

エンディングに、やや失敗した感。しっかり世界を見せたあとなので、手紙つきでそっ

と公園のベンチに置いてくる、というような余韻を持たせた終わりかたのほうが、もし自分がこの服を見つけたらどうするかな？ と読者の気持ちを誘えて良かったのでは。まあ「落ち込んでる学生」でもほぼ同じ効果は得られそうですが、それではこの場属性の話になってしまうので。

2．時を繰り返す

まわるまわるよ時代はまわる♪

時は永遠か

繰り返す、けど同じじゃないのさ。時の番人さんが語ります。

番人さんの手元を見せてほしかった。「俺は何となく、その手の方を眺めていた。」と「俺」自身がしっかりその手元を眺めているのに、「時を刻む」という仕事はどういうものか何も見えてこないのです。

ベルトみたいのがガラガラ回ってて、筆で目盛りでも付けてるのかしらん。その作業風景を見せることで、ループしつつも同じでない、というこの世界の原理を具体的に見せられれば、この作品はもっと成功すると思うのですが。

そして 世界で最後の二人になるまで

より具体的になります。

死が二人を分かちまで、でなく、輪廻転生、生まれ変わっても生まれ変わっても、まるでこの世に二人だけしかいないかのように、めぐり会いと別れを繰り返してゆく。

秘められたテーマは永遠の愛でしょうか。ひとり語りにしたことで、しっとり聴かせていただきました。幼い娘に亡き母のメッセンジャー役をつとめさせたところが、ほんとにあざやか。

7:02am

ひとめ見て、そんな運命の恋に落ちちゃうもんなんですか、ふーん（醒めた目）。しかも二世代続いて？

コメント陣がまた「ほのぼの」10 個（26 日 9:00 段階 まじょ調べ）の大合唱で、ふーんふーん、みんなキレイな恋が好きなのね～。

あんまりキレイにまとめててくやしいので、ダメ出ししところ。

「ふと見上げた時計は、あの思い出の時間。

そして、もうすぐあの人が起きてくる時間。」

広辞苑的にはかろうじてセーフなのですが、やはり時間は2点の「間」を意味する言葉なので、ここは「時刻」と言って欲しかった、理系学生としては。

作品は、とにかく構成がよいですね。思い出と今と、その2シーンをつなぐことで時の流れを感じさせつつ、しっかり 7:02 という 時 がストーリーのコアにも鎮座ましまして。

それにしても、貴重な貴重な島のゴールド・メダルを2つも攫ってゆくのですか、某花の名前は。よいのか、初年兵の分際で。あとで、イジメにあっても知らないぞ~。

——以上、ひねくれまじょより、心からのお祝いのメッセージでした。こんぐらっちゅれいしょんず!!!

3．時を止める

時間よ止まれ♪

そのままのあなたで

変わらないでいて、あなたも、わたしも、今のこの距離のままで。

祈りのような。さすが恋バナ達人、つかず離れずの関係を、シロクロはっきりさせるのではなく、グレーのまま、そこがよいのですよ、とふわり包んで届けていただきました。

具体的なできごとが何一つ書き込まれていないおかげで、読者が自分に引き寄せて「うん、わかるわかる」ってうなづけるところも良さでしょう。

まさに文は人なり、を実感。

胡蝶之夢

この少女はもっと現実から遠ざかります。

ずっとしあわせでいたいなら、眠り続けていればいいんだよ。

寓話としては、もっと引っかかりがないと、彼女の選択を肯定しているのか否定しているのかすらあいまいで、メッセージが見えてきません。

タイトルに借りた「胡蝶之夢」(中国古典の)に返ってくる部分があると良かったのでは。

一生懸命「無駄な抵抗」をしている母を見て

せっかく時魔法を唱えてるお母さんに対して、ボール球扱い。

わあ、ひどーい、の大合唱でしたね。そのひどーい、が作品への関心を呼び起こし票を連れてきた……のかも。いや正直、集計結果にびっくりです。

でもよく読むと、笑いの残酷さを容赦なくぴしっと提示していて、これはこれで、ひとつのカタチと言えるでしょうか。「時は残酷だねえ」以下は、子供のセリフ？ それとも傍観者としての語り手？？ どちらとも取れそうですね。

ボール球でも強引に打ち込めればホームラン！ 「金の斧」に引き続いての銀メダルおめでとう!!

ラスト3つは、時間が止まって困ってしまうお話です。

双子の兄が未来から降ってきて、どうにかしてください、と。

なんでそんな、とっぴょうしもない能力が備わってしまったのか、神様のお計らいでも何でも、そのあたり説明がつくと、もっと話に入れたでしょうか。

いきなり轟音とともに、とっぴょうしもない話が降ってきて、あっけにとられているうちに終わってしまった感じです。

あの夏

広島の夏。原爆の夏。

むずかしいですね、こうした既知の光景をフィクションとして語るのは。死者に成り代わって、さも死者の痛みを自分が知っているかのように語ることが許されるのか？ という違和感を絶えず喚起してしまいますから。

もし、「忘れてはならない」ということを読者に訴えるのが執筆動機ならば、フィクション仕立てにせずに、ストレートに語ったほうが思いは伝わると思います。少なくとも、この作品に乗せた作者さんの 思い は、この場で確実に読者たちが受けとったわけですから、次はその 思い をカタチにする方法が課題か、と。

コーダ Coda

ノアには3人の息子がいた、セム・ハム・ヤフェト。そんなことを思いながら読みました。あれは創世記、でもこちらは滅びの物語。

ラストのインパクトがすごいです。ああ、世界が滅びるって、永遠に終わりが来ないことと同義なんだと、もちろんあれこれ理屈を付ければいろんな曲げ方ができるのですが、なんだかすんととうなずかされてしまいました。

スクロールの魔術、と言うことを思いました。字数制限はあってもスペース制限はないので、行間をたくさんとることで、読み手の思考スピードを制御できます。しかも、読み手はマウスでスクロールするという能動的な動作をおこなっているのです、さいごのくだり、作者によって与えられた解というよりは、むしろ自ら求めて得た解のように、言葉のひとつひとつを自分の胸に響かせながら読むことになります。だから、ずしりと来るのだな、と。

ワザアリっ！ プレゼンテーション賞進呈!! そしておめでとうブロンズ・メダル!!!